

令和8年度 (2026年度)
講義概要

医学部看護学科

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

目次

【講義概要】

第1学年

教養科目	アカデミックスキル	1
	生物物理学	4
	物理解学	7
	化学	9
	数理科学入門	11
	情報科学	14
	データサイエンス・AI入門	18
	心理理学	21
	生涯発達論	24
	現代社会と科学	26
	社会学	28
	芸術学	31
	歴史学	33
	文化人類学	36
	ドイツ語圏言語文化研究	40
	フランス語圏言語文化研究	42
	中国語圏言語文化研究	44
	スポーツ科学実践	46
	医療イノベーションの基礎	48
外国語科目	英語 I	51
	英語 II	53
	英語コミュニケーション I	55
	英語コミュニケーション II	57
専門基礎科目 I	医学概論	59
	解剖生理学 I	61
	解剖生理学 II	63
	生化学・栄養学	65
	病態生理学	67
	感染症学・免疫学	69
専門看護科目 I	フィジカルアセスメント	72
	看護学概論 I	76
	看護学概論 II	79
	看護過程 I	82
	基礎看護技術 I	85
	基礎看護技術 II	90
専門看護科目 II	医療の倫理 I	94
専門看護科目実習	早期体験実習	96
	基礎看護学実習 I	100

第2学年

教養科目	医 療 社 会 学	104
	教 育 学	107
	日 本 国 憲 法	110
	法 学	112
	哲 学	115
	地 域 文 化 論	117
	地 域 文 化 論	121
	運 動 科 学 実 践	124
	基 礎 科 科 学 学 実 研 究	126
人 間 科 科 学 学 実 研 究	129	
専門基礎科目Ⅰ	病 理 学	131
	薬 物 治 療 学	133
	診 断 と 治 療 Ⅰ	135
	診 断 と 治 療 Ⅱ	138
専門基礎科目Ⅱ	保 健 医 療 行 政 論	140
	社 会 福 祉 ・ 社 会 保 障 論	141
	地 域 保 健 看 護 学	144
	地 域 ケ ア シ ス テ ム 論	146
	疫 保 健 統 計 学	148
	環 境 保 健 学	150
専門看護科目Ⅰ	看 護 過 程 Ⅱ	153
	基 礎 看 護 技 術 Ⅲ	157
専門看護科目Ⅱ	成 人 保 健 看 護 学 概 論	162
	成 人 保 健 看 護 学 各 論	165
	老 年 保 健 看 護 学 概 論	168
	老 年 保 健 看 護 学 各 論	171
	小 児 保 健 看 護 学 概 論	174
	小 児 保 健 看 護 学 各 論	177
	ウ ィ メ ンズ ヘ ル ス 学	180
	母 性 看 護 学 概 論	183
	母 性 看 護 学 実 践 論	186
	精 神 保 健 看 護 学 概 論	190
	精 神 保 健 看 護 学 各 論	192
	訪 問 看 護 学 概 論	194
	訪 問 看 護 学 各 論	196
	専門看護科目Ⅲ	医 療 の 倫 理 Ⅱ
看 護 学 研 究 方 法 論		200
専門看護科目実習	基 礎 看 護 学 実 習 Ⅱ	202

第3学年

外国語科目	医 療 英 語	205
専門看護科目 I	看 護 倫 理	207
	看 護 管 理 論	210
専門看護科目 II	成 人 期 N C D 看 護 実 践 論	213
	成 人 期 が ん 看 護 実 践 論	217
	成 人 期 周 術 期 看 護 実 践 論	220
	老 年 保 健 看 護 学 実 践 論	223
	小 児 保 健 看 護 学 実 践 論	227
	精 神 保 健 看 護 学 実 践 論	231
	訪 問 看 護 学 実 践 論	234
専門看護科目 III	看 護 実 践 特 別 演 習	237
専門看護科目実習	母 性 看 護 学 実 習	239
	小 児 保 健 看 護 学 実 習	241
	成 人 保 健 看 護 学 実 習 I	244
	成 人 保 健 看 護 学 実 習 II	246
	老 年 保 健 看 護 学 実 習 I	248
	老 年 保 健 看 護 学 実 習 II	250
	精 神 保 健 看 護 学 実 習	252
	訪 問 看 護 学 実 習	254
保健師課程	公 衆 衛 生 看 護 活 動 論 I	256
	公 衆 衛 生 看 護 活 動 論 II	258
	公 衆 衛 生 看 護 活 動 論 III	259
	公 衆 衛 生 看 護 学 実 践 論	260
	健 康 教 育 実 践 論	263
助産師課程	助 産 学 概 論	265
	新 生 児 学	268
	助 産 診 断 ・ 技 術 学 I	271
	助 産 診 断 ・ 技 術 学 II	275
	周 産 期 病 態 学 I	279
	周 産 期 病 態 学 II	281
	ウ ィ メ ン ズ ヘ ル ス 実 践 論	283
	助 産 マ ネ ジ メ ン ト 学	286
訪問看護コース	地 域 医 療 展 開 論	289
	地 域 医 療 展 開 論 演 習	291
	地 域 医 療 展 開 論 実 習 I	294

第4学年

専門看護科目Ⅲ	法 医 看 護 学	296
	看 護 統 合 実 践 特 論	298
	看 護 学 研 究	301
	国 際 看 護 研 究	304
専門看護科目実習	母 性 看 護 学 実 習	306
	小 児 保 健 看 護 学 実 習	308
	成 人 保 健 看 護 学 実 習 I	311
	成 人 保 健 看 護 学 実 習 II	313
	老 年 保 健 看 護 学 実 習 I	315
	老 年 保 健 看 護 学 実 習 II	317
	精 神 保 健 看 護 学 実 習	319
	訪 問 看 護 学 実 習	321
	統 合 看 護 学 実 習	323
	地 域 医 療 展 開 論 実 習 II	325
保健師課程	公 衆 衛 生 看 護 学 実 習 I	327
	公 衆 衛 生 看 護 学 実 習 II	328
助産師課程	助 産 診 断 ・ 技 術 学 III	330
	乳 房 管 理 学	334
	助 産 学 実 習	337
	マ タ ニ テ イ サ イ ク ル 支 援 実 習	340
	ウ イ メ ン ズ ヘ ル ス 実 習	342
	助 産 管 理 実 習	344

第 1 学年

アカデミックスキル

1 担当教員名

准教授	小島隆次	(医療文化学講座 (心理学))
教授	兼重努	(医療文化学講座 (文化人類学))
教授	大北全俊	(医療文化学講座 (哲学・倫理学))
教授	笠原聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 前期後半 1単位

3 学修目標

1. アカデミックスキル

ねらい：

大学の各授業において課せられるレポートを作成するに当たり、大学生として相応しいレポートを完成できるように、受講生の皆さんが「アカデミック・スキル (学術的な技法)」を身に付けることを目指します。

学修目標：

- ①レポート作成の基本ルールについて説明できる
- ②実験計画や質問票の作成方法について説明できる

2. 看護研究における倫理

ねらい：

将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究における倫理の必要性と具体的な配慮の例を学ぶ。

学修目標：

- ①看護研究における倫理の必要性について説明できる。
- ②看護研究における倫理的配慮の具体的な例とその理由が理解できる。
- ③支援を受けながら、看護研究における倫理的配慮に関する計画を立案できる。
- ④研究者倫理 (対象者の人権擁護と研究不正の回避に必要な知識を含む。)を理解できる。

【本授業に関係する資質・能力】

PR：プロフェッショナルリズム

LL：生涯学習能力

RE：科学的探求能力

【本授業に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム】

DP1. プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP6. 科学的探求心と国際的視野

1. 看護学上の疑問・関心に基づいて、研究課題を見出すことができる。
2. 看護学研究に必要な国内外の情報を取得することができる。
3. 看護学研究で用いられる基本的研究手法が実施できる。
4. 自らの研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。
5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。
6. 研究倫理を理解したうえで、研究を実施できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学び合うことができる。

4 授業概要

アカデミック・ライティング (学術的な記述) のためにはスキル (技法) を習得する必要があります。そこでまず第一に、そのスキルが対社会的に、あるいは同業者集団内、例えば医療人の仲間内において、なぜ必要とされるのか、看護学分野の研究倫理の初歩から学びます。そして、文献引用の際の決まりごとや著作権などについて理解を深めます。その上で、プロトコール (臨床研究/実

験計画手順書)などの作成についての基礎知識を学習します。

受講生にとって、講義を聞いてその内容を、まず聞き取る力(聴聞力)、次いで、教材資料を読み解く力(読解力)を高めることが出来ること、同時に、興味関心を広げて、考えを深める力(思考力)と繰り返す力(継続力)を習慣化することが出来ること、そして、自ら問いを立て(構想力)、その問いを読み手に分かるように論理的に記述すること(表現力)が出来るようになること、これら一連の能力を開発することを目的としています。

各講義を担当する講師によって、それぞれの講義内容に応じた課題が提示されます。受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の大きな<内容>に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を進めておくことが望まれます。そして、講義を聞き、知識・考えを広め、授業後に課題を作成する過程で授業内容について復習し、考えを深めて、自らの考えを客観的合理的に記述することが求められます。

5 授 業 内 容

「アカデミックスキル」を身に付けるために、課題への取り組み方の姿勢、課題内容についての関連文献の検索の仕方、並びに、先行研究文献を引用するときの標準的な規則などについての理解を深めます。研究倫理の初歩についても学習します。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年6月5日(金)	4	笠原	アカデミック・ライティング(1)	看護専門職に求められる学術的論述能力について	看2
第2回	令和8年6月12日(金)	4	〃	アカデミック・ライティング(2)	看護専門職に求められる研究倫理について	看2
第3回	令和8年6月19日(金)	4	大北	レポートの書き方(1)	レポートや論文として論理的な文章を書くことについて	看2
第4回	令和8年6月26日(金)	4	〃	レポートの書き方(2)	レポートや論文として論理的な文章を書くことについて	看2
第5回	令和8年7月3日(金)	4	兼重 附属図書館職員	学術的引用の作法(1)	文献資料を用いて論じるときの引用の仕方などについて	看2
第6回	令和8年7月10日(金)	4	兼重	学術的引用の作法(2)	文献資料を用いて論じるときの引用の仕方などについて	看2
第7回	令和8年7月17日(金)	4	小島	実験・調査の方法(1) (オンデマンド)	実験計画の立て方、アンケートなどにおける質問の作り方について	看2
第8回	令和8年7月24日(金)	4	〃	実験・調査の方法(2) (オンデマンド)	実験計画の立て方、アンケートなどにおける質問の作り方について	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

原則、講義形式の対面授業です。

7 評 価 方 法

1) 総括的評価

定期試験は実施しません。授業担当の各教員から提示されるレポート、あるいは、小テストやコメントシートなどの授業課題を採点のうえ評価します。(授業課題の提出は、基本的にWebClassの所定の画面から行って下さい。但し、教員から別途指示がある場合には、その指示に従って下さい。)

(上記の通り、定期試験は実施せず、)各教員の評価点数を合算して100点満点で評価します。その点くれぐれも留意の上、毎回の授業を確実に受講し、授業課題も遺漏なく提出する事を心掛けて下さい。

※【ご注意下さい】:欠席&課題不提出の回数が全8回の授業回数の中の4割を超えてしまいますと(欠席&課題不提出の回数が4回以上の場合)、それだけで各教員の評価点数の合算点(=成績評価)は(100点満点で)60点を割り込んでしまい、「不可」の評価となってしまいます。ご自身の出席・課題提出回数についてはしっかりと把握するように努めて下さい。(課題の提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」>「マイレポート」で、各自で確認して下さい。)

2) 形成的評価

授業で課すレポート、小テストの採点結果や授業に寄せられた質問やコメント等をもとに、適宜フィードバックを行います。

3) 態度評価

授業課題は授業をきちんと受講している事を前提として実施しますので、授業を受講せずに課題だけを提出した場合などは程度に応じて適宜減点します。

また、(大学からの通知(2023年3月)に従い)

【欠席については、履修要項の「10.授業の欠席」に記載されている取り扱いで対応します。よって、欠席の際にはその規定に従い、

教員、学生課に届け出てください。

【なお、オンデマンド配信の録画された講義動画を視聴したことをもって出席としては扱わないことを原則とします。】
(但し、オンデマンド配信のみで行われる授業については、その授業の担当教員の指示に従ってください。)

8 テキスト

指定テキストはありません。

9 参考文献

参考図書などについてはそれぞれの授業の中で紹介する予定です。

10 オフィスアワー（授業相談）

本授業は オムニバス方式（一つの講義を複数の教員が順番に行う方式）です。授業相談を希望される場合は、相談したい教員の E-mail アドレス宛にメールを送ってアポイントメント（予約）を取ってください。

11 学生へのメッセージ

「アカデミック・スキル」を修得するための基礎を学びます。客観的で合理的な記述の仕方、学術的な作法などをこの機会にしっかり身に着けましょう。

※授業内容、課題、出欠などについて問い合わせ等がある場合は、該当する回（授業）の担当教員の方まで連絡してください。

12 授業用E-mail

tokita@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 2

hqjouser@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 3

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

16 参考E-mail 4

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

生 物 学

1 担当教員名

准教授 里岡大樹 (生命科学講座 (生物学))

非常勤講師

松本翔馬 (大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 特任助教)

2 配当学年等

第1学年 前期 2単位

3 学修目標

ヒトを含め多くの生物は、1つの細胞から成長、分裂を繰り返してできた細胞の共同体である。「生命とは何か」、「生物としてのヒトとは何か」を考えるために、生命の基本単位である「細胞」を理解することから始め、生命活動の設計図である遺伝情報の維持や発現のしくみについて学習する。そして、組織、器官、個体、集団といった視点からも生物を捉える。これらの学習を通して、個々の生物を特徴づける多様性とすべての生物に共通する恒常性を対照させながら、生命体を統一的に理解し、「生物としてのヒト」を理解することで、人体の構造・機能、そして健康および疾患への理解につなげることを目標とする。授業の目標項目を以下に示す。

- 1) 生物の特徴、分類、誕生を概説できる。
- 2) 細胞の基本構造と機能を概説できる。
- 3) 生物を構成する物質の種類と機能を説明できる。
- 4) 栄養の摂取と代謝の過程、酵素の機能と調節を説明できる。
- 5) 遺伝様式、ゲノムと染色体、DNAの複製と修復を概説できる。
- 6) 転写と翻訳の過程を説明できる。
- 7) 細胞周期と細胞分裂の過程を説明できる。
- 8) 生物の増殖様式と動物の発生過程を概説できる。
- 9) 動物の組織の種類、その構造と機能を説明できる。
- 10) 器官と器官系の構造・機能を概説できる。
- 11) ホルモンによる生体調節機構を説明できる。
- 12) 神経系の構成、神経の伝導と伝達を説明できる。
- 13) 自然免疫と獲得免疫の機構を説明できる。
- 14) 微生物の種類とその感染症を概説できる。
- 15) 癌の特徴と原因、老化の過程を概説できる。
- 16) 生物学を応用した技術・医療を概説できる。

4 授業概要

生命の基本単位である細胞について、その構造と機能を学習し、生命体を構成する物質や物質代謝の基本を学ぶ。次に、遺伝の法則について学習し、生命の設計図である遺伝子の複製、発現やその調節について学ぶ。さらに、組織・器官といった生物の構成単位についても学び、それをふまえて、ホルモン、神経系による調節や恒常性維持といった個体レベルでの調節や生体防御機構の基本を学習する。また、癌や老化のメカニズム、生物学を応用した技術や医療についても学習する。

各回の授業時までには、授業で使用する講義資料（授業形式の項を参照）と教科書の該当箇所の通読が求められる。また各回の授業後に、授業内容の復習として、各回の確認テスト（授業形式の項を参照）と関連内容の復習を行うことが求められる。

なお、担当教員は自身の研究活動を通して担当する授業項目に精通しており、生物学の最新の知見についても学習する。

5 授業内容

前半（第1回～第7回）では主に、細胞、分子、遺伝、代謝など生物学としての基礎的な内容を学ぶ。後半（第8回～第14回）では主に、発生や個体レベルでの調節について学ぶ。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	2	里岡	イントロダクション 生物学の基礎(教科書1章)	講義の概要 生物とは	看2
第2回	令和8年4月17日(金)	2	〃	細胞(教科書2章)	細胞の構造、細胞小器官、細胞の運動	看2
第3回	令和8年4月24日(金)	2	〃	生物を構成する物質 (教科書3章)	物質の構成単位、生体物質の分類と性質	看2
第4回	令和8年5月1日(金)	2	〃	栄養と代謝(教科書4章)	栄養の摂取、代謝、酵素、エネルギー代謝、 代謝経路	看2
第5回	令和8年5月15日(金)	2	〃	遺伝とDNA(教科書5章)	遺伝現象、ゲノムと染色体、DNAの複製と 修復	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第6回	令和8年5月22日(金)	2	里岡	遺伝情報の発現(教科書6章)	転写とRNA、転写調節、タンパク質合成	看2
第7回	令和8年5月29日(金)	2	〃	細胞の増殖と死(教科書7章)	細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、細胞の死	看2
第8回	令和8年6月5日(金)	2	松本	生殖、発生、分化(教科書8章)	生物の増殖様式、動物の発生、分化・再生	看2
第9回	令和8年6月12日(金)	2	里岡	動物の組織と器官(教科書9、10章)	筋肉、血液、器官系(消化系、循環系、呼吸系、排出系、感覚系)	看2
第10回	令和8年6月19日(金)	2	〃	内分泌系と神経系による生体調節(教科書11、12章)	内分泌器官とホルモン、細胞内情報伝達、神経系の構成、神経興奮の伝導、神経間伝達	看2
第11回	令和8年6月26日(金)	2	〃	免疫系による生体防御(教科書13章)	自然免疫、獲得免疫、医療における免疫	看2
第12回	令和8年7月3日(金)	2	〃	微生物と感染症(教科書14章)	微生物の種類、細菌、真核微生物、ウイルス	看2
第13回	令和8年7月10日(金)	2	〃	癌と老化(教科書15章)	癌の特徴・原因・生成と進展、老化と寿命	看2
第14回	令和8年7月17日(金)	2	松本	生物学の医療への応用(教科書16章)	バイオテクノロジー、再生医療	看2
第15回	令和8年7月24日(金)	2	里岡	復習	復習	看2
第16回	令和8年8月4日(火)	2	〃	試験(11:00~12:30)		①
第17回	令和8年9月16日(水)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式をとる。プロジェクターを使い、教科書に沿って進める。講義資料は、事前にWebClassに掲載するので、各回の授業時までに講義資料および教科書の該当箇所を読んでおくこと。各回の授業の最後に確認テストを課す。確認テストについては、解答例を公開するので、関連内容も含め毎回復習すること。学生が間違えた問題については、次回の授業で補足説明を行う。

7 評価方法

①総括的評価

- ・定期試験(80%)と確認テスト(20%)により評価する。
 - 定期試験:目標項目の全範囲を対象とした記述式の筆記試験を学期末に行う。
 - 確認テスト:WebClassを使った多肢選択式のテストを各授業時に行う。
- ・定期試験と確認テストの合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

- ・授業時に課す確認テストについては、解答例を公開し、実施の都度フィードバックを行う。少なからず学生が間違えた問題については、次回の授業時に補足説明を行う。

③態度評価

- ・授業での発言などから学修意欲を評価する。授業環境を乱す場合、減点する場合がある。

8 テキスト

【教科書】

「医療・看護系のための生物学 改訂版」田村隆明 著 裳華房

9 テキストISBN番号

978-4-7853-5233-2

10 参考文献

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第5版」中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇 監訳 南江堂

11 オフィスアワー(授業相談)

質問や相談があれば、随時受け付けます。事前に、hsatooka@belle.shiga-med.ac.jpまで連絡してください。

12 学生へのメッセージ

生物学は専門課程で履修するすべての科目の基本となる科目です。授業を通して生物学の基本概念と大局観を身につけ、自分自身でしっかりした生物学の基盤を作ってください。「生物としてのヒト」についてじっくり考えてみましょう。

13 授業用URL

<https://latte.shiga-med.ac.jp>

14 授業用E-mail

hsatooka@belle.shiga-med.ac.jp

物 理 学

1 担当教員名

教 授 目 良 裕 (生命科学講座 (物理学))

2 配当学年等

第1学年 前期 2単位

3 学 修 目 標

人体には重力が働いている。それだけではなく、内部にテコを備えていてこれを利用して効果的な動きを可能にしている。このような人体に働く力について理解を深め、負担の少ない身体の動かし方を考える。また、血液の流れ、熱、音や光の感覚器官など、人体に関わる物理現象を理解する。

医療の場では、様々な計測機器や治療用機器が使用される。計測機器に関しては、何（どのような物理量）を、どのような測定原理で計測しているのかを理解する。治療用機器に対しても同様の理解を深めることを目標とする。

・項目別学習目標

- (1) 運動の法則、および運動方程式を理解し、応用できる。
- (2) 様々な運動を記述できる。
- (3) 回転運動を記述できる。
- (4) エネルギーと運動量を説明でき、応用できる。
- (5) 摩擦がある運動を説明できる。
- (6) 圧力を理解し、説明できる。
- (7) ベルヌーイの定理を理解し、応用できる。
- (8) 熱、仕事の概念を理解し、説明できる。
- (9) 体温調節に関係する熱的現象を説明できる。
- (10) 音の三要素、超音波、ドップラー効果を説明できる。
- (11) 光の反射、屈折、結像公式を説明できる。
- (12) 光の干渉・回折現象を説明できる。
- (13) クーロンの法則を説明できる。
- (14) 電場、電位の概念を説明できる。
- (15) オームの法則を説明できる。
- (16) コンデンサーの原理、性質を説明できる。
- (17) ビオ・サバールの公式を説明できる。
- (18) 電磁誘導、ファラデーの法則を理解し、説明できる。

4 授 業 概 要

医療の場にある物理現象を理解することを目的として、力学（圧力を含む）、熱、音・光、電磁気の基礎を学ぶ。また、授業の最後に行う演習課題で実際に問題を解くことにより、更に理解を深める。

1コマの授業に対して、事前にe-Learningに掲載する講義資料による予習と、講義後半に課す演習課題を含む復習を日常的に行い、休日などを利用して、自習用演習問題を含む復習を行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	3	目 良	力と運動(1)	力、力のつり合い、運動方程式	①
第2回	令和8年4月20日(月)	3	〃	力と運動(2)	速度、加速度、等速直線運動、落下運動、円運動	①
第3回	令和8年4月27日(月)	3	〃	回転運動	回転運動とトルク、テコの原理	①
第4回	令和8年5月11日(月)	3	〃	エネルギーと運動量(1)	エネルギー、運動量	①
第5回	令和8年5月18日(月)	3	〃	エネルギーと運動量(2)	摩擦力、牽引	①
第6回	令和8年5月25日(月)	3	〃	圧力(1)	気体の圧力、大気圧、陰圧、陽圧、静水圧	①
第7回	令和8年6月1日(月)	3	〃	圧力(2)	ベルヌーイの定理、血圧	①
第8回	令和8年6月8日(月)	3	〃	熱エネルギーと温度	仕事と熱、熱機関、温度計、比熱、融解、蒸発	①

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第9回	令和8年6月15日(月)	3	目良	体温調節	熱産生、放熱、平衡温、体温計	①
第10回	令和8年6月22日(月)	3	〃	波動(1)	波動、可聴音、超音波	①
第11回	令和8年6月29日(月)	3	〃	波動(2)	光(反射、屈折、レンズ、医療への応用)	①
第12回	令和8年7月6日(月)	3	〃	波動(3)	光(干渉、回折)	①
第13回	令和8年7月9日(木)	3	〃	電磁気(1)	静電気、電流、オームの法則、電力	①
第14回	令和8年7月13日(月)	3	〃	電磁気(2)	コンデンサー、生体の電気現象	①
第15回	令和8年7月27日(月)	3	〃	電磁気(3)	磁気、電磁誘導、コイル	①
第16回	令和8年8月4日(火)	1	〃	試験 (9:00~10:30)		①
第17回	令和8年9月14日(月)	1	〃	再試験 (9:00~10:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、板書およびプロジェクターによる説明を主とし、WebClassに資料を掲載する。講義中もしくは終了後に簡単な演習問題を出題する。

7 評価方法

①総括的評価

学期末に行う筆記試験を80%、講義での演習課題提出を20%として評価する。

場合に応じてレポートを課すこともある。レポートの評価は演習の配点に含める。

②形成的評価

WebClassに演習問題を掲載し、解答は数日後に掲載する。

講義の際の演習課題で誤答が多かった場合は次回の講義で解説する。

③態度教育

授業での発言等から学修意欲を評価する。私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

教科書：看護系で役立つ物理の基本 目良 裕ほか、化学同人

参考書：ベッドサイドを科学する—看護に生かす物理学— 平田雅子著 学研

医療系のための物理 佐藤幸一・藤城敏幸著 東京教学社

9 オフィスアワー (授業相談)

随時対応する。可能であれば事前に口頭かメール (mera@belle.shiga-med.ac.jp) で調整すること。

10 授業用E-mail

mera@belle.shiga-med.ac.jp

化 学

1 担当教員名

教 授 古 莊 義 雄 (生命科学講座 (化学))

非常勤講師

高 橋 知 子

2 配当学年等

第1学年 前期 2単位

3 学 修 目 標

医療の世界は、人体を構成する物質をはじめとして、取り扱う薬品や素材などの無数の化学物質に取り囲まれています。さらに日進月歩の医療分野では、医療者が自ら新たな知識を取り入れて消化し、専門分野で役立てていく力が求められています。関係するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、基礎的な化学知識を生命活動や生体成分、薬品、栄養、環境などの分野と密に関連させて理解を進めていくことにより、化学的視点を通じた人間の生命活動への興味を喚起し、自ら継続して学んでいくための土台を作ることを目指としています。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム

DP2. 看護学の知識と技術

PS-07 各器官および全身の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析

各器官および全身の構造・機能、健康障害に対するニーズを分析し、それを活用した看護を実践できる。

PS-08 人体各器官の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析

人体各器官の構造・機能と健康障害に対するニーズを分析し、それを活用した看護を実践できる。

4 授 業 概 要

本講義では、医療分野に必要な基礎的な化学知識を厳選して学習し、さらに様々な話題を取り入れながら生命活動や医療、身のまわりの事象との繋がりを重視して授業を進めます。また、演示実験による実物の提示や分子模型、画像などを活用して、多面的な理解を深めることで講義内容の定着を図ります。

1コマの授業に対して、30分の予習 (教科書の該当箇所を読む) と90分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり60分の復習を行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

第1回目のガイダンスにて本講義の目標・進め方を提示します。前半 (第1回から第7回) で空気の化学、水の化学、体液の調節機能および体内での酸化還元反応について学んでいきます。第8回で復習を兼ねた中間試験を課し、学習内容の定着を図ります。後半 (第9回から第15回) は、生命活動に関連する有機化合物の基礎を学び、生体関連分子・医用系化合物などの性質について理解を深めていきます。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月14日 (火)	1	高 橋	ガイダンス 空気の化学1	この授業の目標・進め方 空気の構成成分を考える - 窒素、貴ガスの話	看2
第2回	令和8年4月21日 (火)	1	〃	空気の化学2	なぜ、息をするのか? - 酸素、二酸化炭素の話	看2
第3回	令和8年4月28日 (火)	1	〃	水の化学1	水の変化 - 化学反応とは? 化学反応式 モルの考え方	看2
第4回	令和8年5月12日 (火)	1	〃	水の化学2	水分子を知る - 構造、化学結合、溶解の化学	看2
第5回	令和8年5月19日 (火)	1	〃	水の化学3	体液の調節機能 - 浸透圧 溶液の濃度 単位	看2
第6回	令和8年5月26日 (火)	1	〃	酸と塩基	体液の調節機能 - 中和 pH 強弱 緩衝溶液	看2
第7回	令和8年6月2日 (火)	1	〃	酸化と還元	体内の酸化還元反応	看2
第8回	令和8年6月9日 (火)	1	〃	中間試験		看2
第9回	令和8年6月16日 (火)	1	〃	有機化学の基礎1	有機化合物とは? - 脂肪族炭化水素	看2
第10回	令和8年6月23日 (火)	1	〃	有機化学の基礎2	お酒を飲むとどうなるか? - 官能基とその反応	看2
第11回	令和8年6月30日 (火)	1	〃	有機化学の基礎3	医薬品を中心に - 芳香族炭化水素 異性体と薬	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第12回	令和8年7月7日(火)	1	高橋	生体の構成成分1	核酸と脂質 -DNAとRNA 中性脂肪とコレステロール	看2
第13回	令和8年7月14日(火)	1	〃	生体の構成成分2	アミノ酸とタンパク質 -酵素と触媒反応	看2
第14回	令和8年7月21日(火)	1	〃	生体の構成成分3	糖類 -体内の糖類とその代謝	看2
第15回	令和8年7月28日(火)	1	〃	合成高分子化合物	有機医療用材料 -プラスチックと合成繊維	看2
第16回	令和8年8月4日(火)	3	〃	試験 (13:30~15:00)		看2
第17回	令和8年9月15日(火)	1	〃	再試験 (9:00~10:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

主にプロジェクターを用いて授業を進行し、講義ノートとして配布するプリントに内容を記録する。授業の進捗状況により、講義内容が前後する場合がある。

7 評価方法

(1) 総括的評価

中間・定期試験の点数+平常点の総合点数により評価(60点以上で合格)

(2) 形成的評価

授業中に小テストを実施

(3) 態度教育

授業での発言等から学修意欲を評価する。

私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

*特別な理由のない欠席が授業回数の半分以上を超える場合には、試験の受験資格を与えない。

8 テキスト

コ・メディカル化学(改訂版)-医療・看護系のための基礎化学-, 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二 共著

9 テキストISBN番号

ISBN-13: 978-4785335243

10 参考文献

看護系で役立つ化学の基本, 有本淳一・西沢いづみ著, 化学同人
系統看護学講座「化学」, 杉田良樹著, 医学書院

11 オフィスアワー(授業相談)

毎週火曜日の11:50~12:50を基本としますが、それ以外の時間帯でも随時対応します。その際は、電話、メール等で事前にアポイントを取って下さい。

12 学生へのメッセージ

化学は今後学んでいく様々な専門科目の理解の土台となるものですが、既習の化学で苦手意識を持っているという声も多く聞かれます。今後の専門分野の学習との橋渡しとなるよう、分野横断的な話題を広く取り入れて進めますので、ぜひ興味を持って取り組んで欲しいと思います。

数 理 科 学 入 門

1 担 当 教 員 名

准 教 授 川 北 素 子 (生命科学講座 (数学))

2 配 当 学 年 等

第 1 学 年 前 期 2 単 位

3 学 修 目 標

複数個の事象や数値の集合がデータである。看護研究で得られたデータを解析することは、エビデンスを得るために大切である。本講義は、

1. 論理的思考・数学的方法に慣れるようにする。
2. 実験・観測・アンケートなどで得られたデータを、分かり易く使い勝手が良いように整理できるようにする。
3. 多分正しい・正しいかも知れない、などの不完全な情報に基づいて、もっとも合理的な意思決定が出来るための数学的基礎を作る。同時に、からだの生化学・栄養学・環境論等を理解する基礎を整えることを目的とする。

なおデータのねつ造、改ざん、盗用は研究活動の不正行為という認識に立ち、個人情報を含むデータを扱う場合は、個人情報保護、プライバシー保護に留意すること。

本講義に関係するディプロマ・ポリシー及びアウトカム

DP 2. 看護学の知識と技術

4. 疫学、保健統計

DP 6. 科学的探求心と国際的視野

1. 看護学上の疑問・関心に基づいて、研究課題を見出すことができる。
4. 自らの研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。
5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。

DP 7. 情報・科学技術の活用

2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授 業 概 要

実験や観測で得られたデータの表現からスタートする。数理科学の基礎である微分、積分、線形代数を学びながら、確率空間、確率変数の定義と基本的性質、二項分布、正規分布等の種々の分布の性質、計算法などを経て、推測統計の基礎理論へと進む。実際のデータを例示しながら講述と演習を行う。

データを扱う研究の基礎であり、基本的な道具である。

1コマの授業に対して、予習と復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに復習することが望まれる。予習では、教科書や参考書を読み疑問点を整理する。復習では、演習問題を積極的に解くことで、データを活用する力がつく。

5 授 業 内 容

授業内容のとおりである。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第 1 回	令和 8 年 4 月 10 日 (金)	1	川 北	授業計画、導入	授業計画を述べた後、棒グラフ、折れ線グラフ、ヒートマップなどのデータ表現、チャート化によるデータの図表表現、観測データに含まれる誤差の扱い、打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ、クロス集計表、分割表などを紹介する。	看 2
第 2 回	令和 8 年 4 月 17 日 (金)	1	〃	標本データの記述	データの種類として量的変数と質的変数があり、ヒストグラムによりデータの分布が表現できる。代表値として平均値、中央値、最頻値があるが、平均値と最頻値は等しくないことが多い。データの集計の和や平均、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ csv、優れた可視化事例を学ぶ。不適切なグラフ表現、不必要な視覚的要素について注意する。	看 2
第 3 回	令和 8 年 4 月 24 日 (金)	1	〃	微分・積分	多項式関数、指数関数、対数関数の定義を紹介する。関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係を学ぶ。	看 2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第4回	令和8年5月1日(金)	1	川北	微分・積分	1変数関数の微分法、積分法について学び、応用できるようにする。	看2
第5回	令和8年5月15日(金)	1	〃	確率	集合、ベン図、順列、組合せ、事象の確率、条件付き確率を定義する。具体的なデータからグラフを作成し、データの分布や代表値を求める。	看2
第6回	令和8年5月22日(金)	1	〃	離散型確率分布	離散型確率分布について、期待値、データのばらつきである分散、標準偏差を定義し、具体的計算できるようにする。	看2
第7回	令和8年5月29日(金)	1	〃	連続型確率分布	連続型確率分布について、期待値、データのばらつきである分散、標準偏差を定義し、具体的計算できるようにする。	看2
第8回	令和8年6月5日(金)	1	〃	二項分布	二項分布の定義や具体例の計算を行う。	看2
第9回	令和8年6月12日(金)	1	〃	正規分布	正規分布の定義や性質を紹介する。	看2
第10回	令和8年6月19日(金)	1	〃	正規分布の演習	正規分布のデータから確率などを計算する。	看2
第11回	令和8年6月26日(金)	1	〃	母集団と標本抽出	全数調査、国勢調査、標本調査、母集団からの無作為抽出する方法を学ぶ。	看2
第12回	令和8年7月3日(金)	1	〃	標本平均の分布	中心極限定理(一般的な条件のもとで、標本が大きくなると標本平均が正規分布に近づく。)を学び、演習を行う。	看2
第13回	令和8年7月10日(金)	1	〃	線形代数	ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積について学ぶ	看2
第14回	令和8年7月17日(金)	1	〃	線形代数	行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積について学ぶ。	看2
第15回	令和8年7月24日(金)	1	〃	相関	相関関係と因果関係、線形相関、相関係数、散布図を定義して、それらを用いて2種類のデータの間の関連を調べる。実際のデータを使って、標本分布や相関係数などの計算する。	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

対面授業に加え、グループ学習も取り入れる。グループ学習では、提示された具体的なデータを可視化したり、どのような分布に近いか議論して、分析結果をまとめる。

講義の動画配信しない。

7 評価方法

①総括的評価

レポートの合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

授業内容に応じた練習問題を課す。実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業の参加態度から学修意欲を評価する。授業中の私語など他の受講生の迷惑となる行為について、減点することがある。

8 テキスト

「確率統計序論 第三版」東海大学出版部、道家 映幸, 土井 誠, 山本 義郎著

9 テキストISBN番号

978-4-486-02124-7

10 参考文献

「データサイエンスの基礎」講談社、濱田悦生著

「データサイエンスのための数学」講談社、椎名洋、姫野哲人、保科架風著

「入門微分積分」三宅敏恒著 培風館

「入門線形代数」三宅敏恒著 培風館

11 オフィスアワー(授業相談)

随時相談に応じます。アポイントと取っていただければ、適宜、対応します。

12 学生へのメッセージ

ICT（情報通信技術）の発展に伴って膨大なデータが蓄積され、データそのものが価値を持つ時代になりました。数理・データサイエンスはあらゆる学問や産業分野に応用される可能性を持っています。看護学科の皆さんは、看護研究するときの大切な基礎理論となりますので、是非授業をしっかりと理解し、グループ学習では積極的にデータ解析を行ってほしいと思います。分からないことがあったら、いつでも質問してください。

13 授業用URL

<http://www.shiga-med.ac.jp/~kawakita/lectures.html>

情報科学

1 担当教員名

准教授 本山 一 隆 (情報総合センター)
教授 芦原 貴 司 (情報総合センター)
助教 重 歳 憲 治 (マルチメディアセンター)
特任助教 福江 慧 (医学・看護学教育センター)

2 配当学年等

第1学年 前期 2単位

3 学修目標

・一般学習目標

医学学習に必要な情報リテラシーおよび研究や臨床での活用につながる情報技術の習得、ならびにそれらの基礎となる概念の理解。

・個別学習目標

- (1) コンピュータの構造と動作、コンピュータ内部でのデータ表現の概要を理解し、基本的な操作が行える
- (2) 文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトウェアなどの日常作業に用いるアプリケーションを自己学習や協同学習に活用できる
- (3) コンピューターを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる
- (4) ネットワークの基本動作とインターネットの成り立ちを理解し、目的に応じた適切なツール（電子メール、web会議システム等のクラウドサービス、SNS）を遠隔コミュニケーションに利用できる。
- (5) Web（ホームページ）やソーシャルメディアの利用において、医療者として相応しい情報発信の在り方を理解し、実践できる
- (6) 情報活用に際して起こりうるセキュリティ面での危険性を理解して対応し、日常だけでなく、医療情報管理や個人情報保護の観点から発生しうる問題がわかる
- (7) コンピュータにおける静止画、動画データの基本構造と処理過程を理解し、基本的なデータ操作が行える
- (8) 情報を処理する際のフロー（流れ）の考え方、表現法を理解し、小規模なプログラミングの経験を持つ
- (9) データサイエンス、AI、IoT等の先端技術も含め、医療における情報技術の活用状況を把握し、習得した知識との関連付けができる

・本講義に関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP7. 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

医学分野における情報化の進展は、臨床現場においては電子カルテを始めとして業務の効率化や医療ミスを防ぐための有効な手段となっており、診療支援に欠くことのできないものになっている。また、研究分野でも、遺伝子、タンパク質を扱う分野にとどまらず情報技術は不可欠なものになっている。医学を目指す者は、否応なくこうした領域のコンピューターシステムを扱わなければならない。その際に、基本となる情報技術、情報科学の基礎を持っているか否かで、習得効率や有効活用のレベルが大きく異なる。勉学の面でも、爆発的な医学知識の増大は今後も続き、こうした医学知識の習得や、実践のための取捨選択を限られた時間に全うするには、情報を扱う技術が重要な役割を果たすことになる。

本講義「情報科学」では、臨床や医学研究、学習に用いられる情報技術の共通かつ必須の部分、いわゆるコンピュータリテラシーを一通り習得する。現在では、学校授業や日常生活でこれらを習得している可能性が高いため、早期に最低限のスキルに到達することを目的とする。講義では各人1台のコンピューターが割り当てられる。講義内容は毎回のトピックの解説と実習で構成され、実践技術の実習を通して情報科学の基礎知識の理解を目的としている。また、道具としてのコンピューターをより理解するため、プログラミングの学習も行う。

各回の講義に対して講義内容の復習を行うこと。

5 授 業 内 容

下記の「授業内容」の内容に沿って講義、演習を行うが、進捗状況次第で順序や内容を変更することがある。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月14日(火)	2	芦原 本重 福江	Introduction	データサイエンスやAIをはじめとして、ICT(情報通信技術)は様々な分野で急速な発展を遂げている。データ駆動社会において情報科学を学ぶ意義について確認するとともに、コンピュータで扱うデータ表現の基礎(2進数とビット表現)を学ぶ。 学内情報システムの利用方法についても説明する。	MMC演
第2回	令和8年4月21日(火)	2	本山 重福 江	文書作成	文字の装飾、文書のレイアウトの調整等、ワープロソフトによる文書作成の基本技術を習得する。また、文字コードについての基礎知識も身につける。	MMC演
第3回	令和8年4月28日(火)	2	〃	図形描画と プレゼンテーション	分かりやすい図を添えることで、説得力のあるレポートやプレゼンテーションを作成することができる。 図形描画をはじめとした、文書作成とスライド作成での応用技術を学ぶ。PDFファイルへの変換などについても触れる。	MMC演
第4回	令和8年5月12日(火)	2	〃	データの分析と 可視化(基礎編)	表計算ソフトウェアの概念、作表と自動計算、表形式の構造化データからのグラフ作成、グラフの基礎知識等を学ぶ。	MMC演
第5回	令和8年5月19日(火)	2	重山 本福 江	データの分析と 可視化(応用編)	大量のデータを分析し、そこから有益な情報を導き出すデータサイエンスの基礎を学ぶ。集計データを扱う際の前処理(文字列加工)、クロス集計、初歩的な統計処理を試みる。	MMC演
第6回	令和8年5月26日(火)	2	図書館職員	図書検索 システム入門	ネットワークを駆使して文献(図書や論文など)を手早く見つけ出す。 図書館の効率的な利用方法やオンラインジャーナル、電子ブックについても解説する。	MMC演
第7回	令和8年6月2日(火)	2	福江 本重 山重 福江	画像データの 仕組みと編集	画素(ピクセル)と解像度、画像データの圧縮原理等、画像データの基本知識を学習する。画像の回転縮小や写真合成など簡単な画像処理を、医療画像を題材に実習する。	MMC演
第8回	令和8年6月9日(火)	2	本山 重福 江	動画データの 仕組みと編集	日常扱うことが多くなった動画データの基本知識と加工技術を習得する。	MMC演
第9回	令和8年6月16日(火)	2	〃	情報技術を 活用した共同作業	遠隔コミュニケーションツールのデータ共有、共同編集の機能を活用し、共同でデータを分析したり、資料を作成する方法を学ぶ。	MMC演
第10回	令和8年6月23日(火)	2	〃	インターネットの 仕組み	インターネットが機能するための仕組み、メール、webの挙動と特性を学ぶ。	MMC演
第11回	令和8年6月30日(火)	2	〃	webによる情報発信	webの仕組みを理解し、ホームページを形作るHTMLを学習する。自己紹介のホームページ作成を通して、webの基本を学ぶ。	MMC演
第12回	令和8年7月7日(火)	2	重山 本福 江	情報セキュリティ1	情報セキュリティの3要素(機密性、可用性、完全性)について学ぶ。マルウェアやネットワーク・サーバへの不正侵入、フィッシングなど、現実に目の前にあるインターネット上の「脅威」とそれらへの対策についても学習する。	MMC演
第13回	令和8年7月14日(火)	2	〃	情報セキュリティ2	IPAが提供するビデオ教材での学習により、ソーシャルメディアの適切な利用等についての知識を習得する。 また、擬似ウイルス感染による体験学習を通じて、マルウェアの脅威やデータバックアップの重要性を学ぶ。	MMC演

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第14回	令和8年7月21日(火)	2	本 山 重 歳 福 江	プログラミング	PythonはAIやデータサイエンスをはじめとして、幅広い分野で利用されているプログラミング言語である。 変数や関数といったプログラミングの基礎的な知識を学習し、練習課題を通して簡単なプログラムを作成できる力を身につける。	MMC演
第15回	令和8年7月28日(火)	2	〃	シミュレーション 入門	Pythonを使ってコンピューターシミュレーションのプログラムを作成する。コンピューターシミュレーションを用いて自然現象や社会現象を再現し、現象の理解や予測に役立てる方法を学ぶ。	MMC演
第16回	令和8年7月31日(金)	3	本 山	試験 (13:30~15:00)		MMC演

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義はマルチメディアセンター(MMC)演習室及びブラウジング室において、口述と実習を交えて進める。講義資料は全てeLearningサーバ(授業用URLを参照)に掲載されており、紙による講義資料は基本的に配布しない。資料は講義中に参照するほか、講義時間外でも参照し、予復習することができる。紙での資料を希望するものは、各自がプリンタで印刷すること。講義中はプロジェクタ映像と共に、机上のサブモニター上にも映像が提示され、スライドや実際の操作画面等が必要に応じて映し出される。

講義時間中に行う演習は、1人1台のコンピュータが割り当てられており、受講者自身による操作演習が課せられる。大部分の演習時間で講師以外に実習を補助する教員がつく。

ファイルサーバ上に各自のデータを保存するための保存領域が割り当てられている。保管容量が不足する場合は、クラウドに各自のデータを退避させれば、自宅のコンピュータで利用することも可能である。なお、センター内ではプリンター印刷が一定量まで自由に利用できるよう用意されている。

7 評価方法

①総括的評価

- ・平常点(50%)：各テーマ毎に、演習課題の提出、または小テストへの回答をeLearningシステム上で行う。回答に時間を要する課題については、宿題として課する場合がある。
 - ・定期試験(50%)：eLearningによる試験。講義内容の理解度を多肢選択、計算問題、論述などで評価する。
 - ・定期試験、平常点の合計が60点以上を合格とする。
- 合格点に達しなかった者については再試験は実施せず、追加の課題を課す。

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・私語等で授業環境を見出す場合は、平常点を減点することがある。

8 テキスト

講義はスライドを基に進められる。講義レジメとしてスライド内容を毎回eLearningシステムに掲載する。スライドに書かれていない内容や不明点など書き残しながら、聴講すること。

特定の教科書は用いない。以下に参考文献をあげるのので、必要に応じて参照されたい。これらを含めた参考図書は、図書館の開架書庫や演習室内の書架、センター事務室に置かれているので、利用すると良い。図書以外に参考になるホームページも多数あり、講義中に紹介する。

- ・コンピュータやその上で動く個々のプログラムの使い方については、巷にたくさんの本が出ているので、参考になると良い。講義中の演習に用いるコンピュータ環境は、OSにWindows11、ワープロ、表計算、プレゼンテーション作成にMicrosoft Office、WebブラウザにChromeやFirefoxなどからなっている。
- これらについての参考書籍が図書館や演習室書架に置かれているので、必要に応じて読むと良い。

9 参考文献

・基礎的な情報科学の参考書

情報理論や計算機の構造などの情報科学の基礎については以下の2冊を紹介しておく。これらは情報科学の基礎を広く扱っているが、医学部基礎教養としてはやや高度な内容なので、講義内容以上に学習したい場合に参考になると良い。

八村広三郎：計算機科学の基礎(近代科学社)

上林弥彦：情報科学の基礎理論(昭晃堂)

・コンピュータリテラシーに関する参考書

寺沢幹雄、松田高行、福田収：情報基礎と情報処理（オーム社）

コンピュータリテラシー全般がコンパクトにまとめて書かれている。講義では、この内容の半数程度をカバーしているので、不足部分を参照すると良い。

久保田裕、佐藤英雄：知っておきたい情報モラルQ&A（岩波書店）

情報モラルは、ネットワークを利用し始めると身近に起こる問題であるが、合法であるか否か、マナーに反しているか否かの判断は非常に難しい。実例が挙げられており、一読の価値がある。

10 オフィスアワー（授業相談）

授業に関連した質問、相談は、マルチメディアセンター教員室で随時可能である。不在の場合があるので、予めメールで問い合わせの方が良い。メールでの質問も受け付ける。また、コンピュータ操作等基本的な質問は、マルチメディアセンターのサービスとして図書館カウンターでも受け付けている。

11 学生へのメッセージ

医学、医療への情報技術の浸透は急速に進んでおり、これらに携わる人は情報機器の利用を避けて通ることはできなくなっている。一方では、情報技術そのものの発達も速く、時代と共に使わなければならない機器の姿も変わり続けている。講義で学んだコンピュータの使い方も、将来仕事で使う時には形が変わっているに違いない。

講義で用いるコンピュータは2023年3月に新たに設置されたもの（CPUにCorei5、OSにWindows11を装備したノートPC）である。将来、臨床の場等で活用するであろう機器は上記のものとは違ったものになる。しかし、これらを使って学んでゆく「情報を扱う」技術や考え方は変わらないので、それらの基本をしっかり理解していれば、どの時代にも対応してゆける。「コンピュータに使われる」ことなく、その恩恵を享受するために、情報機器を使いこなす「センス」をこの講義を通じて習得されることを期待する。

ほとんどの学生が、コンピュータの一種であるスマートフォンを日常的に利用しており、既にネットワークとコンピュータの環境の中に暮らしているといえる。講義では、スマートフォンにはできない（使いにくい）利用法やスマートフォンにも共通する情報の仕組みについて学んでゆく。

講義で学ぶ基本的なリテラシーは高校などで既に習得している部分もある。レポートや発表など、他の科目ですぐに実用しなければならなくなるので、復習すると同時に、利用経験の少ない同級生がいれば、教えてあげることで自己確認するといった積極的な態度で受講してほしい。

学内で学生が自由に利用できるコンピュータは、マルチメディアセンター以外にも、学生ラウンジ、看護学科棟ピロティニーなどにもある。授業休憩時間等に必要に応じて活用してほしい。自身の所有しているノートPC、タブレット、スマートフォンは、登録をすれば学内でのネットワークが利用可能となる。教室を始め学内主要箇所には無線LAN（WiFiスポット）が設置されている。他の講義でも、それぞれの情報機器の使用ルールに従って、活用すると良い。

12 授業用URL

<http://latte.shiga-med.ac.jp/>

13 授業用E-mail

motoyama@belle.shiga-med.ac.jp

データサイエンス・AI入門

1 担当教員名

教授	芦原 貴司	(情報総合センター)
准教授	本山 一隆	(情報総合センター)
准教授	原田 亜紀子	(NCD 疫学研究センター医療統計学部門)
助教	重歳 憲治	(マルチメディアセンター)
特任助教	福江 慧	(医学・看護学教育センター)

2 配当学年等

第1学年 後期 2単位

3 学修目標

近年、ビッグデータの利活用、バイオインフォマティクス、画像診断、病理診断など、最新の医学・医療の分野においても、数学・統計学・データサイエンス・情報科学・AI・機械学習の理論や技術等が応用されている。医学部の学生が将来医療現場に出たとき、これらの理論・技術を正しく理解することで、活用の幅が広がると共に、新しい医療技術を生み出すことが期待されている。

さらに、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）においては、今後ますます情報・科学技術の医療・医学への活用が進むことを考慮して、「医師として求められる基本的な資質・能力」の1つに「情報・科学技術を活かす能力」が新たに規定され、「発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する」ことが学修目標として示されたところである。

以上の背景を受けて、当該授業科目においては今後のデジタル社会において、データから意味を抽出し現場にフィードバックする能力や、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得することを目標とする。

<該当するDPとアウトカム>

DP6 科学的探究心と国際的視野

RE 科学的探究能力

RE-02 看護学の探究の基礎科学的探究の諸方法について理解することができる。

DP7 情報・科学技術の活用

IT 情報・科学技術を活かす能力

IT-01 ICT活用と情報リテラシー現代社会におけるデータ・ICT・AI利活用の現況を知り、基礎的なデータの取り扱いとデータ分析方法を理解している

IT-02 医療における情報・通信・科学技術の基本的理解医療情報システムを使用するために必要な基礎的知識を修得し、個人情報適切に取り扱うことができる。

IT-03 情報・科学技術による患者支援の理解促進医療専門職として、情報通信技術を活用し、地域の保健医療福祉の提供に必要なデータとその活用について理解している。

IT-04 情報・科学技術によるケア提供能力の強化適切な看護ケア提供のために、ICT・AI・XRを活用できる。

IT-05 医療における情報・通信・科学技術のシステム活用医療情報システムの利活用の必要性と方法を理解し、安全に使用できる。

4 授業概要

15回の授業を通じて、以下の3点を到達目標とする。

- ①適切なデータ分析・可視化手法を選択し、収集したデータを十分に観察するとともに、それらの分析結果を元に事象の背景や意味合いを理解すること
- ②ビッグデータの集積・蓄積のための技術やITセキュリティを理解したうえで、データベースから必要なデータを抽出し、データ分析のためのデータセットを作成すること
- ③機械学習、深層学習の基本的な概念を理解したうえで、医療分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解すること

<事前学修・事後学修>

毎回の授業でデータ処理やAI構築に関する演習課題を課す。

<履修要件等>

当該授業科目は「情報科学」「数理科学入門」における学修内容を基盤とするため、これらの理解が不十分であると思われる場合は各自で復習のうえで授業に臨むこと。

5 授 業 内 容

第1～7回は主にデータサイエンス、第8～14回は主にAIに関する内容を取扱う。

第15回では、全体の総括としてデータサイエンスやAIが医療分野でどのように活用されているのか、またその倫理的な課題について検討する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月2日(金)	2	原 田	データサイエンス概論	統計学・情報科学復習(データサイエンスとは、データ駆動型社会、Society 5.0) JMPインストールガイド、データの可視化	MMC演
第2回	令和8年10月9日(金)	2	〃	データ解析(1)	データクレンジング(外れ値、異常値、欠損値)、分布、相関、カイ2乗検定	MMC演
第3回	令和8年10月16日(金)	2	〃	データ解析(2)	t検定、分散分析、多重比較	MMC演
第4回	令和8年10月30日(金)	2	〃	データ解析(3)	一般線形モデル(最小二乗法、単回帰・重回帰分析)、一般化線形モデル(ロジスティック回帰)	MMC演
第5回	令和8年11月13日(金)	1	〃	データ解析(4)	一般化線形モデル(Poisson回帰)、次元縮約(クラスター、主成分、因子分析)	MMC演
第6回	令和8年11月13日(金)	2	〃	データベース	データベースの基本・SQL・RDB(テーブル定義、ER図、主キー・外部キー)、臨床研究でのデータベース設計、データベース研究の事例	MMC演
第7回	令和8年11月20日(金)	2	〃	データ解析(5)/小括	空間データの利用(GIS)、DS小括	MMC演
第8回	令和8年11月27日(金)	2	芦 原	AI概論	AIの歴史、強いAIと弱いAI、AI技術の活用領域、AI倫理、AIの公平性と信頼性、ビッグデータの収集と活用	MMC演
第9回	令和8年12月11日(金)	1	本 山 重 歳 (マルチメディアセンター 助教) 福 江 (看護学教育センター 特任助教)	AI構築の基礎(1)	AIの開発環境と実行環境、変数、関数、条件分岐と繰り返し処理	MMC演
第10回	令和8年12月11日(金)	2	〃	AI構築の基礎(2)	構造化データの分析、アルゴリズムと計算量、フローチャート、探索(サーチ)アルゴリズム	MMC演
第11回	令和8年12月25日(金)	2	〃	機械学習(1)	機械学習(教師あり学習、教師なし学習、強化学習)、学習データと検証データ、過学習、予測技術の活用事例、線形回帰モデル、サポートベクターマシン、混同行列	MMC演
第12回	令和9年1月8日(金)	2	〃	機械学習(2)	決定木、ランダムフォレスト、クラスター分析	MMC演
第13回	令和9年1月22日(金)	2	〃	深層学習(1)	ニューラルネットワークの原理、ディープニューラルネットワーク(DNN)、画像認識	MMC演
第14回	令和9年1月29日(金)	2	〃	深層学習(2)	画像処理プログラミング、特徴抽出、畳み込みニューラルネットワーク(CNN)、画像分類、ROC曲線	MMC演
第15回	令和9年2月5日(金)	2	芦 原 原 田 本 山	生成AI、総括	生成AI、大規模言語モデルとハルシネーション データサイエンス/AIの医療への応用 データサイエンス活用事例	MMC演

6 授業形式・視聴覚機器の活用

Python、JMP、R、QGISなどのソフトを用いた演習形式。なお、本系統講義はオンデマンド配信はしない。

7 評価方法

1) 総括的評価

原則、定期試験による評価は行わず、レポートによる評価：各回到達度をはかる課題を課し、提出内容を評価する。それらの合計点が100点満点で60点以上を合格とする。

正当な理由のない欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、総括評価（レポートによる評価）の対象としない。なお、講義の欠席に正当な事由がある場合には、事前に主担当教員である芦原（ash@belle.shiga-med.ac.jp）まで電子メールにて連絡すること。事後報告は特別な場合を除き、正当な事由とは認めない。

2) 形成的評価

講義・演習で提示する課題や課題に対する質問については実施の都度フィードバックを行う。

3) 態度評価

講義への参加態度から学修意欲を評価する。授業環境を乱す行為が認められた場合には減点することがある。

8 テキスト

教科書は指定しない。講義資料を配布する。

9 参考文献

【データサイエンス領域】

- 1) 北川源四郎, 竹村彰通編. 応用基礎としてのデータサイエンス AI×データ活用の実践. 講談社, 東京, 2023
- 2) 吉田寛輝. JMPによる医療統計 使い方から検定結果の解釈まで. アトムズ, 2022
- 3) 辻真吾, 矢吹太郎. ゼロからはじめるデータサイエンス入門 R・Python一挙両得. 講談社, 2022
- 4) 森純一郎. Pythonデータ解析入門. 東京大学出版会, 東京, 2024
- 5) Mitchell H. Katz 著 木原正博, 木原雅子 訳. 医学的研究のための多変量解析 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2020
- 6) 半井真明. まちの課題・資源を可視化するQGIS活用ガイドブック. 学芸出版社, 京都, 2022

【AI領域】

- 1) 猪狩 宇司, 今井 翔太, 江間 有沙, 他. ディープラーニング G検定公式テキスト 第2版. 翔泳社, 2021
- 2) 上杉 正人 (編集), 平原 大助 (編集), 齋藤 静司 (編集), 藤田 広志 (監修), Pythonによる医用画像処理入門, オーム社, 2020
- 3) 福岡 大輔 (編集), 藤田 広志 (監修), 医用画像のためのディープラーニング 入門編, オーム社, 2020
- 4) 原 武史 (編集), 藤田 広志 (監修), 医用画像のためのディープラーニング 実践編, オーム社, 2020

【統計検定対応】

日本統計学会認定 統計検定データサイエンス発展対応 データサイエンス発展演習, 東京図書, 東京, 2024

10 オフィスアワー (授業相談)

芦原貴司 (情報総合センター)

本山一隆 (情報総合センター) : 随時。ただし、事前にメールでアポイントをとってください。

原田亜紀子 (NCD疫学研究センター) : 応相談、E-mailにて事前に連絡のこと

11 学生へのメッセージ

今後ますます、情報・科学技術の医療・医学への活用が進み、医療人として「情報・科学技術を活かす能力」が求められていきます。また、高校、大学での基礎教育で、『データサイエンス・AI』教育が一般化することで、より若い世代ではこれらの知識、データの運用能力が高まってきます。将来、診療や研究に従事する際の基礎能力として、演習を通じてデータを分析、解釈し、新たな価値に結び付ける応用力を身につけましょう。

12 授業用URL

https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?group_id=263010070&auth_mode=SHIB

心 理 学

1 担当教員名

准教授 小島隆次 (医療文化学講座 (心理学))

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

本授業では、実験・認知心理学を中心として、代表的な心理学諸分野の基礎知識を習得することを第一義とします。また、受講生が本授業で課される様々な課題を適切にこなすことで、論理的に考え、批判する能力が養われ、習得した知識を日常生活でどのように応用していくのかを考えられるようになることも目指します。

そして、上記目標の達成に伴い、結果的に受講生が以下の目標を達成できるようになることを学習目標とします。

1. 心理学諸分野の基礎知識を身に着けること
2. 心理学諸分野の基礎知識を日常の様々な場面で活用する態度を身に着けること
3. 様々な事象に対して、批判的・発展的に考える態度を身に着けること

【本授業に関係する資質・能力】

GE：対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

PR：プロフェッショナリズム

CM：コミュニケーション能力

【本授業に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム】

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 患者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係性を築くことができる。
2. 患者・家族に対して、適切な言葉遣いでわかりやすく説明できる。
3. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係性を築くことができる。
4. リーダーシップを理解し、多職種間連携に参加できる。

4 授業概要

発達を除く心理学の主要分野 (知覚・認知・学習・社会・パーソナリティ・感情・臨床) の基本的な知見を中心に教授する (発達については生涯発達論で扱う)。また、授業課題を通じて多面的な視点から論理的に考え、批判する能力を養いつつ、人の認知・行動特性に関する知見を日常生活や医療分野でどのように応用できるのかを考える。

5 授業内容

授業内容は以下の授業内容の各授業における内容を参照してください。基本的には、一般的な心理学諸分野で扱われることの多いトピックを紹介する内容になりますが、主として、実験心理学、認知心理学分野のトピックが中心になります。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日 (水)	2	小島	ガイダンス	本授業の受講方法や基本方針などを説明。	看2
第2回	令和8年4月15日 (水)	2	〃	感覚・知覚	感覚・知覚情報の処理特性について概説。	看2
第3回	令和8年4月22日 (水)	2	〃	注意	視覚的注意を中心として、注意の機構と役割について概説。	看2
第4回	令和8年5月13日 (水)	2	〃	学習	学習概念の定義と様々な学習研究の応用について、古典的学習理論を踏まえて概説。	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年5月20日(水)	2	小島	動機づけ	行動の開始や継続に関わる動機づけ概念について基本事項を紹介する。	看2
第6回	令和8年5月27日(水)	2	〃	記憶1	記憶の種類とそれらの機能について概観した上で、人の記憶特性について概説。	看2
第7回	令和8年6月3日(水)	2	〃	記憶2	記憶1での内容を踏まえて人の記憶特性について概説。	看2
第8回	令和8年6月10日(水)	2	〃	論理・推論	人の思考特性について概説。	看2
第9回	令和8年6月17日(水)	2	〃	ヒューリスティクス・認知バイアス	人の思考特性について概説。	看2
第10回	令和8年6月24日(水)	2	〃	社会性と認知	他者との関わり方や集団に対する認識が、人の認知過程にどのような影響をもたらすのかについて概説。	看2
第11回	令和8年7月1日(水)	2	〃	対人認知	対人認知と印象形成などについて概説。	看2
第12回	令和8年7月8日(水)	2	〃	コミュニケーション1	コミュニケーション全般に関する基礎事項と言語コミュニケーションの諸特性を概説。	看2
第13回	令和8年7月15日(水)	2	〃	コミュニケーション2	非言語情報の特性と非言語コミュニケーションの諸特性を概説。	看2
第14回	令和8年7月22日(水)	2	〃	コミュニケーション3	交渉や説得に関するコミュニケーションについて概説。	看2
第15回	令和8年7月29日(水)	2	〃	まとめ	授業で扱った内容全般を振り返りつつ、適宜受講生へのフィードバックを行う。	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はオンデマンドでのオンライン受講を基本的な授業形式とします。

授業資料や授業課題については、授業webサイトや授業課題システムから、電子的に配布・実施します。

受講生には、授業開始前に授業関連情報をメールあるいはWeb Classで通知しますので、情報を確認して下さい。

毎回の授業において、受講生は、提供された授業資料の内容を理解した上で、所定の授業課題に取り組むというのが、基本的な流れになります。

【準備学修等について】

文科省の大学設置基準に基づき、他の授業と同様に本授業においても、1コマ(90分)の授業に対して180分程度の課外学習(予復習)が想定されていますが、本授業では指定の授業課題に取り組むことによって、基本的にこの基準はクリアされるようにしています。

7 評価方法

評価は、単位認定と単位評価の二段階で行います。

まず、単位認定に際しては、各授業で必要に応じて課される授業課題に対する得点(合計100点満点)で判断をします。60点以上で単位認定とします。

次に、認定された単位に対して相対評価を行い、これを最終評価とします。

授業課題の内容・回数・配点など、評価方法の詳細等については、初回授業(ガイダンス)及び授業用webサイトで配布する授業ガイドでより詳細に説明しますので、受講予定の方は、初回授業に参加するか、授業ガイドを必ず手に入れてください。

また、行動科学系の授業は本学における学生の態度・プロフェッショナル教育の一環としても機能することを想定しています。そのため、授業内容の履修のみならず、上位権限者からの指示・規則の理解と遵守に関する事象も単位認定・評価に影響を及ぼします。この点についても、初回授業時及び授業ガイドで詳細に説明をします。

8 テキスト

特に指定しない。修学に必要な資料は全てwebで配布します。

9 参考文献

配布資料やwebにて適宜示します。

10 オフィスアワー（授業相談）

オフィスアワー情報は授業時に通知します。もちろん、個別にメール等でアポイントメントを取っていただければ、適宜対応します。

11 学生へのメッセージ

教授活動の迅速かつ適切な形式的改善のために、単位認定と評価の方法を含めた本授業における様々な規則等は、原則としてシラバス記載の内容よりも、授業webサイトを通じて配布される様々な文書に記される規定を最優先としますので、必ず授業webサイトを定期的に確認するようにしてください。また、本授業の単位認定に関しては、いわゆる救済策の類は一切存在しませんので、この点も注意して下さい。

12 授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

生涯発達論

1 担当教員名

准教授 小島隆次 (医療文化学講座 (心理学))

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

本授業は、乳幼児期から高齢期までの人の発達過程や変化の諸相に関する発達心理学における基礎知識を習得することを第一義とします。また、受講生が本授業で課される様々な課題を適切にこなすことで、論理的に考え、批判する能力が養われ、習得した知識を日常生活でどのように応用していくのかを考えられるようになることも目指します。

そして、上記目標の達成に伴い、結果的に受講生が以下の目標を達成できるようになることを学習目標とします。

1. 発達心理学諸分野の基礎知識を身に着けること
2. 発達心理学諸分野の基礎知識を様々な日常の場面で活用する態度を身に着けること
3. 様々な事象に対して、批判的・発展的に考える態度を身に着けること

【本授業に関する資質・能力】

GE：対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

PR：プロフェッショナリズム

【本授業に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム】

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

4 授業概要

本授業は、人の生涯発達という視点を加味して、発達心理学において扱われる主要なトピック（個々のテーマなどについては授業スケジュールを参照してください）を幅広く教授します。また、授業を受講することで、受講生が論理的に考え、批判する能力を養いつつ、論理的・批判的思考と日常における人の思考・行動特性との関係性について考察する契機を得られるようにしたいと思います。

【準備学修等について】

文科省の大学設置基準に基づき、他の授業と同様に本授業においても、1コマ（90分）の授業に対して180分程度の課外学習（予復習）が想定されていますが、本授業では指定の授業課題に取り組むことによって、基本的にこの基準はクリアされるようにしています。

5 授業内容

授業内容は以下の授業内容の各授業における内容を参照してください。基本的には、一般的な生涯発達論や発達心理学分野で扱われることの多いトピックを紹介する内容になります。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月7日(水)	1	小島	ガイダンス	本授業の受講方法や基本方針などを説明。	看2
第2回	令和8年10月14日(水)	1	〃	発達と発達理論	心理学における発達概念の基本的な定義と代表的な発達理論を概説。	看2
第3回	令和8年10月21日(水)	1	〃	遺伝と環境	心理学や行動科学分野における遺伝や環境の扱いについて概説。	看2
第4回	令和8年11月4日(水)	1	〃	乳児期の認知能力1	胎児期を含め、乳児期の認知能力の発達の変化について概説。	看2
第5回	令和8年11月11日(水)	1	〃	乳児期の認知能力2	乳児期の認知能力の発達の変化について概説。	看2
第6回	令和8年11月18日(水)	1	〃	幼児期の認知能力	幼児期の認知能力の発達の変化について概説。	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第7回	令和8年11月25日(水)	1	小島	児童期の認知能力	児童期の認知能力の発達的变化について概説。	看2
第8回	令和8年12月2日(水)	1	〃	乳児期の社会性	乳児期の他者との関わり方の発達的变化について概説。	看2
第9回	令和8年12月9日(水)	1	〃	幼児期の社会性	幼児期の他者との関わり方の発達的变化について概説。	看2
第10回	令和8年12月23日(水)	1	〃	児童期の社会性	児童期の他者との関わり方の発達的变化について概説。	看2
第11回	令和9年1月6日(水)	1	〃	青年期	青年期において見られる自我同一性の問題や他者・社会との関わりに関する心理的問題について概説。	看2
第12回	令和9年1月13日(水)	1	〃	中高年期	中高年期の認知・身体能力の変化や社会性の変化について概説。	看2
第13回	令和9年1月20日(水)	1	〃	死生観	生死の意味づけの意味について考える。	看2
第14回	令和9年1月27日(水)	1	〃	発達と支援	パーソナリティ症や神経発達症(発達障害)について概説。	看2
第15回	令和9年2月3日(水)	1	〃	まとめ	授業で扱った内容全般を振り返りつつ、適宜受講生へのフィードバックを行う。	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はオンデマンドでのオンライン受講を基本的な授業形式とします。

授業資料や授業課題については、授業webサイトや授業課題システムから、電子的に配布・実施します。

受講生には、授業開始前に授業関連情報をメールあるいはWeb Classで通知しますので、情報を確認して下さい。

毎回の授業において、受講生は、提供された授業資料の内容を理解した上で、所定の授業課題に取り組むというのが、基本的な流れになります。

7 評価方法

評価は、単位認定と単位評価の二段階で行います。

まず、単位認定に際しては、各授業で必要に応じて課される授業課題に対する得点(合計100点満点)で判断をします。60点以上で単位認定とします。

次に、認定された単位に対して相対評価を行い、これを最終評価とします。

授業課題の内容・回数・配点など、評価方法の詳細等については、初回授業(ガイダンス)及び授業用webサイトで配布する授業ガイドでより詳細に説明しますので、受講予定の方は、初回授業に参加するか、授業ガイドを必ず手に入れてください。

また、行動科学系の授業は本学における学生の態度・プロフェッショナル教育の一環としても機能することを想定しています。そのため、授業内容の履修のみならず、上位権限者からの指示・規則の理解と遵守に関する事象も単位認定・評価に影響を及ぼします。この点についても、初回授業時及び授業ガイドで詳細に説明をします。

8 テキスト

特に指定しない。修学に必要な資料は全てwebで配布します。

9 参考文献

配布資料やwebにて適宜示します。

10 オフィスアワー(授業相談)

オフィスアワー情報は授業時に通知します。もちろん、個別にメール等でアポイントメントを取っていただければ、適宜対応します。

11 学生へのメッセージ

教授活動の迅速かつ適切な形成的改善のために、単位認定と評価の方法を含めた本授業における様々な規則等は、原則としてシラバス記載の内容よりも、授業webサイトを通じて配布される様々な文書に記される規定を最優先としますので、必ず授業webサイトを定期的に確認するようにしてください。また、本授業の単位認定に関しては、いわゆる救済策の類は一切存在しませんので、この点も注意して下さい。

12 授業用URL

http://kojima-lab.net/lecture_etc/index.html

13 授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

現代社会と科学

1 担当教員名

教授	目良裕	(生命科学講座(物理学))
教授	笠間周	(臨床研究開発センター)
教授	古莊義雄	(生命科学講座(化学))
教授	宇田川潤	(解剖学講座(生体機能形態学部門))
教授	縣保年	(生化学・分子生物学講座(分子生理化学部門))
教授	扇田久和	(生化学・分子生物学講座(分子病態生化学部門))
教授	伊藤靖	(病理学講座(疾患制御病態学部門))
教授	西英一郎	(薬理学講座)
教授	一杉正仁	(社会医学講座(法医学部門))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座(クリティカルケア学))
教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
教授	依馬正次	(動物生命科学研究センター)
准教授	旦部幸博	(病理学講座(微生物感染症学部門))
准教授	朝比奈欣治	(実験実習支援センター)
准教授	本山一隆	(情報総合センター)

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

科学と技術が人類の生き方に大きな影響力をもつ現代において、科学や技術の成果を享受するだけでなく、責任ある市民としてまた医療人として現代社会に関与するための科学知識と素養を備えること、すなわち科学的な思考方法を社会的目的のために用いる能力が求められる。このことは豊かな教養を身につけるといふ点で、また将来の研究者としての素養を身につけるといふ点でも重要である。本講義では、科学的な思考方法、その有効さと限界の一端を知ることを学習目標とする。

以下に各回の目標を列挙する。

- 1) 研究者(広い意味での専門的技術者)が「やってはならないこと(=研究不正)」を理解する
- 2) ナノスケールの物質が持つ特異な性質と、その応用について学ぶ。
- 3) 医療製品の有効性・安全性を科学するレギュラトリーサイエンスの重要性を理解する。
- 4) スーパーコンピュータが自然現象の解明、災害の予測、製品開発等の様々な分野で利用され、人々の生活に変化をもたらすことを理解する。
- 5) がんの免疫療法について理解する。
- 6) 再生医療について、その恩恵と、患者や社会に与える問題について考える。
- 7) 妊娠中のストレスと子どもの生後の疾患発症リスクとの関係を科学的に説明できる。
- 8) 発酵の利用やバイオテクノロジー、感染症など微生物の正負両面について学ぶ
- 9) 創薬が科学的合理性だけでなく、社会的・経済的要因の中で成立していることを理解し、医療者としてその複雑さを考察する。
- 10) 我が国における外因死の現状を理解し効果的予防対策の重要性を理解する。
- 11) 血管病変の発症について、基礎的な事項を理解できる。
- 12) 人類における感染症大流行の原因と背景について考える。
- 13) 合成生物学の発展と課題について考える
- 14) 少子高齢化の解決に向けた生殖医療と周産期医療が潜在的に有する生命倫理への理解を深める。
- 15) 公衆衛生の実践や臨床判断に不可欠である疫学の基本的な概念および方法論を理解する。

4 授業概要

新聞・雑誌・テレビなどマスコミにも登場する身の回りの科学事象を通して、「サイエンスとは」を理解しようとする総合的授業である。

1コマの授業に対して、講義資料を用いた30分の予習と90分の復習(レポート課題を含む)を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり60分の復習を行うことが望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	1	古 莊	ガイダンス 講義	研究不正	臨3
第2回	令和8年4月15日(水)	1	目 良	講義	ナノテクノロジー	臨3
第3回	令和8年4月22日(水)	1	笠 間	講義	レギュラトリーサイエンス	臨3
第4回	令和8年5月13日(水)	1	本 山	講義	スーパーコンピュータの発達と社会への貢献	臨3
第5回	令和8年5月20日(水)	1	縣	講義	がんの免疫療法 - PD-1 抗体療法とT-iPS細胞	臨3
第6回	令和8年5月27日(水)	1	朝比奈	講義	再生医療の発展と課題	臨3
第7回	令和8年6月3日(水)	1	宇田川	講義	妊娠期のストレスと子どもの健康	臨3
第8回	令和8年6月10日(水)	1	旦 部	講義	人類社会と微生物	臨3
第9回	令和8年6月17日(水)	1	西	講義	創薬の光と闇	臨3
第10回	令和8年6月24日(水)	1	一 杉	講義	社会を守る -エビデンスに基づく事故予防対策-	臨3
第11回	令和8年7月1日(水)	1	扇 田	講義	血管は年齢と共に老いる -動脈硬化にまつわる話-	臨3
第12回	令和8年7月8日(水)	1	伊 藤	講義	パンデミックはなぜ起こるのか？	臨3
第13回	令和8年7月15日(水)	1	依 馬	講義	合成生物学と課題	臨3
第14回	令和8年7月22日(水)	1	喜 多	講義	生殖医療と周産期医療の狭間で	臨3
第15回	令和8年7月29日(水)	1	宮 松	講義	Evidence based medicine時代の科学：疫学ことはじめ	臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式で行う。必要に応じて、視聴覚機器を使用する。

7 評 価 方 法

①総括的評価

各講義毎に行う小テスト、レポート、コメントシートを、各回担当教員がそれぞれ評価し、15回分合計して成績を評価する。全回出席を前提とする。

②形成的評価

毎回の講義資料をWebClassに掲載する。

③態度教育

授業での発言等から学修意欲を評価する。私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

教科書は使用しない。必要に応じて資料プリントを配布し、参考図書等を紹介する。

9 オフィスアワー (授業相談)

各回の担当教員が異なるので、世話人教員宛て(授業用E-mail)連絡してください。

10 学生へのメッセージ

医学科・看護学科教員による医学科・看護学科の合同講義です。広い分野にわたる話題をオムニバス形式で提供しますが、統一テーマ「サイエンスとは」、「テクノロジーとは」および「科学的思考法とは」を、各講師の話から考えてもらえればと思っています。

11 授業用E-mail

mera@belle.shiga-med.ac.jp

社 会 学

1 担当教員名

非常勤講師 LADMIRAL Guillaume Andre Jean Rene

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

学修目標：関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本授業科目では、以下を学修目標とします。

受講生は、国際比較を背景に、現代日本における家族、社会格差と貧困、健康の社会的決定要因などの現代社会の諸課題について、社会科学での理論や概念を参照しデータ分析を行いつつ、自ら思考し、他者対話を深めることができるようになることを目標とします。講義にあたっては、下記の4点を重視しながらすすめます。

- (1)社会科学上の教養を深めること
- (2)データ可視化（data visualization）と解析の基本手法を習得し、根拠に基づく医療（Evidence-Based Medicine EBM）の前提となる、根拠に基づく思考方法（Evidence Based Thinking EBT）を習得すること
- (3)書籍などから重要な情報・エビデンス・論拠を抽出し、要約する能力を鍛えること
- (4)勉強・作業の流れで、英語をありふれたものとして使用すること

本授業のデータ可視化パートは、前提知識を必要としない、やさしい入門です。すべての受講生が取り組みやすいように設計されています。

本授業科目に関係するディプロマ・ポリシー（DP）およびアウトカム：

- DP1. プロフェッショナリズム
1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
 2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- DP2. 看護学の知識と技術
3. 健康支援と社会保障制度
 4. 医学統計・疫学
- DP5. 地域医療への貢献
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。
- DP6. 科学的探究心と国際的視野
2. 看護学研究に必要な国内外の情報を取得することができる。
 3. 看護学研究で用いられる基本的研究手法が実施できる。
 5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。
- DP7. 情報・科学技術の活用
1. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。
- DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢
1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
 2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

関係する「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）」に掲げる資質・能力：

- GE-07 家族の理解と家族看護：家族のライフサイクルに沿って家族システム、家族機能を アセスメントし、家族ケアを実践できる。
- LL-02 生涯学習の内容と方略：省察・拡張学習・情報探索・モチベーションを向上させる 方略により、積極的な学習ならびに協働学習ができる
- SO-01 地域社会と健康：人々の健康に影響を与える地域の特性や社会的決定要因を 理解し、健康を改善・促進するための考え方を説明できる。
- RE-02 看護学の探究の基礎：科学的探究の諸方法について理解することができる。

4 授 業 概 要

国際比較を背景に、現代日本における家族、社会格差と貧困、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health：SDH）に関する概念と理論を検証します。RとRStudioという無料のソフトウェアを利用して初歩的なデータの可視化と解析をおこないつつ、これらの社会課題に関する基礎知識を身につけます。また、現在のスタンダードとなりつつあるQuarto（無料）というオープンソースの出版システムを紹介します。受講生は、docx、pdf、pptx、htmlといった形式の資料およびダッシュボードを、簡単でかつ効率的に作成することも学びます。

担当教員が現在取り組んでいる、日本の都道府県別と市区町村別の相対的貧困率の推計と相対的貧困、死因と死亡比との関連に関する研究の事例も紹介します。

※データの可視化・解析にあたり、コンピュータの使い方や、数学、コーディングなどの特別な知識は不要です。必要に応じて、授業中に基礎知識を説明します。

準備学修：すべての教材をWebClassにアップロードしますので、各回の授業時までに目を通してください。

事後学修：すべての教材をWebClassにアップロードしますので、各回の授業後に目を通してください。

小課題等、事前・事後の学修に必要な目安時間は週30～45分です。

5 授 業 内 容

- ・お持ちの電子端末（PC、Mac、タブレット）がモバイル端末でない場合を除き、端末を持参して受講してください。
- ・受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性があります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月7日（水）	4	LADMIRAL	イントロダクション	授業全体の紹介と勉強環境の設定	看2
第2回	令和8年10月14日（水）	4	〃	効率アップツール： 情報解析からレポートまで	RとRStudioというソフトウェアの基本。 （docx、pdf、pptx、htmlなどのファイル形式での）論文、レポート、プレゼンテーション、ダッシュボードの作成	看2
第3回	令和8年10月21日（水）	4	〃	社会科学の実証的方法： データと基本操作	社会科学のデータとデータ分析の基本操作	看2
第4回	令和8年11月4日（水）	4	〃	人口学：人口転換	出生率と死亡率の歴史的変化 Demographic transition	看2
第5回	令和8年11月11日（水）	4	〃	人口学：疫学転換	疾病構造と死因の歴史的変化 Epidemiologic transition	看2
第6回	令和8年11月18日（水）	4	〃	家族社会学：類型と分布	親族と家族、家族と世帯、その類型と変容	看2
第7回	令和8年11月25日（水）	4	〃	家族社会学：家族の現状	現代家族の諸相、国際比較	看2
第8回	令和8年12月2日（水）	4	〃	経済社会学：格差と貧困①	格差と貧困：定義と測定	看2
第9回	令和8年12月9日（水）	4	〃	経済社会学： 社会階層化と社会保障制度	階級、社会移動、再分配と社会保障制度	看2
第10回	令和8年12月23日（水）	4	〃	経済社会学：格差と貧困②	日本の状況と国際比較	看2
第11回	令和9年1月6日（水）	4	〃	社会疫学： 健康とウェルビーイング	健康とウェルビーイング：定義と測定	看2
第12回	令和9年1月13日（水）	4	〃	社会疫学： 健康の社会的決定要因①	社会環境の長期的影響：格差、貧困と健康	看2
第13回	令和9年1月20日（水）	4	〃	社会疫学： 健康の社会的決定要因②	現代日本における健康格差の社会的決定要因	看2
第14回	令和9年1月27日（水）	4	〃	政治経済学： グローバルヘルス	世界保健機関の Global Health Observatory	看2
第15回	令和9年2月3日（水）	4	〃	テスト、講義のまとめ	テストと講義のまとめ	看2

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

- ・本授業科目では、データ可視化・解析の手法、論文の読み方と書き方、言葉・概念の正確な使用および論証の展開を、learning by doing の方法で教授します。
- ・受講生の皆さんにもRとRStudioという無料のソフトウェアを利用したデータ可視化と解析を実践してもらいながら、講義と実習・討論を合わせた形式で授業をおこないます。
- ・講義の録画動画のオンデマンド配信はおこないません。
- ・パワーポイントなどの資料をプロジェクトで投影しながら、授業をおこないます。

7 評価方法

①総括的評価

- ・テスト（40%）：講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択などの試験で評価する。
- ・平常点（60%）：毎回の講義内容の「要約・まとめシート」や「可視化シート」の素点評価（6点×10回）の合計に成績評価を行う。
- ・テストと平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・授業で提示する「要約・まとめシート」や「可視化シート」については実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度および「要約・まとめシート」や「可視化シート」から学修意欲を評価する。

8 テキスト

電子的資料（PDFファイル、HTMLファイルなど）を配布します。

9 参考文献

以下は、参考文献として紹介します（購入する必要はありません）。

- ・岩間暁子、大和礼子、田間泰子 2022 『問いからはじめる家族社会学』 有斐閣
- ・近藤克則 2022 『健康格差社会』 医学書院
- ・駒村康平、渡辺久理子 2023 『貧困の諸相』 放送大学
- ・江崎貴裕著 2023 『データ可視化学』 ソシム
- ・江崎貴裕著 2020 『分析者のためのデータ解釈学入門』 ソシム

10 オフィスアワー（授業相談）

電子メールでラドミラル（ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp）宛てご連絡ください。

11 学生へのメッセージ

本授業科目で習得する知識とスキルは卒業論文の作成に役立つものになるとおもいます。また取り上げる諸課題については看護師国家試験にも出題が頻繁にみられますし、保健師国家試験に取り組む方にとっては、公衆衛生、疫学、保健統計に関する知識の習得は不可欠です（厚生労働省医政局看護科「保健師助産師看護師国家試験出題基準（令和5年版）」など）。大学院医学系研究科看護学専攻博士課程への進学を志望する学生にとっても重要な知識と能力であると思われます。本授業科目で習得する社会科学の知識およびデータ可視化・解析、発表、資料作成などの能力は社会学以外の授業でも役に立ちます。そして生涯学習に必要な前提能力となるとおもわれます。

12 授業用E-mail

ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp

芸術学

1 担当教員名

非常勤講師 秋丸知貴（学校法人宮田学園芸術担当教員・京都芸術大学非常勤講師）

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

本講義は、これまで人類が生み出した代表的な芸術作品を通じて、人間の芸術的創造力を様々な角度から分析する。それにより、芸術に関する一般的な基礎知識や美的感受性を身に付けると共に、伝統的・国際的な文化理解を深めることを目標とする。

毎回、芸術鑑賞を楽しみつつ、将来の医療人（医学科・看護学科共に）として一生役立つ、芸術を通じて人間の心をより深く考察する機会としたい。

そうした心の多様性への理解は、生涯にわたって発達し続ける人間を全人的に捉える視点を育み、健康状態の多様さへの理解につながる。さらに、自分自身の在り方を振り返り、自らの感情や思考や信念を客観的に捉えること、すなわち「主観の相対化」にも寄与する。

一見、医療とは異なる分野である芸術を学ぶことが、全人的医療において患者の背景に配慮した看護に有益であることを実感してもらうことが、本講義の最終的な目標である。受講を通じて、豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる医療人へと成長することを期待する。

4 授業概要

主に、西洋と日本の美術史を古代から現代まで概観する。特に、人間の心への関心から、それらの芸術作品が誕生する背景となったそれぞれの個人と時代・社会の関係を理解することが目的である。

本講義を受講することで、一般教養としての西洋と日本の美術史はほぼ一通りマスターできる。さらに、「STEAM教育におけるArtの重要性」や「ケアと芸術の関係」については、講義内で適宜説明する予定である。

予習は特に求めないが、毎回授業後にコメントシートを提出してもらおう。そこでは、その回で何か一つ自分が関心を持ったことを自分の言葉で書いてもらうことに主眼を置いている。このコメントシートの提出をもって、出席として扱う。

毎回、提出されたコメントシートは次回までに匿名の形式で一覧にして共有する予定である。それに目を通すことを通じて、人間は同じものを見ても同じように感じるとは限らないことを実感して欲しい。そこに、自然科学とは異なる人文学の価値がある。

5 授業内容

授業内容に基づき実施する。順序は下記の通りだが、内容によっては回をまたがることもある。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	1	秋丸	【対面】 1) イントロダクション	芸術とは何か？－原始美術と現代美術	A
第2回	令和8年4月15日(水)	1	〃	2) 西洋美術史①	古代エジプト・古代ギリシャの美術	A
第3回	令和8年4月22日(水)	1	〃	3) 西洋美術史②	中世・ルネサンスの美術	A
第4回	令和8年5月13日(水)	1	〃	4) 西洋美術史③	マニエリスム・北方ルネサンスの美術	A
第5回	令和8年5月20日(水)	1	〃	5) 西洋美術史④	バロック・ロココの美術	A
第6回	令和8年5月27日(水)	1	〃	6) 西洋美術史⑤	新古典主義・ロマン主義の美術	A
第7回	令和8年6月3日(水)	1	〃	7) 西洋美術史⑥	印象主義・象徴主義の美術	A
第8回	令和8年6月10日(水)	1	〃	8) 西洋美術史⑦	フォーヴィズム・キュビズム・ダダイズム・シュールレアリズム・20世紀の美術	A
第9回	令和8年6月17日(水)	1	〃	9) 日本美術史①	縄文時代・弥生時代・古墳時代の美術	A
第10回	令和8年6月24日(水)	1	〃	10) 日本美術史②	飛鳥時代・白鳳時代・奈良時代の美術	A
第11回	令和8年7月1日(水)	1	〃	11) 日本美術史③	平安時代・鎌倉時代の美術	A
第12回	令和8年7月8日(水)	1	〃	12) 日本美術史④	室町時代・安土桃山時代の美術	A
第13回	令和8年7月15日(水)	1	〃	13) 日本美術史⑤	江戸時代の美術	A
第14回	令和8年7月22日(水)	1	〃	14) 日本美術史⑥	幕末・明治時代の美術	A
第15回	令和8年7月29日(水)	1	〃	【対面】 15) 日本美術史⑦	大正時代・昭和時代・平成時代・令和時代の美術・アウトサイダーアート	A

6 授業形式・視聴覚機器の活用

第1回と第15回は対面講義を行い、それ以外はオンデマンド講義を行う。講義では、パワーポイントを多角的に駆使し、視覚的に興味深い内容にする。授業後に、受講者は講義内容に関するコメントシートをウェブクラスを通じて提出する。毎回、提出されたコメントシートは次回までに匿名の形式で一覧にして共有し、いくつかには解説を加えるなどして講義の双方向性を担保する予定である。

7 評価方法

毎回のコメントシートを60%、中間レポート（論述式）を20%、期末レポート（論述式）を20%として総合評価する。受講態度に問題がある場合は、程度に応じて10～40点減点する。知識の量ではなく、自分の感じたことや考えたことを自分自身の言葉で表現することを評価基準とする。

8 テキスト

◎高木慶子・秋丸知貴『グリーンケア・スピリチュアルケアに携わる人達へーケア者のための必読書』クリエイツかもがわ、2023年。

9 テキストISBN番号

ISBN-10：4863423527

ISBN-13：978-4863423527

10 参考文献

参考文献は下記の5冊の他、適宜講義中に紹介する。

◎高階秀爾監修『増補新装 カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年。

◎辻惟雄監修『増補新装 カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年。

◎秋丸知貴『ポール・セザンヌと蒸気鉄道——近代技術による視覚の変容』見洋書房、2013年。

◎秋丸知貴『美とアウラ——ヴァルター・ベンヤミンの美学』ジーンブックス、2026年春予定。

◎秋丸知貴『近代絵画と近代技術（上・下）』ジーンブックス、2026年夏予定。

11 オフィスアワー（授業相談）

いつでもメールで受け付ける。

12 学生へのメッセージ

おそらく、君たちはなぜ医大で「芸術」を学ぶのか不思議に思っているのではないだろうか？ その答えについては、第1回のイントロダクションで説明する。

本講師による滋賀医科大学での「芸術学」講義は、今年で11年目である。開講以来、本講師の役目は、芸術を通じて「医療に将来携わるであろう若き人たちに感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感力や洞察力を身につけられるような講義」を行うことにある。

ここ数年、毎年の受講生は約100人、全15回を通じての平均出席率は90%を超える。基本的にパワーポイントを用いて図版を解説するスタイルなので、オンデマンド講義の回も十分な教育効果を得られることを保証する。

概念史上、「芸術（Art）」とは、「科学技術（Technology）」の補完概念であり、「合理的に反復不可能な術」の謂である。従って、芸術は心や個性（≒天才）に関係する。ここにこそ、芸術の理論や歴史を学ぶ大きな意義がある。

本講義を通じて、君たちは「自然科学と人文科学の関係」「CureとCareの関係」「主観の相対化」「バランスの重要性」等を学ぶことになるだろう。

13 授業用E-mail

tomoki.akimaru@gmail.com

14 主担当教員の実務経験

2010年4月～2012年3月 京都大学こころの未来研究センター連携研究員

2011年4月～2013年3月 京都大学地域研究統合情報センター共同研究員

2011年4月～2016年3月 京都大学こころの未来研究センター共同研究員

2016年4月～ 滋賀医科大学非常勤講師

2017年4月～2024年3月 上智大学グリーンケア研究所非常勤講師

2020年4月～2023年3月 上智大学グリーンケア研究所特別研究員

2021年4月～2024年3月 京都ノートルダム女子大学非常勤講師

2022年4月～ 京都芸術大学非常勤講師

2023年1月～ 美術評論家連盟会員

2023年6月～2025年3月 鹿児島県霧島アートの森学芸員

2025年8月～ 学校法人宮田学園芸術担当教員

2026年1月～ 美術評論家連盟常任理事

歴史学

1 担当教員名

非常勤講師 目黒杏子

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

本講義は、看護学科の次のDP及びアウトカムに関連する。

A. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。

F. 科学的探求心と国際的視野

1. 看護学上の疑問・関心に基づいて、研究課題を見出すことができる。

H. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医学・医療・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

本講義は、受講生が、中国の豊富な歴史史料にみえる人間と社会の経験を歴史として学び、中国で生まれ今日の日本にも残存している独特の文化の来歴を知り、それらを教養として身につけるとともに、歴史や環境に根差した価値観の多様性を考える基礎と、社会人として良識的な判断をおこなう上での拠り所とを各自で形成することを目標とする。また、歴史史料の読解によって問題・課題を見出し、論証していく歴史学の方法を学ぶことは、看護学における研究を実践する上でも参考となるはずである。さらに、中国史の深く豊かな世界にふれることによって、その中の様々な物事を、主体的に身の回りの医学・医療と結びつけ、自律的に探究する独自の視点を獲得し、医療人としての人生を豊かにしていくことが望ましい。

4 授業概要

本講義では、中国古代史の研究を専門とする教員が、およそ紀元前2000年頃から3世紀頃までの中国の歴史を概説する。東アジア地域において、中国本土の人々はいち早く複雑な社会を形成し、そこで生み出された文化は、日本列島など周辺の地域に伝播して大きな影響を与え続けた。「儒教」はその代表である。そのため、中国古代の人間と社会が経験した事柄や、それを土壌としてはぐくまれた儒教などの文化を学ぶことは、中国の歴史と文化に関する知識を得るだけでなく、現代の日本に生きる私たちの中に根付いている様々なものをみつめなおす機会にもなる。中国古代の人間と社会に対する歴史学の研究成果を学び、歴史的な事柄を鑑として、自分たちの現在について考える力と方法を身につけるのが、本講義の目的である。履修要件はとくにないが、歴史に興味があり、現代の自分の興味関心と歴史上の事柄とを積極的に結びつけて考えてみようとする意欲をもっていることが望ましい。また、準備学修として、毎回の講義の前までに、授業計画に記載している時代・時期・テーマに該当する高校世界史の教科書の箇所を読んでおき、講義の内容を理解する助けとすることが望ましい（所要時間30～60分程度）。

5 授業内容

毎回の講義後、講義の内容について各自が考えたことを、配布されたコメント用紙に記入し、提出する必要がある。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	4	目黒	ガイダンス	授業の進め方や成績評価の方法について説明した上で、まず受講生が「歴史学」という学問を「体験」する目的で、歴史史料の分析と考察という作業をやってみる。	①
第2回	令和8年4月15日(水)	4	〃	「歴史学」という学問	前回「体験」した作業の成果をもとに、それがどのような意味をもっているのかを含めて、「歴史学」という学問について解説し、今後の授業への導入とする。	①
第3回	令和8年4月22日(水)	4	〃	青銅器からみた殷周時代の政治と社会	中国本土で強力な政治権力が生まれた殷王朝と周王朝の時代を象徴する遺物である青銅器の役割から、当時の政治と社会のしくみを解説する。	①
第4回	令和8年5月13日(水)	4	〃	伝統の形成—封建制と「礼」—	現在の私たちが使っている「礼儀」という言葉の起源は、かつて中国古代の周王朝の時代を通じて形成された封建制という政治と社会のルールにある。そして「礼儀」はのちに儒教の核心部分となり、現在の日本社会にもまだ残存している。「礼儀」とはそもそも何なのか、どのような時代背景のもとで生まれたのかを解説する。	①

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年5月20日(水)	4	目黒	激動の春秋戦国時代	周王朝が衰退する前8世紀から秦の始皇帝による統一が実現する前3世紀まで、中国本土の社会は多極化し、大きく変化し続ける。どのような変化が起こったのかを解説した上で、どのような人々が、なぜ活躍したのか、歴史史料をもとに考える。	①
第6回	令和8年5月27日(水)	4	〃	「諸子百家」の思想と活動①—孔子とその批判者たち—	春秋戦国時代の激しい変化の中で、新しい政治と社会、理想的な人間のありかたを追求した思想家たちの思想と活動について解説する。前半として、「儒教」の祖になった孔子と、孔子の思想に対抗して成長した道家や墨家の思想を取りあげる。	①
第7回	令和8年6月3日(水)	4	〃	「諸子百家」の思想と活動②—法家と儒家—	引き続き、春秋戦国時代の激しい変化の中で、新しい政治と社会、理想的な人間のありかたを追求した思想家たちの思想と活動について解説する。後半として、次の時代以降の政治と社会のかたちを決めていくことになる法家(商鞅・韓非)と儒家(孟子・荀子)の思想を取りあげる。	①
第8回	令和8年6月10日(水)	4	〃	始皇帝と秦王朝の実像	中国本土の統一を果たして戦国時代を終わらせ、中国史上最初の「皇帝」となった始皇帝は、中国史の伝統的な評価では最凶の悪役だった。近年発見された史料群によってようやく明らかになってきた始皇帝とその国の実像を、最新の研究成果に基づいて解説する。	①
第9回	令和8年6月17日(水)	4	〃	秦と漢	中国本土を政治的に統一するという偉業を成し遂げた秦王朝は、たった15年間で滅亡した。その秦崩壊の混乱の中から生まれた漢王朝は、秦の遺産を受け継ぎつつ、その後400年続く長期政権になっていく。秦が滅びた要因を歴史史料に基づいて解説し、漢がなぜ持続できたのか、その後の授業を通じて考えていくための手がかりを示す。	①
第10回	令和8年6月24日(水)	4	〃	匈奴と漢の攻防	秦によって中国本土が統一された頃から、北側のモンゴル高原を中心に活動する騎馬遊牧民集団と中国王朝との攻防が中国史の重要な局面になってくる。そもそも騎馬遊牧民とはどのような人々なのか。また、中国本土と中央アジアの接点にあたる「河西」地域で実際にどのような攻防が起こっていたのか、出土史料なども用いて解説する。	①
第11回	令和8年7月1日(水)	4	〃	漢王朝と周辺地域	漢王朝は、匈奴との戦いを制しながら、当時のユーラシア大陸東部地域の覇権を握り、中国本土の周辺地域で活動する様々な異文化集団を巻き込んだ「国際」秩序を形作っていった。日本史においても有名な金印「漢委奴国王」はそれを物語る証拠である。漢王朝の「国際」秩序とそれを支えたものを、具体的に解説する。	①
第12回	令和8年7月8日(水)	4	〃	儒教の発展と漢王朝	漢王朝の時代に、それまで政治の面ではあまり有効性をもたなかった儒家の思想が異質な思想も積極的に取り込み、自己を大きく変容させながら政治に接近して政治の世界を覆っていく過程を解説する。	①
第13回	令和8年7月15日(水)	4	〃	王莽と劉秀	漢の皇帝の位を奪い、漢王朝を20年あまりの間中断させたあげくに滅びた王莽と、その後漢王朝を再興した光武帝・劉秀とは、中国史において、篡奪者と名君という正反対の評価をあたえられてきた。しかし近年の研究では、「儒教」を中核とする国家の形成において王莽が重要な役割を果たし、劉秀がその多くを受け継いだことが明らかになっている。二人の命運を分けたものは何か、そこにはどのような背景があるのか、比較しながら解説する。	①
第14回	令和8年7月22日(水)	4	〃	漢代の社会とその変化	西暦紀元前後をはさんで約400年存立した漢王朝の時代には、儒教の興隆を軸として、社会の様相と人々の価値観とが大きく変わっていった。社会のしくみや、それに基づく社会的成功の理想、超越的なものへのあこがれ、男女の関係性など、漢代社会に生きた人々の思考や行動を方向づけたものについて解説する。	①

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第15回	令和8年7月29日(水)	4	目黒	漢王朝 滅亡への道程	2世紀に入った頃から、繁栄を続ける漢王朝の統治にほころびが生じ始め、異民族の攻勢や政治の腐敗が重なる中で、漢王朝は滅びることになる。漢王朝はなぜ、なにによって滅びたのか、個人の能力・思惑や突発的な事件とは別の次元で蓄積されていた諸要因を解説する。	①

6 授業形式・視聴覚機器の活用

対面の講義形式でおこなう。講義の録画動画のオンデマンド配信はおこなわない。スライドを利用する。

7 評価方法

講義で解説した事柄に関するまとめと考察を主とする期末レポート（オンラインで実施する）の評価を50%とし、毎回の講義終了時に提出するコメント用紙の内容を50%として評価する。コメント用紙の提出が11回分に満たない場合は、期末レポートを提出する資格を与えない。コメント用紙の内容は、単なる感想ではなく、講義で解説された事柄を、自分の経験やこれまでに得た知識と結びつけ、それによって分析・考察してみたり、あるいは共通点や相違点などを見出して、意見を述べることができているかどうかを基準に評価する。期末レポートの評価の仕方もこれに準じる。コメント用紙の意見について、必要に応じて個人に対してフィードバックをおこなう。

8 テキスト

教科書は使用しないが、高校世界史の教科書を参考書として備えておくことが望ましい。毎回講義資料を配布する（紙に印刷したものと、PDF形式のファイルとどちらか選択可能）。

9 参考文献

参考文献は希望者に適宜紹介する。

10 オフィスアワー（授業相談）

教員への授業に関する相談は、随時E-mailで受けつける。時間帯などはとくに指定しないが、返信するまでに2～3日かかることがある。

11 学生へのメッセージ

歴史は、現代の私たちとかけ離れた世界の物語ではなくて、人類がかつて経験したことであり、人間や社会を理解するための様々なツールのひとつです。昔から日本と近い関係にあった中国の歴史に興味があり、歴史史料を読みながら理解を深めたいと考えている方々の受講を歓迎します。

12 授業用E-mail

muhei@belle.shiga-med.ac.jp

文化人類学

1 担当教員名

教授 兼 重 努 (医療文化学講座 (文化人類学))

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

文化人類学とは、人類の文化・社会の多様性と普遍性についてフィールドワークをもとに研究する総合的学問です。

(1)学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とします。

1) 文化人類学という学問の基礎知識を身につけます。

具体的な目標は以下のとおりとします。

1. 文化人類学における文化の捉え方 (文化相対主義、サブ・カルチャー)、視点 (全体論的視点、内側の視点)、研究方法 (参与観察法) や異文化の報告書 (民族誌) などについて理解する。
2. 1を通して他者理解と他者 (異文化) の尊重する姿勢を身につける。

2) 受講生は、①人類の文化の多様性と普遍性について理解し、併せて②同じ日本文化という大きな枠組みに属していても、その中には地域、職業、世代の違いなどによる小さな異文化 (サブ・カルチャー) があることについても理解します。

具体的な目標は以下のとおりとします。

1. 文化の多様性と普遍性について理解する。
2. 1を踏まえ、国際的視野 (我々が属している日本の社会と文化を相対化して捉える視点) をもとに医療を捉えなおすことができるようになる。
3. [看護師と患者] の関係、ならびに [看護師と他職種のスタッフ] の関係も異文化関係にあることを理解する。
4. 3を踏まえ、患者の背景 (とくに文化的背景) そして、看護師と他職種のスタッフの間にある文化的差異に気づき、尊重・配慮し、できるようになる。

(2)本講義に係るディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

・GE対象を総合的・全人的に捉える能力

GE-01人としての対象の理解：生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様性を理解している。

GE-02対象アセスメントの視点と看護：対象者のライフサイクルにおける健康段階、発達課題、社会的役割の変化を捉え、生活者の健康課題・健康問題を踏まえ、看護を計画・実施できる。

・PRプロフェッショナリズム

PR-01看護職の専門性を支える法律・倫理の理解：看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。

PR-02看護職としての倫理的行動：生命に関する倫理および医療における倫理の基本を理解し行動できる。

(3)その他の目標

併せて、近い将来医療人となる皆さんに有用と思われる、以下の様なスキルの習得も目指します。

1. 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
2. 自身が所属する文化を相対化する事ができる。
3. 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのように捉えられているかに気を配る事ができる。
4. 文化と医療の関係を考える事ができる。
5. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
6. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係性を築くことができる。
7. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係性を築くことができる。
8. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。

4 授業概要

まず、①文化人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供します。その際、様々な事例を挙げて人類の文化の多様性について具体的に示します。またサブ・カルチャーについても詳しく紹介し、医療文化もサブ・カルチャーの一つであることを説明します。

次に、②文化人類学の研究テーマのうち、医療に関するものも取り上げ、皆さんが将来医療の現場で文化人類学の素養を役立てる為のヒントについても具体的に紹介します。

毎回、授業内容の理解を確認するための授業課題を出します。その他、必要に応じて宿題を出すこともあります。

【事前・事後の学修内容】

- ・予習：予め授業のレジュメをWebclassの方にアップしますので、授業の前に目を通しておいてください。
- ・復習：授業で取り扱った内容に関連して授業課題や宿題を出しますので、それらに取り組むことにより学習内容の定着の一助としてください。

5 授 業 内 容

1. 文化人類学とはどんな学問？
2. 異文化理解の基礎知識
3. 文化人類学の方法：フィールドワーク
4. 実は身近にある異文化
5. 民族誌を読む
6. 医療の現場で文化人類学を役立てる

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	2	兼 重	文化人類学の目的	①文化人類学では何を学ぶのか？その目的は？ ②何故医大生が文化人類学を学ばなければならないのか？	B
第2回	令和8年4月20日(月)	2	〃	文化人類学における「文化」の捉え方	①文化人類学における「文化」の捉え方の特徴は？ ②文化人類学における「異文化」の捉え方の特徴は？	臨3
第3回	令和8年4月27日(月)	2	〃	文化の多様性	世界中で同一、普遍的の様に見える事象を文化人類学の視点から捉え直す	臨3
第4回	令和8年5月11日(月)	2	〃	異文化データ収集方法	文化人類学ではどうやってデータを集めるのか？	臨3
第5回	令和8年5月18日(月)	2	〃	現場に行つて異文化を体験する	ビデオで擬似フィールドワーク	臨3
第6回	令和8年5月25日(月)	2	〃	文化人類学のフィールドワークの現場から	映像民族誌：福井勝義「東アフリカ・色と模様の世界―無文字社会の豊かな創造力―」	臨3
第7回	令和8年6月1日(月)	2	〃	課題レポート作成に関する注意事項	①映像民族誌：福井勝義「東アフリカ・色と模様の世界―無文字社会の豊かな創造力―」の補足説明 ②課題レポート作成に関する注意事項	臨3
第8回	令和8年6月8日(月)	2	〃	サブ・カルチャー：実は身近にある異文化	①サブ・カルチャーとは？ ②サブ・カルチャーとしての医療	臨3
第9回	令和8年6月15日(月)	2	〃	民族誌を読む(1)	マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者』	臨3
第10回	令和8年6月22日(月)	2	〃	民族誌を読む(1)続	マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者』	臨3
第11回	令和8年6月29日(月)	2	〃	民族誌を読む(2)	ロバート・F・マーフィー著『ボディ・サイレント―病いと障害の人類学―』	臨3
第12回	令和8年7月6日(月)	2	〃	民族誌を読む(2)続	ロバート・F・マーフィー著『ボディ・サイレント―病いと障害の人類学―』	臨3
第13回	令和8年7月9日(木)	2	〃	医療現場での文化摩擦	医療人と患者さんの間の文化摩擦―「エホバの証人」信者の輸血拒否の事例―	臨3
第14回	令和8年7月13日(月)	2	〃	文化人類学を役立てる	①応用人類学とは何か ②応用人類学の実例	臨3
第15回	令和8年7月27日(月)	2	〃	医療の現場で文化人類学を役立てる	①医療人と患者さんの間のプチ異文化―アンケートの結果より― ②医療人類学 ③看護人類学	臨3

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

講義形式をとり、原則、対面で実施します。適宜、視聴覚教材（ビデオ等）も活用する予定です。

7 評価方法

(1) 総合的評価

1) 期末の課題レポート (100点満点)

- ・ただし、授業課題や宿題の提出状況や出来具合・受講（出席）状況・受講態度などにおいて問題があった場合には、程度に応じて【課題レポートの点数から10～100点】減点します。
- ・なお、課題レポートに剽窃（盗用）その他不正行為があった場合は、単位は認定できません（不正行為を幫助した場合も同様です）。
- ・また、注意事項を守っていないレポートを提出した場合も（程度に応じて）減点となります（単位を認定できないこともあります）。(本科目における生成AI利用ポリシーも含めて)レポート執筆に関する注意事項は授業中に提示しますので、しっかり確認してください。

■(締め切りを守って提出した方々との公平性の観点から) 提出期限後は受理できません。

- ・通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（パソコンの処理速度が遅くなった等）
- ・自分では出したつもりだったが、提出できていないことに後から気づいた等、の理由での締め切り後の提出も一切認められません。
(早めに着手の上、締め切りギリギリの提出にならないよう余裕をもって提出して頂ければと思います。)

2) 【授業の出席認定】について

- ・①[授業のリアルタイム受講]と②[授業課題の（締め切り期限内の）提出]の両者が揃わないと【出席認定されません】。
- ・授業の出欠は原則出席カード（紙媒体）等で確認します。また毎回の授業終了後に、WebClassの方に授業課題を提出して頂きます（締め切り日時は授業の数日後を予定しています）。
- ・毎回の授業を確実に受講し、授業課題等の提出物も遺漏なく提出する事を心掛けて下さい。

■授業出席確認（教室内で行います）

- ・授業の最後に〔確認問題〕（小テスト）を出題しますので、出席カードには（氏名、日付等の他）小テストの回答も記入のうえ、授業終了時に教室内の指定の場所まで提出して下さい（授業が終了し兼重が教室を出た後の時点で、出席カード提出の申し出があった場合は受理できません）。
- ・（[教室内でWebClassにアクセスして頂く形]での出欠確認を併用する事も検討しています。）

■授業課題（WebClassの方に提出）

- ・授業課題は授業をきちんと受講している事を前提として実施しますので、授業を聴かずに（他人から答えを共有・提供してもらうなどして）授業課題を提出する事は課題の主旨に反する形となるため、不正行為とみなされます。

■不正行為・不正幫助

- ・① [授業出席カードおよび確認小テスト]（紙媒体）提出の際、ならびに② [出席確認および授業課題]（WebClass上での）提出の際に、不正行為・不正幫助があった場合は（程度に応じて、単位の不認定、大幅な減点など）厳正に対処します。
- ・上記の不正行為・不正幫助には、（出席カードや授業課題の代筆依頼／代筆請負、授業課題の答えを他人から共有・提供してもらった／他人に共有・提供したなどの行為）が相当します。

■ご自身の出席・課題提出回数につきましてはくれぐれも平素より自己責任においてしっかりと把握するように努めて下さい。（課題の提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」>「マイレポート」で、各自で確認して下さい。）

(2) 形成的評価

- ・授業課題の採点結果や授業に関して寄せられた質問などを踏まえ、適宜フィードバックを行います。

(3) 態度評価

- ・受講態度に関しては、私語等で授業環境を乱した場合、授業に直接関係のない行為、授業中の無断一時退出、妥当性のない遅刻・早退や欠席を繰り返した場合などは減点の対象となります。
- ・また、(大学からの通知(2023年3月)に従い)
【欠席については、履修要項の「10. 授業の欠席」に記載されている取り扱いで対応します。よって、欠席の際にはその規定に従い、教員、学生課に届け出てください。なお、オンデマンド配信の録画された講義動画を視聴したことをもって出席としては扱わないことを原則とします。】

8 テキスト

教科書は使用しません。毎時間レジユメを配布します。

9 参 考 文 献

参考文献は授業の中で適宜紹介します。

10 オフィスアワー（授業相談）

随時。ただし、事前にメールでアポイントメント（相談日時の予約）をとって下さい。

11 学生へのメッセージ

文化人類学を学ぶことは医大生にとって非常に重要です。皆さんは近い将来、医療の専門家として患者さんと接します。「患者さんの立場に立った医療人になる」－よく耳にする言葉です。だが「言うは易し、行なうは難し」ではないでしょうか。

それは何故でしょうか。文化人類学の視点から見ると、同じく日本で生まれ育っていても患者の方々は医療の専門家とは「異なる文化」に属しています。「異なる文化」は我々の身近にあります。が、「異なる文化」に属する人々を理解するためにはちょっとした知識や技術が必要なのです。

異文化に生きる人びとの多様な思考や行動様式を尊重・理解しようとする態度、そしてそれらを理解するための技術や方法論等の「文化人類学の素養」をしっかりと身につける事により、皆さんが近い将来医療現場において色々な場面で役立てて頂けるよう期待しています。

12 授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

ドイツ語圏言語文化研究

1 担当教員名

非常勤講師 五反田 純

2 配当学年等

第1学年 通年 2単位

3 学修目標

読む、聴く、書く、話すの四技能をバランスよく習得し、身近で簡単な事柄のドイツ語を理解し、自分の意見を場面や相手にふさわしい簡単なドイツ語で表現できるようになる。

①学修目標

関係するモデル・コア・カリキュラム及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

受講生は、ドイツ語の習得を通して、自ら思考し、他者と対話を深め、他者の立場に立って考えることができるようになることを目標とする。また、そうしたことを通して自国に対する理解をさらに深め、同時に、医学・医療に関する課題について国際的視野に立って考察ができるようになることを目指す。

具体的な学習についての目標は以下のとおりとする。

1. ドイツ語の正しい発音を身につけ、基本的な語法を理解したうえで、簡単な事柄をドイツ語で表現でき、聞きとれるようになる。
2. ドイツ語圏の文化、伝統、あるいは現代社会や人々の生活習慣に対する理解をより深めることを目指し、自分の考えや気持ちを簡単な表現で直接伝えられるようになる。

②本講義に関係するモデル・コア・カリキュラム及びアウトカム

CM-01. 人間関係の構築 (CM: コミュニケーション能力)

自己理解、人間関係の成立・発展を踏まえた人間関係の構築のためのコミュニケーションを理解している。

4 授業概要

基本的なドイツ語運用能力を養成することを目的とします。受講にあたっては、事前に教科書の内容を確認し、語彙の下調べを行っておいてください。学習の目安として、毎回ごとに内容把握のための予習 (30分)、既習表現の音読を中心とした日常的な復習 (60分) を行ってください。試験期間や休日等も有効に活用し、1講義あたり計90分の自己学習を通じ、理解を一層深めることが望まれます。

5 授業内容

授業での質疑応答や小テストの結果に基づき、確実な理解と定着を優先するため、学習ペースを調整したり、既習内容の復習に重点を置くことがあります。これに伴い、授業計画の「項目」や「内容」に若干の変更が生じる場合があります。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	4	五反田	授業の導入と発音	授業全体の説明、発音の練習	③
第2回	令和8年4月16日(木)	4	〃	Lektion 1	動詞の現在人称変化、語順	③
第3回	令和8年4月23日(木)	4	〃	Lektion 1	練習問題	③
第4回	令和8年4月30日(木)	4	〃	Lektion 2	人称代名詞、名詞の性・数・格	③
第5回	令和8年5月7日(木)	4	〃	Lektion 2	冠詞の格変化、名詞の複数形	③
第6回	令和8年5月14日(木)	4	〃	Lektion 2	練習問題	③
第7回	令和8年5月21日(木)	4	〃	Lektion 3	不規則変化動詞、命令形	③
第8回	令和8年5月28日(木)	4	〃	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞類、否定文	③
第9回	令和8年6月4日(木)	4	〃	Lektion 3	練習問題	③
第10回	令和8年6月11日(木)	4	〃	Lektion 4	話法の助動詞	③
第11回	令和8年6月18日(木)	4	〃	Lektion 4	前置詞、前置詞の融合形	③
第12回	令和8年6月25日(木)	4	〃	Lektion 4	練習問題	③
第13回	令和8年7月2日(木)	4	〃	Lektion 5	分離動詞、非分離動詞	③
第14回	令和8年7月16日(木)	4	〃	Lektion 5	接続詞、形容詞の格変化	③
第15回	令和8年7月23日(木)	4	〃	Lektion 5	練習問題、前期のまとめ	③
第16回	令和8年7月30日(木)	2	〃	試験 (11:00~12:30)		③

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第17回	令和8年10月8日(木)	1	五反田	授業の導入と復習	授業全体の説明、前期の復習	③
第18回	令和8年10月15日(木)	1	〃	Lektion 6	動詞の三基本形	③
第19回	令和8年10月29日(木)	1	〃	Lektion 6	過去形、完了形	③
第20回	令和8年11月5日(木)	1	〃	Lektion 6	練習問題	③
第21回	令和8年11月12日(木)	1	〃	Lektion 7	未来形、受動態	③
第22回	令和8年11月19日(木)	1	〃	Lektion 7	比較級と最上級	③
第23回	令和8年11月26日(木)	1	〃	Lektion 7	練習問題	③
第24回	令和8年12月3日(木)	1	〃	Lektion 8	関係代名詞、関係副詞、指示代名詞	③
第25回	令和8年12月10日(木)	1	〃	Lektion 8	再帰代名詞、再帰動詞	③
第26回	令和8年12月24日(木)	1	〃	Lektion 8	練習問題	③
第27回	令和9年1月7日(木)	1	〃	Lektion 9	zu不定詞句、分詞の用法	③
第28回	令和9年1月14日(木)	1	〃	Lektion 9	練習問題	③
第29回	令和9年1月21日(木)	1	〃	Lektion 10	接続法Ⅰ式(要求話法、間接話法)	③
第30回	令和9年1月28日(木)	1	〃	Lektion 10	接続法Ⅱ式(非現実話法、婉曲話法)	③
第31回	令和9年2月4日(木)	1	〃	Lektion 10	練習問題、後期のまとめ	③
第32回	令和9年2月18日(木)	1	〃	試験(9:00~10:30)		③

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- 1) 講義形式ですが、会話練習などのドイツ語の表現力を鍛える練習をします。そのために、履修者の皆さんにはグループやペアで課題をこなしてもらいます。授業中の発言、質問などを重視し、平常点として評価します。履修者は授業毎にその回の学習内容の確認と整理を行うこと(授業一回あたり30分の予習、60分の復習が必要)。
- 2) 練習問題に取り組む時間では、ドイツ語での簡単な表現のフレーズを覚えてもらいます。また、聞き取り、書き取り練習をふくむリスニング練習による聴解トレーニングを行います。

なお、講義の録画動画のオンデマンド配信は行いません。

7 評価方法

この授業では、授業時間内の活動と表現力を重視します。授業中の積極的な発言や発表などの平常点、小テストの得点など40%と定期試験の得点60%で評価します。

8 テキスト

佐藤和弘、Heike Pinnau、中村雅美『ドイツに行ってみませんか』Ver. 4、郁文堂、2025年
(ドイツ語の辞書については最初の授業で指示します。)

9 テキストISBN番号

ISBN978-4-261-01283-5

10 オフィスアワー(授業相談)

ご質問がある場合は、メールでも随時受け付けます。
授業用E-mail: potemarujg@gmail.com

11 学生へのメッセージ

ドイツ語をマスターしたい人は、教科書の例文や提示した練習問題を何度も反復し、覚えてください。言語は練習した分だけ身につきます。

12 授業用E-mail

potemarujg@gmail.com

フランス語圏言語文化研究

1 担当教員名

非常勤講師 福本逸美

2 配当学年等

第1学年 通年 2単位

3 学修目標

フランス語の発音と基本的な文法を習得し、簡単な日常表現を身につけられる。、仏検5級に挑戦する力を身に付けられる。あわせてフランスの文化の一端に触れることができる。

①学修目標

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

受講生は、フランス語の習得を通して、自ら思考し、他者と対話を深めたり他者の立場に立って考えたりすることができるようになることを目標とする。そうしたことを通して自国に対する理解をさらに深めると同時に、医学・医療に関する課題について国際的視野に立って考察ができるようになることを目指す。

具体的な学習についての目標は以下のとおりとする。

1. フランス語の正しい発音を身につけ、基本的な語法を理解したうえで、簡単な事柄をフランス語で表現でき、聞きとれるようになる。
2. フランス語圏の文化、伝統、あるいは現代社会や人々の生活習慣に対する理解をより深めることを目指し、自分の考えや気持ちを簡単な表現で直接伝えられるようになる。

②本講義に関するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP1. プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
3. 自分自身の在りようを振り返り、自らの行為を客観的に捉えることができる。
4. 患者に対して深い敬意と思いやりを持って接することができる。

DP3. 基本的診療技能に基づく全人的医療

11. 患者背景に配慮し診療できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 患者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係性を築くことができる。
2. 患者・家族に対して、適切な言葉遣いでわかりやすく説明できる。
3. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係性を築くことができる。
4. リーダーシップを理解し、多職種間連携に参加できる。

DP6. 科学的探究心と国際的視野

7. 国際的視野に立ち、医学・医療に関する課題について考察できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

初級の教科書を用いてフランス語の基礎をひとつずつ丁寧に学びながら、「読み・書き・聞く・話す」の総合的な語学力を付けられるよう指導する。

学生諸君の発表をもっとも重視する。

1回目 予習なし・復習1.5h

2回目以降 予習0.5h 復習1.0h

5 授業内容

授業内容通り。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	4	福本	イントロダクション	フランス語の発音	②
第2回	令和8年4月16日(木)	4	〃	文字と記号	アルファベと綴り字記号	②
第3回	令和8年4月23日(木)	4	〃	あいさつ	あいさつする	②
第4回	令和8年4月30日(木)	4	〃	数をいう	数1~20	②

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年5月7日(木)	4	福本	買物	野菜	②
第6回	令和8年5月14日(木)	4	〃	買物	「～をください」	②
第7回	令和8年5月21日(木)	4	〃	買物	名詞と冠詞	②
第8回	令和8年5月28日(木)	4	〃	マルシェで	「それは何？」	②
第9回	令和8年6月4日(木)	4	〃	身分をいう	動詞「～である」	②
第10回	令和8年6月11日(木)	4	〃	食器	形容詞	②
第11回	令和8年6月18日(木)	4	〃	好みをいう	第一群動詞・「好き」「話す」	②
第12回	令和8年6月25日(木)	4	〃	好みをいう	疑問文	②
第13回	令和8年7月2日(木)	4	〃	好みをいう	否定文	②
第14回	令和8年7月16日(木)	4	〃	復習	練習問題	②
第15回	令和8年7月23日(木)	4	〃	まとめ	まとめ	②
第16回	令和8年7月30日(木)	2	〃	試験(11:00～12:30)		②
第17回	令和8年10月8日(木)	1	〃	前半の復習	テスト返却	②
第18回	令和8年10月15日(木)	1	〃	数を覚える	21～100	②
第19回	令和8年10月29日(木)	1	〃	あやまる	謝罪表現	②
第20回	令和8年11月5日(木)	1	〃	レストランの予約	動詞「もっている」	②
第21回	令和8年11月12日(木)	1	〃	「～がある」	「空腹だ」	②
第22回	令和8年11月19日(木)	1	〃	予約の確認	日にち・曜日	②
第23回	令和8年11月26日(木)	1	〃	さまざまな場所	動詞「行く」「来る」	②
第24回	令和8年12月3日(木)	1	〃	さまざまな場所	動詞「もどって来る」	②
第25回	令和8年12月10日(木)	1	〃	さまざまな場所	動詞「作る」	②
第26回	令和8年12月24日(木)	1	〃	これからすることを言う	動詞「取る」	②
第27回	令和9年1月7日(木)	1	〃	さっきしたことを言う	メニュー	②
第28回	令和9年1月14日(木)	1	〃	支払いをする	デザート	②
第29回	令和9年1月21日(木)	1	〃	支払いをする	支払い方法	②
第30回	令和9年1月28日(木)	1	〃	復習	会話練習	②
第31回	令和9年2月4日(木)	1	〃	まとめ	まとめ	②
第32回	令和9年2月18日(木)	1	〃	試験(9:00～10:30)		②

6 授業形式・視聴覚機器の活用

学生諸君の発表を中心に進めていく参加型形式。
オンデマンドは実施しません。

7 評価方法

受講中の発表に臨む姿勢と内容60%、
試験(2回)成績40%からの総合評価。

8 テキスト

『セ・ボン!改訂版』黒木・畠山・加藤他 駿河台出版社

9 オフィスアワー(授業相談)

質問等は授業後にお願いします

10 学生へのメッセージ

言語は積み重ねです。何度もくりかえして練習しましょう。
オンデマンドは実施しません。

中国語圏言語文化研究

1 担当教員名

非常勤講師 前田尚香

2 配当学年等

第1学年 通年 2単位

3 学修目標

①学修目標

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

受講生は、中国語の習得を通して、自ら思考し、他者と対話を深めたり他者の立場に立って考えたりすることができるようになることを目標とする。そうしたことを通して自国に対する理解をさらに深めると同時に、医学・医療に関する課題について国際的視野に立って考察ができるようになることを目指す。

具体的な学習についての目標は以下のとおりとする。

1. 中国語の正しい発音を身につけ、基本的な語法を理解したうえで、簡単な事柄を中国語で表現でき、聞きとれるようになる。
2. 中国語圏の文化、伝統、あるいは現代社会や人々の生活習慣に対する理解をより深めることを目指し、自分の考えや気持ちを簡単な表現で直接伝えられるようになる。

②本講義に関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

CM-01. 人間関係の構築

自己理解、人間関係の成立・発展を踏まえた人間関係の構築のためのコミュニケーションを理解している。

4 授業概要

基本的な語法をしっかりと学んだ上で語彙を増やし、コミュニケーション能力をつける。各回の授業後に、課題の提出などを通して教材をよく復習し、新出単語の暗記を含めて毎回の内容をしっかりと身につけることが求められる。1コマの授業に対して、15分程度の予習と30分程度の復習を日常的に行うことが望まれる。毎回の課題を必ず丁寧にやって提出すること。

授業はテキストに基づいて行い、プリント等を配布する場合もある。最初の一ヶ月で発音を習得し、その後基礎的な文法から順に学ぶ。後期はさらに複雑な文の形式と多くの単語を身につけて表現力を高める。

最終的に基本的な文法をしっかりと習得し、初級レベルの読解力・作文力を身につけることを目指す。また授業ではリスニングやスピーキングの練習を取り入れ、中国語の基礎的な表現が使えるようになること、日常会話で簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。

5 授業内容

受講者の人数、興味、習熟度などにより、内容や進度を若干変更する場合がある。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月9日（木）	4	前田	ガイダンス・発音編1	声調、単母音	看2
第2回	令和8年4月16日（木）	4	〃	発音編2	複合母音、子音1	看2
第3回	令和8年4月23日（木）	4	〃	発音編3	子音2、nとng	看2
第4回	令和8年4月30日（木）	4	〃	発音編4	発音のその他の規則	看2
第5回	令和8年5月7日（木）	4	〃	発音編のまとめ	発音編の総復習など	看2
第6回	令和8年5月14日（木）	4	〃	第1課	人称代詞、動詞述語文など	看2
第7回	令和8年5月21日（木）	4	〃	第2課	指示代詞、“是”の文など	看2
第8回	令和8年5月28日（木）	4	〃	第3課	形容詞述語文、主述述語文など	看2
第9回	令和8年6月4日（木）	4	〃	第1～3課の復習	第1～3課の復習と練習	看2
第10回	令和8年6月11日（木）	4	〃	第4課	数量の数え方、動詞“有”など	看2
第11回	令和8年6月18日（木）	4	〃	第5課	方位詞、動詞と介詞の“在”など	看2
第12回	令和8年6月25日（木）	4	〃	第4、5課の復習	第4、5課の復習と練習	看2
第13回	令和8年7月2日（木）	4	〃	第6課	連動文、助動詞“要”など	看2
第14回	令和8年7月16日（木）	4	〃	第7課	助詞“了”、二重目的語を取れる動詞など	看2
第15回	令和8年7月23日（木）	4	〃	第6、7課の復習	第6、7課の復習と練習、前期のまとめ	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第16回	令和8年7月30日(木)	2	前田	中間試験(11:00~12:30)		看2
第17回	令和8年10月8日(木)	1	〃	第8課	動詞の重ね型、介詞“給”など	看2
第18回	令和8年10月15日(木)	1	〃	第9課	助詞“過”、“着”など	看2
第19回	令和8年10月29日(木)	1	〃	第8、9課の復習	第8、9課の復習と練習	看2
第20回	令和8年11月5日(木)	1	〃	第10課	様態補語、進行の表現など	看2
第21回	令和8年11月12日(木)	1	〃	第11課	結果補語、比較の言い方など	看2
第22回	令和8年11月19日(木)	1	〃	第10、11課の復習	第10、11課の復習と練習	看2
第23回	令和8年11月26日(木)	1	〃	第12課	方向補語、使役の言い方など	看2
第24回	令和8年12月3日(木)	1	〃	よく使う語句のまとめ	語句、文法事項のまとめ	看2
第25回	令和8年12月10日(木)	1	〃	第12課と語句のまとめの復習	第12課と語句のまとめの復習と練習	看2
第26回	令和8年12月24日(木)	1	〃	ステップアップ1	介詞“把”、強調構文など	看2
第27回	令和9年1月7日(木)	1	〃	ステップアップ1の復習	ステップアップ1の復習と練習	看2
第28回	令和9年1月14日(木)	1	〃	ステップアップ2	可能補語、受け身の言い方など	看2
第29回	令和9年1月21日(木)	1	〃	ステップアップ2の復習	ステップアップ2の復習と練習	看2
第30回	令和9年1月28日(木)	1	〃	ステップアップ3	存現文、反語文など	看2
第31回	令和9年2月4日(木)	1	〃	ステップアップ3の復習	ステップアップ3の復習と練習	看2
第32回	令和9年2月18日(木)	1	〃	期末試験(9:00~10:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

対面での講義室での講義。授業はテキストに基づき、一年間でテキストの内容をほぼ終了する予定。文法事項の理解、文章の読解、単語や短文の暗記とそれらを使ったリスニング練習などが中心となる。受講者は、授業でやったことを丁寧に復習して理解し、身につけることを心掛けて学習を進めていただきたい。

7 評価方法

①総括的評価

- ・中間試験(35%)：試験範囲は前期学習した範囲とし、リスニング問題を含む筆記試験で評価する。
- ・期末試験(35%)：試験範囲は後期学習した範囲とし、リスニング問題を含む筆記試験で評価する。
- ・平常点(30%)：課題の提出状況(15%程度)、授業での発言状況(15%程度)。このほか、履修生の学習状況を見て単語テストなどの小テストを行い、評価に含めることがある。
- ・定期試験、中間試験、平常点の合計が60点以上を合格とする。再試験は行わない。

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由(忌引き、病欠、交通機関の遅延など)がない場合の欠席や遅刻は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分之一を超える場合は、中間試験、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。

8 テキスト

『しっかり初級中国語』石田友美ほか著/白水社

9 テキストISBN番号

978-4-560-06936-3

10 参考文献

特に準備する必要なし。

11 オフィスアワー(授業相談)

木曜日 12:00~13:00

授業用E-mail: Webclassのメール

12 学生へのメッセージ

同じ漢字文化圏の人々が話している言葉を通して、私たちの将来のさまざまな可能性を想像していただければと思います。

スポーツ科学実践

1 担当教員名

非常勤講師 工藤 慈 士 (びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 講師)

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

看護職としての使命・役割の発揮・創造に向けて、基盤となる自らの健康・安全について理解し、運動の合理的実践を通して、健康の保持増進や体力の向上をはかる。また、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力を養うとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

- 1) 社会生活における健康・安全についての知識や適切な運動方法等を理解する。
- 2) 運動・スポーツの実践を通して、基礎的な運動技能及び自らの体力を高める。
- 3) コミュニケーションが人々と相互の関係に影響することを理解し、仲間と協力する等、周囲とコミュニケーションをとる力を身につける。

4 授業概要

<実施種目>

バドミントン、バスケットボール、アルティメット、ニュースポーツ等 (進度により適宜変更有)

<講義内容>

体力トレーニング論、運動処方論

<準備学修・事後学修>

実施種目について調べ学習・授業内で取り組んだ運動・トレーニング法の実践。計60分程度

より理解を深めるため、2年次「健康科学実践」と共に受講することが望ましい。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容
第1回	令和8年10月8日(木)	3・4	工藤	ガイダンス・アイスブレイク	
第2回	令和8年10月15日(木)	3・4	〃	バドミントン①	基本技術・ルールの理解
第3回	令和8年10月22日(木)	3・4	〃	バドミントン②	応用技術・ゲーム
第4回	令和8年11月5日(木)	3・4	〃	バドミントン③	チーム戦術・ゲーム
第5回	令和8年11月12日(木)	3・4	〃	ニュースポーツ	レクリエーション①
第6回	令和8年11月19日(木)	3・4	〃	ニュースポーツ	レクリエーション②
第7回	令和8年11月26日(木)	3・4	〃	ニュースポーツ	レクリエーション③
第8回	令和8年12月3日(木)	3・4	〃	体力測定①	
第9回	令和8年12月10日(木)	3・4	〃	体力測定②	
第10回	令和8年12月24日(木)	3・4	〃	バスケットボール①	基本技術・ルールの理解
第11回	令和9年1月7日(木)	3・4	〃	バスケットボール②	応用技術・ゲーム
第12回	令和9年1月14日(木)	3・4	〃	バスケットボール③	チーム戦術・ゲーム
第13回	令和9年1月21日(木)	3・4	〃	アルティメット①	
第14回	令和9年1月28日(木)	3・4	〃	アルティメット②	
第15回	令和9年2月4日(木)	3・4	〃	選択種目	

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実技による演習形式

7 評価方法

(総括的評価)

- ・平常点 (70%) : 授業での受講態度・意欲、授業での発言状況、仲間との協力姿勢、授業運営への貢献度、技能・体力等を評価する。
- ・レポート課題 (30%) : 運動や健康・安全についての知識・理解及び、思考力・判断力等を評価する。

(形成的評価)

- ・授業で提示する課題、振り返りシートの記入等を実施。また、受講状況 (適切な運動実践、仲間との協力姿勢、コミュニケーション) 等について、都度フィードバックを行う。

(態度評価)

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。
但し、出席が11/15時間に満たない場合は不可

8 オフィスアワー (授業相談)

授業日の12:00~13:00・16:00~17:00

9 学生へのメッセージ

運動・スポーツを通して、仲間と関わり、楽しく実りある時間を共にできることを楽しみにしています。

10 主担当教員の実務経験

大学での講師経験あり

医療イノベーションの基礎

1 担当教員名

副学長 尾松 万里子
特任教授 磯部 義明 (BBDU (BioMedical Business Development Unit))
特任准教授 山田 篤史 (創発的研究センター先端医療研究開発部門)

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

医学の発展はめざましく、それに対応するように医薬品や医療機器の分野でのイノベーション（革新的な製品やサービス等）が創出されてきており、医療人の医療知識・技術と共に最先端の医療を支える両輪として働いている。この授業では、自らが医療人となった際に広い視野で物事が捉えられる視点や異分野の人とコミュニケーション力や発表能力を養うことを目標とする。関係するDPおよびアウトカムの習得にあたって本講義では、以下を具体的な授業の到達目標とする。

- 1) 医療を取り巻く環境について調査することができる。
- 2) イノベーション、オープンイノベーションとは何かを説明できる。
- 3) パイオデザイン手法について説明できる。
- 4) 異分野の人とコミュニケーションについて注意すべき点を説明できる。
- 5) 産業界における製品開発の進め方を説明できる。
- 6) 知的財産権についての基本事項について説明できる。
- 7) 広告医学についての基本事項について説明できる。
- 8) テーマに応じた適切な発表方法について注意すべき点を説明できる。
- 9) 金融に関する基本事項について説明できる。
- 10) 研究と開発の違いについて説明できる。
- 11) 自分自身の（医療人としての）将来像を他者に理解できるように説明できる。
- 12) 医療とAI（人工知能）等の関係性を説明できる。

4 授業概要

この授業では、15回にわたって医療人としての専門教育だけでは学べない医療を支える外的な要因（産業界の考え方、コミュニケーションの取り方、製品開発の進め方、それらに関連する知的財産権や薬事規制など）を学習する。更に、自身の考えをまとめて他の人の伝える発表の仕方を学習し、実習する。

この一連の学習は、文部科学省の「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXTプログラム）」を発展させるものとして実施する。一般的な経済活動の仕組みや視点を理解し、医療分野に限らず新しい「コト」にチャレンジし、自らの志を実現できる医療人の育成を目的とする。

1コマの授業の対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマあたり90分の復習が望まれます。

5 授業内容

医療イノベーションに関連する各分野の講師を外部から招聘し、オムニバス形式で授業を行う。（全体としての授業内容に変更はないが、外部講師の都合等により各回の担当教員や項目・内容が入れ替わることもある。）

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	3	尾松 田上 (株)Field Up)	オリエンテーション 異分野とのコミュニケーション①	他者の本音を引き出す質問の手法 (コーチング)	①
第2回	令和8年4月15日(水)	3	能見 (Eurus Therapeutics 株)	リーダーシップ論	リーダーの資質・必要性、新しいことを実現するチームづくり	①
第3回	令和8年4月22日(水)	3	筈井 (株)滋賀銀行)	人間中心設計とサービス共創	地域における三方よしのサービス共創の可能性について、人に寄り添ったサービス設計手法「人間中心設計」による取組みを紹介し、地域医療における共創について考察する。	①
第4回	令和8年5月13日(水)	3	山田	医工連携と産学連携	滋賀医科大学における医療機器研究開発の内容紹介	①

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年5月20日(水)	3	祇園 (神戸大学)	デザイン思考	新しいことを発想する手法、それを実現するための手法 グループワーク	B ①
第6回	令和8年5月27日(水)	3	新名 (㈱SmartPresen)	異分野とのコミュニケーション②	他者の行動を変える手法(プレゼンテーション)行動変容を促すために「社会で活用されているデータ」を基にした「伝え方」の習得	①
第7回	令和8年6月3日(水)	3	大竹 (大阪大学)	医療現場の行動経済学	患者や医療者の意思決定の歪みを理解し、医療者と患者のコミュニケーションを改善する	①
第8回	令和8年6月10日(水)	3	岡田 (立命館大学)	ロボティクスを応用した医療ヘルスケア機器開発	ロボティクス技術を応用した最新の医療機器、ヘルスケア機器の紹介	①
第9回	令和8年6月17日(水)	3	西井 (横浜市立大学)	広告医学概論	医療×クリエイティブの可能性、新概念Street Medical、Creative Hospitalの意義、データ・AI活用の可能性	①
第10回	令和8年6月24日(水)	3	山本 (㈱ミナケア)	健康投資型の医療	予防の推進や経済性の重視など、社会課題に即した医療の在り方～技術の進化、データやコミュニティの活用に関して～	①
第11回	令和8年7月1日(水)	3	池田 (滋賀医科大学・住友ファーマ株式会社)	新薬開発における非臨床トランスレーショナル研究	動物実験データ(非臨床試験)が臨床試験への橋渡し(トランスレーショナル研究)として、なぜ重要であるのか、精神神経疾患領域を例として解説する	①
第12回	令和8年7月8日(水)	3	井上 (横浜市立大学・株式会社GENOVA)	アントレプレナーシップ論	・社会課題を解決するための手段としての起業について ・不確実な時代に医療従事者はどうキャリアを形成していくか	①
第13回	令和8年7月15日(水)	3	角野 (藍野大学)	滋賀県での医療イノベーションの現状と将来への期待	びわ湖あさがおネットを紹介し、これらを理解したうえで学生の皆さんが将来臨床現場で生かすことを目的とする。	①
第14回	令和8年7月22日(水)	3	尾松 磯部	グループワーク (4～5人/グループ)	医療及び医療人の将来像について ～AIの進化を見据えて～	B ①
第15回	令和8年7月29日(水)	3	尾松 磯部 松浦 (東京科学大学医療イノベーション機構 パートナー戦略室 イノベーション推進室)	プレゼンテーション	「医療及び医療人の将来像～AIの進化を見据えて～」発表 (グループ毎に発表)	B ①

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、講義、グループでの作業、発表からなる。講義はプロジェクターを使い、パワーポイントで進める。資料としてパワーポイントの抜粋等をWebClassで配付する。グループでの作業は担当教員の指示に従って進め、積極的かつ建設的な発言を求める。発表実習はグループでの作業の成果をパワーポイントで発表する。

7 評価方法

最終の2回(グループワーク及び発表)は出席を必須とする。出席回数が11回以上(出席率70%以上)の場合は、期末レポート課題の提出資格を認める。なお、最終成績は期末レポート課題の評価(60%)にグループワーク発表(内容、発表資料の分かりやすさ、発表の仕方)の評価(40%)を加味して評価する。

8 参考文献

1. 医療イノベーションの本質-破壊的創造の処方箋(碩学舎ビジネス双書) 著:クレイトン・M・クリステンセン他、訳:山本雄士他
(原著) The Innovator's Prescription: A Disruptive Solution for Health Care, Clayton M. Christensen et al.
2. BIODESIGN バイオデザイン日本語版(薬事日報社) 著:ステファノス・ゼニオス他、【監修】一般社団法人日本医療機器産業連合会
(原著) Biodesign: The Process of Innovating Medical Technologies, Paul G. Yock et al.
3. リーン・スタートアップ ムダのない起業プロセスでイノベーションを生み出す(日経BP社) 著:エリック・リース 訳:井口耕二

(原著) The Lean Startup : How Today's Entrepreneurs Use Continuous Innovation to Create Radically Successful Businesses, Rric Ries

9 オフィスアワー (授業相談)

質問や相談があれば、研究戦略推進室 産学連携推進部門 (管理棟1階) に来室ください。事前にメールで連絡してもらえると嬉しいですよ。

研究戦略推進室 : ikode@belle.shiga-med.ac.jp

10 学生へのメッセージ

医療人を目指す学生にとっても医学・看護学以外の学問や医療以外の社会活動に対する理解は必要であり、その理解が更に医学・看護学・医療への理解を深め、社会人としての全人的な能力を養う基礎となります。一見、医学・看護学や医療とは無関係のように思える学問や社会・産業界の仕組みを学習し、社会とのつながりを認識していく過程で、医療人を目指した自分自身の原点をあらためて見つめ直し、自分自身が志す医療人、研究者として成長する基盤の考え方を養ってほしいと思います。

11 授業用URL

<http://ikode-sums.com/>

12 授業用E-mail

ikode@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 I

1 担当教員名

教 授 加 藤 穰 (医療文化学講座 (英語))

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

By the end of the course, students will have acquired greater knowledge about language learning theories, and culture in the English-speaking countries.

Also, students will be able to read literary texts and passages related to nursing, write effectively and communicate in simple English.

4 授業概要

The primary goal of this course is to improve students' reading and listening skills using class materials that deal with a wide range of topics including culture, science, and nursing. In order to help students prepare for more advanced courses in the later years, class activities also involve other skills; listening, speaking, and writing.

The course prepares students for independent language learning in the future.

As the first language course at college level, this class includes elements of remedial instruction.

In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

Several class sessions may be offered on-demand due to scheduling conflicts of the instructor.

5 授業内容

In learning a foreign language, quality inputs matter most. This course is designed to allow students to have quality inputs through class materials.

Students are required to take Pre-TOEFL-ITP test to assess their proficiency.

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	3	加藤	Introduction	Basics about the English language Assignment : To be announced.	看2
第2回	令和8年4月17日(金)	3	〃	Pre-TOEFL (ITP) 実施	Assignment : To be announced.	看2
第3回	令和8年4月24日(金)	3	〃	Unit 1 : Greetings	Writing your self-introduction Assignment : To be announced.	看2
第4回	令和8年5月1日(金)	3	〃	Unit 2 : Giving Explanations	Writing your self-introduction Assignment : To be announced.	看2
第5回	令和8年5月15日(金)	3	〃	Unit 3 : X-ray	Writing your self-introduction Assignment : To be announced.	看2
第6回	令和8年5月22日(金)	3	〃	Unit 4 : Inviting the Patient to Talk, and Listening	Assignment : To be announced.	看2
第7回	令和8年5月29日(金)	3	〃	Unit 5 : Nursing Care and Asking Permission	Assignment : To be announced.	看2
第8回	令和8年6月5日(金)	3	〃	Unit 6 : Injection	Assignment : To be announced. Sharing your self-introductions	看2
第9回	令和8年6月12日(金)	3	〃	Unit 7 : Vital Signs	Assignment : To be announced. Sharing your self-introductions	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第10回	令和8年6月19日(金)	3	加藤	Unit 8: Rehabilitation and Asking Questions	Assignment: To be announced. Sharing your self-introductions	看2
第11回	令和8年6月26日(金)	3	〃	Unit 9: Operation	Proverbs Assignment: To be announced.	看2
第12回	令和8年7月3日(金)	3	〃	Unit 10: Positioning the Patient and Giving Instructions	Pain scale Assignment: To be announced.	看2
第13回	令和8年7月10日(金)	3	〃	Unit 11: Medication	Assignment: To be announced.	看2
第14回	令和8年7月17日(金)	3	〃	Unit 12: Discharge and Goodbye	Assignment: To be announced.	看2
第15回	令和8年7月24日(金)	3	〃	最終試験に向けて	まとめ	看2
第16回	令和8年8月3日(月)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看2
第17回	令和8年9月17日(木)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業内では基本的に英語(必要に応じて日本語)を用いる。ポイントを中心に解説するほか、毎回の授業の中で基礎的な事項を確認する。個人・グループで課題に取り組む時間を設ける。提出物等については指示に従うこと。クラス内の小テストについても範囲や様態を随時指定する。オンライン受講で小テストを受けられない場合は最終試験に合わせて追試験を受けること。WebClass等で配布資料や動画のURL等を参照できるようにする予定。

7 評価方法

小テスト含む平常点(30%)および定期試験の成績(70%)から総合的に評価する。①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由(忌引き、病欠、交通機関の遅延など)がない場合の欠席・遅刻・早退は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分之一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。②期末試験の得点率が60%を下回った場合は、出席率に関わらず、単位を認定しない。

TOEFL (ITP) は平常点に含むものとする(得点に応じて10%まで加点する)

8 テキスト

Onjohji and Skelton, Everyday English for Nursing on DVD, Seibido 2010

9 テキストISBN番号

9784791931200

10 参考文献

授業時に適宜指示する。

11 オフィスアワー(授業相談)

随時(e-mailにてアポイントメントをとること)

12 学生へのメッセージ

I hope this course helps you learn to express ideas clearly, logically and effectively, as well as broaden your horizons, and prepares yourself for your future professional life.

13 授業用E-mail

yk227@belle.shiga-med.ac.jp

英 語 Ⅱ

1 担当教員名

教 授 加 藤 穰 (医療文化学講座 (英語))

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

By the end of the course, students will have acquired greater knowledge about language learning theories, and culture in the English-speaking countries.

Also, students will be able to understand the English spoken in natural settings, read literary texts and passages related to nursing, write effectively and communicate in simple English.

4 授業概要

The primary goal of this course is to improve students' integrated language skills using class materials that deal with a wide range of topics including culture, science, and nursing. In order to help students prepare for more advanced courses in the later years, class activities also involve other skills; listening, speaking, and writing.

The course prepares students for independent language learning in the future.

The course is designed to expose students to cultures of English-speaking countries and to develop students' cultural competence.

In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

Several class sessions may be offered on-demand due to scheduling conflicts of the instructor.

5 授業内容

In learning a foreign language, quality inputs matter most. This course is designed to allow students to have quality inputs through materials on American history, health policies of the United States, lectures on FN and nursing, videos on foreigners living in Japan, science fictions featuring emerging technologies, passages from literature, film trailers. Each class consists of independent and group tasks, lectures, and assignments.

Students are encouraged to enjoy conversations with peers in English.

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月5日(月)	1	加 藤	Introduction	1 aの復習 In-class writing	看4
第2回	令和8年10月19日(月)	1	〃	FN quotes	Talking about FN 小テストについて解説	看4
第3回	令和8年10月28日(水)	1	〃	FN quotes	小テスト	看4
第4回	令和8年11月2日(月)	1	〃	FN quotes	In-class writing	看4
第5回	令和8年11月9日(月)	1	〃	FN quotes	In-class writing 小テストについて解説	看4
第6回	令和8年11月16日(月)	1	〃	A video on FN	小テスト	看4
第7回	令和8年11月30日(月)	1	〃	A video on FN	In-class writing	看4
第8回	令和8年12月7日(月)	1	〃	A passage on death and dying	小テストについて解説 In-class writing	看4
第9回	令和8年12月21日(月)	1	〃	A passage on death and dying	小テスト	看4
第10回	令和9年1月4日(月)	1	〃	A passage on death and dying	In-class writing	看4
第11回	令和9年1月12日(火)	1	〃	A passage on death and dying	小テストについて解説 In-class writing	看4
第12回	令和9年1月18日(月)	1	〃	Describing a film	小テスト	看4
第13回	令和9年1月25日(月)	1	〃	Describing a film	In-class writing	看4
第14回	令和9年2月1日(月)	1	〃	Discussing a film	In-class writing	看4

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第15回	令和9年2月8日(月)	1	加藤	最終試験に向けて	まとめ	看4
第16回	令和9年2月17日(水)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看2
第17回	令和9年3月2日(火)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業内では基本的に英語(必要に応じて日本語)を用いる。ポイントを中心に解説するほか、毎回の授業の中で基礎的な事項を確認する。個人・グループで課題に取り組む時間を設ける。提出物等については指示に従うこと。クラス内の小テストについても範囲や様態を随時指定する。オンライン受講で小テストを受けられない場合は最終試験に合わせて追試験を受けること。WebClass等で配布資料や動画のURL等を参照できるようにする予定。

7 評価方法

小テスト含む平常点(30%)および定期試験の成績(70%)から総合的に評価する。①全回出席を前提とする。出席は加点の対象とせず、正当な理由(忌引き、病欠、交通機関の遅延など)がない場合の欠席・遅刻・早退は減点の対象とする。かつ、正当な理由のない欠席が授業回数の三分之一を超える場合は、期末試験の受験資格を与えず、単位の認定もしない。②期末試験の得点率が60%を下回った場合は、出席率に関わらず、単位を認定しない。

8 テキスト

ハンドアウトを配付する。

9 参考文献

「看護英語の基本用語と表現」メジカルビュー社。2016年

10 オフィスアワー(授業相談)

随時(e-mailにてアポイントメントをとること)

11 学生へのメッセージ

This course also helps you learn to express ideas clearly, logically and effectively, as well as broaden your horizons, and prepares yourself for your future professional life.

12 授業用E-mail

yk227@belle.shiga-med.ac.jp

英語コミュニケーションⅠ

1 担当教員名

特任講師 Barnett Jr. Jeffrey Charles (医療文化学講座 (英語)) ,

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

Students will be able to demonstrate (1) knowledge of the key terms and grammatical structures for communicating in medical settings, (2) skills in reading, understanding, and speaking about topics related to medicine, and (3) the ability to write a well-structured essay about an idea or opinion.

4 授業概要

This course will foster student interest in using English by building on communication skills developed in other English classes. Medical English terms, practical language patterns, and vocabulary are introduced in 4 skills (L, R, Wr, & Sp) . In addition to medical English course materials, this course will provide opportunities for active participation using language skills for spoken and written communication in groups. In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

5 授業内容

Speaking : In-class pair and group practice

Listening : Dialogues, narratives, and film

Reading : Prints, medical English, and online material

Writing : Structured writing and an essay

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	1・3	Barnett Jr.,	Introductions and email writing	看2
第2回	令和8年4月16日(木)	1・3	〃	Medical reception and polite requests	看2
第3回	令和8年4月23日(木)	1・3	〃	Locations and directions inside a hospital	看2
第4回	令和8年4月30日(木)	1・3	〃	Body parts and describing pain	看2
第5回	令和8年5月7日(木)	1・3	〃	Describing basic symptoms	看2
第6回	令和8年5月14日(木)	1・3	〃	Patient interview : Medical and family history	看2
第7回	令和8年5月21日(木)	1・3	〃	Patient interview : Allergies and lifestyle	看2
第8回	令和8年5月28日(木)	1・3	〃	Oral interview exam	看2
第9回	令和8年6月4日(木)	1・3	〃	Film viewing and discussion - Part 1	看2
第10回	令和8年6月11日(木)	1・3	〃	Film viewing and discussion - Part 2	看2
第11回	令和8年6月18日(木)	1・3	〃	Film debate	看2
第12回	令和8年6月25日(木)	1・3	〃	Learning about microaggressions	看2
第13回	令和8年7月2日(木)	1・3	〃	Essay writing : Part 1	看2
第14回	令和8年7月16日(木)	1・3	〃	Essay writing : Part 2	看2
第15回	令和8年7月23日(木)	1・3	〃	Course review	看2
第16回	令和8年8月3日(月)	1	〃	試験 (9 : 00~10 : 30)	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used.

7 評価方法

15% = Active participation; 10% = Essay; 25% = Oral interview exam; 50% = Final exam. Behavior and Attitude : The teacher has the right to bar a student from sitting the final exam based on behavior or attitude that is unbecoming of a nursing student. Attendance : If a student is absent from more than 30% of classes, the student will fail the course.

8 テキスト

Prints will be supplied by the teacher. Students are required to bring a folder with all course materials and written assignments to each lesson.

9 オフィスアワー (授業相談)

Email & Office hours information will be provided in the first lesson.

10 授業用E-mail

barnett@belle.shiga-med.ac.jp

英語コミュニケーションⅡ

1 担当教員名

特任講師 Barnett Jr. Jeffrey Charles (医療文化学講座 (英語)) ,

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

Students will be able to demonstrate (1) knowledge of the key terms and grammatical structures for communicating in medical settings, (2) skills in reading, understanding, and speaking about topics related to medicine, and (3) an attitude to cooperate actively in group activities and complete independent self-study.

4 授業概要

Medical English terms, practical language patterns, and vocabulary are introduced in four-skills tasks for clinical situations. In addition to medical English course materials, this course will provide opportunities for active participation using language skills for spoken and written communication in groups. In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

5 授業内容

Speaking : In-class pair and group practice, patient interview role play

Listening : Dialogues and narratives

Reading : Prints and textbook reading, including medical English

Writing : Keeping a notebook including lecture notes, in-class writing tasks, and yearly health check dialogues

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月8日(木)	3・4	Barnett Jr.,	Course overview	Learning about nutrition	看2
第2回	令和8年10月15日(木)	3・4	〃	At the clinic	Measurement and consulting	看2
第3回	令和8年10月22日(木)	3・4	〃	At the clinic	Vital signs	看2
第4回	令和8年11月5日(木)	3・4	〃	At the clinic	Explanation of medication	看2
第5回	令和8年11月12日(木)	3・4	〃	Learning about pragmatics	How to give advice	看2
第6回	令和8年11月19日(木)	3・4	〃	Reading practice	Learning about fingerprints	看2
第7回	令和8年11月26日(木)	3・4	〃	Midterm exam		看2
第8回	令和8年12月3日(木)	3・4	〃	NC Unit 1	Becoming a nurse	看2
第9回	令和8年12月10日(木)	3・4	〃	NC Unit 2	Basic nursing tasks	看2
第10回	令和8年12月24日(木)	3・4	〃	NC Unit 3	Patient's first visit	看2
第11回	令和9年1月7日(木)	3・4	〃	NC Unit 4	Daily health habits; Yearly health check project introduced	看2
第12回	令和9年1月14日(木)	3・4	〃	NC Unit 5	Taking vital signs; Yearly health check explanations and actions	看2
第13回	令和9年1月21日(木)	3・4	〃	NC Unit 6	Inside a hospital; Yearly health check dialogues	看2
第14回	令和9年1月28日(木)	3・4	〃	NC Unit 7	Common illnesses; Yearly health check practice	看2
第15回	令和9年2月4日(木)	3・4	〃	Course review		看2
第16回	令和9年2月16日(火)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used.

7 評 価 方 法

10% = Active participation; 30% = Midterm exam; 60% = Final exam. Behavior and Attitude : The teacher has the right to bar a student from sitting the final exam based on behavior or attitude that is unbecoming of a nursing student. Attendance : If a student is absent from more than 30% of classes, the student will fail the course.

8 テ キ ス ト

Nursing Care : Basic English for Nurses by Jim Smiley & Michiyo Masui; ISBN 978-493913058- 8

9 オフィスアワー (授業相談)

Email & Office hours information will be provided in the first lesson.

10 授業用E-mail

barnett@belle.shiga-med.ac.jp

医学概論

1 担当教員名

教授	馬場重樹	(基礎看護学講座 (内科学・栄養学))	非常勤講師
学長	遠山育夫	(学長)	藤崎和彦
理事	辻川知之	(地域医療担当)	長倉伯博
教授	大北全俊	(医療文化学講座 (哲学・倫理学))	荻田謙治 (医療法人恒仁会 近江温泉病院 医師)
			埴田和史 (びわこリハビリテーション専門職大学 客員教授)
			口分田政夫 (びわこ学園医療福祉センター草津 施設長)
			花戸貴司 (東近江市永源寺診療所 所長)

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

今日の科学技術の目覚ましい発展は、それ自身を生み出した社会に大きな影響を及ぼし、人々の生活様式やものの考え方を変えてきた。医学や看護学もまたその科学の一分野であるが、直接、人間の生命現象に深い関わりをもつ点で、他領域とはかなり異なった性格をもっている。諸君は将来、こうした科学技術（医学や看護学）を身につけた専門家として、現に生きている人々、あるいはこれから生まれてくる人々にそれを適用し、人々の健康と福祉の実現に寄与するという仕事に携わることになる。人々は、性や年齢、所属する集団、生活する地域や健康状態などの違いに応じて、健康や福祉に関わる多様な課題を抱えながら生活を営んでいることから、諸君に求められている専門家としてのありようも多様であり、自らがこれからの大学生活を通じて追求していかなければならない。

医学概論の授業は、医療や福祉のさまざまな実践活動に触れることを通じて、医学・看護学を身につけた専門家として相応しい人間性と今後の能動的な学習の契機を形成することを目的とし、以下を学習目標（到達目標）とする。

1. 人々の健康で幸福な生活とは、人々のもつ価値観や社会的背景を踏まえて多様であることを理解し、人権を尊重できる。
2. 生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。
3. 多様な価値観を理解して、多職種と連携し、自己決定権を含む患者の権利を尊重できる。
4. 診療現場における倫理的問題について、自分の考えを述べるができる。
5. 看護職に求められる様々な役割を想起できる。

本講義に係るディプロマ・ポリシー及びアウトカム

1. 医学の歴史と倫理的背景を学び、看護職としてのプロフェッショナリズムに基づいた行動規範を説明できる。PR-01~06
2. 人体の機能維持と生体防御の仕組みを科学的に理解し、疾病の発生機序の基礎を分析できる。PS-02,03,06
3. 対象を多角的に理解し、医療チームにおける多職種間の役割分担と円滑なコミュニケーションの必要性を提示できる。GE-01,IP-03,04 CM-01

4 授業概要

授業は、医療や福祉の第一線で活躍している医療人を講師に招いておこなう。それぞれの領域における医療や福祉活動の特徴を知るとともに、現在直面している課題について考察する。とくに、授業を通じて「人権」や「医の倫理」について考えを深めること求める。授業は、医学科と看護学科の合同授業としてすすめる。

各講義を担当する講師から、講義内容に応じたレポート課題が提示される。受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の大きな<内容>に関して、各自で予め表記<内容>から理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。講義を聞き、知識・考えを広め、そして、レポートを作成する過程で考えを深め、繰り返し思索を深めて行くことが求められる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれる。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	2	大北山	オリエンテーション	医学の定義・使命	臨3
第2回	令和8年4月16日(木)	2	大埴田	医療哲学・倫理	「人間の価値」を考える -無差別平等の道を歩み始める皆さんへ	臨3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第3回	令和8年4月23日(木)	2	大北 口分田	障害者福祉と医療	障がいのある人への医療ーびわこ学園の実践	臨3
第4回	令和8年4月30日(木)	2	大北 藤崎	医療哲学・倫理	医療と人権 ーインフォームドコンセントへ至る道	臨3
第5回	令和8年6月18日(木)	2	大北 長倉	ライフステージにおける 心身の変化と健康課題	終末期ー人の死と向き合う医療	臨3
第6回	令和8年6月25日(木)	2	大北 荻田	障害者福祉と医療	医療と障がい	臨3
第7回	令和8年7月2日(木)	2	大北 花戸	地域医療	診療所の役割と実践 ー地域の人たちとともに生きる医療	臨3
第8回	令和8年7月23日(木)	2	大北 辻川	地域医療	“地域医療”とは?市中病院の役割と実践 ー地域中核病院で地域医療を支える	臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、対面授業を基本として講義形式、小グループによる討論会形式、ロールプレー形式などによる。いずれの授業においても、随時、学生に意見や質問を求めらるので積極的に参加してほしい。

教材としては、スライド提示の他、TVの録画番組なども利用する。

7 評価方法

基本、毎回の授業ごとに、各講師が課題を提示して、レポートの(WebClassを介しての)Web提出を求める。レポートの提出は必ず期限内に行うこと。

レポートでは、授業の受講を契機として、各講師が提示した課題に対して、受講生が自ら感じ考えたことについて、関連して自主的に調べたことにも言及しながら、論述すること。

Web提出されたレポートは、看護学生として真摯に課題に対峙する姿勢、及び、記述内容の合理性論理性について、毎回評価する。尚、レポートを提出していない回の点数は0点となる。提出期限内に受理されたレポート数が、提出を求められている全回数分の3分の2回(2/3の小数点以下を切り上げた回数)を超えない場合は(機械的に)不合格となるので、注意すること。

レポートの提出確認については、学生画面から「成績」>「マイレポート」で各自確認すること。

8 テキスト

各講師によって授業の中で紹介される参考文献や教材資料などを参照して下さい。定められたテキストはありません。

9 オフィスアワー(授業相談)

質問や相談は随時可能です。

不在の場合は、メールで連絡して下さい。

sb@belle.shiga-med.ac.jp 馬場重樹

10 学生へのメッセージ

- 1) 医学・看護学を学ぶ者としてふさわしい「態度」で授業に参加することを求める。
- 2) 他人の考えに耳を傾けることを求める。
- 3) 自分の頭で考えることを求める。
- 4) 自分の意見を率直に表明することを求める。

なお、成績評価はレポート評価の総合点数結果で行う。(学期末試験は行わない。)

解剖生理学 I

1 担当教員名

理事 相見良成

2 配当学年等

第1学年 前期 4単位

3 学修目標

人を対象とする看護の実践にあたっては、人体のあらゆる側面について学び、深く理解することが重要である。このための学修領域のひとつである解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護学教育において最重要の基礎となるものである。この解剖生理学を単なる知識ではなく、看護の現場で自由自在に応用可能な実践的な知識として定着させることを目標とする。

4 授業概要

解剖生理学 I では、人体の構造と機能について、はじめに総論として解剖生理学の基礎を学び、引き続き器官系ごとに系統的に学ぶ。循環器系、呼吸器系、消化器系、組織学、運動器、神経系の順に学修する。1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

器官系ごとの講義は、はじめに解剖学的側面、すなわち「構造」について学び、その後に生理学的側面、すなわち「機能」について学ぶというスタイルを基本とし、これに生化学、病理学、病態生理学など周辺の学修領域についての解説を適宜加える。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	4	相見	解剖生理学概論	講義シリーズ全体のイントロダクション	看2
第2回	令和8年4月13日(月)	5	〃	循環器系1	循環器の概観	看2
第3回	令和8年4月20日(月)	4	〃	循環器系2	心臓の構造と機能1	看2
第4回	令和8年4月20日(月)	5	〃	循環器系3	心臓の構造と機能2	看2
第5回	令和8年4月27日(月)	4	〃	循環器系4	血管の構造と機能	看2
第6回	令和8年4月27日(月)	5	〃	循環器系5	循環器の生理	看2
第7回	令和8年5月11日(月)	4	〃	循環器系6	特殊循環	看2
第8回	令和8年5月11日(月)	5	〃	呼吸器系1	呼吸器の構造と機能1	看2
第9回	令和8年5月18日(月)	4	〃	呼吸器系2	呼吸器の構造と機能2	看2
第10回	令和8年5月18日(月)	5	〃	呼吸器系3	呼吸器の生理	看2
第11回	令和8年5月25日(月)	4	〃	消化器系1	消化器の概観、消化管の構造	看2
第12回	令和8年5月25日(月)	5	〃	消化器系2	消化管の機能	看2
第13回	令和8年6月1日(月)	4	〃	消化器系3	付属器の構造と機能1	看2
第14回	令和8年6月1日(月)	5	〃	消化器系4	付属器の構造と機能2	看2
第15回	令和8年6月8日(月)	4	〃	消化器系5	栄養と代謝	看2
第16回	令和8年6月8日(月)	5	〃	組織学1	細胞の構造と機能	看2
第17回	令和8年6月15日(月)	4	〃	組織学2	上皮組織、支持組織	看2
第18回	令和8年6月15日(月)	5	〃	組織学3	筋組織、神経組織	看2
第19回	令和8年6月22日(月)	4	〃	運動器1	運動器の概観、体幹の骨格	看2
第20回	令和8年6月22日(月)	5	〃	運動器2	体肢の骨格	看2
第21回	令和8年6月29日(月)	4	〃	運動器3	体幹の筋	看2
第22回	令和8年6月29日(月)	5	〃	運動器4	体肢の筋	看2
第23回	令和8年7月6日(月)	4	〃	運動器5	骨の組織学と生理	看2
第24回	令和8年7月6日(月)	5	〃	運動器6	筋の組織学と生理	看2
第25回	令和8年7月9日(木)	4	〃	神経系1	神経系の概観、脊髄神経	看2
第26回	令和8年7月9日(木)	5	〃	神経系2	脳神経と感覚器1	看2
第27回	令和8年7月13日(月)	4	〃	神経系3	脳神経と感覚器2	看2
第28回	令和8年7月13日(月)	5	〃	神経系4	中枢神経系	看2
第29回	令和8年7月27日(月)	4	〃	神経系5	高次脳機能	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第30回	令和8年7月27日(月)	5	相見	総合問題演習	問題形式による復習	看2
第31回	令和8年8月3日(月)	3	〃	試験(13:30~15:00)		看2
第32回	令和8年9月14日(月)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

指定教科書を基本に、スライド、ハンドアウトを用いて講義を展開する。

7 評価方法

定期試験(85%)、平常点(小テスト、受講態度)(15%)

8 テキスト

「系統看護学講座・人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第11版) 医学書院」

9 テキストISBN番号

ISBN978-4-260-04687-9

10 オフィスアワー(授業相談)

まずは aimi@belle.shiga-med.ac.jp へメールで。

11 主担当教員の実務経験

医師

解剖生理学Ⅱ

1 担当教員名

基礎看護学講座 教授

2 配当学年等

第1学年 後期前半 2単位

3 学修目標

人を対象とする看護の実践にあたっては、人体のあらゆる側面について学び、深く理解することが重要である。このための学修領域のひとつである解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護学教育において最重要の基礎となるものである。この解剖生理学を単なる知識ではなく、看護の現場で自由自在に応用可能な実践的な知識として定着させることを目標とする。

4 授業概要

解剖生理学Ⅱでは、講義・演習を通じて、解剖生理学Ⅰと同様に器官系ごとに、分子から個体のレベルについて系統的に学ぶ。泌尿器系、生殖器系、血液、免疫系、内分泌系について学び、さらに成体の正常構造機能のみならず、妊娠、個体の発生、成熟、生殖に関連する解剖生理も学ぶ。1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

講義では、まず解剖学的側面、その後に生理学的側面を学ぶというスタイルを基本とし、これに生化学、病理学、病態生理学など周辺の学修領域についての解説を適宜加える。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月2日(金)	3	基礎看護学講座 教授	泌尿器系1	泌尿器系の概観	看2
第2回	令和8年10月2日(金)	4	〃	泌尿器系2	腎臓の構造と機能1	看2
第3回	令和8年10月9日(金)	3	〃	泌尿器系3	腎臓の構造と機能2	看2
第4回	令和8年10月9日(金)	4	〃	泌尿器系4	泌尿器の生理、体液の調節	看2
第5回	令和8年10月16日(金)	3	〃	生殖器系1	生殖器の概観	看2
第6回	令和8年10月16日(金)	4	〃	生殖器系2	男性生殖器、女性生殖器	看2
第7回	令和8年10月30日(金)	3	〃	生殖器系3	胎児の成長と発達	看2
第8回	令和8年10月30日(金)	4	〃	生殖器系4	妊娠時の母体の解剖と生理	看2
第9回	令和8年11月10日(火)	1	〃	血液1	血液の概観、赤血球	看2
第10回	令和8年11月10日(火)	2	〃	血液2	白血球	看2
第11回	令和8年11月17日(火)	1	〃	免疫系1	皮膚、自然免疫	看2
第12回	令和8年11月17日(火)	2	〃	免疫系2	獲得免疫、アレルギー	看2
第13回	令和8年11月24日(火)	1	〃	内分泌系1	甲状腺、副腎	看2
第14回	令和8年11月24日(火)	2	〃	内分泌系2	視床下部-下垂体系	看2
第15回	令和8年12月4日(金)	3	〃	総合問題演習	問題形式による復習	看2
第16回	令和9年2月12日(金)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看2
第17回	令和9年2月22日(月)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

指定教科書を基本に、スライド、ハンドアウトを用いて講義を展開する。

7 評価方法

定期試験(85%)、平常点(小テスト、受講態度)(15%)

8 テキスト

「系統看護学講座・人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (第11版) 医学書院」

9 テキストISBN番号

ISBN978-4-260-04687-9

10 オフィスアワー（授業相談）

担当教員へ確認してください。

11 主担当教員の実務経験

医師

生 化 学 ・ 栄 養 学

1 担当教員名

教 授 馬 場 重 樹 (基礎看護学講座 (内科学・栄養学)) 非常勤講師
教 授 扇 田 久 和 (生化学・分子生物学講座 (分子病態生化学部門)) 佐々木 雅 也

2 配当学年等

第1学年 後期 2単位

3 学 修 目 標

学習目標 (到達目標)

1. 人間の生命維持過程に必要な代謝と栄養について理解することができる。
2. 人間の生命の連続性を保つ生殖と栄養代謝について理解することができる。
3. 人間の生活と代謝・栄養との関連を考えることができる。
4. 疾患による栄養代謝病態の特徴と、その特徴に応じた栄養管理の基本について考えることができる。
5. 上記の理解をふまえ、代謝・栄養と基本的看護との関連を考えることができる。

本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

1. 看護の基盤となる生命維持・生活行動を理解するための身体の仕組みを理解し、看護実践に活かすことができる。PS-04
2. 各器官および全身の構造・機能、健康障害に対するニーズを分析し、それを活用した看護を実践できる。PS-07

4 授 業 概 要

生命現象を化学の知識で理解する生化学と、栄養素の生体内における吸収、代謝、生理的役割を学ぶ。また、科学的な看護実践を導き出すために必要な代謝学・栄養学を学び、基本的医療である栄養管理に関する知識を習得する。

受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。

各講義の講義資料はWebClassに掲載するので毎回確認すること。

また、各自で電子端末を持参するか、必要に応じて印刷をしておくこと。

各回の講義後に講義内容を復習し疑問点などがあれば担当教員にWebClassより問い合わせる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれる。

5 授 業 内 容

【単元】

※コースガイダンス：基礎看護学と代謝学・栄養学 学習目的・目標の理解

1. 人間の生命維持過程に必要な代謝と栄養
 - 1-1. 生命を維持する過程に必要な栄養素
 - 1-2. 生命を維持する過程に必要な代謝
 - 1-3. 生命を維持する過程に必要な栄養
2. 人間の生命の連続性を保つ生殖
3. 人間の生活と代謝・栄養との関連
 - 3-1. 生活習慣を獲得し発展維持する過程と代謝・栄養
 - 3-2. 社会関係を結び発展維持する過程と代謝・栄養
4. 代謝・栄養と基本的看護との関連

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月6日(火)	1	扇 田	糖質の生化学(1)	糖質の生化学(1)	看4
第2回	令和8年10月6日(火)	2	〃	糖質の生化学(2)	糖質の生化学(2)	看4
第3回	令和8年10月13日(火)	1	〃	脂質の生化学(1)	脂質の生化学(1)	看4
第4回	令和8年10月13日(火)	2	〃	脂質の生化学(2)	脂質の生化学(2)	看4
第5回	令和8年10月20日(火)	1	〃	アミノ酸・タンパク質の生化学(1)	アミノ酸・タンパク質の生化学(1)	看4
第6回	令和8年10月20日(火)	2	〃	アミノ酸・タンパク質の生化学(2)	アミノ酸・タンパク質の生化学(2)	看4
第7回	令和8年10月27日(火)	1	〃	ビタミンの生化学	ビタミンの生化学	看4
第8回	令和8年10月27日(火)	2	〃	ミネラルの生化学	ミネラルの生化学	看4

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第9回	令和8年11月5日(木)	2	馬場	栄養不良と栄養評価	栄養不良と栄養評価	看2
第10回	令和8年11月12日(木)	2	佐々木	経腸栄養法	経腸栄養法	看2
第11回	令和8年11月20日(金)	1	大井	栄養所要量と病院給食	栄養所要量と病院給食	看2
第12回	令和8年11月26日(木)	2	栗原	母性看護と栄養	妊娠期・分娩期・授乳期の栄養など	看2
第13回	令和8年12月3日(木)	2	附属病院 看護師	摂食嚥下	摂食嚥下	看2
第14回	令和8年12月10日(木)	2	馬場	病態別栄養管理Ⅰ	消化器疾患など	看2
第15回	令和8年12月24日(木)	2	〃	病態別栄養管理Ⅱ	がん、高齢者など	看2
第16回	令和9年2月15日(月)	3	〃	試験(13:30~14:20)【50分】		看2
第17回	令和9年3月1日(月)	3	〃	再試験(13:30~14:20)【50分】		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式で行う。

本シリーズの講義は座席指定で行う。

生化学のテキストは各自で必ず購入し、講義の際に持参すること。(テキストは不定期に改版されるため、最新版を購入すること。)

授業で用いる主な資料はWebClassに掲載をする。

紙での配布は基本的には行わない。

また板書やスライドも適宜使用する。

出席確認は座席位置で判断するため、指定された場所に必ず着席すること。

7 評価方法

総括的評価

- ・定期試験：多肢選択式(90%)
- ・平常点

形成的評価：小テスト(10%)

態度評価：授業における出席態度により加点、減点することがある。

8 テキスト

【教科書】

生化学…「生化学―人体の構造と機能[2]」系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 第14版 (ISBN: 978-4-260-03556-9)

栄養学…「栄養学―人体の構造と機能[3]」系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 第13版 (ISBN: 978-4-260-03861-4)

(テキストは不定期に改版されるため、最新版を購入すること。)

9 参考文献

【参考書籍】

栄養学…『臨床栄養学』ナーシング・グラフィカ

日本臨床栄養代謝学会 JSPENテキストブック 南江堂

ハーパー生化学 原書25版, 丸善

イラストレイテッド生化学 原書3版, 丸善

10 オフィスアワー(授業相談)

毎週金曜日の12:00~13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

11 学生へのメッセージ

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

12 主担当教員の実務経験

医師

病態生理学

1 担当教員名

教授 喜多伸幸 (実践看護学講座 (クリティカルケア学))

2 配当学年等

第1学年 後期後半 2単位

3 学修目標

- ①関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。
病態生理学は人体の正常な機能に異常を来たす、あるいはその調節機能に破綻が生じた場合、我々の身体がどのような対応・反応するのか、またそれはどのような生理学的機序に基づいて引き起こされるのかを解き明かす学問であり、病態診断のプロセスを生理学的に理解することを目標とする。
- ②本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム
DP2
B. 看護学の知識と技術
臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進

4 授業概要

病態生理学は、およそ代謝、呼吸、循環、脳、環境病態生理学に大別されるが、代表的な疾患に対する疾患への理解を目的とする。

担当教員は臨床医として、長年、実地臨床に携わっている。そのため、本講義で提示する各種疾患に対して病態生理学的視点に立ち、包括的に解説することが可能である。

なお、1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

人体の主要臓器別に、疾患の病態生理を解説する。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年12月1日(火)	1	喜多	生理学の基礎的知識1	看2
第2回	令和8年12月1日(火)	2	〃	生理学の基礎的知識2	看2
第3回	令和8年12月8日(火)	1	〃	体温調節の病態生理	看2
第4回	令和8年12月8日(火)	2	〃	免疫反応の病態生理	看2
第5回	令和8年12月22日(火)	1	〃	体液調節の病態生理	看2
第6回	令和8年12月22日(火)	2	〃	血液の病態生理	看2
第7回	令和9年1月5日(火)	1	〃	循環調節の病態生理	看2
第8回	令和9年1月5日(火)	2	〃	呼吸調節の病態生理	看2
第9回	令和9年1月19日(火)	1	〃	消化・吸収の病態生理	看2
第10回	令和9年1月19日(火)	2	〃	腎・泌尿器の病態生理	看2
第11回	令和9年1月26日(火)	1	〃	内分泌・代謝の病態生理	看2
第12回	令和9年1月26日(火)	2	〃	生殖器の病態生理	看2
第13回	令和9年2月2日(火)	1	〃	脳神経の病態生理	看2
第14回	令和9年2月2日(火)	2	〃	筋肉の病態生理	看2
第15回	令和9年2月9日(火)	1	〃	感覚器の病態生理	看2
第16回	令和9年2月17日(水)	1	〃	試験 (9:00~10:30)	看2
第17回	令和9年3月3日(水)	2	〃	再試験 (11:00~12:30)	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、代謝、呼吸、循環、脳、環境等各分野別のオムニバス形式の講義となる。
講義では、出来る限り資料配付を行う。
基本科目責任者が講義を担当するが、必要に応じて専門分野の医師に依頼する。
視聴覚機器：スライド、ビデオなどを活用する。

7 評価方法

学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行うが、全体の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。成績評価方法として、定期試験や受講態度等により以下に示すように総合的に判断する。

①包括的評価

- ・定期試験（80%）：試験範囲は講義・演習全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
- ・平常点（20%）：授業での発言状況・質疑応答の内容、課題の提出状況並びにその内容

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

成績評価基準は、上記に従い点数化し、最終的に60%以上の得点を終了の認定要件とする。得点が前記未満の場合は、平常点を加味して再試験の可否を判定する。

8 テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学（医学書院）

9 オフィスアワー（授業相談）

予め科目責任者のメール（nkita@belle.shiga-med.ac.jp）に相談内容の概要を記載し、追って授業相談の日時・場所等を決定する。

10 授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

医師

感染症学・免疫学

1 担当教員名

准教授 旦部 幸博 (病理学講座(微生物感染症学部門))
講師(学内) 北川 善紀 (病理学講座(微生物感染症学部門))

2 配当学年等

第1学年 後期後半 1単位

3 学修目標

以下の項目について理解・習得し、説明できるようになる。

- 1) 病原体(細菌、ウイルス等)の特徴と性質を概説できる(コアカリ PS-11-04)
- 2) 感染の成立と感染経路、市中感染や医療関連感染や新興感染症を説明できる(コアカリ CS-04-02-02; QS-05; PS-11-04)
- 3) 常在菌と宿主の相互関係を概説できる(コアカリ PS-04-01-02)
- 4) 免疫のしくみ、自然免疫と獲得免疫、免疫関連組織や細胞等を説明できる(コアカリ QS-05-03-02; PS-11-03)
- 5) ワクチンを説明できる(コアカリ QS-05-03)
- 6) 感染症法を概説できる(コアカリ SO-07-01-02)
- 7) 感染症の予防と感染防止対策(標準予防策)、滅菌・消毒を説明できる(コアカリ QS-05; CS-04-02-1)
- 8) 感染症の検査と診断を概説できる(コアカリ PS-11-04)
- 9) 抗感染症薬、抗菌薬と薬剤耐性について概説できる(コアカリ PS-11-04)
- 10) 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。(主なウイルス感染症、主な細菌感染症等)(コアカリ PS-11-04)

以上の学修を通して、当講義では以下のDP・アウトカムに関する理解を深め習熟することができる。

DP-2) B. 看護学の知識と技術:(1)人体の構造と機能、(2)疾病の成立と回復の促進

DP-3) C. 課題対応能力と看護実践能力:(5)感染防止対策

4 授業概要

感染症は、病原体がヒトに感染して引き起こす疾患である。本講義は、感染症の原因となる病原体(細菌やウイルス等)と、それに対抗するための感染防御機構(免疫)を中心に、感染症の成り立ちと、予防・診断・治療について学習し、これらを理解できることを目的とする。

講義で使用する資料は、原則として講義の数日前からWebClass上で閲覧可能とするので、予めその資料に目を通しておくことが望ましい。講義終了後には、対応する教科書の箇所を通し、理解度の確認のため、毎回出題されるWebClass上の小テストを実行して回答すること。また講義後には、講義中に分からなかった部分などを資料プリントや教科書、参考書、講義後に公開される動画(原則、録画対応予定とする)などを活用して、自主的に復習すること。

1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

病原体には細菌やウイルス、真菌や原虫などの微生物や寄生虫が存在する。これらの病原体は、それぞれ異なる生物学的な性質や特徴を持ち、さまざまな感染経路で宿主に侵入する。その結果として発症するのが感染症である。一方で、人体にはこれらの病原体に対抗するため、感染防御機構である免疫が備わっており、実際に感染・発病に至るかどうかは、病原体と宿主の力のバランスにより決定される。免疫は非常に高度で優れた防御機構だが、それだけで感染症を完全には防げない。そのため医療分野においては、ワクチンや消毒滅菌などのさまざまな予防手段や、発病した後の治療薬が開発され、多くの成果を上げてきた。しかし、新型コロナに代表される新興感染症や薬剤耐性菌の出現、医療関連感染など、新たな問題も生じている。本講義では、こうした近況を含めて、感染症を概説し、その対策について考察する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年11月4日(水)	3	旦部	微生物とは どのようなものか(1)	細菌・真菌	看2
第2回	令和8年11月11日(水)	3	北川	微生物とは どのようなものか(2)	ウイルス・原虫	看2
第3回	令和8年11月18日(水)	3	旦部	感染の成立と 宿主の関係	感染と発病 感染源と感染経路 常在細菌	看2
第4回	令和8年11月25日(水)	3	北川	生体防御機構(1)	感染防御免疫の概論、自然免疫	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年12月2日(水)	3	北川	生体防御機構(2) 感染症の予防(1)	獲得免疫 ワクチン	看2
第6回	令和8年12月9日(水)	3	旦部	感染症の予防(2)	感染症法 滅菌・消毒・標準予防策	看2
第7回	令和8年12月23日(水)	3	〃	感染症の診断と治療	感染症診断と検査、化学療法の概要・薬剤耐性・抗感染症薬	看2
第8回	令和9年1月6日(水)	3	北川	微生物各論	ブドウ球菌・大腸菌・結核菌・HIV・インフルエンザウイルス・肝炎ウイルスほか	看2
第9回	令和9年2月15日(月)	2	旦部	試験(11:00~12:30)		看2
第10回	令和9年3月1日(月)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

液晶プロジェクターでスライド(Powerpoint等)を投射して講義を行う。スライドに対応する資料プリントを(原則として講義の数日前から)WebClass上で配布する。各自ダウンロードした資料プリントに、必要に応じて要点のマークやメモを取りながら受講することを薦める。講義終了後に、理解度確認のための小テストがWebClass上で出題されるので、受講後、指定された期間内に実行し回答すること。

7 評価方法

①総括的評価

- ・定期試験(80%)と毎回の小テスト(20%)により評価する。
 - 定期試験:マークシートによる多肢選択式
 - 小テスト:Web Classによる多肢選択式
- ・定期試験、小テスト合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・毎回のレジュメ末尾に練習問題を掲載する。解答はWeb Classにて公開。

③態度評価

- ・授業での発言等で学修意欲を評価する。私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

資料プリントを毎回配布する。また教科書として、系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学(疾病のなりたちと回復の促進[4]) 医学書院を使用する。

9 参考文献

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[4] 医学書院

参考文献

看護学テキスト 微生物学・感染症学 中野 隆史/編 南江堂
 イラストでわかる微生物学超入門 齋藤光正 著 南山堂
 戸田新細菌学 柳 雄介・林 哲也・山崎 晶/編 南山堂
 スタンダード微生物学 土肥義胤、山本容正、宇賀昭二 著 文光堂
 JANEWAY'S 免疫生物学 笹月健彦、吉開泰信/翻訳 南光堂
 感染管理・感染症看護テキスト 大曲 貴夫・操 華子/編 照林社
 人類と感染症の歴史 加藤茂孝 著 丸善出版
 最小にして人類最大の宿敵 病原体の世界 歴史をも動かすミクロの攻防 旦部幸博、北川善紀著、講談社ブルーバックス

 はじめの一歩のイラスト感染症・微生物学 本田武司/編 羊土社
 絵でわかる感染症 岩田健太郎著 講談社

10 オフィスアワー(授業相談)

授業に関する疑問点、質問などは授業中、授業後いつでも受け付けます。また、基礎研究棟の微生物感染症学部門の研究室はいつでもオープンにしているので、授業に関する質問、相談などに来ていただいても結構です。

11 学生へのメッセージ

新型コロナや新型インフルエンザ、エボラ熱などの出現や、肉生食による食中毒、効果の怪しい抗菌グッズ……社会的な関心が高い反面、それだけにいろいろな風説やデマも広まっている分野です。微生物や感染症についての基本的な考え方を身に付けることは、医療人として必要なだけでなく、皆さんが将来の生活を送る上でもきっと役に立つでしょう。

12 参考E-mail 1

tambe@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 2

yoshikit@belle.shiga-med.ac.jp

フィジカルアセスメント

1 担当教員名

講師	山下	敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	笠原	聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
准教授	玉木	朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩	茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘	由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 後期 2単位

3 学修目標

1. 人体の構造と機能について、生体の観察、人体標本の観察などを通じて多面的、実践的に理解し、フィジカルアセスメントに活用できる。(知識・理解)
2. 的確なフィジカルイグザミネーションを行い、正確な情報を取得・分析することができる。(技能)
3. 得られた情報より、対象者についてアセスメントができる。(思考・判断・表現)
4. 看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。(関心・意欲・態度)

本講義で習得する「資質・能力(看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力(看護学教育モデル・コア・カリキュラム)

CS：患者ケアのための臨床スキル PS：専門知識に基づいた問題解決能力 等における関連項目の資質・能力を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践(予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

4 授業概要

【教育目的】

人体の構造と機能を基盤として、看護実践に必要なフィジカルアセスメントの基礎を修得する科目である。生体の観察、人体標本等の観察、フィジカルイグザミネーションの演習を通じて、対象者の状態を的確に把握するための観察・測定・記録・解釈の方法を学ぶ。得られた情報を統合し、根拠に基づいてアセスメントを行い、看護計画立案につながる臨床判断の基礎を形成する。あわせて、看護を学ぶ者としてのルール・規範を遵守し、安全・感染対策に配慮した学習行動を身に付ける。

【準備学修】

各回の学習内容に対応する予習を行う。配布資料・教科書・Webclass等で提示する事前学習課題を確認し、必要な解剖生理・病態生理の要点を整理した上で授業に臨む。演習時は、手技の目的・手順・禁忌・安全上の注意点(感染防止、プライバシー、転倒・皮膚損傷予防等)を事前に理解し、演習で使用する物品・服装・身だしなみ等の準備を整える。

【事後学修】

授業・演習で得た所見を整理し、正常範囲と逸脱所見、観察結果の意味づけ(解釈)を復習する。演習後は、実施した手技の妥当

性と課題を振り返り、演習レポートを作成する。必要に応じて、関連する解剖生理・病態生理を再確認し、次回の演習に向けて技能の定着を図る。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価の配分を修正した。

5 授 業 内 容

本授業は演習科目であり、演習室における実技演習を中心に実施する。

各回の講義・演習は事前学修（予習）を前提に進行するため、指定する資料（WebClass掲載資料、配付資料等）を確認し、必ず予習してから参加すること。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1・2回	令和8年10月5日(月)	3・4	笠原 玉木 山下 色摩 橘	ガイダンス フィジカルアセスメントとは	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメントの意義と重要性（総論、アセスメントとは） ・フィジカルイグザミネーションの技術（問診、視診、触診、打診、聴診） 	看2 看実
第3・4回	令和8年10月6日(火)	3・4	〃	バイタルサインの測定技術①	<p>【グループ演習： 3グループに分かれて演習を行う】 （循環器、呼吸器の評価、体温の評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器の評価（循環器系の基礎知識、アセスメントの実際、脈拍・血圧測定） ・呼吸器の評価（呼吸器系の基礎知識、アセスメントの実際、酸素療法） ・体温の評価（体温測定の基礎知識、電法） 	看2 看実
第5・6回	令和8年10月13日(火)	3・4	〃	バイタルサインの測定技術①	<p>【グループ演習： 3グループに分かれて演習を行う】 （循環器、呼吸器の評価、体温の評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器の評価（循環器系の基礎知識、アセスメントの実際、脈拍・血圧測定） ・呼吸器の評価（呼吸器系の基礎知識、アセスメントの実際、酸素療法） ・体温の評価（体温測定の基礎知識、電法） 	看2 看実
第7・8回	令和8年10月20日(火)	3・4	〃	バイタルサインの測定技術①	<p>【グループ演習： 3グループに分かれて演習を行う】 （循環器、呼吸器の評価、体温の評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器の評価（循環器系の基礎知識、アセスメントの実際、脈拍・血圧測定） ・呼吸器の評価（呼吸器系の基礎知識、アセスメントの実際、酸素療法） ・体温の評価（体温測定の基礎知識、電法） 	看2 看実
第9・10回	令和8年10月28日(水)	3・4	〃	バイタルサインの測定技術②	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定とは（バイタルサイン測定の意義目的、正しく測定するために） ・意識レベルの評価（意識状態のアセスメント、観察技術） ・報告 	看実
第11・12回	令和8年11月6日(金)	1・2	〃	消化器・泌尿器系の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器系・泌尿器系の評価（腹部の基本構造と機能、腹部のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション） 	看実 看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第13・14回	令和8年11月6日(金)	3・4	笠原 玉木 山下 色摩 橘	筋・骨格系の 評価	・筋・骨格系の評価(筋・骨格系の基本構造と機能、筋骨格系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション) ・関節可動域(ROM)の測定 ・徒手筋力検査(MMT)	看2 看実
第15・16回	令和8年11月9日(月)	3・4	〃	練習日	バイタルサイン測定	看2 看実
第17・18・19回	令和8年11月16日(月)	3・4・5	〃	【実技試験】	対象把握の手段としての情報収集手技	看2 看実
第20・21回	令和8年11月30日(月)	3・4	〃	頭頸部・神経系・感覚器系の 評価	・頭頸部の評価(頭頸部の基本構造と機能、頭頸部のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション) ・神経系の評価(神経系の基本構造と機能、神経系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、感覚・知覚機能の検査、反射の検査) ・感覚器系の評価(感覚器系の基本構造と機能、感覚器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション) ・褥瘡のアセスメント	看2 看実
第22回	令和8年12月7日(月)	3	〃	フィジカルアセスメントのまとめ	・成長発達に伴うアセスメント ・まとめ	看2
第23・24・25回	令和8年12月21日(月)	3・4・5	〃	【実技試験(再試験)】	対象把握の手段としての情報収集手技	看2 看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

上記、授業の順序や教室などは、授業の進行状況によって一部変更する場合があります。

授業は講義・演習より構成され、適宜グループワークなども行う。

授業に際しては関連項目に関する予習を課し、講義の中ではシミュレーター教材やWeb素材なども使用する。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

グループ実習では、20人程度の小グループに分かれて講義・演習を行う。

7 評価方法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

①総括的評価

実技試験(40%)：バイタルサイン測定について、実技試験を行う。

平常点(60%)：グループワークの成果物・演習レポート、講義演習での発言状況や演習への参加状況で評価する

②形成的評価

演習で提示する課題や実技試験については実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言などの参加態度から学修意欲を評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。

また、技術試験で60%以上の評価を得ることと全講義数の3分の2以上の出席(演習参加・演習レポート提出)をもって単位修得要件とする。

8 テキスト

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版

9 参考文献

フィジカルアセスメントがみえる 第1版，メディックメディア，2015.

その他適宜紹介・配布する

10 オフィスアワー（授業相談）

まずはメールで連絡してください。

11 学生へのメッセージ

演習は体験することが重要です。体調を整えて欠席しないようにしてください。

12 授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

看護学概論 I

1 担当教員名

教授 笠原聡子（基礎看護学講座（基礎看護学））

2 配当学年等

第1学年 前期前半 1単位

3 学修目標

■本実習では、以下を学修目標とする。

1. 看護の基本的概念と看護学を支える理論体系を理解できる。
2. 看護の歴史の変遷、ならびに現代における看護の位置づけと今後の発展を理解できる。
3. 看護の対象および役割と機能について説明できる。
4. 看護学は看護実践を導く理論として構築された学問領域であることを理解する。
5. 看護実践は人びとのQOLの維持・向上やヘルスプロモーションを目指したダイナミックな活動であることを理解する。
6. エビデンスに基づく看護実践の重要性と看護とデータサイエンスの関係について理解する。

■本実習で修得する「資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）」のうち、

GE：対象を総合的・全人的に捉える能力、PR：プロフェッショナリズム、CM：コミュニケーション能力、PS：専門知識に基づいた問題解決能力等における関連項目の“資質・能力”を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
7. 小児期にある人々に対する看護実践
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

【教育目的】

看護学の基本概念、役割等看護学の基本を学習し、看護学初学者としての自己の看護に対する考えがもて、自らの看護観を培う基盤を養う。

【準備学修・事後学修】

予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてくる。また、事後学修として適宜課題を出す。各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれる。

【2026年度の工夫・改善事項】

- ・修得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価方法の配分を修正した。

5 授 業 内 容

講義とグループワークによって、看護学の導入として専門職看護の機能や役割について学びをすすめていく。予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてくる。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月14日(火)	3	笠原	オリエンテーション 看護の変遷	・オリエンテーション ・グループビルディング ・看護の始まりと理論化のあゆみ ・看護とデータサイエンス 【予習】教科書第1部1-5を読んてくる 【課題1】看護は社会の中のどこで提供されるのか (グループ課題)	看2
第2回	令和8年4月14日(火)	4	〃	看護の基本概念	・看護の定義と特性、基本概念 ・看護の対象(統合体としての人間) ・健康の概念 【予習】教科書第1部1-1と2-1、3-1~3-5 を読んてくる 【課題2】生活とは(個人課題)	看2
第3回	令和8年4月21日(火)	3	〃	看護と専門職	【課題2の発表】生活とは ・専門職とは ・職業としての看護 【予習】教科書第1部1-3と1-4を読んてくる	看2
第4回	令和8年4月21日(火)	4	〃	看護理論の概要	・看護理論と実践 ・看護理論の分類と変遷 ・人間関係 【予習】教科書第2部5-1~5-3を読んてくる 【課題3】各理論(グループ課題)	看2
第5回	令和8年4月28日(火)	3	〃	看護の役割と機能	【課題1の発表】看護は社会の中のどこで提供されるのか	看2
第6回	令和8年4月28日(火)	4	〃	看護の対象	・看護の対象とその理解 ・ライフサイクルと健康 【予習】教科書第1部2-2~2-4、4-1~4-3 を読んてくる	看2
第7回	令和8年5月12日(火)	3	〃	看護理論	【課題3の発表】看護理論(ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム) 【予習】教科書第2部5-4,5-5を読んてくる	看2
第8回	令和8年5月12日(火)	4	〃	看護理論	【課題3の発表】看護理論(ウィーデンバック・トラベルビー・ロイ) 【予習】教科書第2部5-4,5-5を読んてくる	看2

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

【授業形式】

授業は、授業計画の内容について事前・事後課題、講義およびグループワークなどを通じて展開する。また、予習してきたことをもとに学生に質問しながらすすめていく。

【授業形態】

スライド、動画等を使用

7 評価方法

①総括的評価

- ・課題：個人（30%）
- ・課題：グループ（60%）
- ・平常点（10%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

- ・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・志々岐康子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護学1 看護学概論, メディカ出版.
- ・フロレンス ナイチンゲール（著）/薄井 坦子 小玉 香津子 湯楨 ます 田村 真 小南 吉彦（訳）：看護覚え書（第8版），現代社.

*これらの教科書は「看護学概論Ⅱ」でも継続して使用する

9 オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10 学生へのメッセージ

本科目は、皆さんにとって看護学について学ぶ最初の科目であり、看護学の知的体系への導入となる科目でもあります。さまざまなことに関心を持ち、看護を学ぶ第一歩を踏み出してみてください。

11 授業用E-mail

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

看護学概論Ⅱ

1 担当教員名

教授 笠原聡子（基礎看護学講座（基礎看護学））

2 配当学年等

第1学年 後期前半 1単位

3 学修目標

■本実習では、以下を学修目標とする。

1. 保健医療福祉活動における看護の特徴と課題について説明できる。
2. 看護の法的責務について説明できる。
3. 看護の思考の展開の基礎についてわかる。
4. これからの看護の課題と展望について自己の考えを整理できる。

■本実習で修得する「資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）」のうち、

GE：対象を総合的・全人的に捉える能力、PR：プロフェッショナリズム、LL：生涯学習能力、SO：地域社会における健康支援、QS：ケアの質と安全管理、IP：多職種連携能力、CS：患者ケアのための臨床スキル、CM：コミュニケーション能力、PS：専門知識に基づいた問題解決能力等における関連項目の“資質・能力”を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
7. 小児期にある人々に対する看護実践
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

DP8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

看護学概論Ⅱでは、保健・医療・福祉の中の看護のあり方を概観し、専門職看護として、社会の中で看護のあり方を考察する。現在の社会問題を材料に、個人またはグループディスカッションを行いながらすすめていく。

【準備学修・事後学修】

予習をもとに授業をすすめるため、指定した教科書の範囲は予習をしてくる。また、事後学修として適宜課題を出す。各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行うことによって理解を深めることが望まれる。

【履修要件】

「看護学概論Ⅰ」を履修済みであること

【2026年度の工夫・改善事項】

- ・修得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価方法の配分を修正した。

5 授 業 内 容

以下授業内容のとおり

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月7日(水)	2	笠原	オリエンテーション 保健・医療・福祉システム①	・保健・医療・福祉の概念 ・保健・医療・福祉サービス提供の場 【予習】教科書第3部10-1,10-2を読んでくる	看2
第2回	令和8年10月14日(水)	2	〃	保健・医療・福祉システム②	・保健・医療・福祉のチーム ・多職種で取り組む地域包括ケアシステム ・看護サービスの経済的評価 ・看護サービスに対する評価 【予習】教科書第3部10-3～10-6を読んでくる	看2
第3回	令和8年10月21日(水)	2	〃	医療コミュニケーション	・医療におけるコミュニケーション ・早期体験実習におけるコミュニケーションの振り返り、基礎看護学実習Ⅰでのコミュニケーション実習に向けた準備を含む 【課題1】プロセスレコード(個人課題)	看2
第4回	令和8年11月4日(水)	2	〃	看護活動の思考の展開方法	・看護過程とは ・看護実践における看護過程の展開 【予習】教科書第2部8を読んでくる 【課題2】演習ワーク(個人課題)	看2
第5回	令和8年11月11日(水)	2	〃	看護の法的側面	・看護と法のかかわり ・看護における法的基盤 【予習】教科書第3部9を読んでくる	看2
第6回	令和8年11月18日(水)	2	〃	看護の展開と継続性	・看護の継続性と継続看護 ・多職種連携・協働における看護 【予習】教科書第3部11を読んでくる 【復習】継続看護の必要性について考察する。	看2
第7回	令和8年11月25日(水)	2	〃	看護とキャリア	・これからの看護の課題と展望 【予習】教科書序章2,3第4部13を読んでくる 【復習】今の自分が考える看護職としてのキャリア発達についてまとめてみる	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第8回	令和8年12月2日(水)	2	笠原	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと補足 (「早期体験実習」のフィードバックと「基礎看護学実習Ⅰ」に向けてのまとめを含む) 【復習】自分が関心を持つテーマについて、文献データベースを用いて検索し、入手した文献を通読し学びを深める 	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

【授業形式】

授業は、授業計画の内容について事前・事後課題、講義およびグループワークなどを通じて展開する。また、予習してきたことをもとに学生に質問しながらすすめていく。

【授業形態】

スライド、動画等を使用

7 評価方法

①総括的評価

- ・最終レポート (50%)
- ・課題 (40%)
- ・平常点 (10%)：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

- ・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・志々岐康子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護学Ⅰ 看護学概論, メディカ出版.
- ・フロレンス ナイチンゲール (著) / 薄井 坦子 小玉 香津子 湯楨 ます 田村 眞 小南 吉彦 (訳) : 看護覚え書 (第8版), 現代社.

* 「看護学概論Ⅰ」で使用したものを継続して使用する

9 オフィスアワー (授業相談)

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

10 学生へのメッセージ

専門科目も増えてきました。本講義の前後に施設や病院での実習もはさみますので、学内での授業に実習体験をいかしてみてください。

11 授業用E-mail

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

看護過程 I

1 担当教員名

准教授 玉木 朋子 (基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教 色摩 茉衣子 (基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教 橘 由香 (基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 後期後半 1単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

1. 看護過程とは何かについて説明できる。
2. 対象を理解するための視点が理解できる。
3. 対象の全体像を理解するための身体、心理、社会面における情報の整理が実施できる。
4. 収集・整理した情報をもとに看護の視点でアセスメントすることができる。

本講義で習得する「資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)

GE: 対象を総合的・全人的に捉える基本的能力
PS: 専門的知識に基づいた問題解決能力
CS: 患者のケアのための臨床スキル
CM: コミュニケーション能力

②本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP 1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP 2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP 3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP 4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授業概要

【教育目的】

看護過程は看護専門職として科学的な看護ケアを提供するための思考過程である。本授業においては、看護過程展開のために必要な知識・考え方と看護上の問題を解決するためのプロセスを学習する。その具体的方法については事例を用いてアセスメントするまでを行い、看護問題を明確化する過程を理解する。

【準備学修・事後学修】

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれます。

【本授業を担当する教員の研究と授業の関係性】

担当教員は、看護教育およびシミュレーション教育を研究テーマとしてきた。本授業では、その知見を活かし、事例や模擬的な場面を用いて、1年次学生が情報整理とアセスメントの考え方を基礎から学べるよう支援する。看護過程を「考え方の流れ」として理解することを重視する。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。
- ・課題FB担当教員をグループごとではなく、学生番号ごととし、GW時に違う教員のFBを共有できるようにすることでGWを効果的に行えるようにした。

*この科目は2年生看護過程Ⅱの前提の位置づけである。

5 授業内容

授業では、事例を用いて情報収集のポイントやアセスメントの方法について講義、課題、GW、発表を通して学習する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月9日(水)	2	玉木 色摩 橘	授業ガイダンス 看護過程の展開とは 情報収集・情報整理 とアセスメント ゴードンの健康機能 パターンの枠組み	患者理解と看護過程の展開について 事例の提示(模擬カルテの見方)、事例患者の疾患 の理解 看護の視点での情報収集・情報整理の方法と意義 看護におけるアセスメントの方法 ゴードンの健康機能パターンの枠組みについて	看2
第2回	令和8年12月23日(水)	2	〃	ゴードンの健康機能 パターンとアセスマ ント①	ゴードンの健康機能パターンを用いた情報整理とア セスメント:健康管理・健康知覚パターンについて 情報整理とアセスメントをおこなう。	看2
第3回	令和9年1月6日(水)	2	〃	ゴードンの健康機能 パターンとアセスマ ント②	ゴードンの健康機能パターンを用いた情報整理とア セスメント:栄養・代謝パターンについて情報整理 とアセスメントをおこなう。	看2
第4回	令和9年1月13日(水)	2	〃	ゴードンの健康機能 パターンとアセスマ ント③	ゴードンの健康機能パターンを用いた情報整理とア セスメント:排泄パターン、活動・運動パターンに ついて情報整理とアセスメントをおこなう。	看2
第5回	令和9年1月13日(水)	3	〃	看護診断①	看護診断ハンドブックを用い、ゴードンの機能パ ターンに基づいた仮の看護診断の実施方法について 学修する。	看2
第6回	令和9年1月20日(水)	3	〃	ゴードンの健康機能 パターンとアセスマ ント④	ゴードンの健康機能パターンを用いた情報整理とア セスメント:睡眠パターン、認知・知覚パターン、 自己知覚・自己概念パターンについて情報整理とア セスメントをおこなう。	看2
第7回	令和9年1月27日(水)	2	〃	ゴードンの健康機能 パターンとアセスマ ント⑥	ゴードンの健康機能パターンを用いた情報整理とア セスメント:役割・関係パターン、セクシュアリ ティー・生殖パターン、コーピング・ストレス耐性 パターン、価値・信念パターンについて情報整理 とアセスメントをおこなう。	看2
第8回	令和9年2月3日(水)	2	〃	看護診断② まとめ	ゴードンの健康機能パターンでおこなったアセスマ ントを俯瞰しながら患者の全体像をとらえ、問題の 明確化にむけた視点を理解する。 これまで情報整理とアセスメントを実施したゴード ンの機能パターンの仮の看護診断を実施する。	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

紙上事例を用いて看護過程の展開を行う。グループワーク、グループディスカッションを含めた講義形式での授業です。授業中に個々で取り組むワークをおこないながら理解を深めていきます。本授業はオンデマンド配信はございません。

7 評価方法

総括的評価

- ・課題（50%）
- ・講義・グループワークで加筆修正したアセスメント用紙の最終レポート（30%）

形成的評価

- ・授業で提示するワークについては実施の都度フィードバックをおこなう。

態度評価

- ・グループワークの積極的参加等で学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

最終レポートの期限内の提出がない場合は評価を行わない。

全講義数の3分の2以上の出席を満たすことで評価の対象とする。

8 テキスト

リンダJカルベニート：看護診断ハンドブック. 医学書院

9 オフィスアワー（授業相談）

随時対応します。水曜日10時30分～16時30分は優先的に対応します。可能であれば事前に連絡してください。

10 学生へのメッセージ

臨地実習につながる大事な科目です。課題学習・グループワークには主体的に臨んでください。

課題に十分に取り組むことが本授業の基盤になります。また、本講義はGWと解説を中心に授業が構成されています。一方向型の授業ではないので出席し、積極的に参加することを期待します。

ICTを活用してグループワークをおこないますので、ノートパソコンまたはタブレットを持参してください。

また、本授業ではペーパーレス化をすすめており、紙媒体での資料配付は最低限としています。資料のダウンロードと保存は各自でおこなってください。

本授業で使用した授業資料や課題ファイルは看護過程Ⅱでも使用しますので、看護過程Ⅱ終了まで保管しておいてください。

11 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

tamaki@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護技術 I

1 担当教員名

講師	山下	敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	笠原	聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
准教授	玉木	朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩	茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘	由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 前期後半 1単位

3 学修目標

本講義における学習目標は以下の通りである。

1. 看護技術の意義について理解する。
2. 援助者として人々に関わるための基本的なコミュニケーションの技術を習得する。
3. 無意識に過ごしている「日常生活」「生活行動」について概念化ができる。
4. 人々をとりまく環境・健康・生活の関連について理解することができる。
5. 看護技術の対象となる「生活」の意味について理解できる。
6. 援助者として人々に関わるために必要な環境整備の技術を習得する。
7. グループでひとつの課題を明らかにし、プレゼンテーションができる。
8. 看護職者として必要な協調的態度を身に付ける。

本講義で習得する「資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）

GE：対象を総合的・全人的に捉える能力 QS：ケアの質と安全管理 IP：他職種連携能力 CS：患者ケアのための臨床スキル
CM：コミュニケーション能力 PS：専門知識に基づいた問題解決能力 等における関連項目の資質・能力を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門家としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

本講義は、看護技術を「手順」ではなく「生活者としての人間に関わる援助の方法」として捉える基盤をつくることを目的とする。

学生自身の“無意識に営んでいる日常生活”を出発点に、生活行動（食事・排泄・清潔・睡眠・活動・休息等）を概念化し、人々の健康・環境・生活の相互関係を理解する。さらに、援助者として対象と関わるための基本的コミュニケーション、ならびに安全で安楽な生活を支える環境整備の基礎を学修する。講義に加えてグループワーク・プレゼンテーションを通して課題を明確化し、協調的態度と学術的な表現力を養う。これにより、看護の対象である「生活」の意味を理解し、以後の基礎看護技術の学修（観察・援助・記録・安全等）につながる土台を形成する。

【準備学習・事後学修】

予習を前提として講義・演習を進める。

事後学修としては適宜演習レポートなどの課題を課す。

各回の講義に対し60分の予習と30分の復習を行い理解を深めることが望まれる。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価の配分を修正した。

5 授 業 内 容

本授業は演習科目であり、演習室における実技演習を中心に実施する。

各回の講義・演習は事前学修（予習）を前提に進行するため、指定する資料（WebClass掲載資料、配付資料等）を確認し、必ず予習してから参加すること。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年5月19日（火）	3	笠原 玉山下 山摩 色橋	看護技術とは① 人間関係を 発展させる技術 (コミュニケーション)	・看護技術とは ・コミュニケーションの概念と基本原理 ・自分のコミュニケーションの傾向を振り返る ・効果的なコミュニケーションと演習 【予習】自身のコミュニケーションについて振り返る	看2
第2回	令和8年5月19日（火）	4	〃	看護技術とは② 人間関係を 発展させる技術 (コミュニケーション)	・看護技術とは ・コミュニケーションの概念と基本原理 ・自分のコミュニケーションの傾向を振り返る ・効果的なコミュニケーションと演習 【課題】課題レポート	看2
第3回	令和8年5月26日（火）	3	〃	人々の生活を支える 生活行動	・生活の構造 ・生活全体の理解 ・生活の過ごし方から対象の理解 ・6つの生活行動の理解 【予習】生活行動について	看2
第4回	令和8年5月26日（火）	4	〃	グループワーク	無意識で行っていた健康な6つの生活行動（食べる、眠る、身だしなみを整える、からだを清潔にする、排泄する、移動する）を意識化、概念化する。 【課題】グループ別課題	看2
第5回	令和8年6月2日（火）	3	〃	グループワークの 報告会	各グループが取り組んだ生活行動の意識化、概念化について報告し、全体で共有する。	看2
第6回	令和8年6月2日（火）	4	〃	グループワークの 報告会	各グループが取り組んだ生活行動の意識下、概念化について報告し、全体で共有する。	看2

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第7回	令和8年6月9日(火)	3	笠原 玉山下 色摩 橘	「生活」「生活行動」 まとめ	・看護における生活の捉え方の整理 ・環境の意義 ・環境のアセスメント(光・温度・換気・採光・騒音・プライバシー:照度・騒音・臭度を測定する) ・人の生活と環境	看2
第8回	令和8年6月9日(火)	4	〃	健康な生活と環境	・看護における生活の捉え方の整理 ・環境の意義 ・環境のアセスメント(光・温度・換気・採光・騒音・プライバシー:照度・騒音・臭度を測定する) ・人の生活と環境 【課題】課題レポート	看2
第9回	令和8年6月16日(火)	3	〃	看護における 感染管理① (ユニフォーム着用)	・衛生的な手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い	看2 看実
第10回	令和8年6月16日(火)	4	〃	看護における 感染管理② (ユニフォーム着用)	・衛生的な手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い	看2 看実
第11回	令和8年6月16日(火)	5	〃	看護における 感染管理③ (ユニフォーム着用)	・衛生的な手洗い法の習得 ・防護具の取り扱い 【課題】課題レポート	看2 看実
第12回	令和8年6月23日(火)	3	山下 笠原 玉色 摩橘	患者の療養環境を 整える①	環境整備	看2 看実
第13回	令和8年6月23日(火)	4	〃	患者の療養環境を 整える②	環境整備	看2 看実
第14回	令和8年6月30日(火)	3	笠原 玉山下 色摩 橘	環境を整える基本的 な技術の理解① (ユニフォーム着用)	・ベッドメイキング	看2 看実
第15回	令和8年6月30日(火)	4	〃	環境を整える基本的 な技術の理解② (ユニフォーム着用)	・ベッドメイキング	看2 看実
第16回	令和8年6月30日(火)	5	〃	環境を整える基本的 な技術の理解③ (ユニフォーム着用)	・ベッドメイキング	看2 看実
第17回	令和8年7月7日(火)	3	〃	環境を整える基本的 な技術の理解④ (ユニフォーム着用)	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点(安全性・安楽性・自立/自律性)を もとに整理する	看2 看実
第18回	令和8年7月7日(火)	4	〃	環境を整える基本的 な技術の理解⑤ (ユニフォーム着用)	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点(安全性・安楽性・自立/自律性)を もとに整理する	看2 看実
第19回	令和8年7月7日(火)	5	〃	環境を整える基本的 な技術の理解⑥ (ユニフォーム着用)	・ポジショニング ・シーツ交換 ・援助の視点(安全性・安楽性・自立/自律性)を もとに整理する 【課題】演習レポート	看2 看実
第20回	令和8年7月14日(火)	3	〃	練習日	環境整備 ベッドメイキング	看実
第21回	令和8年7月14日(火)	4	〃	練習日	環境整備 ベッドメイキング	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第22回	令和8年7月21日(火)	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘	まとめ		看2
第23回	令和8年7月30日(木)	1	〃	試験 (9:00~10:30)		看2
第24回	令和8年9月15日(火)	2	〃	再試験 (11:00~12:30)		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

上記授業の順序などは、授業の進行状況によっては一部変更する場合がある。

授業は、講義・グループワーク・演習を取り入れてすすめていく。とくにグループワークでは資料として動画・画像を用いて作成し、プレゼンテーションを行う。

実習室で行う演習では、演習時間を確保するためにWebclassでの講義動画の視聴(30~60分)またはナーシングスキルでの手技動画の視聴を事前課題として課す。演習時には、必ず指示された動画を視聴してから臨むこと。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

演習は授業時間内の体験と相互練習を通して到達を図るため、欠席した場合の後日の対応は困難となる。やむを得ない事情を除き、欠席を避けること。

7 評価方法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

①総括的評価

定期試験・実技試験(60%)：試験範囲は該当するテキストの範囲を含めた全範囲とする。講義演習の理解度を空欄補充・真偽選択・多肢選択・論述などの記述試験で評価する。

平常点(40%)：グループワークの成果物・演習レポート、講義演習での発言状況や演習への参加状況で評価する

②形成的評価

演習で提示する課題や実技試験については実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言などの参加態度から学修意欲を評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、定期試験、技術試験それぞれに60%以上の評価を得ることを修得要件とする。60%未満の場合はそれぞれにおいて再試験を受験する。なお全講義数の3分の2以上の出席(演習参加・演習レポート提出)をもって筆記試験・技術試験の受験資格要件とする。

8 テキスト

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版

9 参考文献

医療情報科学研究所：看護がみえるvol.1 基礎看護技術 第1版. メディックメディア

10 オフィスアワー(授業相談)

まずメールでアポイントを取ってください。

11 学生へのメッセージ

日々何気なく行ってきた生活の営みを改めて知ることから自分の目指す看護を探究してみましょう。看護技術は動画だけで学ぶことはできません。実際に体を動かして体験し、考えることが重要です。演習室では看護師として、時には患者役を通してケアを提供するという事を学んでいきます。

演習時は体調を整えて、欠席しないようにしてください。

12 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護技術Ⅱ

1 担当教員名

講師	山下 敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	笠原 聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
准教授	玉木 朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩 茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘 由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

本講義における学修目標は以下の通りである。

1. 対象者の日常生活を援助する看護技術の根拠・原理を理解する。
2. 日常生活を援助するための安全性・安楽性・自立/自律性を守った基本技術を修得する。
3. 看護技術の実践を通して人間の尊厳を護ることが理解できる。
4. 看護職者としてふさわしい態度を身につける。

本講義で習得する「資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）

GE：対象を総合的・全人的に捉える能力 QS：ケアの質と安全管理 IP：他職種連携能力

CS：患者ケアのための臨床スキル PS：専門知識に基づいた問題解決能力 等における関連項目の資質・能力を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

看護基本技術のうち、人間の生理的・行動的な基本的ニーズに基づく日常生活援助（活動と休息・衣生活・食生活・清潔等）を中心に、対象者の尊厳を守った安全性・安楽性・自立／自律性を考慮した援助方法を習得する。

演習では、患者・看護師のロールプレイングおよびシミュレーションを用いて、援助的対人関係の構築に必要なコミュニケーション、感染防止と安全なケア環境の整備、観察・実施・評価・記録の基本過程を統合して学習する。

授業は、個人学習とグループ学習を組み合わせた主体的学習により、根拠に基づく手順の理解と技術の習熟を図り、課題の明確化とプレゼンテーションを行う。

【準備学修・事後学修】

予習を前提として講義・演習を進める。

事後学修としては適宜演習レポートなどの課題を課す。

各回の講義に対し60分の予習と30分の復習を行い理解を深めることが望まれる。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価の配分を修正した。

5 授 業 内 容

本授業は演習科目であり、演習室における実技演習を中心に実施する。

各回の講義・演習は事前学修（予習）を前提に進行するため、指定する資料（WebClass掲載資料、配付資料等）を確認し、必ず予習してから参加すること。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月27日（火）	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘 臨床教育看護師	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送） 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第2回	令和8年10月27日（火）	4	〃	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送）	看実
第3回	令和8年10月27日（火）	5	〃	ガイダンス 移動・活動に関わる技術	・ポジショニングの復習 ・移動と移送（車いす乗車・移送、スライディングシート、ストレッチャーへの移動・移送） 【課題】 課題レポート	看実
第4回	令和8年11月10日（火）	3	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換＋シーツ交換 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第5回	令和8年11月10日（火）	4	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換＋シーツ交換	看実
第6回	令和8年11月10日（火）	5	〃	臥床患者の寝衣交換	・健康と環境 ・清潔に関わる技術 ・寝衣交換＋シーツ交換 【課題】 課題レポート	看実
第7回	令和8年11月17日（火）	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘	清潔に関わる技術①	・清拭（全身） 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第8回	令和8年11月17日（火）	4	〃	清潔に関わる技術①	・清拭（全身）	看実
第9回	令和8年11月17日（火）	5	〃	清潔に関わる技術①	・清拭（全身） 【課題】 課題レポート	看実

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第10回	令和8年11月24日（火）	3	笠原 玉山 山下 色摩 橘 臨床教育看護師	清潔に関わる技術②	・洗髪 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第11回	令和8年11月24日（火）	4	〃	清潔に関わる技術②	・洗髪	看実
第12回	令和8年11月24日（火）	5	〃	清潔に関わる技術②	・洗髪 【課題】 課題レポート	看実
第13回	令和8年12月1日（火）	3	笠原 玉山 山下 色摩 橘	清潔とリラクゼーション に関わる技術	・部分浴（足浴・手浴） 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第14回	令和8年12月1日（火）	4	〃	清潔とリラクゼーション に関わる技術	・部分浴（足浴・手浴）	看実
第15回	令和8年12月1日（火）	5	〃	清潔とリラクゼーション に関わる技術	・部分浴（足浴・手浴） 【課題】 課題レポート	看実
第16回	令和8年12月8日（火）	3	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第17回	令和8年12月8日（火）	4	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄	看実
第18回	令和8年12月8日（火）	5	〃	清潔に関わる技術③	・床上排泄 ・陰部洗浄 【課題】 課題レポート	看実
第19回	令和8年12月22日（火）	3	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第20回	令和8年12月22日（火）	4	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助	看実
第21回	令和8年12月22日（火）	5	〃	栄養摂取のケア技術	・食事介助 【課題】 課題レポート	看実
第22回	令和9年1月5日（火）	3	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第23回	令和9年1月5日（火）	4	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア	看実
第24回	令和9年1月5日（火）	5	〃	口腔衛生の技術	・口腔ケア 【課題】 課題レポート	看実
第25回	令和9年1月12日（火）	3	山下 笠原 玉山 色摩 橘	まとめ	基礎看護技術のまとめ 基礎看護学実習Ⅰのフィードバック	看2
第26回	令和9年1月12日（火）	4	笠原 玉山 山下 色摩 橘	練習日		看実
第27回	令和9年1月12日（火）	5	〃	練習日		看実
第28回	令和9年1月19日（火）	3	〃	技術試験		看実
第29回	令和9年1月19日（火）	4	〃	技術試験		看実
第30回	令和9年1月19日（火）	5	〃	技術試験		看実
第31回	令和9年2月2日（火）	3	〃	技術試験【再試験】		看実
第32回	令和9年2月2日（火）	4	〃	技術試験【再試験】		看実
第33回	令和9年2月2日（火）	5	〃	技術試験【再試験】		看実
第34回	令和9年2月12日（金）	3	山下	試験（13：30～15：00）		看2
第35回	令和9年2月22日（月）	2	〃	再試験（11：00～12：30）		看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

上記授業の順序などは、授業の進行状況によっては一部変更する場合があります。

授業は、講義・グループワーク・演習を取り入れてすすめていく。

実習室で行う演習では、演習時間を確保するためにWebclassでの講義動画の視聴（30～60分）またはナーシングスキルでの手技動画の視聴を事前課題として課す。演習時には、必ず指示された動画を視聴してから臨むこと。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

演習は授業時間内の体験と相互練習を通して到達を図るため、欠席した場合の後日の対応は困難となる。やむを得ない事情を除き、欠席を避けること。

（※演習室で行った講義については、録画動画の配信は行わない）

7 評価方法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

①総括的評価

定期試験・実技試験（60％）：試験範囲は該当するテキストの範囲を含めた全範囲とする。講義演習の理解度を空欄補充・真偽選択・多肢選択・論述などの記述試験で評価する。

平常点（40％）：グループワークの成果物・演習レポート、講義演習での発言状況や演習への参加状況で評価する

②形成的評価

演習で提示する課題や実技試験については実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言などの参加態度から学修意欲を評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

試験の範囲、内容に関しては別途指示する。また、定期試験、技術試験それぞれに60％以上の評価を得ることを修得要件とする。60％未満の場合はそれぞれにおいて再試験を受験する。なお全講義数の3分の2以上の出席（演習参加・演習レポート提出）をもって筆記試験・技術試験の受験資格要件とする。

8 テキスト

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版

9 参考文献

医療情報科学研究所：看護がみえるvol.1 基礎看護技術 第1版. メディックメディア

10 オフィスアワー（授業相談）

まずはメールでアポイントを取ってください。

11 学生へのメッセージ

看護技術は動画だけで学ぶことはできません。実際に体を動かして体験し、考えることが重要です。演習室では看護師として、時には患者役を通してケアを提供するということを学んでいきます。演習室で何度も練習することが技術上達への近道です。

演習時は体調を整えて、欠席しないようにしてください。

12 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

satoshi 7 @belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

医療の倫理 I

1 担当教員名

教授 相見良成 (基礎看護学講座 (形態生理学)) 非常勤講師
教授 大北全俊 (医療文化学講座 (哲学・倫理学)) 浅井篤 (東北大学 教授)
長倉伯博
室寺義仁 (本学名誉教授)

2 配当学年等

第1学年 後期 0.5単位

3 学修目標

「医療の倫理 I」の授業では、倫理学についての基礎を学んだ上で、臨床倫理を中心に学習する。受講生は、日々臨床現場で遭遇するであろう事例に含まれる様々な倫理的問題に気づくための想像力を養う。さらにグループ学習を通して、個々の問題をどのように考え、どのように対応・対処すれば良いのかという手法・心得について学び、看護実践に必要な倫理観を涵養することを目的とする。

4 授業概要

倫理学および臨床倫理についての概説の後に、10月21日の講義では、医療を題材とした映画を通して医療倫理を考える授業を展開する。11月11日の授業では、緩和医療の現場での諸事例について講義を受けた後、グループに分かれて討論を行う。そして検討結果について各グループからの発表と全体での討議を行い、最後に各事例についての考察のまとめを行う。10月21日、11月11日の講義は医(4年生)・看の合同授業として行う。11月11日の講義は、学外からの多職種のボランティア参加者も討論参加する予定であり、この点では学外者との合同講義でもある。およそ200人を超える参加者間でのグループ討論、並びに全体討議を行う予定である。ただし新型コロナウイルス感染の状況によっては学外者の参加は見送る。各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに1回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望めます。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月5日(月)	2	大北相見	倫理の基礎	道徳と倫理の基礎知識を学ぶ	看2
第2回	令和8年10月19日(月)	3	浅井大相見	臨床倫理の現状と課題	生命医療倫理 (biomedical ethics) の総論と、映画を通して考える医療倫理	臨3
第3回	令和8年10月19日(月)	4	〃	臨床倫理の現状と課題	生命医療倫理 (biomedical ethics) の総論と、映画を通して考える医療倫理	臨3
第4回	令和8年11月2日(月)	3	長倉室寺大相見	臨床倫理	緩和医療の現場から学ぶ	臨3
第5回	令和8年11月2日(月)	4	〃	臨床倫理	事例についての講義とグループ討議	臨3
第6回	令和8年11月2日(月)	5	〃	臨床倫理	グループ発表と全体討議	臨3
第7回	令和8年11月9日(月)	2	相見	臨床倫理の基礎	臨床倫理の基礎を学ぶ	看2
第8回	令和8年11月16日(月)	2	〃	献体のこころ	解剖見学実習に備え、献体にまつわる倫理について考える	看2

6 授業形式・視聴覚機器の活用

基本は講義形式。

7 評価方法

試験は行わない。レポートにより評価する。

8 テキスト

特に定めない。必要に応じて講義の中で紹介する。

9 オフィスアワー（授業相談）

まずは aimi@belle.shiga-med.ac.jp へメールで。

10 学生へのメッセージ

グループワークを取り入れた授業では、積極的に議論に参加して能動的に学ぶことを期待します。

11 授業用E-mail

aimi@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

医師

早期体験実習

1 担当教員名

教授	笠原聡子	(基礎看護学講座(基礎看護学))
教授	向所賢一	(医学・看護学教育センター)
特任准教授	北原照代	(社会医学講座(衛生学部門))
特任准教授	山原康佑	(医学・看護学教育センター)
助教	橘由香	(基礎看護学講座(基礎看護学))

2 配当学年等

第1学年 前期 1単位

3 学修目標

■本実習では、以下を学修目標とする。

1. 様々な発達段階にある人の生活や健康状態を捉える
2. 病気や障がい、加齢に伴う機能低下をもつ人やその家族の心理、生活、闘病上の困難と工夫を知る
3. 看護が対象とする人々の健康へのニーズ、医療への期待や看護の役割・課題について省察を深める
4. 医師・看護師にとって「人間の尊厳を尊重する」姿勢や関わり方を学ぶ
5. 保健・医療・福祉現場におけるチームケアの現状、またその役割・機能を知る
6. 今後、医療者として成長するために必要な自己課題を明らかにする

■本実習で修得する「資質・能力(看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①「看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)」のうち、

GE:対象を総合的・全人的に捉える能力、PR:プロフェッショナルリズム、LL:生涯学習能力、SO:地域社会における健康支援、IP:多職種連携能力、CM:コミュニケーション能力等における関連項目の“資質・能力”を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

DP8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

【教育目的】

医学・看護学の目的は「人」の「幸せ」に貢献することである。人は「生老病死」の言葉に象徴されるように、心身の発達段階や健康状態に応じて多様な生活を営み一生を終えていく。健康や生活を支える医療や福祉は、人の一生の様々な段階でその役割が求められており、学生の皆さんは、将来、専門家としてそうした社会の要請に応えることになる。人の抱える困難は病苦だけで生じてい

るのではない。心身に障害があるために抱えなければならない困難、年老いたことで生じる困難、孤独や貧困に由来する困難など諸君らが対峙すべき課題は多様である。また、困難を抱える人を支えているのは医師や看護師など特定の専門家だけではない。家族や地域の人たちの努力や連携が支援の基盤をなしていることを理解しなければならない。

地域で展開されている医療・保健・福祉の現場に参加体験し、そこで働く人々やその活動を通して、また支援を受けている人たちとの交流を通じて、医学・看護学を学んで行く自分の役割や課題について省察することを目的としている。

【準備学修・事後学修】

実習による学習効果を高めるために、学修目標を立ててから臨むこと。講義やグループワーク、実習期間中や交流会後に、学んだ内容を振り返ること。

【履修要件】

学生ワクチンプログラムに定めるワクチン接種を指定する期日までに終了しなかった者は、医療・福祉・介護施設等における実習に参加することができない。ただし、疾病その他の事由が生じた場合において、学生ワクチンプログラムに従えないときはその事由をあらかじめ学長に届けること。(滋賀医科大学学生健康診断規程第3条、第6条)

【2026年度の工夫・改善事項】

- ・修得する資質・能力を明確にした。
- ・実習施設を追加した。
- ・オリエンテーションにおける身だしなみおよび講義での接遇についての説明内容を充実した。
- ・成績評価方法を明確にした。

5 授 業 内 容

授業内容は以下のとおりであるが、詳細は「実施要領」にて提示する。

【実習の期間・構成】

期 間 2026 年 5 月～9 月

構 成

- ①オリエンテーション（5/14（木）2限）
- ②事前学修（講義：6/11（木）2限、グループワーク：7/16（木）2限）
- ③学外実習（8/12（水）～9/11（金）のうち3日間）
- ④交流会（9/24（木）2限・3限、9/25（金）2限・3限のうちいずれか）

2025年度の受け入れ予定施設（詳細については後日連絡します。）

1. 社会福祉法人本願寺龍谷会 特別養護老人ホームビハラー本願寺
2. 滋賀県済生会訪問看護ステーション
3. 公立甲賀病院
4. 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
5. 滋賀医科大学 6A産婦人科病棟
6. びわこ学園医療福祉センター草津
7. 滋賀県立むれやま荘
8. 市立長浜病院
9. 淡海医療センター
10. 大津ファミリークリニック
11. 滋賀県看護協会 訪問看護ステーションみのり
12. 社会福祉法人にぎやか会 きぼう・あおぞら
13. 滋賀家庭医療学センター弓削メディカルクリニック
14. 訪問看護ステーションヴォーリズ
15. 医療法人総心会長岡京病院
16. 地域包括ケアセンターいぶき
17. しがなんれん作業所
18. NPO法人子育て研究会（栗東市サマーホリデー）
19. 浅井東診療所（北海道家庭医療学センター）
20. 医療法人社団美松会生田病院
21. 社会就労センターこだま
22. 琵琶湖病院
23. びわこ学園医療福祉センター野洲
25. ケアタウンからさき

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年5月14日(木)	2	笠原 向所 北原 山原 橘	オリエンテーション	実施方法についての説明、受け入れ施設の紹介	臨3
第2回	令和8年6月11日(木)	2	〃	講義	医学生・看護学生が地域社会で実習するにあたり身につけておくべき接遇とコミュニケーション	臨3
第3回	令和8年7月16日(木)	2	〃	グループワーク	同施設や近しい実習施設で集まりグループワーク。	① ② ③ 看4
第4回	令和8年9月24日(木)	2	〃	交流会(多目的教室:19・20、21・22、23・24、25・26、27・28)	実習の振り返り	①
第5回	令和8年9月24日(木)	3	〃	交流会(多目的教室:19・20、21・22、23・24、25・26、27・28)	実習の振り返り	①
第6回	令和8年9月25日(金)	2	〃	交流会(多目的教室:19・20、21・22、23・24、25・26、27・28)	実習の振り返り	①
第7回	令和8年9月25日(金)	3	〃	交流会(多目的教室:19・20、21・22、23・24、25・26、27・28)	実習の振り返り	①

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- ・詳細については、2026年度 早期体験実習 実施要領を参照のこと
- ・参加する施設・行事によって体験内容は異なる。単なる見学や講義型の授業ではなく、受け入れ施設・行事の指導者の指示の下に、施設・行事の一員として「少しでも役に立ち、できること」に取り組む参加型の授業を基本とするが、各指導者の指示に従うこと。
- ・体験交流会は、少人数による発表・意見交換形式で行う。

7 評価方法

①総括的評価

- ・試験：行わない。
- ・レポート課題(80%)：グループワーク後・学外実習終了後・交流会後の3回提出を求める。
- ・平常点(20%)：課題の提出状況(15%)、授業や実習での発言や参加状況(5%)
- ・レポート課題と平常点の合計が60点以上を合格とする。
- ・決められた日数の学外実習参加、交流会参加、各レポートの提出は単位認定の必須要件であり、無断早退・無断遅刻・無断欠席は認めない。
- ・受理に値しないと判断されたレポートは再提出を求める。

②形成的評価

- ・授業や実習中の姿勢やレポートのコメントに対し、担当教員や実習指導者から随時フィードバックを行う。

③態度的評価

- ・授業や実習での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。また、実習指導者による実習態度についての評価を平常点評価に加味する。
- ・具体的には、出席態度(無断早退・無断遅刻・無断欠席)、身だしなみ(服装、髪、爪、マスク着用など)、講義での受講態度(遅刻、居眠り、内職、私語など)、見学やグループワークへの参加態度、レポート提出期限の遵守状況等から学修意欲を評価する。
- ・学修意欲が低いとみなされる行動が繰り返される場合は、面談や追加課題を課すことがある。

8 テキスト

定められたテキストはない。

9 オフィスアワー(授業相談)

科目全体のことについて相談がある場合は、随時対応するので、主担当の笠原聡子(kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)にメールでアポイントメントを取るように。

10 学生へのメッセージ

学生の皆さんの体験学習を受け入れて下さる施設・行事は、心身の困難を抱えた人々を支援する第一線の現場です。個人のプライバシーや人権に対して十分に配慮した責任ある行動を厳しく求めます。また、医学・看護学を学び始めた「1年生」にふさわしい「謙虚」な姿勢で臨んでいただきたいと思っています。

地域で展開されている保健・医療・福祉の実践活動に触れ、看護が対象とする様々な発達段階にある人々への理解を深め、健康へのニーズを体験できるよう自己課題を明確にして挑んでください。また、臨地実習は医学科と合同で行います。各専門領域の果たす役割や求められている立場を知り、将来共に働く医療チームメンバーとして今後どのように関わっていけるのか考察してください。

11 授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

基礎看護学実習 I

1 担当教員名

教授	笠原聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	向所賢一	(医学・看護学教育センター)
教授	伊藤俊之	(医学・看護学教育センター)
教授	川崎拓	(医師臨床教育センター)
准教授	玉木朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
特任准教授	北原照代	(社会医学講座 (衛生学部門))
特任准教授	山原康佑	(医学・看護学教育センター)
特任准教授	山原真子	(医師臨床教育センター)
講師	山下敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
講師	依田広	(総合診療科)
助教	色摩茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
特任助教	谷浦直子	(病理学講座 (人体病理学部門))
特任助教	福江慧	(医学・看護学教育センター)
特任助教	佐藤知実	(医師臨床教育センター)

2 配当学年等

第1学年 後期 1単位

3 学修目標

■本実習では、以下を学修目標とする。

1. 看護師の患者との関わりの実際を見学することで、看護師の役割と機能を理解する。
2. 附属病院における患者の生活の過ごしかたを患者の立場から理解する。
3. 医療・看護が提供されている場としての附属病院において、病院の機能・構造や特徴を理解する。
4. 附属病院においてどのような職種の人々が患者の療養生活を支えているか理解する。
5. 患者の療養生活における医療者としての倫理的態度を理解し、学生としての自己の課題を明確にできる。
6. 特定機能病院としての附属病院で行われている先端医療を理解する。
(7. 医学科は診療の実際を見学することで医師の役割と機能を理解する。)
8. 看護学科は看護師の患者との適切なコミュニケーション、ならびに信頼関係の構築のあり方を考察する。

■本実習で修得する「資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

- ①「看護学教育モデル・コア・カリキュラム (令和6年度改訂版)」のうち、
GE: 対象を総合的・全人的に捉える能力、PR: プロフェッショナルリズム、LL: 生涯学習能力、SO: 地域社会における健康支援、
IP: 多職種連携能力、CS: 患者ケアのための臨床スキル、CM: コミュニケーション能力等における関連項目の“資質・能力”を
習得すること
- ②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、
1. プロフェッショナルリズム、3. 課題対応能力と看護実践能力、4. コミュニケーションと多職種連携、5. 地域医療への貢
献、8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢等における関連項目のアウトカムの達成

4 授業概要

【教育目的】

滋賀医科大学医学部附属病院を見学することで、病院の理念、特定機能病院としての附属病院の機能や特徴を理解する。具体的には、附属病院で働く看護師の患者への看護活動 (生活支援)、附属病院の各部署 (薬剤部、放射線部、栄養治療部、リハビリテーション部、検査部、救急部 (ヘリポートを含む)、防災倉庫、地下・電源装置) で働く方々の多様な活動を見学する。これらの体験を通して、療養生活を送る患者に対する環境の影響や、患者の療養生活上のニーズ、看護師患者関係について考察する。さらに、早期体験実習の学びをふまえ、療養生活と地域の暮らしとのつながりを考え、人々の健康と生活に対するニーズと看護師の機能と役割について自己の考えを明らかにするとともに、医療者としての倫理的態度や自己の課題を省察し明確にする。

【準備学修・事後学修】

少なくともそれぞれ1時間程度の予習・復習を毎日行うこと。実習による学習効果を高めるために、学修目標を立ててから臨むこと。講義やグループワーク、実習期間中や発表会後に、学んだ内容を振り返ること。

【履修要件】

学生ワクチンプログラムに定めるワクチン接種を指定する期日までに終了しなかった者は、医療・福祉・介護施設等における実習に参加することができない。ただし、疾病その他の事由が生じた場合において、学生ワクチンプログラムに従えないときはその事由をあらかじめ学長に届けること。(滋賀医科大学学生健康診断規程第3条、第6条)

【2026年度の工夫・改善事項】

- ・1日の実習の終わりにレポート作成(振り返り)時間を設けた。
- ・「病棟・部署体験」の時間を短縮した。
- ・最終日の「報告会」のテーマ内容を明確にした。
- ・成績評価方法(態度評価)を明確にした。

5 授 業 内 容

授業内容は以下のとおりであるが、詳細は「実施要領」にて提示する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年12月14日(月)	1	田中 小寺 小原 芦藤 伊藤	実習オリエンテーション(講義)	実習に関する全体説明①	臨2 臨3
第2回	令和8年12月14日(月)	2	伊藤 向所 笠原 玉木 山下 山色 摩橘	講義	実習に関する全体説明②	臨2 臨3
第3回	令和8年12月14日(月)	3	〃	講義	附属病院各部署オリエンテーション	臨2 臨3
第4回	令和8年12月14日(月)	4	笠原 玉木 山下 山色 摩橘	講義	看護師同行実習について	臨2 臨3
第5回	令和8年12月14日(月)	5		振り返り、レポート作成時間		臨2 臨3
第6回	令和8年12月15日(火)	1	各部署担当者	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3 ①
第7回	令和8年12月15日(火)	2	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3 ①
第8回	令和8年12月15日(火)	3	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3
第9回	令和8年12月15日(火)	4	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3
第10回	令和8年12月15日(火)	5		振り返り、レポート作成時間		臨2 臨3
第11回	令和8年12月16日(水)	1	各部署担当者	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3 ①
第12回	令和8年12月16日(水)	2	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3 ①
第13回	令和8年12月16日(水)	3	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3
第14回	令和8年12月16日(水)	4	〃	実習	病棟・部署体験実習 各部署見学	臨2 臨3
第15回	令和8年12月16日(水)	5		振り返り、レポート作成時間		臨2 臨3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第16回	令和8年12月17日(木)	1	各部署担当者	実習	【医学科】医師に同行し、1日の仕事内容を見学・体験する。 【看護学科】看護師同行実習：患者とのコミュニケーション実習	臨2 臨3 ①
第17回	令和8年12月17日(木)	2	〃	実習	【医学科】医師に同行し、1日の仕事内容を見学・体験する。 【看護学科】看護師同行実習：患者とのコミュニケーション実習	臨2 臨3 ①
第18回	令和8年12月17日(木)	3	〃	実習	【医学科】医師に同行し、1日の仕事内容を見学・体験する。 【看護学科】看護師同行実習：患者とのコミュニケーション実習	臨2 臨3 ①
第19回	令和8年12月17日(木)	4	〃	実習	【医学科】医師に同行し、1日の仕事内容を見学・体験する。 【看護学科】看護師同行実習：患者とのコミュニケーション実習	臨2 臨3 ①
第20回	令和8年12月17日(木)	5		振り返り、レポート作成時間		臨2 臨3 ①
第21回	令和8年12月18日(金)	1	伊藤 山原(康) 山原(真) 佐藤 笠原 玉木 山下 色橋	グループワーク	実習の振り返り・まとめ	臨2 臨3
第22回	令和8年12月18日(金)	2	〃	グループワーク	実習の振り返り・まとめ	看2 臨3
第23回	令和8年12月18日(金)	3	〃	報告会	実習の振り返りに関する班別発表と全体討議	臨1 臨2 臨3
第24回	令和8年12月18日(金)	4	〃	報告会	実習の振り返りに関する班別発表と全体討議	臨1 臨2 臨3
第25回	令和8年12月18日(金)	5	〃	報告会	実習の振り返りに関する班別発表と全体討議	臨1 臨2 臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

期間：医学科・看護学科5日間

場所と形式：滋賀医科大学医学部附属病院における見学実習

日程(予定)：新型コロナウイルス、VRE等感染症の感染状況等によって調整が行われることがある。

【第1日目/医学科・看護学科合同】

- ・午前：医学科・看護学科合同オリエンテーションと病院・看護部の概要の説明等を行う。
- ・午後：附属病院の各部署説明、各部署見学事前説明、医師同行実習・看護師同行実習の事前説明等を行う。

【2日目・3日目/医学科・看護学科合同】

医学科第1学年学生100名と看護学科第1学年学生60名の合計160名を80名ずつ(医学科第1学年学生50名と看護学科第1学年学生30名)のチームにわけ、以下の①②を日替わりで行う。

- ① 3～5人程度のグループに分かれて院内各部署に配置され、1日看護師に同行する(病棟・部署体験)。
- ② 午前：院内スタッフによる講義、午後：10人ずつのグループに分かれて病院内の部署見学(8ヶ所)。

【4日目/医学科・看護学科別】

- ・医学科は、半日研修医に医学科学生が同行して医師の業務を見学（医師同行実習）、半日先輩医師・看護師による講義。
- ・看護学科は、半日看護師に看護学科学生が同行して看護師の業務を見学（看護師同行実習）、半日先輩医師・看護師による講義。

【5日目/医学科・看護学科合同】

- ・「1週間の学び」に関するグループワークおよび発表会・全体討論を医学科・看護学科合同で行う。
- ・看護学科では、看護師同行実習（看護師とともに受け持ち患者のケアに参加し、患者とコミュニケーションをとる）の振り返りに関するグループワークおよび発表会を「基礎看護技術Ⅱ」の時間帯に行う。

7 評価方法

①形成的評価

担当教員や指導教員から随時フィードバックを行う。

②総括的評価

1. 全日程の出席をもって評価の要件とする。無断欠席・無断遅刻・無断早退は認めない。
2. 以下のグループ成果物、個人レポートを5段階で評価し、総合したものを成績評価とする。
 - ・グループ成果物：「1週間の学び」についてグループワークとプレゼンテーションを医看合同で行い、その成果物を提出する（30%）。
 - ・個人レポート：終了後、実習を通じて省察した自分の課題等について論考し、レポートとして提出する（70%）。
 - ・臨床指導者の評価：附属病院の臨床指導者の実習態度についての評価を成績評価に加味することがある。
3. 受理に値しないと判断されたレポートは再提出を求める場合がある。
4. 学修意欲が著しく低い場合、減点や単位不認定とする可能性がある。

③態度評価

出席態度（無断欠席・無断遅刻・無断早退など）、身だしなみ（服装、髪、爪、マスク着用など）、講義中の態度（遅刻、居眠り、内職行為、スマホ等の電子機器の私的利用、私語など）、見学やグループワーク中の態度（遅刻、積極性の欠如、スマホ等の電子機器の私的利用、私語など）、及びレポート提出期限の遵守状況等から学修意欲を評価する。

なお、学修意欲が低いとみなされる行動が繰り返される場合は、面談や追加課題を課すことがある。

8 テキスト

適宜提示する。

9 参考文献

適宜提示する。

10 オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、事前にメール等でご連絡ください。

11 学生へのメッセージ

滋賀医科大学医学部附属病院は、滋賀県の地域医療を担う中核病院であり、かつ高度・先進医療を推進する特定機能病院でもあります。皆さんは第2学年になると滋賀医科大学医学部附属病院で「基礎看護学実習Ⅱ」を行い、看護師として必要な倫理観や態度、基本的な知識・技術などを学びます。本実習では、医療の現場を実感することを目的としています。具体的には、医学科第1学年の学生と合同で、医師、看護師の仕事内容を直に見学し、さらに、附属病院内の医療サービス課（地域連携）、薬剤部、放射線部、栄養治療部、リハビリテーション部、検査部、救急部（ヘリポートも含む）、防災倉庫、地下・電源装置での仕事内容も見学します。病院には様々な職種や部署があり、全てのスタッフは協力して、患者さんに誠実に向き合い、信頼と満足を与えられる医療の提供を目指して働いていることを学修して下さい。入学後早い段階で行われる本実習を通して、滋賀医科大学附属病院を身近な存在として感じてもらいたいと思います。

なお、実習中は患者さんやご家族、並びに医療スタッフ等の個人のプライバシーや人権に対して十分に配慮した責任ある行動を心がけてください。また、自己の健康管理に十分に留意し、実習に挑んでください。

医学・看護学を学び始めた「1年生」にふさわしい「謙虚」な姿勢で、多くの人たちから学んでもらいたいと思います。

12 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

第2学年

医療社会学

1 担当教員名

非常勤講師 LADMIRAL Guillaume Andre Jean Rene

2 配当学年等

第2学年 後期 1単位

3 学修目標

学修目標：関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本授業科目では、以下を学修目標とします。

受講生は、国際比較を背景に、現代日本における医療の現状、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health SDH）、精神医療などの諸課題について、社会科学での理論や概念を参照しデータ分析を行いつつ、自ら思考し、他者と対話を深めることができるようになることを目標とします。講義にあたっては、下記の4点を重視しながらすすめます。

- (1)社会科学上の教養を深めること
- (2)データ可視化（data visualization）と解析の基本手法を習得し、根拠に基づく医療（Evidence-Based Medicine EBM）の前提となる、根拠に基づく思考方法（Evidence Based Thinking EBT）を習得すること
- (3)書籍などから重要な情報・エビデンス・論拠を抽出し、要約する能力を鍛えること
- (4)勉強・作業の流れで、英語をありふれたものとして使用すること

本授業のデータ可視化パートは、前提知識を必要としない、やさしい入門です。すべての受講生が取り組みやすいように設計されています。

本授業科目に関係するディプロマ・ポリシー（DP）およびアウトカム：

- DP1. プロフェッショナルリズム
1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
 2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- DP2. 看護学の知識と技術
3. 健康支援と社会保障制度
 4. 医学統計・疫学
- DP5. 地域医療への貢献
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。
- DP6. 科学的探究心と国際的視野
2. 看護学研究に必要な国内外の情報を取得することができる。
 3. 看護学研究で用いられる基本的研究手法が実施できる。
 5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。
- DP7. 情報・科学技術の活用
1. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。
- DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢
1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
 2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

関係する「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）」に掲げる資質・能力：

- GE-02 対象アセスメントの視点と看護：対象者のライフサイクルにおける健康段階、発達課題、社会的役割の変化を捉え、生活者の健康課題・健康問題を踏まえ、看護を計画・実施できる。
- GE-07 家族の理解と家族看護：家族のライフサイクルに沿って家族システム、家族機能をアセスメントし、家族ケアを実践できる。
- LL-02 生涯学習の内容と方略：省察・拡張学習・情報探索・モチベーションを向上させる方略により、積極的な学習ならびに協働学習ができる。
- SO-01 地域社会と健康：人々の健康に影響を与える地域の特性や社会的決定要因を理解し、健康を改善・促進するための考え方を説明できる。
- RE-02 看護学の探究の基礎：科学的探究の諸方法について理解することができる。

4 授 業 概 要

国際比較を背景に、現代日本における医療の現状、薬害と予防、医事法制、精神医療に関する概念と理論を検証します。RとRStudioという無料のソフトウェアを利用して初歩的なデータの可視化と解析をおこないつつ、これらの社会課題に関する基礎知識を身につけます。また、現在のスタンダードとなりつつあるQuarto（無料）というオープンソースの出版システムを紹介します。受講生は、docx、pdf、pptx、htmlといった形式の資料およびダッシュボードを、簡単にかつ効率的に作成することも学びます。担当教員が現在取り組んでいる、日本の都道府県別と市区町村別の相対的貧困率の推計と相対的貧困、死因と死亡比との関連に関する研究の事例も紹介します。

※データの可視化・解析にあたり、コンピュータの使い方や、数学、コーディングなどの特別な知識は不要です。必要に応じて、授業中に基礎知識を説明します。

準備学修：すべての教材をWebClassにアップロードしますので、各回の授業時までに目を通してください。

事後学修：すべての教材をWebClassにアップロードしますので、各回の授業後に目を通してください。

小課題等、事前・事後の学修に必要な目安時間は週30～45分です。

5 授 業 内 容

- ・お持ちの電子端末（PC、Mac、タブレット）がモバイル端末でない場合を除き、端末を持参して受講してください。
- ・受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性があります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月7日（水）	5	LADMIRAL	イントロダクション	授業全体の紹介と方法論、勉強環境の設定	看4
第2回	令和8年10月14日（水）	5	〃	効率アップツール： 情報分析からレポートまで	RとRStudioというソフトウェアの基本。レポート・プレゼンテーション（docx、pdf、pptx、html）、ダッシュボードの作成	看4
第3回	令和8年10月21日（水）	5	〃	社会科学の実証的方法： データと基本操作	社会科学のデータとデータ分析の基本操作	看4
第4回	令和8年11月4日（水）	5	〃	健康とウェルビーイング①	定義と測定、健康測定法（health metrics）：健康、YLL、YLD	看4
第5回	令和8年11月11日（水）	5	〃	健康とウェルビーイング②	定義と測定、健康測定法：HALE、QALE、DALYs、QALYs	看4
第6回	令和8年11月18日（水）	5	〃	グローバルヘルスとヘルスデータ	WHO国際健康観測所と保健指標評価研究所（IHME）の世界疾病負荷研究	看4
第7回	令和8年11月25日（水）	5	〃	医療の現状①	医療の行政と経済、日本と国際比較	看4
第8回	令和8年12月2日（水）	5	〃	医療の現状②	医療提供における地域格差、日本と国際比較	看4
第9回	令和8年12月9日（水）	5	〃	健康の社会的決定要因① Social Determinants of Health (SDH)	社会環境と健康	看4
第10回	令和8年12月16日（水）	5	〃	健康の社会的決定要因②	社会格差と健康	看4
第11回	令和8年12月23日（水）	5	〃	健康の社会的決定要因③	職業と健康	看4
第12回	令和9年1月6日（水）	5	〃	精神医療： メンタル・ヘルスの現状①	精神医療の歴史、日本におけるメンタル・ヘルス	看4
第13回	令和9年1月13日（水）	5	〃	精神医療： メンタル・ヘルスの現状②	精神病院、疾患と刑法、国際比較	看4
第14回	令和9年1月20日（水）	5	〃	医療化	行動や感情を「病気」「障害」とみなす過程と制度	看4
第15回	令和9年1月27日（水）	5	〃	プレゼンテーション・ ダッシュボード発表、 講義のまとめ	プレゼンテーション・ダッシュボード発表、講義のまとめ	看4

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

- ・本授業科目では、データ可視化・解析の手法、論文の読み方、言葉・概念の正確な使用および論証の展開を、learning by doingの方法で教授します。
- ・受講生の皆さんにもRとRStudioという無料のソフトウェアを利用したデータ可視化と解析を実践してもらいながら、講義と実習・討論をあわせた形式で授業をおこないます。
- ・講義の録画動画のオンデマンド配信はおこないません。
- ・パワーポイントなどの資料をプロジェクトで投影しながら、授業をおこないます。

7 評価方法

①総括的評価

- ・期末プレゼンテーション（40%）：プレゼンテーションやダッシュボードの提出で評価する。
- ・平常点（60%）：毎回の講義内容の「要約・まとめシート」や「可視化シート」（6点×10回）で評価する。
- ・期末プレゼンテーションと平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・授業で提示する「要約・まとめシート」や「可視化シート」については実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度および「要約・まとめシート」や「可視化シート」から学修意欲を評価する。

8 テキスト

電子的資料（PDFファイル、HTMLファイルなど）を配布します。

9 参考文献

以下は、参考文献として紹介します（購入する必要はありません）。

- ・大滝恭弘（編集）2024『医療系学部のための「医療と社会」入門』ムイスリ出版
- ・尾形裕也 2022『この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会
- ・江崎貴裕著 2023『データ可視化学』ソシム
- ・江崎貴裕著 2020『分析者のためのデータ解釈学入門』ソシム

10 オフィスアワー（授業相談）

電子メールでラドミラル（ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp）宛てご連絡ください。

11 学生へのメッセージ

本授業科目で習得する知識とスキルは卒業論文の作成に役立つものになるとおもいます。また取り上げる諸課題については看護師国家試験にも出題が頻繁にみられますし、保健師国家試験に取り組む方にとっては、公衆衛生、疫学、保健統計に関する知識の習得は不可欠です（厚生労働省医政局看護科「保健師助産師看護師国家試験出題基準（令和5年版）」など）。大学院医学系研究科看護学専攻博士課程への進学を志望する学生にとっても重要な知識と能力であると思われます。本授業科目で習得する社会科学の知識およびデータ可視化・解析、発表、資料作成などの能力は社会学以外の授業でも役に立ちます。そして生涯学習に必要な前提能力となるとおもわれます。

12 授業用E-mail

ladmiral@belle.shiga-med.ac.jp

教 育 学

1 担当教員名

非常勤講師 中 島 千 恵

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学 修 目 標

- (1)健康と教育との関わりについて認識を深め、子育てや教育について医療関係者に求められる法的責務や社会的責任を理解し、実際の行為との関係を考えられる
- (2)多様な子どもの教育的ニーズと学習権について考え、教育における公正や平等に対して意識を高める
- (3)教育事象や現代的教育課題を多面的視点から考える力や洞察力を養う
- (4)教育問題を通して自己や他者について考え、自己の行動を見極める姿勢を培う
- (5)テクノロジーの進歩と求められる倫理について考え、適切に行動する姿勢を培う

本講義に関係するディプロマ・ポリシー：()内は本講義との関連を示す

PR. プロフェッショナルリズム

PR-01、02 専門性を支える法律・倫理の理解と倫理的行動（学校保健における看護職の法的位置づけ、行動規範の遵守）

GE 対象を総合的・全人的に捉える能力

CM コミュニケーション能力

IP 多職種連携能力（主に保育・教育機関との連携）

SO 地域社会（主に保育施設、学校）における健康支援

RE 科学的探究能力（データを読み・分析し・議論できる）

IT 情報・科学技術を活かす能力（AIの活用と倫理を考えられる）

LL 生涯学習能力

4 授 業 概 要

乳幼児期は人間としての基礎として重要な時期であり、その後の成長にとっても重要な時期である。また、義務教育は生きていく上で基礎的な学力を身につける時期である。それ故に、乳幼児期から義務教育段階はすべての子どもの学習権が保障され、ふさわしい環境が整備されなければならない。このような認識から、本講義では、「すべての子どもの学習権保障」をキーワードに、乳幼児期から義務教育段階の保育・教育の本質と現代的課題について学ぶ。現代的課題の一つとして、本授業では、ICTやAIの教育への影響と倫理についても考える。授業全体を通して目指すのは、これらの知識を基礎として、子どもの教育問題に対する洞察力を高め、広い意味での教育における医療者の役割を考えられるようにすることである。

各回の講義時までに前回の復習と次回のテーマについて考えておくことを求める（30分）。また、時間があれば教育に関連する新聞記事や書籍（小説を含む）を読むことをお勧めする（180分程度）。

5 授 業 内 容

- I. 教育の動向と現代的課題(1)
 1. オリエンテーション
 2. 生活習慣と教育：教育者としての医療関係者の使命を考える
 3. 国際的に見た日本の学力
 4. グローバル化する社会に生きる：外国にルーツを持つ子どもの教育
 5. 教育制度改革の動向
- II. 教育の基本原則
 6. 教育活動の本質と社会的機能
 7. 知識・技術の伝達：伝達するとはいかなることなのか
 8. 教育における権利と義務：病児の教育を受ける権利と義務を考える
 9. 公教育の基本原則：国家と教育の関係を考える
 10. 日本における幼児期の保育・教育の基本：幼児期の理解を深める
- III. 教育の動向と現代的課題(2)
 11. 特別支援教育：変化する障害者支援の考え方を学ぶ
 12. AI時代の教育：求められる能力資質を考える
 13. 学校・保護者・地域との連携と相互支援
 14. ディスカッション（実施できない場合：今日の教育的課題）
 15. まとめ

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月14日(火)	3	中島	I. グローバル化、国家、国民、あなたの教育	1. オリエンテーション	臨3
第2回	令和8年4月21日(火)	3	〃	I. 教育の動向と現代的課題(1)	2. 生活習慣と教育：教育者としての医療関係者の使命を考える	臨3
第3回	令和8年4月28日(火)	3	〃	I. 教育の動向と現代的課題(2)	3. 国際的に見た日本の学力	臨3
第4回	令和8年5月12日(火)	3	〃	I. 教育の動向と現代的課題(3)	4. グローバル化する社会に生きる：外国にルーツを持つ子どもの教育	臨3
第5回	令和8年5月19日(火)	3	〃	I. 教育の動向と現代的課題(4)	5. 教育制度改革の動向	臨3
第6回	令和8年5月26日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(1)	6. 教育活動の本質と社会的機能	臨3
第7回	令和8年6月2日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(2)	7. 知識・技術の伝達：伝達するとはいかなることなのか	臨3
第8回	令和8年6月9日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(3)	8. 教育における権利と義務：病児の教育を受ける権利と義務を考える	臨3
第9回	令和8年6月16日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(4)	9. 公教育の基本原則：国家と教育の関係を考える	臨3
第10回	令和8年6月23日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(5)	10. 日本における幼児期の保育・教育の基本：幼児期の理解を深める	臨2
第11回	令和8年6月30日(火)	3	〃	II. 教育の基本原則(6)	11. 特別支援教育：変化する障害者支援の考え方を学ぶ	臨3
第12回	令和8年7月7日(火)	3	〃	III. 変わる社会に求められる資質・能力(1)	12. AI時代の教育：求められる能力資質を考える	臨3
第13回	令和8年7月14日(火)	3	〃	III. 変わる社会に求められる資質・能力(2)	13. 学校・保護者・地域との連携と相互支援	臨3
第14回	令和8年7月21日(火)	3	〃	III. 総合的考察(1)	14. ディスカッション：思考力、創造力を高めるためのAI活用と倫理を考える。(仮テーマ)	臨3
第15回	令和8年7月28日(火)	3	〃	III. 総合的考察(2)	15. まとめ	臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- 1) 授業形式 講義とディスカッション、ディベートも実施できれば入れる(受講者数に応じて柔軟に考える)。授業中に感想や意見を書いて提出してもらう。
- 2) 視聴覚機器 ビデオ、OHC、パワーポイント使用

7 評価方法

毎回のコメント提出 45% (3×15回) (コメントの書き方については第1回で説明)

なお、授業に出席することを前提とするが、出席点などない。

授業中の課題の提出 45% (ビデオを見て感想など、授業内容に関する小レポート、ディスカッションのテーマに関するレポート)

授業への貢献 10% (主に発表、その他貢献した場合)

提出物の評価基準

- ①正確な基礎的知識、基礎的内容の理解
- ②教育に対する意識の高さ、理解の深さ、多面的思考
- ③論理の明瞭性
- ④誠実な取り組みであること
- ⑤学習目標に照らして自己の学びについて適切に記述している。

8 テキスト

テキストは指定しないが、参考文献を授業中に紹介する。

9 参考文献

田中、越後、中島編著 『改訂 未来に生きる教育学』 あいり出版、2018年

福田誠司 『オンラインリテラシーと読解リテラシーの葛藤—デジタル時代の新しい学び』 東信堂、2023年。

本田由紀 『教育は何を評価してきたのか』 岩波新書、2020年

阿部 彩 『子どもの貧困—日本の不公平を考える』 岩波書店、2003年

山野良一 『子どもの最貧国・日本：学力・心身・社会に及ぶ諸影響』 光文社新書、2008年。 その他、授業で紹介する。

10 オフィスアワー（授業相談）

授業終了後かウェブクラスで受け付けます。

教員への質問はウェブクラス「メッセージ」でお願いします。特にクラス全員に関わるような質問は「タイムライン」でお願いします。あなたの質問は大事です。みんなで共有しましょう！

11 学生へのメッセージ

教育について語り合いながら授業を進めたいと思っています。

授業は受け身ではなく、一緒に創っていくものという意識を持っていただけたらありがたいです。

なお、感染症拡大による授業形式の変更、教育改革の進展や重大な教育問題の発生、また特別学生諸氏から要望などがあった場合など、シラバスを一部変更したり、授業方法もオンデマンドを活用するなど柔軟に対応しますが、今年度は基本、対面授業です。毎回の録画配信は要相談です。

12 主担当教員の実務経験

医療関係はありません。

小学校の学校運営協議会の大学連携委員だったことがあります。

大学で教えること、即、私には実務です。

日本国憲法

1 担当教員名

非常勤講師 渡邊 暁彦（滋賀大学教育学部 教授）

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学修目標

本授業の到達目標は次の三点です。

- ①日本国憲法の意義及び役割について、受講生自らが身のまわりの事象と結びつけて理解するとともに、それを他者に分かりやすく説明できる。
- ②一人ひとりの権利・自由がどのように保障されているか、日々のニュース（時事的な話題）と関連づけながら理解できる。
- ③国家と個人との関係に着目し、民主主義社会における市民としての責務を自覚できる。

4 授業概要

あなたは「憲法」について、どのようなイメージをもっていますか。小・中学校や高等学校等で「憲法」を学んだので、馴染みがあるという方もおられるでしょう。あるいは授業で条文を暗記させられた方や、言葉遣いが難しく堅苦しい印象をもたれた方などもおられるかもしれません。

本講義では、これまでの憲法学習で得られた知識をもとに、より多面的かつ体系的に日本国憲法の全体像を理解することを目的としています。なるべく私たちの権利や自由、そして身近な生活にかかわる事柄を中心に（例えば、プライバシー権や医療に関する自己決定権の保障、そして選挙制度や裁判員制度、など）、あらためて憲法とは何か、その意義や役割等について受講者全員で考えてみたいと思います。

受講生には、その都度指示されたテキストの該当箇所等を読み、各回で取り上げるテーマの概要を理解したうえで、疑問をもって授業にのぞむことが求められます。

なお、本授業は養護教諭第2種免許取得のための選択科目です。

5 授業内容

日本の政治状況（国会や内閣の動向）や最新の裁判所の判決状況などに鑑みて、各回で予定されている項目の内容や順序を入れ替える場合があります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月14日（火）	2	渡邊	法とは何か、憲法とは何か	憲法は誰が守らなければいけないルールなのだろうか。	看4
第2回	令和8年4月21日（火）	2	〃	比較のなかの日本国憲法	諸外国の憲法と比べて、日本国憲法は「新しい憲法」なのか？グローバルな視点から「憲法とは何か」について理解を深める。	看4
第3回	令和8年4月28日（火）	2	〃	日本国憲法はどのように作られたのか	憲法の制定過程を振り返りながら、あらためて日本国憲法の意義について理解を深める。	看4
第4回	令和8年5月12日（火）	2	〃	私たちの生活と人権～人権総論	身近な生活のなかの人権問題を取っ掛かりとして、人権とは何かを考える。	看4
第5回	令和8年5月19日（火）	2	〃	人権は誰のものか	子どもの人権や外国人の人権など、人権主体に着目しながら今日の人権保障の状況に目を向ける。	看4
第6回	令和8年5月26日（火）	2	〃	医療に関する自己決定権およびプライバシー	憲法第13条について、プライバシー権や個人情報保護法制をめぐる問題を例に理解を深める。	看4
第7回	令和8年6月2日（火）	2	〃	法の下での平等	そもそも平等とは何か。憲法第14条をめぐる諸問題について取り扱う。	看4
第8回	令和8年6月9日（火）	2	〃	現代社会と表現の自由	表現の自由を中心とする精神的自由の重要性について、特に民主主義及び政治参加の視点を考慮にいれながら検討を行う。	看4
第9回	令和8年6月16日（火）	2	〃	経済的自由権をめぐる諸問題	免許及び資格制（医師免許など）と職業選択の自由との関係などを通して、経済的自由に対する理解を深める。	看4

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第10回	令和8年6月23日(火)	2	渡 邊	健康で文化的な最低限度の生活とは?～社会権	生存権や教育を受ける権利に関する諸問題を取り上げる。特に、立法による憲法価値の実現について理解を深める。	看4
第11回	令和8年6月30日(火)	2	〃	人権保障と権力の方立	人権と統治機構との関係性を理解する。	看4
第12回	令和8年7月7日(火)	2	〃	国会は国権の最高機関か?	「法律」による憲法上の権利・自由の具体化という視点から、あらためて国会の役割について考える。	看4
第13回	令和8年7月14日(火)	2	〃	国会と内閣との関係	今日の議院内閣制の仕組みと課題について考える。	看4
第14回	令和8年7月21日(火)	2	〃	現代社会と裁判～裁判員制度、違憲審査制の機能など	現代社会における裁判の役割について理解を深める。	看4
第15回	令和8年7月28日(火)	2	〃	憲法改正をめぐる議論と私たち	憲法改正をめぐる議論を通して、あらためて「憲法とは何か」を考える。	看4
第16回	令和8年8月4日(火)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- ・毎回、講義資料を配布します。
 - ・テキストならびに講義資料をもとにした「講義」が中心ですが、適宜、受講生にコメントを求めたり、グループ・ディスカッション等を行ったりする予定です。授業への積極的な参加を期待します。
- なお、講義の録画動画のオンデマンド配信等はありません。

7 評価方法

- ・定期試験(70%)と平常点(30%)により評価します。
- ・試験範囲は講義の全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充問題、選択問題、論述問題などの記述試験で評価します。平常点として、練習問題や小レポートの提出状況(20%)、授業での発言状況(10%)を予定しています。
- ・練習問題や小レポートについては、その都度、フィードバックを行う予定です。
- ・授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価します。

8 テキスト

吉田仁美編『スタート憲法〔第4版〕』2024年、成文堂

9 テキストISBN番号

ISBN978-4-7923-0727-1

10 参考文献

各回の配布資料に掲載します。

11 オフィスアワー(授業相談)

授業後に対応します。

12 学生へのメッセージ

この機会に是非、テレビや新聞のニュース(もちろんネットでも可)をチェックするようにしてください。「これって憲法(あるいは人権)に関わるのでは!？」とふと考えたとき、それこそがまさしく憲法学習の第一歩です。

13 授業用E-mail

aki@edu.shiga-u.ac.jp

法 学

1 担当教員名

非常勤講師 須永知彦（滋賀大学経済学部 講師）

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学修目標

(1)下に示すディプロマ・ポリシー及びアウトカムを達成するため、この授業は以下のような点を修得することを目指します。現代社会における様々な法律問題について、特に財産・取引や家庭生活といった私法の分野を中心に、身近な素材や重要な事例をもとにして考えます。ごく初歩的な法律知識の習得も目標としますが、それと同時に、問題の背景を理解すること、法律の世界でのものの考え方や問題解決の仕方を理解することや、法律の世界の全般の見取り図（どのような問題がどのような法律で扱われるか等）を頭に描けるようになることに重点をおきます。その際に、情報社会や生命倫理といった現代的課題について、現行の法制度や法的思考方法が有する限界を確認することが重要と考えます。これによって、医療従事者の社会的責任を、倫理的な観点を含めて理解し、その理解に基づき適切に行動できる能力の獲得を目指します。授業計画に示すように、医療における安全の確保といった基本的な問題だけでなく、上に示した現代的な課題、福祉全般の中での医療、地域医療の位置付け、患者との適切な関係構築（インフォームドコンセント等）といった点も扱います。また、民事責任との関係で、医療スタッフ間のコミュニケーションについても触れます。

(2)この授業に特に関係するディプロマ・ポリシー及びアウトカムは以下のとおりであり、上の(1)に掲げた学修目標はこれらのディプロマ・ポリシー及びアウトカムを反映しています。

1. プロフェッショナリズム

- A1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
- A2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- A3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- A4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

2. 看護学の知識と技術

- B3. 臨床や研究に活用するために健康支援と社会保障制度の知識と技術を修得している。

3. 課題対応能力と看護実践能力

- C5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

4. コミュニケーションと多職種連携

- D1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- D2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- D3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- D4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

5. 地域医療への貢献

- E1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。

6. 科学的探究心と国際的視野

- F6. 研究倫理を理解したうえで、研究を実施できる。

7. 情報・科学技術の活用

- G1: 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。

(3)担当教員は民法特に契約法を専門としており、診療契約やその背後にある医療行政についても研究しています。また、民法全般や法学全般を扱う科目の授業も担当しています。研究成果はこの授業の各項目に反映され、また逆にこの授業での受講者との意見交換は担当教員の研究の刺激となっています。

4 授 業 概 要

1回の授業について2つほどのテーマを設定して、教科書やその他の資料を参考にしながらそのテーマに関する法的な考え方を解説します。その上で、そうした考え方や導かれる結論が「妥当」かどうか、妥当かどうかを判断する基準は何かを考えていきます。

時間の関係から、医療と法に関係する様々な分野を網羅的に解説することはできません。そこで、扱うテーマは、社会生活にとって身近でありまた医療従事者としても触れる機会が多いであろう分野が中心になりますが、主要な法分野全般については触れるように努め、またそれらの法分野の相互関係も解説します。

<授業時間外学修>

- ・事前：レジュメ（講義資料）と判例等その他資料は事前に配布します。指定する部分を読み、一定の点について調べる又は考えることを求めます。資料等の分量や調査内容は、1回につき2時間の事前学修を想定しています。
- ・事後：「7 評価方法」の小テスト・小レポートは、授業後（授業時間外）に授業内容を復習しながら受験・提出してもらいます。また締切後に提示する解答例・解説を読むことも事後学習に含まれます。問題の分量・レベルや解説の内容は、1回につき2時間の事後学修を想定しています。

5 授 業 内 容

まず、医事法を学ぶ基礎として、法の社会的機能等に触れた上で、憲法の位置づけ、行政法・刑法の役割や民法の基礎について説明します（第1回から第4回）。そして、それらに基づく応用として、医療と法（医療行為の行政的規制、患者の地位、医療事故、生殖医療、終末期医療等）について、裁判例などにも触れながら検討していきます（第5回から第15回）。具体的には、以下の授業計画のようになります。

【例年、授業計画と実際の授業の進度にズレが生じがちなため、特に第1回から第4回の構成を若干見直しました。】

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	1	須 永	医事法を学ぶための法学基礎(1)	(1)法の世界の見取り図（公法と私法）、憲法の位置づけ (2)医療にとっての法、法にとっての医療	臨3
第2回	令和8年4月20日(月)	1	〃	医事法を学ぶための法学基礎(2)	(1)憲法の位置づけ（続き） (2)行政法と刑法の役割	臨3
第3回	令和8年4月27日(月)	1	〃	医事法を学ぶための法学基礎(3)	(1)民法：不法行為 (2)民法：契約	臨3
第4回	令和8年5月11日(月)	1	〃	医事法を学ぶための法学基礎(4)	(1)民法：自然人と法人 (2)民法：家族関係	臨3
第5回	令和8年5月18日(月)	1	〃	医事法(1)	(1)医療行政の全体像 (2)医療法とその他の法令の機能・目的、医療提供体制の整備、地域医療	臨3
第6回	令和8年5月25日(月)	1	〃	医事法(2)	(1)医師や看護師の資格・免許 (2)医師や看護師の業務とその監督	臨3
第7回	令和8年6月1日(月)	1	〃	医事法(3)	(1)病院等の開設と監督 (2)医療法人	臨3
第8回	令和8年6月8日(月)	1	〃	医事法(4)	(1)契約としての医療 (2)応召義務等	臨3
第9回	令和8年6月15日(月)	1	〃	医事法(5)	(1)患者の人格的利益の保護（インフォームドコンセント、個人情報） (2)臨床研究等の規律	臨3
第10回	令和8年6月22日(月)	1	〃	医事法(6)	(1)医療事故と法 (2)医療事故と民事責任	臨3
第11回	令和8年6月29日(月)	1	〃	医事法(7)	(1)医療事故と刑法・医療行政法 (2)医療事故調査制度	臨3
第12回	令和8年7月6日(月)	1	〃	医事法(8)	(1)親子関係と生殖補助医療 (2)性別をめぐる問題等	臨3
第13回	令和8年7月9日(木)	1	〃	医事法(9)	(1)社会福祉・社会保障と医療 (2)若年者・高齢者・障がい者への配慮と医療	臨3
第14回	令和8年7月13日(月)	1	〃	医事法(10)	(1)人の死に関する法の考え方 (2)安楽死・尊厳死	臨3
第15回	令和8年7月27日(月)	1	〃	まとめ	(1)法と医療再考 (2)法・裁判の限界	臨3
第16回	令和8年8月3日(月)	1	〃	試験（9：00～10：30）		臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式です。レジュメに基づく解説と質疑応答により授業を進めます。レジュメには、付属資料として雑誌記事の抜粋等を含むことがあります。板書の代替としてスライドを用います。

7 評価方法

学修目標に示した点が達成できているかどうか、定期試験（51％）と小テスト・小レポート（49％）により評価します。定期試験が総括的評価、小テスト・小レポートは総括的評価と形成的評価、態度評価を兼ねることになります。

- ・小テスト・小レポートは、毎回の授業内容と関連する2～3の問題について、授業を進める中で考えてもらい、授業2回に1回の頻度でWebClassを通じて受験・提出してもらいます（7点×7回＝49点）。これは授業で扱った基本的な概念等を確認すると同時に、扱った問題の位置づけや社会における法の意味を確認し、法令遵守の姿勢につなげることを目指すものです。知識・概念確認のための多肢選択問題等と、問題の位置づけや意味を扱う簡単な記述問題からなります。締切後に解答例と簡単な解説を提示します。
- ・定期試験では、授業内容の理解度、すなわち、基本的な概念の意味の理解、それを応用した思考方法、授業中に触れた事例や判例の意義を、多肢選択問題や記述問題（判例などを元にした事例問題を含む）などによりはかります（52点）。医療従事者として身につけるべき法的知識の確認をめざすものです。

なお、仮に社会情勢等の変化（感染症の蔓延等）により定期試験の実施が困難になる場合には、定期試験に代えてレポートを出題することがあります。

定期試験と小テスト・小レポートあわせて、成績評価は概ね以下のような基準になります。

可：授業で触れた重要な用語・概念について把握しており、基本的な意味を説明できる。

良：それらの用語・概念について、相互に関連づけて理解し、説明できる。

また、それらから導かれる論理的な帰結について理解し、説明できる。

優：医療関係の重要判例について、位置づけや内容を理解している。様々な問題に対する法的な対応の社会的意義を理解し、説明できる。

秀：加えて、様々な問題の背景や経緯等について理解し、説明できる。

8 テキスト

レジュメ及び雑誌・新聞記事の抜粋その他の資料を適宜配布します。（印刷物は用意しません。WebClassを通じてファイルにより配布します。）

参考文献は授業で紹介します。

9 テキストISBN番号

（テキストは指定していません。）

10 参考文献

- ・手嶋豊『医事法入門[第6版]』（有斐閣・2022年）
- ・米村滋人『医事法講義[第2版]』（有斐閣・2023年）

11 オフィスアワー（授業相談）

授業の前後にお願いします。教室には8時30分頃からです。また、メールでの質問・相談も受け付けています。メールでの質問・相談の際は、大学のアカウントを用い、氏名と学籍番号を明示してください。

12 学生へのメッセージ

- ・授業に出席し、メモをとるように願います。
- ・例年のこの授業の不合格者の大半について、小テスト・小レポートの受験・提出を怠ったことによる得点不足が原因です。小テスト・小レポートは確実に受験・提出してください。

13 授業用E-mail

tsunaga@belle.shiga-med.ac.jp

哲 学

1 担当教員名

非常勤講師 室 寺 義 仁 (本学名誉教授)

2 配当学年等

第2学年 後期 1単位

3 学 修 目 標

受講生各自が、それぞれの興味と関心、あるいは、好奇心にしたがって、古えの哲人・賢人たちが残した言葉に出会い、人類の叡智が辿り着いた思索の深みを学ぶことを通じて、自分自身の思考能力に新たな広がりや柔らかさを身につけることを目標とします。

医学部で学ぶ教養としての「哲学」という視点に立てれば、まず、医療の原点には何があるのかについて学修し、そして、利他的かつ公正な態度をもって、信頼される行動（医行為や看護行為）を日常習慣化するためには、いかなる心を育てることが大切なのか、併せて、それぞれの地域社会で暮らす人々を育てて来た文化への眼差しを育てることの大切さなどについて、受講生各自が日本の伝統文化に根差した言葉で表現できるようになることを目標とします。

本講義に関する看護学科のディプロマ・ポリシー（DP）、並びに、アウトカム

DP1. プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

なお、本講は医看合同講義です。共通するところは、なぜ、患者や家族などの背景に配慮しつつ医行為・看護行為を実践することができるという行為指標が医学部生に向かつての学修目標として望まれているのか、受講生各自がしっかり考えることを本講の目的とします。

4 授 業 概 要

医療の原点は、人を愛することにあります。これは一つの提言である。例えば、日本医師会の「医の倫理綱領」前文末尾の一文に、医師は「人類愛を基にすべての人に奉仕する」と謳われていますが、この「人類愛」という用語の持つ語義の内実について考えを深めて行くことが、授業の中心的課題です。「人類愛」という用語について、まずは古代ギリシャ哲学から学びを始め、現代の私たちにとっては、どのような意味合いとして理解されているのかを問い掛けて行きます。学歌に「人類愛の高楼に 叡知の光 照らしつつ」「生死の重み畏れつつ 究めよ深く 仁慈の科学」と謳われていることも思い起こして下さい。

人を愛すと言表するとき、その「愛」の概念について、アリストテレスの「友愛」、キリスト教の「無償の愛」・「神愛」、儒教の「仁愛」、墨子の「兼愛」、そして、仏教の「慈愛」・「大悲」など、これらの「愛」についての観方を、多彩な「愛」の形についての思想潮流として考察します。この学びの過程で、受講生各自が、様々な「愛」の形、そして、日本の精神文化における悲しみと共にある「愛」の形について、思索を繰り返し深めて行く習慣性を身につけることを目指します。

受講生には、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された<内容>に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習（予習）を進めておくことが望まれます。その上で、講義を聞き、知識・考えを広め、コメントや小レポートを作成提出する過程で、考えを深め、自らの考えを客観的に記述すること（復習）が求められます。

5 授 業 内 容

神との契約という関係性の中に人間を観る思潮、多神への祈りの許に人と人とのつながりの関係性に人間を観る思潮、及び、神なきところで人と生き物一般、並びに、自然のものとの関係性の中に人間を観る思潮などについて、「愛」をキーワードとする人間観の視座に立って、古典文献（の邦語訳）を参照しながら概説する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月6日（火）	2	室 寺	ガイダンス	「人を愛する」こと、特にアリストテレスの「友愛」と愛の三つの形について	①
第2回	令和8年10月13日（火）	2	〃	西洋の近代思想	エーリッヒ・フロムの「愛の技術」について	①
第3回	令和8年10月20日（火）	2	〃	インドの哲学(1)	古典インドの神秘哲学—「アートマンへの愛着」（究極的な自己愛）	①
第4回	令和8年10月27日（火）	2	〃	インドの哲学(2)	縁起観—ものごとの成り立ちの観方、あるいは、アートマンへの執着の否定	①
第5回	令和8年11月10日（火）	2	〃	中国の思想(1)	『論語』に伝わる孔子が説く「仁」	①
第6回	令和8年11月17日（火）	2	〃	中国の思想(2)	『孟子』に伝わる「惻隠の心」としての「仁愛」	①

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第7回	令和8年11月24日(火)	2	室 寺	中国の思想(3)	「仁愛」と『墨子』に伝わる「兼愛」	①
第8回	令和8年12月1日(火)	2	〃	中国の思想(4)	老子『道德経』	①
第9回	令和8年12月8日(火)	2	〃	アブラハムの宗教(1)	アブラハムの宗教、並びに、「黄金律」について	①
第10回	令和8年12月22日(火)	2	〃	アブラハムの宗教(2)	キリストの説く「無償の愛」としての「神愛」について	①
第11回	2027年1月5日(火)	2	〃	「友愛」「自己愛」「慈愛」 「仁愛」「兼愛」「神愛」	愛の形の振返り、「恕」の心と「まこと」の心	①
第12回	2027年1月19日(火)	2	〃	「悲しみの哲学」(1)	日本における「愛」の歴史の始まり—「子を愛(うつく)しむ心」	①
第13回	2027年1月26日(火)	2	〃	「悲しみの哲学」(2)	愛の日本史(4段階説)、並びに、「交わりの心」について	①
第14回	2027年2月2日(火)	2	〃	「悲しみの哲学」(3)	「悲愛」(造語)、「慈愛」／「大悲」について	①
第15回	2027年2月9日(火)	2	〃	まとめ	日本の精神文化と愛の形	①

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式の対面授業。

WebClassに毎回の講義資料データを公開します。

講義の録画動画のオンデマンド配信は行いません。

7 評価方法

期末試験(論述式レポート)の素点評価を55%とする。

講義で取り上げた主要テーマごとに、WebClassを介して、授業内容へのコメント、あるいは、小レポート(授業内容へのアンケートを含む、4回あるいは5回)の提出を求める。その素点評価(例えば、7点×5回)の合計に、提出状況を合算して45%とする。コメント・小レポート・期末レポートでは、記述内容の客観性・合理性、正確性(引用文献の明記を含む)、並びに、課題によっては独創性が求められる。

出席は毎回取る(コメントの提出で出席を取る形式や、履修者名簿に自筆署名する形式など、複数の出席確認の形を取る)。なお、コメントやレポートはWebClassを介してWeb提出することを求めることなどについて、初回授業の中で説明を行う。

講義実数の3分の2を超える回数の授業参加が認められることが成績評価の前提である。

8 テキスト

教科書はない。各講義の教材資料は、WebClassを介してデータ配布する。

また、授業の中で、関連する参考図書を随時紹介して行く。

9 オフィスアワー(授業相談)

WebClassのメール・メッセージ機能を用いて(室寺宛に)、授業相談のためのアポイントメントを取る相談メールを送って下さい。適宜、対応します。

10 学生へのメッセージ

人々が語り伝えてきた「古典」が持つ言葉の力に会い、受講生各自が、自分自身の今の存在のあり様を見つめ問い直しつつ、自らの思索を深めてくれることを期待します。

地域文化論

1 担当教員名

教授 兼 重 努 (医療文化学講座 (文化人類学)) 非常勤講師
横 内 吾 郎

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学修目標

ここ十数年来の世界情勢の激変に伴い、わが国でも中東情勢あるいはイスラーム教に関するニュース報道が急激に増大しつつあります。就職、留学、旅行などで日本に居住・滞在するイスラーム教徒（ムスリム）の方々も増加し、医療機関においてもムスリムの患者さん・医療スタッフが増えてきているようです。世界人口に占めるムスリムの比率は増加傾向にあり（2019年には24.3%）、海外医療協力の際にムスリムの方々と遭遇する可能性も低くはありません。

にもかかわらず、私たちはイスラームについて十分な知識を持ち合わせていません。本講義がイスラームの社会と文化を理解するための契機となればと願っています。

①学修目標

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とします。

受講生は、イスラームの社会と文化を学ぶことにより、ムスリムの方々への理解・アセスメントの視点の涵養および、国際看護倫理につながる基礎知識の習得を目標とします。

具体的な目標は以下のとおりです。

1. イスラーム教に関する基礎知識から始めて、現代イスラーム社会についての基本的な知識を修得する。
2. 加えて、中国・東南アジア・ヨーロッパの各地域におけるイスラーム教徒・イスラーム社会に関するトピックスも学ぶことにより、比較文化的な観点からの理解も深める。
3. 1と2を踏まえ、国際的視野（我々が属している日本の社会と文化を相対化して捉える視点）を身につけ、将来、国内もしくは海外の医療機関で働く際に出会うであろう、ムスリムの患者や同僚（医療スタッフ）の方々の文化的背景に気を配り、価値観や立場を尊重し、倫理的配慮もできるようになる。

②本講義に関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

・GE対象を総合的・全人的に捉える能力

GE-01 人としての対象の理解：生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。

GE-02 対象アセスメントの視点と看護：対象者のライフサイクルにおける健康段階、発達課題、社会的役割の変化を捉え、生活者の健康課題・健康問題を踏まえ、看護を計画・実施できる。

・PRプロフェッショナリズム

PR-01 看護職の専門性を支える法律・倫理の理解：看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。

PR-02 看護職としての倫理的行動：生命に関する倫理および医療における倫理の基本を理解し行動できる。

4 授業概要

《イスラーム理解のための基礎知識》

イスラーム文化が現代社会に及ぼしているさまざまな影響について、地域文化比較の観点から総合的に解説します。

(1)イスラーム概論

イスラーム教の基本的教義の理解から始めて、現代イスラーム世界についての基礎的な知識の獲得を目指します。

(2)ヨーロッパとイスラーム

ヨーロッパにおけるイスラーム教徒とその立場

(3)中国・東南アジアとイスラーム

中国におけるイスラーム教徒とその立場、東南アジア大陸部とイスラーム社会

ムスリムの方々の持つ価値観と立場について地域文化比較の観点から学ぶことにより、国際的視野（我々が属している日本の社会と文化を相対化して捉える視点）の涵養を目指します。

【事前・事後の学修内容】

※受講生は、授業受講の外に授業の予習と復習に取り組む事が望まれます。

- ・予習：予め授業のレジュメをwebclassの方にアップしますので、授業の前に目を通してください。
- ・復習：授業で取り扱った内容に関連して授業課題や宿題を出しますので、それらに取り組むことにより学習内容の定着の一助としてください。

5 授 業 内 容

- ・第1週～第8週 イスラーム概論（横内講師）
ただし、第1週の最初の10分は成績評価などに関する説明（兼重）
- ・第9週～第10週 現代ヨーロッパにおけるイスラーム教（横内講師）
- ・第11週～第15週 中国および東南アジア大陸部におけるイスラーム教（兼重）

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月14日（火）	4	兼 重 横 内	イスラーム概論	成績評価などに関する10分程度の説明（兼重） ガイダンスーイスラームについて学ぶ意義を 考えるー	A
第2回	令和8年4月21日（火）	4	横 内	イスラーム概論	イスラーム教の基本的な教義	A
第3回	令和8年4月28日（火）	4	〃	イスラーム概論	イスラーム法	A
第4回	令和8年5月12日（火）	4	〃	イスラーム概論	スーフィズムと聖者信仰	A
第5回	令和8年5月19日（火）	4	〃	イスラーム概論	シーア派	A
第6回	令和8年5月26日（火）	4	〃	イスラーム概論	イスラーム復興とイスラーム主義	A
第7回	令和8年6月2日（火）	4	〃	イスラーム概論	現代の諸問題	A
第8回	令和8年6月9日（火）	4	〃	イスラーム概論	イスラーム世界の文化	A
第9回	令和8年6月16日（火）	4	〃	現代ヨーロッパにおける イスラーム教	現代ヨーロッパにおけるムスリム移民社会	A
第10回	令和8年6月23日（火）	4	〃	現代ヨーロッパにおける イスラーム教	現代ヨーロッパにおけるムスリム移民問題	A
第11回	令和8年6月30日（火）	4	兼 重	中国および東南アジア大陸 部におけるイスラーム教(1)	中国におけるイスラーム教徒 ー回族の事例(1)ー	A
第12回	令和8年7月7日（火）	4	〃	中国および東南アジア大陸 部におけるイスラーム教(2)	中国におけるイスラーム教徒 ー回族の事例(2)ー	A
第13回	令和8年7月14日（火）	4	〃	中国および東南アジア大陸 部におけるイスラーム教(3)	中国におけるイスラーム教徒 ーウイグル人の事例(1)ー	A
第14回	令和8年7月21日（火）	4	〃	中国および東南アジア大陸 部におけるイスラーム教(4)	中国におけるイスラーム教徒 ーウイグル人の事例(2)ー	A
第15回	令和8年7月28日（火）	4	〃	中国および東南アジア大陸 部におけるイスラーム教(5)	東南アジア大陸部におけるイスラーム教徒 ー雲南系ムスリムの事例ー	A

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式をとります。原則、対面で実施します。
なお、必要に応じて、視聴覚機器を使って映像資料などを紹介します。

7 評 価 方 法

1) 総合的評価

- ・レポート課題（2回）の成績を素点（各50点×2=100点満点）とします。（期末筆記試験は実施しません。）
- ・ただし、受講態度、受講（出席）状況ならびに授業課題の提出状況・回答内容などに問題がある場合は程度に応じて【上記の素点から10～50点前後】減点します。
- ・地域文化論は「選択科目」です（「必修科目」ではありません）ので、「課題レポート」の総合評価が60点を下回った場合、「再レポート」等の救済措置はありません。

1. レポート課題（第1回目）は

【第1回から第8回までの講義内容（横内先生の授業担当分）】を踏まえ、書いて頂くレポートです。
（提出方法、レポートの内容、締め切り日、字数、注意事項などに関しては8回目の授業が終わるまでに横内講師から通知します。）

2. レポート課題（第2回目）は

下記の①か②のうち どちらか一方から選んで 書いて頂くレポートです。

- ① [第9回と第10回の講義内容（横内先生の授業担当分）] を踏まえ、書いて頂くレポート。
- ② [第11回目以降の講義内容（兼重の授業担当分）] を踏まえ、書いて頂くレポート。

レポート課題（第2回目）の（提出方法、レポートの内容、締め切り日、字数、注意事項など）に関しては

- ①を選択する方は横内講師からの指示に従って頂き、
- ②を選択する方は兼重の方から（第11回目の授業の際に）詳細を連絡する予定です。

■レポートの注意事項

- ①レポートにおいては、参考文献を全て明示し、引用出典を逐一明記して下さい。
- ②課題レポートに剽窃（盗用）その他不正行為があった場合は、単位は認定できません（不正行為を補助した場合も同様です）。
- ③また、（本科目における生成AI利用ポリシーも含めて）注意事項を守っていないレポートを提出した場合も（程度に応じて）減点となります（単位を認定できないこともあります）。
- ④本科目における生成AI利用ポリシーならびにレポート執筆に関する注意事項は授業中に提示しますので、しっかり確認してください。
- ⑤（締め切りを守って提出した方々との公平性の観点から）提出期限後は受理できません。
 - ・通信上のトラブル（インターネットに接続できない等）や電子機器上のトラブル（パソコンの処理速度が遅くなった等）
 - ・自分では出したつもりだったが、提出できていないことに後から気づいた等、の理由での締め切り後の提出も一切認められません。
（早めに着手の上、締め切りギリギリの提出にならないよう余裕をもって提出して頂ければと思います。）

2) 形成的評価

- ・授業課題の採点結果や授業に関して寄せられた質問などを踏まえ、適宜フィードバックを行います。

3) 態度評価

- ・受講態度に関しては、私語等で授業環境を乱した場合、授業に直接関係のない行為、授業中の無断一時退出、妥当性のない遅刻・早退や欠席を繰り返した場合などは減点の対象となります。
- ・毎回の授業を確実に受講し、授業課題がある場合は、遺漏なく提出する事を心掛けて下さい。

■不正行為・不正補助について

- ・① [授業出席カードおよび確認小テスト]（紙媒体）提出の際、ならびに② [出席確認および授業課題]（WebClass上での）提出の際に、不正行為・不正補助があった場合は（程度に応じて、単位の不認定、大幅な減点など）厳正に対処します。
 - ・上記の不正行為・不正補助には、[出席カードや授業課題の代筆依頼/代筆請負]、[授業課題の答えを他人から共有・提供してもらった/他人に共有・提供した]などの行為が相当します。
- ※(上記②の) 授業課題は授業をきちんと受講している事を前提として実施しますので、授業を聴かずに（他人から答えを共有・提供してもらうなどして）授業課題を提出する事は課題の主旨に反する形となるため、不正行為とみなされます。

■授業の出欠について

- ・ご自身の出席・課題提出回数についてはくれぐれも平素より自己責任においてしっかりと把握するように努めて下さい。（課題の提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」>「マイレポート」で、各自で確認して下さい。）
- ・また、（大学からの通知（2023年3月）に従い）
【欠席については、履修要項の「10. 授業の欠席」に記載されている取り扱いで対応します。よって、欠席の際にはその規定に従い、教員、学生課に届け出て下さい。なお、オンデマンド配信の録画された講義動画を視聴したことをもって出席としては扱わないことを原則とします。】

8 テキスト

教科書は使用しません。プリント等を配布の予定です。

9 参考文献

参考文献などは、講義の際に随時紹介します。

10 オフィスアワー（授業相談）

随時。ただし、事前にメールでアポイントメント（相談日時の予約）をとって下さい。

お問い合わせ先

- ・第1～10回の授業内容に関するご相談は横内講師まで
- ・第11～15回の授業内容および授業全般に関しては兼重の方まで

11 学生へのメッセージ

将来、医療・看護の現場に身を置く皆さんにとって、自分と異なる文化的背景をもつ人々とかかわる機会は少なくないと思います。なかでもイスラム文化は、これまで日本の歴史には比較的縁遠い存在であったため、私たちにとって身近なものとは言い難いようです。どうかこの講義を利用して、自分のあまり知らない異国の文化に対して理解を深めて下さい。

※授業内容、課題、出欠などについて問い合わせ等がある場合は、該当する回（授業）の担当教員の方まで連絡してください。

- ・第1～10回：横内講師まで
- ・第11～15回：兼重の方まで

12 授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

gyokouc@belle.shiga-med.ac.jp

地 域 論

1 担当教員名

教授 兼 重 努 (医療文化学講座 (文化人類学))

2 配当学年等

第2学年 後期 2単位

3 学修目標

1) 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とします。

滋賀医科大学の理念は「地域に支えられ、地域に貢献し…」という文言から始まっています。本授業 (地域論) では、①地域 (滋賀県) および地域住民 (滋賀県民) についての知識と理解を深めることを目標とします。将来皆さんが滋賀県の地域医療ケアの現場に立ち、倫理的指針を定めて地元の方々の意思決定支援をする際などに、背景の知識として地域論の学修成果を役立てて頂ければ幸いです。

本授業では受講者自身がテーマを設定し調査を進めてゆく能動的学習の形をとります。能動的に学ぶことにより、②受講生の皆さんが生涯にわたって自立的に学び続けてゆく姿勢を確立すること、併せて③様々なアカデミック・スキルを修得すること、も目標としています。

具体的な目標は以下のとおりです。

1. 滋賀県、および滋賀県民に関する知識を獲得する。
2. 1をもとに受講生一人一人がオリジナルなmy地域論を立ち上げる。
3. 1と2に加えて、自力で探究を進めていく為に必要な能動的姿勢ならびに以下の3つのスキルも身につける。
 - ・問題解決のスキル：自力で問いを立て答えを導き出してゆくことができる
 - ・人に伝えるスキル：わかりやすいプレゼンテーションができる
 - ・コメントのスキル：批判的思考をもとに、他人のプレゼンテーションに対して適切にコメントできる

2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

- ・PRプロフェッショナルリズム
PR-02看護職としての倫理的行動：生命に関する倫理および医療における倫理の基本を理解し行動できる。
- ・LL生涯学習能力
LL-01生涯学習を可能にする基盤：環境や現状に対して批判的な視点を持ち、学習への好奇心、勤勉さ、忍耐力、創造への意欲をもって行動できる。
- ・SO地域社会における健康支援
SO-01地域社会と健康：人々の健康に影響を与える地域の特性や社会的決定要因を理解し、健康を改善・促進するための考え方を説明できる。
- ・RE科学的探究能力
RE-02 看護学の探究の基礎：科学的探究の諸方法について理解することができる。
- ・RE科学的探究能力
RE-03 看護学の探究：研究の基礎を理解し、指導を受けながらそのプロセスを実施し、報告し発表することができる。

4 授業概要

- 1) 現在の滋賀県の地域的特色や滋賀県民の暮らし・文化等を対象に、受講者自身がテーマを設定したうえで調査を進め、各自がオリジナルなmy地域論を構築していきます。現代の滋賀県や滋賀県民に関する事項であれば、原則、自由にテーマを選んで頂いて大丈夫です (滋賀県の地域医療をテーマとして選ぶことも可能です)。
- 2) 本講義は能動的学習の形式で行います。受講生一人一人が自分で問いを立てて、文献資料を調べたり (もし余力があればフィールドワークを行ったり) する事等を通して、生涯にわたって自立的に学び続ける姿勢を涵養します。
- 3) 学期末の学修成果発表会で一人一人が発表し、自らの学修内容をわかりやすくプレゼンテーションします。

【事前・事後の学修内容】

※受講生は、授業受講の外にも時間を使って授業の予習・復習やレポート課題等に取り組んで下さい。

- ・予習：本授業は能動的学習の方法で行うため、受講生は毎回の準備学修 (=進捗状況報告のための準備) を必須とします。
- ・復習：進捗状況報告に対して寄せられたコメントをもとに、報告内容のバージョン・アップに努めてください。

5 授 業 内 容

【重要】※本授業は能動的学習の形式で行います。受講生一人当たりの発言時間を確保し学びの質を担保するために2コマ（木曜・4限目と5限目）連続の形で開講します。地域論の履修を希望される方は、この点お含みおきのうえ、5限目の時間帯も続けて出席できるよう予めご準備下さい。

なお、本授業は受講者総数の多寡に応じて開講時間帯を調整する場合があります。

- ・受講者総数が12名を大きく下回った場合には4限目のみの開講となる可能性もあります。
- ・受講者総数が24名を超過した場合には、授業の運用の仕方が本シラバスの記載とは異なった形に変更となる可能性もあります（もしその様な形になりそうな場合は受講生の皆さんに通知します）。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1・2回	令和8年10月8日(木)	4・5	兼 重	ガイダンス	ガイダンス 地域論の実例紹介	①
第3・4回	令和8年10月15日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告1	問いの設定	①
第5・6回	令和8年10月22日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告2	問いの設定 参考文献調査	①
第7・8回	令和8年11月5日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告3	調査内容の報告と討論	①
第9・10回	令和8年11月12日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告4	調査内容の報告と討論	①
第11・12回	令和8年11月19日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告5	調査内容の報告と討論	①
第13・14回	令和8年11月26日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告6	調査内容の報告と討論	①
第15・16回	令和8年12月3日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告7	調査内容の報告と討論	①
第17・18回	令和8年12月10日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告8	調査内容の報告と討論	①
第19・20回	令和8年12月24日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告9	章立て案の報告と討論	①
第21・22回	令和9年1月7日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告10	パワポスライド案の報告と討論	①
第23・24回	令和9年1月14日(木)	4・5	〃	成果発表会の予行練習1	発表会の予行練習（第1回）	①
第25・26回	令和9年1月21日(木)	4・5	〃	成果発表会の予行練習2	発表会の予行練習（第2回）	①
第27・28回	令和9年1月28日(木)	4・5	〃	成果発表会1	成果発表会（第1回）	①
第29・30回	令和9年2月4日(木)	4・5	〃	成果発表会2	成果発表会（第2回）	①

6 授業形式・視聴覚機器の活用

原則、対面で実施します。

本授業では教員の講義を受身の姿勢で聴くというスタイルとはらず、皆さんの発表と質疑応答を主体とする能動的学習の形式をとります。自分でテーマを見つけ、具体的な問いを立てて、自ら図書館へ通ったり（余力があればフィールドワークをしたり）して資料を集め、問いの答えを探ってゆきます。毎回レジユメを作成した上で進捗状況を発表し、受講生同士で質疑応答を繰り返します。

受講生には毎回、進捗状況の報告と他の受講生の報告に対するコメントが義務づけられています。そのため、授業課題（進捗状況報告）の滞りない提出ならびに無遅刻・無早退・無欠席を前提とします。やむを得ない理由がある場合は事前に兼重まで連絡して下さい。

教員は、問いのたて方、資料の探し方、フィールドワークのやり方、分析方法、まとめ方、レジユメの書き方などについて助言します。

年明けに、成果発表会のプレゼンテーションの予行練習を行います。成果発表会では、学習の成果を本学教職員、学生、大学院生の前でパワーポイントを使って披露します。成果発表会で寄せられたコメントや質問等を踏まえて、発表内容をバージョンアップさせ期末レポートにまとめていきます。

7 評 価 方 法

1) 総括的評価

- ①成果発表会のプレゼン…50点満点
- ②期末課題レポート…50点満点
- ①+②の合計が60点以上を合格とします。

※なお、課題レポートに剽窃（盗用）その他不正行為があった場合は単位を認定できません。詳細は授業で説明します。

- ・出席（受講）状況・授業課題提出状況・受講態度などに問題があった場合は、程度に応じて（上記より）減点となります。ご自身の出席・授業課題提出回数についてはくれぐれも平素より自己責任においてしっかりと把握するように努めて下さい。（課題の提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」>「マイレポート」で、各自で確認して下さい。）

2) 形成的評価

- ・提出された課題や授業の中で寄せられた質問などを踏まえ、適宜フィードバックを行います。

3) 態度評価

・受講態度に関しては、私語等で授業環境を乱した場合、妥当でない理由で遅刻・早退や欠席を繰り返した場合などは減点の対象となります。

本授業は受講生が互いに啓発しあう形を前提としていますので、それにそぐわない態度（例えば他の受講生のプレゼンをしっかり聞こうとしないなど）が続いた場合も減点の対象となります。

また、(大学からの通知(2023年3月)に従い)

【欠席については、履修要項の「10.授業の欠席」に記載されている取り扱いで対応します。よって、欠席の際にはその規定に従い、教員、学務課に届け出てください。なお、オンデマンド配信の録画された講義動画を視聴したことをもって出席としては扱わないことを原則とします。】

8 テキスト

教科書は使用しません。プリントを配布します。

9 参考文献

以下の書籍は文献探索、アンケート調査、フィールドワークやプレゼンの際に皆さんの役に立つと思われるので、ご一読を強くお勧めします。

<問いの立て方>

*佐藤郁哉 2024『リサーチ・クエスチョンとは何か?』ちくま新書1826

<調べ方>

*藤田節子 1997『自分でできる情報探索』ちくま新書109

*宮内泰介 2004『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書117

*宮内泰介・上田昌文 2020『実践 自分で調べる技術』岩波新書1853

*藤田節子 2007『キーワード検索がわかる』ちくま新書685

*伊藤民雄 2022『インターネットで文献検索 2022年版』日本図書館協会

*小笠原喜康 2018『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書2498

*井上真琴 2004『図書館に訊け!』ちくま新書486

*千野信浩 2005『図書館を使い倒す! ネットではできない資料探しの「技」と「コツ」』新潮新書140

*酒井 隆 2012『アンケート調査の進め方』<第2版>日経文庫1271

*吉本哲郎 2008『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書609

*岩波書店編集部編 2004『フィールドワークは楽しい』岩波ジュニア新書474

*今和次郎 1987『考現学入門』ちくま文庫

<プレゼンテーション>

*倉島保美 2014『論理が伝わる 世界標準の「プレゼン術」一生モノの「説得技法」』講談社ブルーバックス B-1847

*池上 彰 2010『〈わかりやすさ〉の勉強法』講談社現代新書2054

*宮野公樹 2009『学生・研究者のためのPowerPointスライドデザイン 伝わるプレゼン 1つの原理と3つの技術』化学同人

*平林 純 2009『論理的にプレゼンする技術 聴き手の記憶に残る話し方の極意』サイエンス・アイ新書103 ソフトバンククリエイティブ

その他の参考文献は随時紹介します。

10 オフィスアワー (授業相談)

随時。ただし、事前にメールでアポイントメント(相談日時の予約)をとって下さい。

11 学生へのメッセージ

滋賀医科大学で学ぶ皆さんは(地域枠で入学したか否かにかかわらず)近い将来、何らかの形で滋賀県の地域医療に関わる事が期待されています。その際必要になるのは、滋賀県という土地、そしてそこに暮らす人々に関する知識です。地域論の授業に参加すると、こうした知識が得られます。他府県出身の方は勿論、滋賀県内で生まれ育った方にも何らかの新たな発見があるはずです。

滋賀県および、そこに暮らす人々について皆さんが疑問に思っている事、知りたい事を、図書館や野外に赴いて自ら調べる機会が得られます。自分で問いを立て、調べ、考え、答えを導き、プレゼンするという知的体験も得ることができます。テーマの設定のしかた、調べ方、まとめ方、プレゼンの要領、レポートの書き方等についても学ぶことができます。

真摯に取り組むならば、卒業後も終生役立つ重要なスキルを獲得することにもつながるでしょう。例えば、自力で問いを立て答えを出してゆくスキル、プレゼンテーションのスキル、批判的思考のスキル、コメント力などです。

以上が本授業から皆さんが得ることができるメリットです。

本授業では①[教員と受講生の間の対話]のみならず②[受講生同志の間の対話]も重視しています(本授業は医学科1年生と看護学科2年生の合同授業となっています)。

12 授業用E-mail

kanesige@belle.shiga-med.ac.jp

運動科学実践

1 担当教員名

非常勤講師 石部元太 (NPO法人びわこスポーツクラブ)

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学修目標

看護職として求められる健康支援能力の基盤として、スポーツ科学の理論と実践を通して、運動が心身に及ぼす影響を科学的に理解し、安全かつ効果的に運動を実践・応用できる能力を養う。

また、他者との協働的な運動実践を通して、対象者の健康状態や特性を踏まえた運動支援の視点を身につけ、将来の看護実践につなげる態度を養う。

1. 運動・身体活動が健康、体力および心身機能に与える影響について、基礎的なスポーツ科学の理論に基づいて説明できる。
2. 自己および他者の体力・健康状態を踏まえ、安全性に配慮した運動内容を理解し、適切に実践・修正することができる。
3. 運動・スポーツの実践を通して、体力および運動技能の向上を図るとともに、健康の保持増進を目的とした継続的な身体活動の重要性を理解する。
4. グループでの運動実践や活動を通して、コミュニケーション能力と協調性を発揮し、看護職に求められる対人関係能力の基礎を身につける。

4 授業概要

<実施種目>

体幹トレーニング (ファンクショナルトレーニング)、アイスブレイク

選択種目 (バドミントン・卓球・バスケットボール・アルティメット・ニュースポーツ等から4つ選択)

※1年時に習得種目を発展する。

<講義内容>

トレーニング科学論, 臨床スポーツ医学

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容
第1回	令和8年4月9日(木)	2・3	石部	ガイダンス	日常生活と体幹・発達理論
第2回	令和8年4月16日(木)	2・3	〃	選択種目1-1	基本技術・1年生の復習
第3回	令和8年4月23日(木)	2・3	〃	選択種目1-2	グループ練習(技術編)・リーグ戦①
第4回	令和8年4月30日(木)	2・3	〃	選択種目1-3	グループ練習(戦術編)・リーグ戦②
第5回	令和8年5月7日(木)	2・3	〃	選択種目1-4	グループ対抗試合・まとめ
第6回	令和8年5月14日(木)	2・3	〃	選択種目2-1	基本技術・1年生の復習
第7回	令和8年5月21日(木)	2・3	〃	選択種目2-2	グループ練習(技術編)・リーグ戦①
第8回	令和8年5月28日(木)	2・3	〃	選択種目2-3	グループ練習(戦術編)・リーグ戦②
第9回	令和8年6月4日(木)	2・3	〃	選択種目2-4	グループ対抗試合・まとめ
第10回	令和8年6月11日(木)	2・3	〃	選択種目3-1	基本技術・1年生の復習
第11回	令和8年6月18日(木)	2・3	〃	選択種目3-2	グループ練習(技術・戦術)・リーグ戦①
第12回	令和8年6月25日(木)	2・3	〃	選択種目3-3	グループ対抗試合・まとめ
第13回	令和8年7月2日(木)	2・3	〃	選択種目4-1	基本技術・1年生の復習
第14回	令和8年7月16日(木)	2・3	〃	選択種目4-2	グループ練習(技術・戦術)・リーグ戦①
第15回	令和8年7月23日(木)	2・3	〃	選択種目4-3	グループ対抗試合・まとめ

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実技による演習形式

7 評価方法

【総括的評価】

・平常点（70%）

授業への受講態度・学修意欲、授業中の発言状況、仲間との協力姿勢、授業運営への主体的な参画、運動実践における技能・体力の向上等を、観点別評価に基づいて評価する。

・レポート課題（30%）

授業内容を踏まえ、運動・身体活動と健康・安全に関する基礎的知識の理解度、およびそれらを基にした思考力・判断力を評価する。

※授業内での実践・振り返りを基礎とした内容を評価対象とする。

【観点別評価の観点】

本授業では、以下の3つの観点に基づき評価を行う。

①知識・技能

・運動・スポーツおよび健康・安全に関する基礎的知識を理解し、適切かつ安全に運動を実践しようとしているか。

②思考・判断・表現

・自身の運動実践や他者との活動を振り返り、健康状態や状況に応じた判断や工夫について、根拠を踏まえて考察できているか。

③主体的に学習に取り組む態度

授業や活動に積極的に参加し、仲間と協力しながら課題に取り組むとともに、自身の学修を振り返り改善しようとする姿勢がみられるか。

【形成的評価】

各授業において提示する課題や振り返りシート、簡易フォームによる自己評価アンケートを通して、自身の学修状況を振り返る機会を設ける。

自己評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から行い、学生が授業内でPDCAサイクルを意識した学修改善を図れるよう支援する。

授業担当者は、運動実践の状況、仲間との協力姿勢、コミュニケーションの取り方等について、随時フィードバックを行う。

【態度評価】

・授業への参加状況（発言、協力的態度、運動実践への取り組み等）から学修意欲を評価する。

・学修意欲が特に良好な学生については、平常点に加味することがある。

・私語や安全を損なう行為など、授業環境を乱す行為がみられた場合は、評価を減点することがある。

出席が授業時間の11/15時間に満たない場合は、「不可」とする。

8 オフィスアワー（授業相談）

授業日の12：00～13：00

9 学生へのメッセージ

「スポーツは世界を救う」私のスローガンです。人の命に関わるお仕事に就かれる皆様を心から尊敬します。共に学び、共に成長していきましょう。

10 主担当教員の実務経験

高等学校（保健体育科）教諭経験あり。JICA青年海外協力エチオピア/体育隊員経験あり

基礎科学研究

1 担当教員名

教授	古 莊 義 雄	(生命科学講座 (化学))
教授	目 良 裕	(生命科学講座 (物理学))
教授	立 岡 弓 子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	伊 藤 美樹子	(地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
教授	河 村 奈美子	(地域看護学講座 (精神保健看護学))
教授	依 馬 正 次	(動物生命科学研究センター)
准教授	成 瀬 延 康	(生命科学講座 (物理学))
准教授	森 康友紀	(生命科学講座 (化学))
准教授	里 岡 大 樹	(生命科学講座 (生物学))
准教授	川 北 素 子	(生命科学講座 (数学))
准教授	守 村 敏 史	(動物生命科学研究センター)
准教授	本 山 一 隆	(情報総合センター)
助教	林 友 哉	(生命科学講座 (化学))
助教	樋 口 牧 郎	(生命科学講座 (生物学))
助教	岡 村 永 一	(動物生命科学研究センター)
特任助教	武 藤 真 長	(動物生命科学研究センター)
特任助教	松 本 翔 馬	(動物生命科学研究センター)
助手	中 西 章 夫	(生命科学講座 (物理学))

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学 修 目 標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本科目では、医科学・生命科学を含む自然科学の研究方法および説明能力の修得過程を通じて、科学を総合的な観点から理解することを目的とする。

本科目に関係するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

PR-01 看護職の専門性を支える法律・倫理の理解

看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。

DP6. 科学的探究心と国際的視野

RE-01 学術活動の倫理的行動

学術活動における倫理規定の重要性と内容を理解することができる。

RE-02 看護学の探究の基礎

科学的探究の諸方法について理解することができる。

RE-03 看護学の探究

研究の基礎を理解し、指導を受けながらそのプロセスを実施し、報告し発表することができる。

4 授 業 概 要

下記の【実験研究および理論研究】あるいは【サイエンスコミュニケーション】の2つのコースのうちのいずれかを選択し、テーマに応じて一連の作業を自主的に学修していく。主として生命にかかわる現象や各教員の研究に関連したテーマを、生命科学講座、情報総合センター、動物生命科学研究センターの各分野で準備する。

【実験研究および理論研究】1つのテーマに対して、実験計画あるいは基礎理論から結果報告までの一貫した研究過程を学修する。

【サイエンスコミュニケーション】科学的な話題を取り上げ、それを調査し、一般の人にも理解できるよう説明する。

各回の研究活動時までに実験や調査の計画を立て概略を理解しておくことが求められる。また、研究終了後、研究結果を分析、考察して発表し、報告書を作成することが求められる（授業形式の項を参照）。

なお、本科目は「人間科学研究」との重複履修はできない。

5 授 業 内 容

各分野のテーマを下記に示すが、これら以外でも、実験機材等の点で可能であれば独自にテーマを設定してもよい。

【実験研究および理論研究】

物 理 学：生体関連物質およびナノ材料の原子レベルでの観察、および、計算機による物性子測

生 物 学：免疫細胞動態の解析

情 報 学：コンピューターシミュレーション等の情報技術を活用した研究

動物生命学：幹細胞の性状解析、疾患の組織解析、遺伝子改変マウスの作製・解析

【サイエンスコミュニケーション】

化 学：看護の化学・身の回りの化学

なお、受講人数制限を行う（物理学4名、化学3名、生物学3名、情報学2名、動物生命学2名程度）。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月9日（木）	4	目良古本依馬	オリエンテーション	物理学、化学、生物学、情報学、動物生命学の各分野の研究テーマの説明と質疑応答	B
第2回	令和8年4月9日（木）	5	〃	オリエンテーション	物理学、化学、生物学、情報学、動物生命学の各分野の研究テーマの説明と質疑応答	B
第3回	令和8年4月16日（木）	4	各分野担当教員	研究1	各テーマに応じた研究	
第4回	令和8年4月16日（木）	5	〃	研究1	各テーマに応じた研究	
第5回	令和8年4月23日（木）	4	〃	研究2	各テーマに応じた研究	
第6回	令和8年4月23日（木）	5	〃	研究2	各テーマに応じた研究	
第7回	令和8年4月30日（木）	4	〃	研究3	各テーマに応じた研究	
第8回	令和8年4月30日（木）	5	〃	研究3	各テーマに応じた研究	
第9回	令和8年5月7日（木）	4	〃	研究4	各テーマに応じた研究	
第10回	令和8年5月7日（木）	5	〃	研究4	各テーマに応じた研究	
第11回	令和8年5月14日（木）	4	〃	研究5	各テーマに応じた研究	
第12回	令和8年5月14日（木）	5	〃	研究5	各テーマに応じた研究	
第13回	令和8年5月21日（木）	4	〃	研究6	各テーマに応じた研究	
第14回	令和8年5月21日（木）	5	〃	研究6	各テーマに応じた研究	
第15回	令和8年5月28日（木）	4	〃	研究7	各テーマに応じた研究	
第16回	令和8年5月28日（木）	5	〃	研究7	各テーマに応じた研究	
第17回	令和8年6月4日（木）	4	〃	研究8	各テーマに応じた研究	
第18回	令和8年6月4日（木）	5	〃	研究8	各テーマに応じた研究	
第19回	令和8年6月11日（木）	4	〃	研究9	各テーマに応じた研究	
第20回	令和8年6月11日（木）	5	〃	研究9	各テーマに応じた研究	
第21回	令和8年6月18日（木）	4	〃	研究10	各テーマに応じた研究	
第22回	令和8年6月18日（木）	5	〃	研究10	各テーマに応じた研究	
第23回	令和8年6月25日（木）	4	〃	研究11	各テーマに応じた研究	
第24回	令和8年6月25日（木）	5	〃	研究11	各テーマに応じた研究	
第25回	令和8年7月2日（木）	4	〃	研究12	各テーマに応じた研究	
第26回	令和8年7月2日（木）	5	〃	研究12	各テーマに応じた研究	
第27回	令和8年7月16日（木）	4	〃	基礎科学研究発表会	研究成果の発表	B
第28回	令和8年7月16日（木）	5	〃	基礎科学研究発表会	研究成果の発表	B
第29回	令和8年7月23日（木）	4	〃	復習	ここまでのまとめと報告書作成	
第30回	令和8年7月23日（木）	5	〃	復習	ここまでのまとめと報告書作成	

6 授業形式・視聴覚機器の活用

初めにオリエンテーションを行い、それぞれのテーマの概略を説明した後、各自コースとテーマを決定する。

実験研究を選択した場合は、選択した研究テーマで扱う現象を理解し、研究計画・実験計画を立て、それに沿って実施する。得られた実験結果をまとめ、分析し考察を加える。これらの経過や結果は研究報告として、視聴覚機器などを利用して学会形式で発表し、論文形式の研究報告書としてまとめる。

サイエンスコミュニケーションを選択した場合は、選択した研究テーマについて理解し、咀嚼して、視聴覚機器などを利用して発表し、報告書としてまとめる。

研究テーマの学修過程では、学内外の資料を収集したり、教員・研究者に協力を依頼したりすることもある。発表においては、質問に答えられるよう準備が必要である。

7 評価方法

①総括的評価

発表会での発表・討論、報告書の内容（80%）と各回の研究への取り組み態度、意欲（20%）を評価し、合計が60%以上を合格とする。なお、報告書の提出が前期中（9月末まで）に完了しなければ、成績評価はしない。報告書はすべて滋賀医科大学機関リポジトリ「びわ庫」にて公開する。

②形成的評価

各回の研究では、進捗状況を評価しフィードバックを行う。

8 テキスト

オリエンテーション時に各テーマの資料を示す。それ以後は、必要に応じてその都度示す。

9 参考文献

WebClassの「基礎科学研究」に前年度の研究報告書や今年度の資料などを掲載する。

10 オフィスアワー（授業相談）

各教員のオフィスアワーに準じる。または、事前に担当教員にメールで連絡すること。

11 学生へのメッセージ

研究過程やプレゼンテーションの組み立てを楽しみながら自主的に取り組んでください。通常の講義や実習とは違い、結果を予測できないテーマに取り組むことによって、自分の思わぬ能力を発見することでしょう。

12 授業用URL

<https://latte.shiga-med.ac.jp/>

13 授業用E-mail

lec-biology@belle.shiga-med.ac.jp

人間科学研究

1 担当教員名

准教授	小島隆次	(医療文化学講座 (心理学))
教授	加藤穰	(医療文化学講座 (英語))
教授	兼重努	(医療文化学講座 (文化人類学))
教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	伊藤美樹子	(地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
教授	河村奈美子	(地域看護学講座 (精神保健看護学))

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学修目標

「課題探求能力の追求」が本授業の学習目標です。学生が自ら研究テーマを選択・設定し、テーマに応じた資料収集や研究方法・研究の進め方を追求し、さらには研究内容のとりまとめ方・発表や提出する小論文の書き方などの能力を育成します。

【本授業に関する資質・能力】

PR：プロフェッショナリズム

【本授業に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム】

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

4 授業概要

本授業は、人文社会科学で扱われる様々な研究テーマについて、受講生が主体的に研究活動を行う授業です。受講生には、研究テーマの設定、研究計画立案と研究の実施、そして研究活動と成果の取りまとめとしての論文執筆に取り組んでもらいます。

学期中には、研究の進捗状況などを報告してもらいながら、研究を進めてもらいます。そして、夏期休業中に各指導担当教員の指導の下で論文を執筆してもらいます。

基本的に各授業時間の前後に担当教員からの作業指示等があると思いますが、授業時間外の作業が非常に多くなる可能性もあることは認識しておいてください。研究テーマや研究方法によっては、夏季休業中も研究に取り組むことになるかもしれません。

本授業を受講することによって、論理的・批判的思考を行う能力やプレゼンテーション能力等が養われるようにしたいと思います。

5 授業内容

1. 人文科学・社会科学の分野のうち、文化人類学/地域研究 (指導:兼重教授)、医療英語/アメリカの思想・文化 (指導:加藤教授)、哲学/倫理学 (指導:大北教授)、認知/行動科学 (指導:小島准教授) の諸ジャンルから、個々の学生が、教員との相談も交えながら、研究テーマを確定します。
2. 毎回、受講生は研究進捗状況について報告し、教員からアドバイスを受けることになります。
3. 授業の具体的な進め方は、各担当教員によって異なりますので、各教員の指示に従って下さい。
4. おおよそ次のようなスケジュールを予定しています。
4月:指導教員や研究テーマなどを決定し、研究に取りかかる。
5月/6月:教員のアドバイスを受けながら研究を進める。
7月:研究成果をとりまとめる。
8~9月:研究成果を小論文形式にまとめる。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1・2回	令和8年4月9日(木)	4・5	各分野担当教員	ガイダンス	A
第3・4回	令和8年4月16日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告1	
第5・6回	令和8年4月23日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告2	
第7・8回	令和8年4月30日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告3	
第9・10回	令和8年5月7日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告4	

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第11・12回	令和8年5月14日(木)	4・5	各分野担当教員	受講生による進捗状況報告5	
第13・14回	令和8年5月21日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告6	
第15・16回	令和8年5月28日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告7	
第17・18回	令和8年6月4日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告8	
第19・20回	令和8年6月11日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告9	
第21・22回	令和8年6月18日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告10	
第23・24回	令和8年6月25日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告11	
第25・26回	令和8年7月2日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告12	
第27・28回	令和8年7月16日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告13	
第29・30回	令和8年7月23日(木)	4・5	〃	受講生による進捗状況報告14	

6 授業形式・視聴覚機器の活用

「授業内容」を参照して下さい。

7 評価方法

授業時間内での研究進捗報告等(40%)、そして研究成果をまとめた論文(60%)とを総合的に評価します。定期試験は行いません。

但し、上記総合評価に際しては、普段の研究活動への取り組み具合や指導教員との適切なコミュニケーションなど、授業を通じた形式的評価や態度評価なども加味されます。

8 テキスト

教科書は使用しません。

参考文献などは必要に応じて各自で調査収集して下さい。

9 オフィスアワー(授業相談)

随時各指導教員へ気軽に相談に来てください。

10 学生へのメッセージ

受講生が研究したいテーマを自由に選択・決定することから、この授業はスタートします。主体的・意欲的にテーマに取り組む学生の参加を期待しています。

原則として受講人数を10名以下に制限していますので、受講者選抜を行います。受講者選抜の方法等については、初回授業開始までに通知します。

また、「人間科学研究」を受講すると「基礎科学研究」を受講することはできませんので御注意ください。同じく、「基礎科学研究」を受講する場合には「人間科学研究」は受講できません。

11 授業用E-mail

tkojima@belle.shiga-med.ac.jp

病 理 学

1 担当教員名

教 授 伊 藤 靖 (病理学講座 (疾患制御病態学部門))
准 教 授 仲 山 貴 永 (病理学講座 (人体病理学部門))
准 教 授 石 垣 宏 仁 (病理学講座 (疾患制御病態学部門))

2 配当学年等

第2学年 前期前半 1単位

3 学 修 目 標

疾病の成立の経緯、臓器機能・組織の変化について学び、疾病に対する理解を深めることを目的とする。
以下の基本的な能力と素質の獲得が目標である。

PS-07

項 目 名：各器官および全身の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析

学修目標：各器官および全身の構造・機能、健康障害に対するニーズを分析し、それを活用した看護を实践できる。

PS-08

項 目 名：人体各器官の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析

学修目標：人体各器官の構造・機能と健康障害に対するニーズを分析し、それを活用した看護を实践できる。

4 授 業 概 要

疾病の予防や治療を实践するためには、疾病の成因を知る必要がある。病理学は疾病の成因を知る上で最も重要な学問分野の一つであり、基礎医学及び臨床医学の発展に必須である。因みに疾病の確定診断は、通常、病理的検査で行われる。本講義を通して病理学の基礎を学ぶ。1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	2	伊 藤	病因論	病因論	看4
第2回	令和8年4月15日(水)	2	〃	炎症	炎症	看4
第3回	令和8年4月22日(水)	2	〃	先天性疾患	先天性疾患	看4
第4回	令和8年5月13日(水)	2	仲 山	進行性病変・退行性病変	進行性病変・退行性病変	看4
第5回	令和8年5月20日(水)	2	〃	腫瘍(1)	腫瘍(1)	看4
第6回	令和8年5月27日(水)	2	〃	腫瘍(2)	腫瘍(2)	看4
第7回	令和8年6月3日(水)	2	石 垣	循環障害(1)	循環障害(1)	看4
第8回	令和8年6月10日(水)	2	〃	循環障害(2)	循環障害(2)	看4
第9回	令和8年7月31日(金)	2	伊 藤	試験(11:00~12:30)		看4
第10回	令和8年8月14日(金)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

スライド、ハンドアウトを用いて講義を行う。

7 評 価 方 法

総合的評価：定期試験(85%)、平常点(小テスト、受講態度)(15%)。出席5回未満の場合は定期試験の受験資格はないものとする。
形式的評価：授業で提示する小テストについては実施の都度フィードバックを行う。
態度評価：授業での質問、発言等で学習意欲を評価する。私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

「病理学 - 疾病のなりたちと回復の促進〈1〉」(系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院)

9 オフィスアワー(授業相談)

随時相談に乗る。基礎研究棟4階に直接来室あるいはメールでの連絡も可。来室の場合はメールでアポイントを取ることを勧める。

10 学生へのメッセージ

個々の疾患の病態を学ぶ前に、疾患に共通する考え方を総論として学ぶと各論の勉強が取り組みやすくなると思います。

11 主担当教員の実務経験

医師

薬物治療学

1 担当教員名

教授	馬場重樹	(基礎看護学講座 (内科学・栄養学))
教授	西英一郎	(薬理学講座)
教授	森田真也	(薬剤部)
准教授	池田義人	(薬剤部)
助教	大澤真	(感染制御部)
特任助教	井上博登	(光学医療診療部)

2 配当学年等

第2学年 前期後半 1単位

3 学修目標

薬物治療には、医師、看護師、薬剤師の連携が必要であるが、実際に患者とコミュニケーションをとりながら投薬するのは看護師である。誤薬を防止するだけでなく、服薬指導や治療内容の説明を行うと共に治療効果の確認や副作用の発見や防止にも努めなければならない。そのためにも、薬理学的な基本知識を身につける必要があり、以下を学習目標（到達目標）とする。

1. 薬物の作用点（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）を説明できる。
2. 薬理作用を規定する要因（用量と反応、親和性など）や薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
3. 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。
4. 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。
5. 薬物の投与方法（経口、舌下、皮下、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻など）の違いによる特徴と看護援助を説明できる。
6. 小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点と看護援助を説明できる。
7. 主な治療薬（末梢神経、中枢神経、循環器系、呼吸器系、消化器系、免疫系などに作用する薬、予防接種、抗感染症薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、分子標的薬、医療用麻薬、麻酔薬、主な漢方薬）の作用、機序、有害事象及び看護援助を説明できる。

講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

1. 薬剤の作用・副作用によるリスクを予見し、投与時の確認手順や副作用出現時の適切な対応を理解することで、安全な薬物療法を遂行するための具体的な行動を提示できる。QS-03, 04
2. 看護職の役割・責任・保有する知識、多職種チームにおける薬物療法のプロセスを理解し、看護職の役割と責任を説明できる。IP-03
3. 主要な疾患に用いられる薬物の作用機序を理解し、各器官の生理的状況に応じた薬物療法の看護ニーズを分析できる。PS-07, 08
4. 身体を守る仕組みと異常を理解し、実践できる。PS-11

4 授業概要

看護師として必要な薬物の体内動態・代謝を学び、薬理学の基本的な知識を習得する。また、循環器作用薬、中枢神経・末梢神経作用薬、化学療法薬、抗炎症薬など、薬剤の作用機序や臨床応用、副作用などについて理解する。（看護師として薬物治療に関する基礎的知識は必要である。薬物の体内動態や代謝経路など、薬理学の基本的な知識を習得するとともに、循環器作用薬、神経作用薬、化学療法薬、抗炎症薬などについて個別に薬剤の作用機序や臨床応用を理解する。）

受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。

各講義の講義資料はWebClassに掲載するので毎回確認すること。

また、各自で電子端末を持参するか、必要に応じて印刷をしておくこと。

各回の講義後に講義内容を復習し疑問点などがあれば担当教員にWebClassより問い合わせる。

目安として各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行い、理解を深めることが望まれる。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年5月28日(木)	1	馬場	総論 薬物療法・薬理学の基本		看4
第2回	令和8年6月16日(火)	1	西	末梢神経作用薬		看4
第3回	令和8年6月18日(木)	1	森田	薬物の代謝動態・薬効と有害事象	妊娠と薬、授乳と薬に関する内容を含む	看4

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第4回	令和8年6月25日(木)	1	大澤	抗感染症薬		看4
第5回	令和8年6月30日(火)	1	西	循環器作用薬		看4
第6回	令和8年7月2日(木)	1	井上	抗がん剤	妊娠と薬、授乳と薬に関する内容を含む	看4
第7回	令和8年7月16日(木)	1	池田	中枢神経作用薬		看4
第8回	令和8年7月23日(木)	1	馬場	その他の薬剤		看4
第9回	令和8年7月30日(木)	1	〃	試験(9:00~9:40)【40分】		看4
第10回	令和8年8月17日(月)	4	〃	再試験(15:30~16:10)【40分】		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式で行う。

下記に記載したテストを用いるため、各自で必ず準備すること。

テキストは各自で必ず購入し、講義に持参すること。

(テキストは不定期に改版されるため、最新版を購入すること。)

授業で用いる主な資料はWebClassに掲載をする。

紙での配布は基本的には行わない。

また板書やスライドも適宜使用する。

出席確認は座席位置で判断するため、指定された場所に必ず着席すること。

7 評価方法

総括的評価

- ・定期試験：多肢選択式(90%)
- ・平常点

形成的評価：小テスト(10%)

態度評価：授業における出席態度により加点、減点することがある。

8 テキスト

「薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 [3]」系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 第15版 (ISBN: 978-4-260-04716-6)
(テキストは不定期に改版されるため、最新版を購入すること。)

9 オフィスアワー (授業相談)

毎週金曜日の12:00~13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

10 学生へのメッセージ

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

11 主担当教員の実務経験

医師

診断と治療 I

1 担当教員名

教授	馬場重樹	(基礎看護学講座(内科学・栄養学))	非常勤講師
教授	中野恭幸	(呼吸器内科学講座)	西村貴士(兵庫医科大学 消化器内科 准教授/ 超音波センター センター長)
教授	岩下拓司	(消化器内科学講座)	
教授	村田誠	(血液内科学講座)	
教授	漆谷真	(脳神経内科学講座)	
教授	丸尾良浩	(小児科学講座)	
教授	相見良成	(基礎看護学講座(形態生理学))	
准教授	酒井宏	(循環器内科学講座)	
准教授	山口将史	(呼吸器内科)	
准教授	山川勇	(脳神経内科学講座)	
特任准教授	宮澤伊都子	(糖尿病内分泌・腎臓内科学講座)	
特任准教授	山原真子	(医師臨床教育センター)	
講師	黄瀬大輔	(呼吸器内科)	
講師	小川暢弘	(脳神経内科学講座)	
講師	玉木良高	(脳神経内科)	
講師	南口仁志	(輸血・細胞治療部)	
講師(学内)	星野真介	(小児科)	
助教	大封智雄	(小児科学講座)	
助教	藤居祐介	(循環器内科)	
助教	高林健介	(循環器内科)	
医員(病院助教)	澤山裕一	(循環器内科)	
助教	井田昌吾	(糖尿病内分泌内科)	
助教	増田史	(精神科)	
医員(病院助教)	池田勇八	(小児科)	

2 配当学年等

第2学年 前期 4単位

3 学修目標

本講義は、専門看護の学習に向けて必要な基礎的、また最新の医学的知識を提供し、学習していただくことで専門知識と技術を習得し、実地学習を効率よく円滑に履修し看護師としての資質を向上させることを目的としている。特に内科系の講義が主体で構成されており、以下を学習目標(到達目標)とする。

1. 病に対する人間の身体的・精神的反応を説明できる。
2. 主要な症状(意識障害、けいれん、吐血・咯血、胸痛、乏尿・無尿・頻尿、疼痛(慢性の痛みを含む)など)のマネジメントを説明できる。
3. 基本的な検体検査、生体機能検査、画像検査、内視鏡検査、心理・精神機能検査を説明できる。
4. 薬物療法を概説できる。
5. 手術治療を概説できる。
6. 放射線治療を概説できる。
7. 食事療法を概説できる。
8. リハビリテーションを概説できる。
9. 輸血・輸液を概説できる。
10. 人工臓器、透析を概説できる。
11. 精神療法を概説できる。

本講義に関係するディプロマ・ポリシー及びアウトカム

1. 疾患や治療が患者の生活や価値観(QOL)に与える影響を多角的に説明できる。GE-01
2. 診断・治療の場面における看護師の法的・倫理的責任と多職種連携の重要性を説明できる。IP-03
3. 専門的知識に基づき、主要な検査や治療に伴う看護アセスメントと具体的な援助手順を提示できる。CS-04
4. 人体の構造・機能に基づき、健康障害が生じるメカニズムと生命維持への影響を分析できる。PS-03,07,08
5. 生体防御の仕組みと異常を理解し、侵襲を伴う治療に対する適切な看護実践を考案できる。PS-11

4 授 業 概 要

専門看護の講義及び実習の履修に当たって必要な医学的知識を包括的に学習して実地学習を円滑に実施できるようにすることを目的とする。

受講生は、各講義の受講に先立って、シラバスに記載された各講義の項目に関して、各自で理解できる範囲で良いので、自主学習を行っておくことが望ましい。

各講義の講義資料はWebClassに掲載するので毎回確認すること。

また、各自で電子端末を持参するか、必要に応じて印刷をしておくこと。

各回の講義後に講義内容を復習し疑問点などがあれば担当教員にWebClassより問い合わせる。

講義は附属病院などの医療現場の第一線で日常的に診療に従事する医師が担当する。診療における重要なポイント、最近の診療におけるトレンドなどを踏まえて講義を行う。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	4	酒 井	循環器疾患(1)	循環器病総論	看4
第2回	令和8年4月13日(月)	5	馬 場	内科学入門	輸液と静脈栄養	看4
第3回	令和8年4月20日(月)	4	藤 居	循環器疾患(2)	不整脈・心不全	看4
第4回	令和8年4月20日(月)	5	澤 山	循環器疾患(3)	虚血性心疾患	看4
第5回	令和8年4月27日(月)	4	高 林	循環器疾患(4)	心臓リハビリ	看4
第6回	令和8年4月27日(月)	5	山 口	呼吸器疾患(1)	気管支喘息と気胸	看4
第7回	令和8年5月11日(月)	5	中 野	呼吸器疾患(2)	COPD	看4
第8回	令和8年5月18日(月)	4	馬 場	消化器疾患(1)	消化管(1)	看4
第9回	令和8年5月18日(月)	5	〃	消化器疾患(2)	消化管(2)	看4
第10回	令和8年5月21日(木)	1	黄 瀬	呼吸器疾患(3)	呼吸不全と酸素	看4
第11回	令和8年5月22日(金)	4	西 村	消化器疾患(3)	肝疾患	看4
第12回	令和8年5月25日(月)	4	岩 下	消化器疾患(4)	膵・胆道疾患	看4
第13回	令和8年6月1日(月)	4	山 原	腎疾患(1)	腎疾患(1)	看4
第14回	令和8年6月1日(月)	5	〃	腎疾患(2)	腎疾患(2)	看4
第15回	令和8年6月8日(月)	4	村 田	血液疾患(1)	血液疾患	看4
第16回	令和8年6月8日(月)	5	南 口	血液疾患(2)	輸血、ウイルス感染症	看4
第17回	令和8年6月12日(金)	1	相 見	解剖見学	解剖見学	看4
第18回	令和8年6月12日(金)	2	〃	解剖見学	解剖見学	看4
第19回	令和8年6月15日(月)	5	丸 尾	小児の成長、発達、栄養	小児の成長、発達、栄養	看4
第20回	令和8年6月19日(金)	1	池 田	小児感染症	小児感染症	看4
第21回	令和8年6月29日(月)	4	大 封	小児血液疾患	小児血液疾患	看4
第22回	令和8年6月29日(月)	5	星 野	小児循環器疾患	小児循環器疾患	看4
第23回	令和8年7月6日(月)	4	漆 谷	神経疾患(1)	ALSと脊髄小脳変性症	看4
第24回	令和8年7月6日(月)	5	玉 木	神経疾患(2)	パーキンソン病とパーキンソン症候群	看4
第25回	令和8年7月9日(木)	4	山 川	認知症	認知症	看4
第26回	令和8年7月9日(木)	5	小 川	脳血管障害	脳血管障害	看4
第27回	令和8年7月13日(月)	4	井 田	肥満、糖尿病、脂質異常症	肥満、糖尿病、脂質異常症	看4
第28回	令和8年7月13日(月)	5	宮 澤	内分泌疾患	内分泌疾患	看4
第29回	令和8年7月27日(月)	4	増 田	精神疾患(1)	精神疾患(1)	看4
第30回	令和8年7月28日(火)	1	〃	精神疾患(2)	精神疾患(2)	看4
第31回	令和8年8月3日(月)	4	馬 場	試験(15:30~16:20)【50分】		看4
第32回	令和8年8月17日(月)	3	〃	再試験(13:30~14:20)【50分】		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義形式で行う。
授業で用いる主な資料はWebClassに掲載をする。
紙での配布は基本的には行わない。
また板書やスライドも適宜使用する。
本シリーズの講義は座席指定で行う。
出席確認は座席位置で判断するため、指定された場所に必ず着席すること。

7 評価方法

総括的評価

- ・定期試験：多肢選択式（90%）
- ・平常点

形成的評価：小テスト（10%）

態度評価：授業における出席態度により加点、減点することがある。

8 オフィスアワー（授業相談）

毎週金曜日の12：00～13：00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

9 学生へのメッセージ

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

診断と治療Ⅱ

1 担当教員名

教授	喜多伸幸	(実践看護学講座(クリティカルケア学))
教授	澤田修	(眼科学講座)
教授	塩見直人	(救急集中治療医学講座)
教授	清水智治	(医療安全管理部)
准教授	花岡淳	(呼吸器外科学講座)
准教授	大脇成広	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
准教授	梅田朋子	(地域医療教育研究拠点)
特任准教授	小林憲市	(泌尿器科)
講師	高橋聡文	(皮膚科)
講師	家森正志	(歯科口腔外科)
特任講師	熊谷康佑	(整形外科)
講師(学内)	桂大輔	(母子診療科)
助教	坂井幸子	(消化器・一般外科学講座)
助教	谷総一郎	(消化器外科)
助教	鉢呂康平	(心臓血管外科)

2 配当学年等

第2学年 後期 2単位

3 学修目標

- ①関係するディプロマ・ポリシー(DP)及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。
- 外科系を中心とした診療分野の診断法と、その治療および予後について適切な看護を提供する知識、手法、能力を養うことを学習目的とする。具体的には消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・眼科・産婦人科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・皮膚科・救急医学における主な病態の理解した上で、患者のアセスメント、介入、ケアの技術を習得する。
- ②本講義に関係するディプロマ・ポリシー(DP)及びアウトカム
- DP2
- B. 看護学の知識と技術
- 臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
1. 人体の構造と機能
 2. 疾病の成立と回復の促進
 3. 健康支援と社会保障制度
 4. 疫学、保健統計
 5. 看護基本技術
 6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 7. 小児期にある人々に対する看護実践
 8. 成人期にある人々に対する看護実践
 9. 老年期にある人々に対する看護実践
 10. 健康の段階に応じた看護実践(予防、急性期、回復期、慢性期)

4 授業概要

最新の臨床医学の発展に触れ、医療の現状を包括的に学ぶことで、看護の実践に必要な臨床的知識を段階的に学び活用できるように配慮した。各論では一年時に総論で学習した分野や、「診断と治療Ⅰ」と重複しないように講義内容が組まれている。

オムニバス方式で毎回診療分野が異なる講義になるため、講義の前にはどの診療分野を学習するのか30分ほど予習し、講義終了後は60分の講義内容の復習を日常的に行うこと。復習をする中で疑問に思う事は積極的に質問し、学習内容の定着に役立てること。日常の復習だけでは定着が足りない場合や、試験準備中においては、休日等も有効に活用して、さらに1回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれる。

担当教員は外科系臨床講座に在籍し、高度な医療が提供可能な医学部附属病院をはじめ県下の多くの病院で臨床に従事しており、各種疾患を包括的に解説して頂く。

5 授 業 内 容

各外科系専門教員によるオムニバス形式の講義体系。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	教室
第1回	令和8年10月5日(月)	2	清 水	腹部外科	看4
第2回	令和8年10月20日(火)	1	澤 田	視機能の評価	看1
第3回	令和8年10月28日(水)	2	熊 谷	整形外科関節疾患	看4
第4回	令和8年11月2日(月)	2	谷	肝胆膵外科	看4
第5回	令和8年11月9日(月)	2	梅 田	乳腺・内分泌疾患のアセスメント	看4
第6回	令和8年11月16日(月)	2	喜 多	婦人科疾患	看4
第7回	令和8年11月30日(月)	2	花 岡	呼吸器外科	看4
第8回	令和8年12月7日(月)	2	桂	妊娠・分娩の異常	看4
第9回	令和8年12月15日(火)	2	小 林	泌尿器疾患	看4
第10回	令和8年12月21日(月)	2	坂 井	小児外科	看4
第11回	令和9年1月5日(火)	4	高 橋	皮膚疾患・アレルギーの評価	看4
第12回	令和9年1月12日(火)	2	鉢 呂	心臓血管外科	看4
第13回	令和9年1月18日(月)	2	家 森	歯科の基礎知識	看4
第14回	令和9年1月25日(月)	2	大 脇	平衡・聴覚・味覚機能評価	看4
第15回	令和9年2月1日(月)	2	塩 見	クリティカル期におけるフィジカルアセスメント	看4
第16回	令和9年2月15日(月)	2	喜 多	試験(11:00~12:30)	看4
第17回	令和9年3月1日(月)	2	〃	再試験(11:00~12:30)	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は、各分野からの専門の先生によるオムニバス形式の講義となる。

講義では、出来る限り資料配付を行う。

視聴覚機器：スライド、ビデオなどを活用する。

7 評 価 方 法

学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行うが、全体の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。成績評価方法として、定期試験や受講態度等により以下に示すように総合的に判断する。

①包括的評価

- ・定期試験(80%)：試験範囲は講義・演習全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
- ・平常点(20%)：授業での発言状況・質疑応答の内容、課題の提出状況並びにその内容

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

成績評価基準は、上記に従い点数化し、最終的に60%以上の得点を終了の認定要件とする。得点が前記未満の場合は、平常点を加味して再試験の可否を判定する。

8 オフィスアワー(授業相談)

随時可能、ただし、不在時には、メール等で連絡してください。

9 学生へのメッセージ

本講義は滋賀医科大学の特徴を生かし、現在、本学の臨床の場で活躍されている臨床医学及び研究に励まれている諸先生方に御協力を仰ぎ、臨床医学に直結した講義になるように心掛けています。そのために講義毎に教員が入れ替わり又講義のスタイルも変わります。また、講義日程等に変更が出る場合があります。

講義用資料は、出来るだけe-Learningに掲載を予定しています。

また、講義内容等への質問への回答は、出来るだけ学生連絡用メールで配信を予定しています。

保健医療行政論

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 田中 逸郎 ((特活) NPO政策研究所)
中根 明美 (豊中市保健所 健康危機対策課 課長)

2 配当学年等

第2学年 前期前半 1単位

3 学修目標

日本の社会経済全体、保健医療、グローバルヘルスの課題に対応するための課題に対応する保健・医療行政・制度の法的基盤と関係法令、行政の仕組みと機能についての基本的な知識を修得する。

また、薬害被害者による薬害被害経験の特別講義を通して、被害の回復と再発予防に向けた保健医療行政と専門職の役割について考えることができる。

4 授業概要

保健・医療の関係法規制定の趣旨や理念、ならびにそれらの変遷と特徴や、計画、評価などの仕組みについて教授する。
また保健医療の営みに関わって生じる倫理的課題や人権の問題を薬害を通じて取り上げる。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	内容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	3	田中	ガイダンス・国・自治体の行政の仕組み、保健医療行政の概要<基盤形成>	看4
第2回	令和8年4月17日(金)	3	〃	保健医療行政の概要<新たな課題と政策の発展・転換>	看4
第3回	令和8年4月24日(金)	3	〃	公衆衛生に関する国際的な活動、社会の現状から学ぶ	看4
第4回	令和8年5月1日(金)	3	〃	地域保健の体系、医療制度、介護保険制度	看4
第5回	令和8年5月15日(金)	3	田中 中根 (豊中市保健所)	保健行政の現場から	看4
第6回	令和8年5月22日(金)	3	田中	自治体の保健医療(福祉)計画、授業の振り返り・まとめ	看4
第7回	令和8年5月29日(金)	3	伊藤 全国B型肝炎訴訟弁護団	特別講義：B型肝炎患者・家族の現状について	看4
第8回	令和8年6月5日(金)	3	伊藤 花井 (大阪HIV薬害訴訟原告団代表)	特別講義：薬害再発防止のためにー薬害エイズの教訓ー	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評価方法

期末レポート(80%)と各授業内容に関するレポート課題(20%)によって評価する。

最終評価には、授業時の意見や発言を加味する。

なお、出席回数が2/3未満の場合は成績評価の対象としない。

8 テキスト

保健学講座5「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社2022

9 オフィスアワー(授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者(伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp)までアポイントをとってください。

社会福祉・社会保障論

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
講師 輿水 めぐみ (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 樽井 康彦
蘭 由岐子
田中 逸郎 ((特活) NPO政策研究所)

2 配当学年等

第2学年 後期 2単位

3 学修目標

① 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、以下を学修目標とする。

本講義は、国民の生活の安定化をはかるとともに最低限の生活を保障する公的な制度である社会保障制度について概説する。また、障がい者や要介護高齢者など社会的な援護を要する者が自立した生活を送れるように支援する社会福祉の制度についても概説する。受講生は、講義内容をもとに主体的な探求を通して理解を深めることを目標とする。具体的な目標は以下のとおりとする。

1. 日本の社会保障と社会福祉の概要を体系的に理解できる。
2. 国民が直面する諸問題に関連した社会保障および社会福祉の動向が理解できる。
3. 各種制度の沿革と現在の制度の内容、今度の動向について理解できる。
4. 社会福祉実践の基盤となる援助方法について理解できる。

② 本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

1. 看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。
2. 生命に関する倫理および医療における倫理の基本を理解し行動できる。
3. 医療を中心に多様な場における看護の目的、基本的人権擁護の必要性が説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。
2. 日本の社会保障制度の成り立ちと衛生行政のしくみを理解し、それに基づく保健活動の基本について理解している。
3. 人々の健康と暮らしを支える法制度について理解し、多様な場と領域で展開される看護活動について理解している。

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. ライフサイクル各期に応じた対象者中心の共感的なケア、意思決定支援、セルフケア管理の促進等の看護実践ならびに専門職連携ができる。
2. 専門的知識に基づいたコミュニケーション技術、感染予防技術、日常生活を支援する技術、生命活動を支える技術、治療・処置・検査に伴う援助技術等の看護技術を実践できる。
3. 医療システムにおける看護を理解している。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 看護職の役割・責任・保有する知識、他職種の役割・責任・保有する知識を説明でき、常に更新することができる。
2. 地域で生活する人々、在宅療養者と家族の健康生活を支える資源や環境、多様性を理解し、多職種チームでケアニーズを共有し必要な看護を導くことができる。
3. ケアの相互作用性を踏まえ、対象者と看護職のパートナーシップの成立に向け共感的な関係を構築できる。
4. パーソン・センタード・ケアの基本を説明でき、自らの関係構築上の傾向を理解し、看護の目的をもって対象者と援助的関係を構築することができる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 生涯発達し続ける人を全人的に捉え、健康状態の多様さを理解している。
2. 日本の社会保障制度の成り立ちと衛生行政のしくみを理解し、それに基づく保健活動の基本について理解している。
3. 人々の健康と暮らしを支える法制度について理解し、多様な場と領域で展開される看護活動について理解している。

4 授 業 概 要

1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれます。

5 授 業 内 容

社会保障および社会福祉の制度の仕組みについて全体像をつかみ、各制度の内容およびサービスの特徴と関連職種の役割について学習する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月2日(金)	2	興	ガイダンス(学修目的、授業計画、評価方法)	医療・看護領域と社会福祉の連携と課題	看4
第2回	令和8年10月9日(金)	2	田 中	社会保障制度と社会福祉①	基本的枠組み・概念、目的・機能、体系・内容、歩み 行政の仕組みと公共政策	看4
第3回	令和8年10月16日(金)	2	〃	社会保障制度と社会福祉②	法制度、財政、組織(運営体制)、保健・医療政策、介護保障	看4
第4回	令和8年10月30日(金)	2	〃	社会保障制度と社会福祉③ 社会の変化と社会保障・社会福祉の動向①	所得保障、公的扶助 現代社会の変化<人口、地域社会、家族・個人>	看4
第5回	令和8年11月6日(金)	2	〃	社会の変化と社会保障・社会福祉の動向②	現代社会の変化<経済・雇用、まとめ> 社会保障制度の現状と課題<まとめ>	看4
第6回	令和8年11月13日(金)	2	〃	これからの社会保障・社会福祉のあり方①	持続可能な仕組みづくり(地域共生社会づくり)	看4
第7回	令和8年11月20日(金)	2	〃	これからの社会保障・社会福祉のあり方②	社会保障制度の再構築に向けて(国・自治体・市民の役割)	看4
第8回	令和8年11月27日(金)	2	蘭	医療と差別①	ハンセン病 ― 制度と経験	看4
第9回	令和8年12月4日(金)	2	〃	医療と差別②	ハンセン病 ― 制度と経験	看4
第10回	令和8年12月11日(金)	2	樽 井	社会福祉援助技術①	社会福祉援助技術全般について、その歴史および技術、理念の基礎を学ぶ	看4
第11回	令和8年12月18日(金)	2	〃	社会福祉援助技術②	個別援助技術について、理論および実際の援助事例について学ぶ	看4
第12回	令和8年12月25日(金)	2	〃	社会福祉援助技術③	集団援助技術について、理論および実際の援助事例について学ぶ	看4
第13回	令和9年1月8日(金)	2	〃	障害者福祉	障害者福祉の歴史、制度、援助技術に関する基礎を学ぶ	看4
第14回	令和9年1月22日(金)	2	〃	児童家庭福祉	児童家庭福祉の歴史、制度、援助技術に関する基礎を学ぶ	看4
第15回	令和9年1月29日(金)	2	〃	高齢者福祉	高齢者福祉の歴史、制度、援助技術に関する基礎を学ぶ	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業計画に沿って講義形式(一部オンライン)で行う。

教科書または資料に沿って授業を進めながら、適宜、事例等をもとに意見交換を行う。

7 評 価 方 法

評価はレポート課題(80%)に授業時のリアクションペーパーを用いた発言・意見等の参加度(20%)を加味する。

詳細は、講義の際に説明する。

全講義の2/3以上(2回の遅刻および早退は1回の欠席とみなす)の出席をもって評価の対象とする。

8 テ キ ス ト

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院

9 参 考 文 献

講義の際に適宜提示する。

10 オフィスアワー（授業相談）

主担当教員にメールでアポイントを取る。

11 学生へのメッセージ

福祉分野との多職種連携において重要な学修内容です。積極的に学修をしてください。特に、医療保障と介護保障については看護師国家試験にも毎年出題がみられ、医療職がしっかりと理解しておきたい内容です。

12 授業用E-mail

meg54310@belle.shiga-med.ac.jp

地域保健看護学

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子（地域看護学講座（公衆衛生看護学） 非常勤講師）
角野 文彦（藍野大学 学長）

2 配当学年等

第2学年 後期前半 1単位

3 学修目標

- (1)公衆衛生看護活動の基礎となる健康づくり活動の概念、考え方が説明できる。
- (2)公衆衛生看護学の定義、対象、機能が説明できる。
- (3)人々の健康が社会経済文化的な影響を受けていることがわかる。
- (4)個人・家族、集団、組織の支援における考え方や方法がわかる。
- (5)住民の主体的な活動を育成する意義や方法がわかる。

4 授業概要

コミュニティレベルの健康水準を高めることを目的とした公衆衛生看護学の基礎となる理念・概念および活動を展開するための基本的な知識を学ぶ。健康に影響を及ぼす社会・環境要因の把握、対象特性別の健康増進、疾病予防をはじめ、人々の健康で文化的な生活を営む権利を保障するための、個人・家族、集団、組織の支援のあり方、住民主体の地域活動や地域組織化活動など、主要な公衆衛生看護活動の方法について学ぶ。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月6日(火)	3	伊藤	公衆衛生看護の定義、対象、機能	公衆衛生・公衆衛生看護・地域看護との違い・特徴 保健師活動	看4
第2回	令和8年10月13日(火)	3	〃	プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション	健康づくり活動の基盤となる主要な概念 予防概念	看4
第3回	令和8年10月20日(火)	3	〃	健康の社会的決定要因	健康の環境的決定要因との比較、エコシステム、健康格差	看4
第4回	令和8年10月27日(火)	3	〃	地域住民・集団を対象とした看護活動	活動根拠と活動基盤	看4
第5回	令和8年11月10日(火)	3	〃	地域住民・集団を対象とした看護活動	個人・家族に対する活動	看4
第6回	令和8年11月17日(火)	3	角野	滋賀県の公衆衛生看護活動の実際	地域診断、健康関連アウトカムにみる滋賀県の特徴、保健師活動の実際	看4
第7回	令和8年11月24日(火)	3	伊藤	地域住民・集団を対象とした看護活動	住民参加と主体化のための活動方法	看4
第8回	令和8年12月1日(火)	3	〃	地域住民・集団を対象とした看護活動	特定集団に対する活動	看4
第9回	令和9年2月12日(金)	1	〃	試験(9:00~10:30)		看4
第10回	令和9年2月22日(月)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評価方法

ミニレポート(20%)と期末テスト(70%)並びに授業への主体的参加(10%)により評価する。

8 テキスト

最新公衆衛生看護学 総論 日本看護協会出版会
国民衛生の動向

9 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

地域ケアシステム論

1 担当教員名

教授 辻村 真由子 (地域看護学講座 (訪問看護学))
教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 田和 なつ美 (地域看護学講座 (訪問看護学))

2 配当学年等

第2学年 後期後半 1単位

3 学修目標

- 1 地域ケアシステムにおけるケアマネジメントについて理解する。
- 2 地域ケアシステムを構成する社会資源について理解する。
- 3 事例を通して、地域での療養を支える看護職の役割や専門性について理解を深める。

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP 2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP 4. コミュニケーションと多職種連携

3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。

DP 5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。

2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。

4 授業概要

地域ケアシステムとしての多職種・多機関関連チームの法的・制度的基盤やシステムの機能、役割の実際について、今日的な支援ニーズの高い事例を通して理解する。多職種・多機関関連チームにおける看護職の役割や専門性を理解する。また地域のヘルスニーズに対応するケアイノベーションを構想する力を養う。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月8日(火)	3	辻村	地域ケアシステムの基盤1	オリエンテーション、社会資源の活用と多職種連携	看4
第2回	令和8年12月15日(火)	3	辻村 ケアマネジャー	地域ケアシステムの基盤2	ケアマネジメントの実際	看4
第3回	令和8年12月22日(火)	3	辻村 田和	事例に関する看護マネジメント1	地域ケア会議、認知症を有する対象 (グループワーク)	看4
第4回	令和9年1月5日(火)	3	辻村	災害と地域ケアシステム	災害時の地域ケアシステムのあり方	看4
第5回	令和9年1月19日(火)	3	〃	感染症と地域ケアシステム	感染症流行時の地域ケアシステムのあり方	看4
第6回	令和9年1月26日(火)	3	伊藤	子育て世代への包括支援1	母子保健システム 他	看4
第7回	令和9年2月2日(火)	3	〃	子育て世代への包括支援2	ケース把握、支援目標と多機関・多職種による支援体制、アドボカシー	看4
第8回	令和9年2月9日(火)	3	辻村 田和	事例に関する看護マネジメント2	高齢者の対象 (グループワーク)	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義と演習を組み合わせで展開する。内容に応じて、外部講師を招聘する。なお、受講生の進捗状況等に応じて順序や内容を変更する可能性がある。スライド、映像教材を使用する。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

最終レポート（60%）、平常点（小レポート、受講態度）（40%）の評価によって判定する。最終レポートと平常点の合計が60点以上を合格とする。

なお、正当な理由なく授業への出席が全授業の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・講義資料のうちスライド資料については、授業初回に紙の配布資料の要不要を学生に調査する。
- ・スライド資料は各講義の開始前にWebClassに掲載し、紙の配布資料は必要と回答した学生にのみ配布する。
- ・演習資料等は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める，南江堂，2024.
 - ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える，南江堂，2024.
- その他、授業中に適宜提示する。

10 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhoulmon@belle.shiga-med.ac.jp, 伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

11 授業用E-mail

hqhoulmon@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

疫 学

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 本多 智佳
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 平 和也 (大阪大学 量子情報・量子生命研究センター 特任准教授)

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学修目標

1. 疫学の基本となる概念や用語を正しく理解できる。
2. 疫学における調査手法を理解し、調査結果までの一連のプロセスを正しく理解できる。
3. 科学的な思考法を身につけ、疫学研究の知見の限界や課題について批判的に考えることができる。

4 授業概要

・疾病の罹患率をはじめ、健康に関する事象の頻度や分布、およびその要因について明らかにする手法を説明する。また、疫学が人々の生活や健康の維持・増進にどのような役割を果たすかについて理解を促す。保健・看護分野に直結する疫学の調査方法の基本を教授する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
- ・コンピュータを用いたデータ解析演習をおこないます。ExcelとWordの基本的な操作を習得して臨んでください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月17日(金)	4	本多 白片	疫学概念	疫学の歴史と概念	MMC演
第2回	令和8年4月17日(金)	5	〃	集団の健康状態の把握①	疫学における基本的な用語：集団の健康状態の把握、罹患の指標	MMC演
第3回	令和8年4月24日(金)	4	〃	集団の健康状態の把握②	疾病頻度に関する指標：集団の健康状態の把握、リスク指標	MMC演
第4回	令和8年4月24日(金)	5	〃	集団の健康状態の把握③	疾病リスクに関する指標：様々な研究手法	MMC演
第5回	令和8年5月15日(金)	4	〃	感染症の疫学の基礎①	疫学調査や感染性、感染経路など感染症疫学の基本的な知識と実際：食中毒	MMC演
第6回	令和8年5月15日(金)	5	〃	感染症疫学の基礎②	積極的疫学調査と感染経路の特定に関する演習	MMC演
第7回	令和8年5月18日(月)	2	白片 平	疫学の研究手法/実例	疫学における様々な研究アプローチ	MMC演
第8回	令和8年5月18日(月)	3	〃	グローバル時代の疫学	国内外における疫学研究の動向	MMC演
第9回	令和8年5月25日(月)	2	〃	集団の健康状態の把握④	疾病の原因と因果関係：様々な研究手法	MMC演
第10回	令和8年5月25日(月)	3	〃	疫学と公衆衛生看護学	新しい疫学の潮流と公衆衛生看護	MMC演
第11回	令和8年6月1日(月)	2	〃	疫学の研究方法	スクリーニング・演習	MMC演
第12回	令和8年6月8日(月)	2	〃	疫学の研究方法	疫学研究手法の演習：様々な疾患の疫学	MMC演
第13回	令和8年6月15日(月)	2	伊藤 北	疫学の研究方法	疫学研究手法の演習：様々な疾患の疫学	MMC演
第14回	令和8年6月22日(月)	2	〃	疫学の研究方法	グループごとの発表、議論	MMC演
第15回	令和8年6月29日(月)	2	〃	疫学の研究方法	グループごとの発表、議論	MMC演
第16回	令和8年8月3日(月)	2	〃	試験 (11:00~12:30)		看4
第17回	令和8年8月17日(月)	2	伊藤	再試験 (11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義とマルチメディアセンターでの演習、演習成果の発表会

7 評価方法

期末試験（70%）とミニレポート課題（30%）に平常点を加味して評価する。

8 テキスト

南山堂 保健統計・疫学 改訂7版

9 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。

e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10 学生へのメッセージ

コンピューターを用いた演習内容はよく復習し、確実に技能を習得してください。

保健統計学

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 本多 智佳
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 平 和也 (大阪大学 量子情報・量子生命研究センター 特任准教授)

2 配当学年等

第2学年 後期前半 2単位

3 学修目標

1. 保健医療情報の取り扱いを理解し、説明できる。
2. 保健統計指標の意味と意義を理解し、保健統計調査の結果を適切に解釈・説明できる。
3. 基礎的な統計解析の方法を習得し、統計解析演習において実践できる。
4. 統計解析の結果を適切に表し、説明できる。

4 授業概要

科学的思考としての疫学とそれに基づいた保健統計の見方、研究に不可欠なデータ収集と加工、統計処理・統計解析の方法について教授する。後半ではそれらの知識をもとにICT資源や環境を利用して、データを用いた統計解析演習を行い、根拠に基づいた看護実践を行うための基本的な能力を養う。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
- ・コンピュータを用いたデータ解析演習をおこないます。ExcelとWordの基本的な操作を習得して臨んでください。

5 授業内容

集団における健康現象の観察や統計処理の基礎となる統計学の主要概念、基礎理論、解析方法・結果の示し方について演習を交えて学習する。

Excelを用いた統計学演習を行う。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月2日(金)	3	伊藤 白片 北	統計資料の見方1	厚生労働統計	MMC演
第2回	令和8年10月2日(金)	4	〃	統計資料の見方2	公的データの利用	MMC演
第3回	令和8年10月9日(金)	3	〃	統計学の基礎1	尺度水準とデータの分類、記述統計	MMC演
第4回	令和8年10月9日(金)	4	〃	統計学の基礎2	記述統計と推測統計	MMC演
第5回	令和8年10月16日(金)	3	〃	記述統計1	質的データと量的データ	MMC演
第6回	令和8年10月16日(金)	4	〃	統計演習1	Excelを使った統計：自記式質問紙調査	MMC演
第7回	令和8年11月2日(月)	4	白片 平 北	統計演習2	Excelを使った統計：自記式質問紙調査	MMC演
第8回	令和8年11月2日(月)	5	〃	記述統計2	分布の特徴	MMC演
第9回	令和8年11月9日(月)	4	〃	記述統計3	Excelを使った統計：二変数の記述統計	MMC演
第10回	令和8年11月9日(月)	5	〃	推測統計	Excelを使った統計： 単回帰や重回帰分析	MMC演
第11回	令和8年11月16日(月)	4	〃	保健統計と 公衆衛生看護	保健統計学の実践例	MMC演
第12回	令和8年11月16日(月)	5	〃	統計演習3	Excelを使った統計： モックデータを用いた解析	MMC演
第13回	令和8年11月20日(金)	3	伊藤 白片 北	国際共同研究と保健統計	保健統計における国際的動向	MMC演

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第14回	令和8年11月20日(金)	4	本多 白片 北	保健統計と公衆衛生看護	AIの活用について	MMC演
第15回	令和8年11月27日(金)	3	伊藤 白片 北	演習結果の共有と議論	ディスカッション	MMC演
第16回	令和8年12月11日(金)	3	伊藤	期末試験(13:00~14:30)		看4
第17回	令和9年2月19日(金)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義とマルチメディアセンターでの演習、適宜グループワークとプレゼンテーションを行う。

7 評価方法

期末試験(70%)とミニレポート(30%)課題によって評価する。

最終評価には、授業時の自発的な発言を加味する。

8 テキスト

南山堂 保健統計・疫学 改訂7版

9 オフィスアワー(授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者(伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp)までアポイントをとってください。

10 学生へのメッセージ

コンピューターを用いた演習内容はよく復習し、確実に技能を習得してください。

環境保健学

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
准教授 多川 晴美 (看護臨床教育センター) 井上 剛彦
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第2学年 後期後半 1単位

3 学修目標

- ・環境要因が健康に与える影響についての基本的知識を習得する。
- ・国連の持続可能な開発目標の枠組みとその背景を理解する。
- ・気候変動や自然災害のみならず、人々の社会的移動、抗生物質の不適切使用など、社会経済的な背景要因と深く関わる感染症（パンデミックを含む）の発生动向と、それへの対応について理解する。
- ・環境保全と集団保健行動について理解する。

4 授業概要

地球環境問題ならびに生活環境が人間のみならず動物を含めた生態系へ与える影響、並びに人間の生活環境と健康との関係を俯瞰的に捉える視点と現状について教授する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月25日(金)	3	井上	環境と健康：空気環境		看4
第2回	令和8年12月25日(金)	4	〃	環境と健康：温熱環境		看4
第3回	令和9年1月8日(金)	3	多川	廃棄物処理とリサイクル	人々の消費行動と持続可能な資源活用について	看4
第4回	令和9年1月8日(金)	4	伊藤 白片	環境保健行動：琵琶湖を抱く滋賀県における水質保全活動	1970年台の石けん運動を通じた市民活動から環境政策への展開と現在	看4
第5回	令和9年1月22日(金)	3	井上	感染症の発生动向		看4
第6回	令和9年1月22日(金)	4	〃	生態学的環境から見る新興感染症の発生とパンデミック発生時の対応	自然環境と人獣共通感染症の歴史とこれから	看4
第7回	令和9年1月29日(金)	3	伊藤 看護部	感染制御1		看4
第8回	令和9年1月29日(金)	4	〃	感染制御2		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評価方法

授業ごとのミニレポート（90％）によって評価する。
最終評価には、授業への参加や発言（10％）を加味する。

8 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

看護過程Ⅱ

1 担当教員名

准教授	玉木	朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	笠原	聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
講師	山下	敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩	茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘	由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学修目標

学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

1. アセスメント結果をもとに、情報の関連性を整理した関連図を作成できる。
2. 対象者の健康にかかわる日常生活上の問題解決に向けた目標を立案できる。
3. 関連図を用いて看護問題を明確にし、優先順位を考慮した看護計画を立案できる。
4. 立案した看護計画に対する評価の視点を説明できる。
5. 看護計画を追加・修正し、個性のある看護計画へと発展させることができる。

本講義で習得する「資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)

GE: 対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

PS: 専門的知識に基づいた問題解決能力

CS: 患者のケアのための臨床スキル

CM: コミュニケーション能力

②本講義に関するディプロマ・ポリシー

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。

4 授 業 概 要

【教育目標】

看護実践において対象の日常生活に関わるニーズを理解し、対象の個別性を踏まえながら、看護学的知識をもとに看護過程を展開する意義と方法を学修する。

【準備学習・事後学習】

各回の講義に対して60分の予習と60分の復習を日常的に行うことによって理解を深めることが望まれる。

本科目は演習科目であるため、課題として取り組む個人ワークについては、指定された期限までに提出を完了しておくことを必須とする。

【本授業を担当する教員の研究と授業の関係性】

本授業担当教員は、看護教育及びシミュレーション教育に関する研究を行ってきた。本授業では、看護過程 I で学んだ情報整理・アセスメントを基盤に、関連図の作成や看護計画の立案を通して、看護過程を一連の流れとして展開する力を育成する。アセスメント結果を看護実践に繋げる思考過程を重視する。

5 授 業 内 容

授業では、紙上事例を用いてアセスメントから具体的な看護介入方法の立案、実施、評価をおこなう。

退院後の患者の「生活」をみずえた個別性のある支援について学習する。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月10日（金）	2	玉 木 橘 色 摩 山 下 笠 原	授業ガイダンス 関連図と問題の明確化①	病態と患者の反応を統合する関連図の書き方について教授する	看 4
第2回	令和8年4月17日（金）	2	橘 色 摩 玉 木 笠 原 山 下	関連図と問題の明確化②	関連図の書き方について講義し、実際に作成する	看 4
第3回	令和8年4月24日（金）	2	〃	関連図と問題の明確化③	グループで関連図を作成する	看 4
第4回	令和8年5月1日（金）	2	〃	関連図と問題の明確化④	関連図の共有	看 4
第5回	令和8年5月15日（金）	2	玉 木 笠 原 山 下 色 摩 橘	問題の抽出、プロブレム リスト 情報の統合と看護問題の 明確化	具体的な看護問題を抽出し、看護問題の優先順位について理解する	看 4
第6回	令和8年5月22日（金）	2	〃	プロブレムリスト アセスメントの統合 期待される結果、評価日	プロブレムリストを完成させる 期待される結果について具体的で評価可能な 目標設定の方法を理解する ゴードンの機能パターンで実施したアセスメ ントを統合し、看護計画立案の根拠を明確に する	看 4
第7回	令和8年5月29日（金）	2	〃	アセスメントの統合 期待される結果、評価日	アセスメントの統合と期待される結果、評価 日について成果物を発表し、学びを深める	看 4
第8回	令和8年6月5日（金）	2	〃	看護計画立案①	看護計画立案の方法について教授する	看 4
第9回	令和8年6月12日（金）	3	〃	看護計画立案②	患者の状態に適した看護計画（初期プラン） を作成する	看 4
第10回	令和8年6月19日（金）	2	〃	看護計画立案③	グループで立案した看護計画を発表する 教員からフィードバックを受けて理解を深め る	看 4
第11回	令和8年6月26日（金）	2	〃	看護計画の実施と評価①	看護計画の評価、計画の追加修正について講 義とワークシートを用いた演習をおこなう 看護計画と行動計画表を用いた実践とのつな がり、初期プランから個別性のある看護計画 への発展について教授する	看 4
第12回	令和8年7月3日（金）	2	〃	看護計画の実施と評価②	計画の追加・修正について（GW・発表）	看 4

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第13回	令和8年7月10日（金）	2	玉木 山下 笠原 色摩 橘	看護計画の実施と評価③	退院に向けた計画の追加、計画の終了、看護サマリー	看4
第14回	令和8年7月17日（金）	2	山下 玉木 笠原 色摩 橘	看護計画の実施と評価④	退院指導についてのグループワークと発表	看4
第15回	令和8年7月21日（火）	1	玉木 笠原 山下 色摩 橘	看護サマリー	看護サマリイの書き方を教授する 実際に看護サマリイを作成する	看4
第16回	令和8年7月24日（金）	2	々	まとめ	まとめ	看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

本授業はICTを活用したアクティブラーニング（グループワーク、ブレインストーミング）が中心の演習授業である。学習の進捗状況などに応じて内容および開講時間を変更する場合がある。

本授業のオンデマンド配信はおこなわない。

7 評価方法

総括的評価

- ・課題（50%）
- ・最終レポート（30%）
- ・平常点（課題の提出状況）、GW成果物（20%）

形成的評価

- ・授業で提示するワークについては実施の都度フィードバックをおこなう。

態度評価

- ・授業への参加状況、グループワークへの積極的参加・貢献から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

*全講義数の3分の2以上の出席を満たすことを評価の要件とする。

8 テキスト

リンダJカルベニート：看護診断ハンドブック. 医学書院

9 参考文献

授業の進行に応じて順次紹介する。

看護過程Ⅰで使用した授業資料と課題

10 オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11 学生へのメッセージ

本科目は今後の各領域実習にもつながる基盤的内容を学修する科目であり、これまでに履修した学修内容を活用しながら取り組むことが求められます。また、本科目は連続した知識の積み重ねが必要であるため、原則として全回出席することが望まれます。やむを得ず欠席した場合には、該当回の内容について自己学習を行い、グループ課題にも主体的に取り組んだ上で、次の授業に臨んでください。

本科目は演習科目であるため、一方向の講義時間は最小限とし、演習を通して実習に必要な看護過程の展開について理解を深めることを目指します。

本演習では、基礎看護学実習Ⅱに必要な看護の視点や記録物に関する基礎的な知識の修得を目指します。

ICTを活用してGWをおこなうため、PC、またはタブレットを持参してください。

*本授業は基礎看護学実習Ⅱを履修するための必須単位となっているため、主体的かつ積極的に授業に参加してください。

12 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

tamaki@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

基礎看護技術Ⅲ

1 担当教員名

講師	山下 敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	笠原 聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
准教授	玉木 朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩 茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘 由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第2学年 前期 1単位

3 学修目標

本講義における学修目標は以下の通りである。

1. 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで学修した内容を踏まえ、診療の補助業務を行う上で必要な基本的知識を身につけることができる。
2. 対象の安全・安楽・自立(自律)を考慮した看護技術が実施できる。
3. 対象の状態をアセスメントし、適切な援助について考えることができる。
4. 看護を学ぶ者としてルール・規範を守り、主体的に学習することができる。

本講義で習得する「資質・能力(看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力(看護学教育モデル・コア・カリキュラム)

GE:対象を総合的・全人的に捉える能力

QS:ケアの質と安全の管理

IP:他職種連携能力

CS:患者ケアのための臨床スキル

CM:コミュニケーション能力

PS:専門知識に基づいた問題解決能力

等における関連項目の資質・能力を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門家としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践(予防、急性期、回復期、慢性期)

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。

3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

本科目は、診療および治療に伴う看護技術について、対象を全人的に捉えた上で、援助の目的・方法・留意事項を根拠に基づき理解し実践することを目的とする。

身体侵襲を伴う援助技術や医学的検査・治療時の看護において、対象者の苦痛・不安を最小化し、安全で質の高いケアを提供するための臨床スキルを修得する。

対象者との治療的コミュニケーション、感染防止対策・安全管理、環境整備、記録・報告を含む一連のプロセスを演習を通して統合し、事例や演習課題を通して、グループで課題を明確化し、根拠に基づく援助方法を検討して相互に共有・フィードバックする力を修得するとともに、看護職者として必要な協調的態度を養う。

【準備学習・事後学修】

予習を前提として講義・演習を進める。

事後学修としては適宜演習レポートなどの課題を課す。

各回の講義に対し60分の予習と30分の復習を行い理解を深めることが望まれる。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。
- ・成績評価の配分を修正した。

5 授 業 内 容

本授業は講義・演習からなる科目であり、講義室での座学に加え演習室における実技演習を中心に実施する。

各回の講義・演習は事前学修（予習）を前提に進行するため、指定する資料（WebClass掲載資料、配付資料等）を確認し、必ず予習してから参加すること。

【追加事項】

- ・7月23日(水)3～5限は基礎看護学実習Ⅱの事前説明を行う。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	3	山下 笠原 玉木 色摩 橘	ガイダンス 薬物療法の管理	与薬の基本	看4
第2回	令和8年4月8日(水)	4	〃	ガイダンス 薬物療法の管理	与薬の基本	看4
第3回	令和8年4月8日(水)	5	〃	ガイダンス 薬物療法の管理	与薬の基本	看4
第4回	令和8年4月15日(水)	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法 ・吸引（口腔内・鼻腔内） ・体位ドレナージ 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実
第5回	令和8年4月15日(水)	4	〃	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法 ・吸引（口腔内・鼻腔内） ・体位ドレナージ	看実
第6回	令和8年4月15日(水)	5	〃	呼吸を安楽にする技術	・吸入療法 ・吸引（口腔内・鼻腔内） ・体位ドレナージ 【課題】 課題レポート	看実
第7回	令和8年4月22日(水)	3	〃	排泄を促す技術（浣腸・座薬）	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、 浣腸法の実際 ・座薬の投与 【予習】 Webclassでの動画視聴	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第8回	令和8年4月22日(水)	4	笠原 玉山下 色摩 橘	排泄を促す技術(浣腸・座薬)	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、 浣腸法の実際 ・座薬の投与	看実
第9回	令和8年4月22日(水)	5	〃	排泄を促す技術(浣腸・座薬)	・排便障害について ・浣腸法に必要な基礎知識、 浣腸法の実際 ・座薬の投与 【課題】課題レポート	看実
第10回	令和8年5月13日(水)	3	〃	感染予防の技術 無菌操作 包帯法	・無菌操作に必要な基礎知識、 無菌操作の実際 ・ガウンテクニック 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第11回	令和8年5月13日(水)	4	〃	感染予防の技術 無菌操作 包帯法	・無菌操作に必要な基礎知識、 無菌操作の実際 ・ガウンテクニック	看実
第12回	令和8年5月13日(水)	5	〃	感染予防の技術 無菌操作 包帯法	・無菌操作に必要な基礎知識、 無菌操作の実際 ・ガウンテクニック 【課題】課題レポート	看実
第13回	令和8年5月20日(水)	3	〃	排泄を促す技術(導尿)	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第14回	令和8年5月20日(水)	4	笠原 山下 玉色 摩 橘	排泄を促す技術(導尿)	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識	看実
第15回	令和8年5月20日(水)	5	笠原 玉山下 色摩 橘	排泄を促す技術(導尿)	・排尿障害について ・導尿法に必要な基礎知識 【課題】課題レポート	看実
第16回	令和8年5月27日(水)	3	笠原 玉山下 色摩 橘 臨床教育看護師	検査時の看護(採血)①	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第17回	令和8年5月27日(水)	4	〃	検査時の看護(採血)①	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際	看実
第18回	令和8年5月27日(水)	5	〃	検査時の看護(採血)①	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【課題】課題レポート	看実
第19回	令和8年6月3日(水)	3	〃	検査時の看護(採血)②	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【予習】Webclassでの動画視聴	看実
第20回	令和8年6月3日(水)	4	〃	検査時の看護(採血)②	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際	看実
第21回	令和8年6月3日(水)	5	〃	検査時の看護(採血)②	・採血に必要な基礎知識 ・採血の実際 【課題】課題レポート	看実
第22回	令和8年6月10日(水)	3	〃	診療の補助技術①	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際 【予習】Webclassでの動画視聴	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第23回	令和8年6月10日(水)	4	笠原 玉木 山下 色摩 橘 臨床教育看護師	診療の補助技術②	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際	看実
第24回	令和8年6月10日(水)	5	〃	診療の補助技術③	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の実際 【課題】課題レポート	看実
第25回	令和8年6月17日(水)	3	山下 笠原 玉木 色摩 橘 臨床教育看護師	注射法①	・筋肉注射 ・皮下注射 【予習】Webclassでの動画視聴	看実 看4
第26回	令和8年6月17日(水)	4	〃	注射法②	・筋肉注射 ・皮下注射	看実 看4
第27回	令和8年6月17日(水)	5	〃	注射法③	・筋肉注射 ・皮下注射	看実 看4
第28回	令和8年6月24日(水)	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘	輸血療法①	輸血の実際 輸血の管理	看実 看4
第29回	令和8年6月24日(水)	4	〃	輸血療法②	輸血の実際 輸血の管理	看実 看4
第30回	令和8年6月24日(水)	5	〃	輸血療法③	輸血の実際 輸血の管理	看実 看4
第31回	令和8年7月1日(水)	3	山下 笠原 玉木 色摩 橘	教育指導技術①		看4
第32回	令和8年7月1日(水)	4	〃	教育指導技術②		看4
第33回	令和8年7月1日(水)	5	〃	教育指導技術③		看4
第34回	令和8年7月8日(水)	3	笠原 玉木 山下 色摩 橘	まとめ	技術のまとめ 実習に向けて	看4
第35回	令和8年7月22日(水)	3	〃	基礎看護学実習Ⅱ 事前説明会		看1
第36回	令和8年7月22日(水)	4	〃	基礎看護学実習Ⅱ 事前説明会		看1
第37回	令和8年7月22日(水)	5	〃	基礎看護学実習Ⅱ 事前説明会		看1
第38回	令和8年8月4日(火)	4	〃	試験(15:30~17:00)		看4
第39回	令和8年8月14日(金)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

上記授業の順序などは、授業の進行状況によっては一部変更する場合がある。

授業は、講義・グループワーク・演習を取り入れてすすめていく。

実習室で行う演習では、演習時間を確保するためにWebclassでの講義動画の視聴(30~60分)またはナーシングスキルでの手技動画の視聴を事前課題として課す。演習時には、必ず指示された動画を視聴してから臨むこと。各演習後には演習内容に関する課題レポートを課す。

演習は授業時間内の体験と相互練習を通して到達を図るため、欠席した場合の後日の対応は困難となる。やむを得ない事情を除き、欠席を避けること。

(※演習室で行った講義については、録画動画の配信は行わない)

また、7月23日3~5限は基礎看護学実習Ⅱの事前説明を行う。

7 評価方法

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

①総括的評価

定期試験（50％）：試験範囲は該当するテキストの範囲を含めた全範囲とする。講義演習の理解度を空欄補充・真偽選択・多肢選択・論述などの記述試験で評価する。

平常点（50％）：グループワークの成果物・演習レポート、講義演習での発言状況や演習への参加状況で評価する。

②形成的評価

演習で提示する課題については演習の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言などの参加態度から学修意欲を評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版

松尾ミヨ子ら：ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版

9 参考文献

医療情報科学研究所：看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術、メディックメディア

村中洋子ら：学ぶ・試す・調べる看護ケアの根拠と技術（第3版）、医歯薬出版株式会社

10 オフィスアワー（授業相談）

まずメールでアポイントを取ってください。

11 学生へのメッセージ

看護技術は動画だけで学ぶことはできません。実際に体を動かして体験し、考えることが重要です。演習室では看護師として、時には患者役を通してケアを提供するということを学んでいきます。演習室で何度も練習することが技術上達への近道です。

演習時は体調を整えて、欠席しないようにしてください。

12 授業用E-mail

hqb nurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学概論

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))	非常勤講師
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	田中英夫 (大阪府守口保健所 所長)
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	岡村智教 (慶應義塾大学 医学部 衛生学公衆衛生学教室 教授)
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))	志摩 梓 (株式会社平和堂 健康サポートセンター 次長)
			禰屋光男 (びわこ成蹊スポーツ大学 健康・スポーツ医科学コース 教授)

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学修目標

学修目標：

成人期の保健学的課題とそれに対する国の保健医療政策や個人の対処のあり方を、国内外の知見を踏まえて理解する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP.5 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

教育目的：

1. 成人保健看護学で重要な成人期の発達課題や役割について知識を習得する。
2. 成人期に生じやすい各疾患の動向や人口動態・動態統計について知識を習得する。
3. 健康段階に応じた看護実践能力の基礎を養う。

事前学修・事後学修：

準備学修の内容は、各回事前配布資料及び参考資料の該当部分を読むこと、講義前に提示された課題について予習し、講義内で回答できるよう準備することとする。(各回所要時間：90分程度)

事後学修の内容は、各回、授業ノートと講義資料をもとに復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

5 授 業 内 容

成人期および成人保健看護の特徴、成人期の健康障害の要因と健康管理、成人への指導・相談・援助のあり方、職域での健康管理などについて、講義、討論、演習を通じて学ぶ。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年5月29日(金)	4	宮 松	成人期にある人の理解①	成人期の特徴と健康観 *課題レポートあり	看4
第2回	令和8年5月29日(金)	5	〃	成人期の健康障害①	人口統計 *課題レポートあり	看4
第3回	令和8年6月5日(金)	4	〃	成人期の健康障害②	生活習慣に関連する健康障害： 脳卒中・心疾患	看4
第4回	令和8年6月19日(金)	3	〃	成人期の健康障害③	生活習慣に関連する健康障害：高血圧	看4
第5回	令和8年6月19日(金)	4	〃	成人期の健康障害④	生活習慣に関連する健康障害：糖尿病	看4
第6回	令和8年6月26日(金)	3	田 中	成人期の健康障害⑤	生活習慣に関連する健康障害： 悪性新生物(がん)	看4
第7回	令和8年6月26日(金)	4	岡 村	成人期の健康障害⑥	成人期の保健政策の動向と課題	看4
第8回	令和8年7月3日(金)	3	志 摩	成人期の健康障害⑦	職業・ストレスに関連する健康障害	看4
第9回	令和8年7月3日(金)	4	禰 屋	生活習慣の動向①	運動	看4
第10回	令和8年7月10日(金)	3	宮 松	生活習慣の動向②	飲酒・喫煙	看4
第11回	令和8年7月10日(金)	4	〃	生活習慣の動向③	栄養 *課題レポートあり	看4
第12回	令和8年7月17日(金)	3	〃	成人期にある人への看護①	成人看護学の理論・モデル	看4
第13回	令和8年7月17日(金)	4	〃	成人期にある人への看護②	成人期の特徴と看護過程	看4
第14回	令和8年7月24日(金)	3	〃	成人期にある人への看護③	成人期にある人の自己管理行動支援	看4
第15回	令和8年7月24日(金)	4	宮 松 山 口 清 原 石 川	成人看護学概論総括	まとめ	看4
第16回	令和8年7月31日(金)	3	宮 松	試験(13:30~14:20)【50分】		看4
第17回	令和8年8月13日(木)	3	〃	再試験(13:30~14:20)【50分】		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習(対面)

パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7 評 価 方 法

①総括的評価

筆記試験(70%)および課題レポート(30%)の評価によって判定する。

ただし、筆記試験60%以上の得点を修了認定の必須要件とする。

②形成的評価

授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

9 参 考 文 献

参考図書

- 1) 標準保健師講座 疫学・保険統計学 医学書院
- 2) 国民衛生の動向2025/2026 厚生統計協会
- 3) 成人看護学概論 大西和子・岡部聰子編集 ニューヴェルヒロカワ
- 4) 成人看護学原論 氏家幸子監修 廣川書店

- 5) 明解看護学双書5 成人看護学 山崎智子監修 岡部聰子他編 金芳堂
- 6) 成人看護学 小島操子他著 医学書院
- 7) ナーシング・グラフィカ22 成人看護学概論 メディカ出版

10 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

11 学生へのメッセージ

- ・欠席等の場合はwebclassより連絡を行うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明するため、指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 参考URL 1

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>

13 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学各論

1 担当教員名

准教授	山口 亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	非常勤講師
教授	宮松 直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))	伊波 早苗 (社会医療法人誠光会 淡海医療センター 統括看護部長)
助教	清原 麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	
助手	石川 真	(実践看護学講座(成人保健看護学))	

2 配当学年等

第2学年 後期 2単位

3 学修目標

学修目標：

1. ライフステージにおける発達課題を踏まえ、成人期の健康の概念について理解する。
2. 成人保健看護学の様々な領域について、その対象者の特徴を理解し、援助に必要な基本的な知識と技術を習得する。

関係するディプロマ・ポリシー

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

教育目的：

1. 成人保健看護学の各領域の特徴や対象、慢性期・急性期看護について知識を習得する。
2. 健康段階に応じた看護実践能力の基礎を養う。

準備学修・事後学修：

準備学修の内容は、各回事前配布資料及び参考資料の該当部分を読むこと、講義前に提示された課題について予習し、講義内で回答できるよう準備することとする。

事後学修の内容は、各回、授業ノートと講義資料をもとに復習すること、webclassに掲載された課題（小テストを含む）を実施することとする。

（各回所要時間：90分程度）

5 授業内容

成人期および成人保健看護の特徴、慢性期・急性期看護学総論、災害・救急場面での看護、周手術期看護の基本、終末期看護およびがん看護の基本等について、講義、討論、演習、レポート作成を通じて学ぶ。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月8日(木)	1	山口	成人看護学各論	成人看護学の様々な領域と対象	看4
第2回	令和8年10月8日(木)	2	宮松 看護師	がん看護学	がん患者の特徴と主な治療法、看護の役割	看4
第3回	令和8年10月15日(木)	1	宮松	がん看護学	就労世代のがん療養	看4
第4回	令和8年10月15日(木)	2	〃	がん看護学	がん患者としての体験 *課題レポートあり	看4
第5回	令和8年10月29日(木)	1	伊波	慢性期看護学	慢性期看護の対象となる人の特徴と看護活動	看4
第6回	令和8年10月29日(木)	2	〃	慢性期看護学	病みの軌跡	看4
第7回	令和8年11月5日(木)	1	山口	急性期看護学	急性期看護の対象となる人の特徴と看護活動	看4
第8回	令和8年11月5日(木)	2	〃	急性期看護学	周手術期看護（術前看護）	看4
第9回	令和8年11月12日(木)	1	山口 看護師	急性期看護学	周手術期看護（術中看護）	看4
第10回	令和8年11月12日(木)	2	清原	急性期看護学	周手術期看護（術後看護）	看4
第11回	令和8年11月19日(木)	2	山口	救急看護	救命救急における看護判断の重要性と看護活動	看4
第12回	令和8年11月26日(木)	2	石川	災害看護	災害発生時の環境的特徴と看護活動	看4
第13回	令和8年12月17日(木)	1	宮松 山口 清石 原川	周手術期看護：演習	術前の準備と看護オリエンテーション *演習レポートあり	看4
第14回	令和8年12月17日(木)	2	山口 宮松 清石 原川	周手術期看護：演習	術後の患者の受け入れ準備と観察	看実
第15回	令和8年12月24日(木)	2	〃	成人看護学各論総括	成人看護学各論まとめ	看4
第16回	令和9年2月17日(水)	1	山口	試験 (9:00~9:50)【50分】		看4
第17回	令和9年3月3日(水)	1	〃	再試験 (9:00~9:50)【50分】		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習（対面）

パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある

7 評価方法

①総括的評価

修了の認定は、筆記試験（70%）および課題レポート（20%）、演習レポート（10%）の評価によって判定する。ただし、筆記試験60%以上の得点を修了認定の必須要件とする。

②形成的評価

各講義後に、講義を通しての気づきや疑問に思った点などをフィードバックシートにまとめ、指定されたWebclassのフォームから提出すること。提出期限は、各講義終了後から翌日までとする。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

演習資料は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参考文献

参考図書

- 1) 慢性期看護論 鈴木志津江・藤田佐和編集 ニューヴェルヒロカワ
- 2) 急性期看護論 鈴木志津江・藤田佐和編集 ニューヴェルヒロカワ
- 3) 成人看護学原論 氏家幸子監修 廣川書店
- 4) 明解看護学双書5 成人看護学 山崎智子監修 岡部聰子他編 金芳堂
- 5) 成人看護学 小島操子他著 医学書院
- 6) 周手術期看護 中村美知子監修 インターメディカ

10 オフィスアワー (授業相談)

時間：月～金曜日12時～13時 (教室全体で対応)

場所：509号室、510号室、516号室 (看護学科棟5階)

11 学生へのメッセージ

- ・欠席等の場合はwebclassより連絡をすること。
- ・演習の日は白衣に着替え、看護棟3階312演習室へ集合すること。開始時間以降の入室は認めないことがある。演習の持参物については、別途連絡するので指示に従うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明を行う。指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 参考URL 1

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>

13 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学概論

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学)) 非常勤講師
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学)) 秋口 一郎 (京都認知症総合センタークリニック 顧問・支援研究所長)

2 配当学年等

第2学年 前期後半 1単位

3 学修目標

本学修では、人間の生涯発達の一段階として老年期を位置づけ、高齢者を生活者として全人的に理解し、老年期にある人々への看護実践の基盤となる知識と視点を修得することを目的とする。

具体的な学修目標は以下のとおりである。

1. 高齢者を、長い人生経験を有する一人の人間として捉え、その価値観、生活歴、社会的役割の多様性を理解し、尊重すべき視点を説明できる。(DP 1-1, DP 1-2)
2. 老年期における発達課題および成熟と加齢に伴う心身機能の変化を、人体の構造・機能や発達理論と関連づけて説明できる。(DP 2-1, DP 2-2)
3. 高齢者に関する保健・医療・福祉の統計資料を読み取り、老年期にある人々の健康課題および社会的背景を理解できる。(DP 2-3, DP 5-1)
4. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化が日常生活および健康生活に及ぼす影響を踏まえ、高齢者の生活上のニーズを整理し説明できる。(DP 3-1, DP 2-9)
5. 老年看護学の基盤となる理論および概念を理解し、地域包括ケアの視点を踏まえて、老年期にある人々への看護の役割と方向性を考察できる。(DP 2-9, DP 5-2)

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP: 1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。

DP 2: 看護学の知識と技術課題 臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
9. 老年期にある人々に対する看護実践

DP 3: 対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。

DP 5: 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

本授業では、講義、疑似体験、グループディスカッションを通して、高齢者の身体面、心理・精神面、社会的側面を多角的に捉え、老年期にある人々への理解を深めることを目的とする。加齢に伴う心身の変化やそれが生活に及ぼす影響、高齢者を取り巻く社会的背景について学び、高齢者に対する看護の基盤となる知識と視点を修得する。

担当教員は、フレイルおよび要介護予防を目的とした疫学研究を行い、地域および臨床現場における高齢者の身体機能、生活機能、社会的要因と健康状態との関連を明らかにすることに取り組んでいる。これらの研究では、高齢者の健康課題を個人要因のみならず、生活環境や社会的背景を含めて包括的に捉える視点を重視している。また、加齢に伴う機能低下に配慮した日常生活動作援助のあり方を探究し、高齢者のベッドサイドケアにつながる看護介入方略の検討を行っている。本授業では、こうした研究活動を通して得られた知見を基盤として、老年期にある人々とその生活を多面的に理解するための視点を提示し、将来の看護実践につながる思考の基礎形成を図る。

講義を通して得た知識をもとに、自ら調べ、考察する学修過程を重視する。準備学修および事後学修として、1コマの授業に対して60分の予習および60分の復習を日常的に行い、加えて休日等を活用して、1コマ当たり50分以上の復習を行うことが望まれる。

各回の講義後には、講義の感想や疑問点を記載したレスポンスシートをWeb Classから提出する。これは、講義内容を振り返り、自身の思考を言語化・アウトプットすることにより、学習内容の定着を図ることを目的としている。また、Web Class上に確認問題を提示するため、繰り返し取り組み、復習に活用すること。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年6月17日(水)	1	萩 田	授業オリエンテーション 高齢者のライフステージ	授業目標・内容・課題の説明 高齢者の定義・生涯発達の視点から見た老年期 高齢者が生きてきた時代	看 4
第2回	令和8年6月23日(火)	1	秋 口	加齢と老化 加齢に伴う身体的変化 高齢者に多い疾患	エイジングと老化・生理的老化と病的老化 人間の身体のしくみと加齢による変化 老年症候群(歩行障害・転倒・認知障害など)	看 4
第3回	令和8年7月1日(水)	1	萩 田	老年期の人々を 取り巻く環境	厚生統計からみる高齢者像 高齢者の生活の場	看 4
第4回	令和8年7月1日(水)	2	〃	老年期の理解 老年看護学の コンピテンシー	多様な高齢者を理解する視点 老年看護の成り立ちと役割(高齢者の強みを引き出す、地域包括ケアシステムの中で生活環境整備、パーソンセンタードケアなど) 老年看護を支える看護理論	看 4
第5回	令和8年7月8日(水)	1	萩 田 豊 川	生活者としての 高齢者理解(1)	高齢者行う基本及び手段的日常生活活動を疑似体験 高齢者における健康の考え方と在宅生活を思考	看 4 看実
第6回	令和8年7月8日(水)	2	〃	生活者としての 高齢者理解(2)	高齢者行う基本及び手段的日常生活活動を疑似体験 高齢者における健康の考え方と在宅生活を思考	看 4 看実
第7回	令和8年7月15日(水)	1	萩 田	高齢者に対する アセスメント(1)	身体機能・構造の加齢変化とアセスメント 加齢変化と生活への影響 高齢者理解に活用できる指標とツール	看 4
第8回	令和8年7月22日(水)	1	〃	高齢者に対する アセスメント(2)	心理・精神のおよび社会的側面の加齢変化及びアセスメント 加齢変化と生活への影響 高齢者理解に活用できる指標とツール	看 4
第9回	令和8年8月4日(火)	3	〃	試験 (13:30~14:30)【60分】		看 4
第10回	令和8年8月17日(月)	1	〃	再試験 (9:00~10:00)【60分】		看 4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- ・講義は対面で実施する。講義形式を基本としつつ、一部に演習を取り入れる。授業中は適宜、受講生に意見や質問を求め、必要に応じて小グループおよび全体での討論形式を用いる。
- ・授業後、復習のために講義動画の視聴は可能とするが、グループワークや技術演習を伴う講義は対応しない。

7 評 価 方 法

①総括的評価

- ・定期試験80%、課題(レスポンスシート・確認問題・レポート)20%で評価を行う。ただし、定期試験100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。再試験は1回限りとする。
- ・総授業時間の3分の1を超えて、正当な理由のない欠席がある場合は、本試験を受験することはできない。出席管理は、基本的に大学の出席登録機能を用いて行います。そのため、毎回の講義で必ず学生証を持参してください(但し演習講義を除く)。出席は、各自で責任を持って管理してください。

②形成的評価

- ・レスポンスシートでの質問事項や、レポート内容に対しては、その都度、講義内でフィードバックを行う。

③態度評価

- ・講義と演習への参加態度から学修意欲を評価する。講義・演習での発言やレスポンスシートへの質問など学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

授業でその日の資料を配布する。ただし、配布はWebClass上での配信とし、紙媒体での配布は環境保全の観点から希望者へのみ行う。初回の講義にて配布希望者を確認する。

9 参 考 文 献

- ・老年看護学概論・老年保健（メヂカルフレンド社）
- ・厚生指針「国民衛生の動向」（厚生統計協会）
- ・健康長寿診療ハンドブック（老年医学会編集／発刊）
- その他、講義中に随時紹介

10 オフィスアワー（授業相談）

在室時いつでも可

11 学生へのメッセージ

- ・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等に変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール（tan3434@belle.shiga-med.ac.jp）にてコンタクトを取るようになしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。
- ・我が国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入しています。新聞やニュースでは高齢者に関する話題が頻りに報道され、公共の中で高齢者に出会わない日はないと思います。日頃から高齢者の生活に関心を向け、我が国の高齢者が抱える問題について考えてみましょう。

12 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学各論

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学)) 非常勤講師
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学)) 荒井 秀典 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 理事長)

2 配当学年等

第2学年 後期前半 1単位

3 学修目標

本学修では、人間の生涯における老年期を取り巻く社会的環境および健康問題について理解を深め、高齢者看護に必要な制度的・倫理的・実践的視点を修得することを目的とする。

具体的な学修目標は以下のとおりである。

1. 我が国および諸外国における保健・医療・福祉政策および制度の変遷と現状を理解し、老年期を取り巻く社会的課題と今後の方向性について説明・展望できる。(DP 2-3, DP 5-1)
2. 高齢者に対する医療・看護における倫理的課題を概観し、高齢者の多様な特性や価値観、立場を踏まえた課題やジレンマについて思考し、看護専門職者の役割と責任の視点から対応の方向性を討議・説明できる。(DP 1-1, DP 1-2, DP 1-3, DP 1-4)
3. 高齢者の主な健康課題を理解し、健康レベルの違いに応じた看護の視点を説明できる。(DP 2-9)
4. 加齢に伴う変化およびフレイル予防の基本的な考え方を理解し、老年期にある人々の健康支援における看護の役割を説明できる。(DP 2-9, DP 5-2)

本講義におけるディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1：プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

3. 健康支援と社会保障制度
9. 老年期にある人々に対する看護実践

DP5：地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

本授業では、講義やグループディスカッションを通して、高齢者の諸問題について考える。また、身近な高齢者との交流を通して、高齢者を取り巻く環境や考え方、健康状態などについて学習する。さらに、フレイルに関する最新の知見にふれ、高齢者のフレイル予防に関する興味関心を高め、臨床や研究課題を思考する機会とする。

担当教員は、フレイルおよび要介護予防を目的とした疫学研究を行い、地域および臨床現場における高齢者の身体機能、生活機能、社会的要因と健康状態との関連を明らかにすることに取り組んでいる。これらの研究では、高齢者の健康課題を個人要因のみならず、生活環境や社会的背景を含めて包括的に捉える視点を重視している。また、加齢に伴う機能低下に配慮した日常生活動作援助のあり方を探究し、高齢者のベッドサイドケアにつながる看護介入方略の検討を行っている。本授業では、こうした研究活動を通して得られた知見を基盤として、高齢者の健康課題や生活機能を多面的に理解する視点を養い、将来の看護実践および研究につながる思考の基礎形成を図る。

講義を通して得た知識をもとに、自ら調べ、考察する学修過程を重視する。準備学修および事後学修として、1コマの授業に対して60分の予習および60分の復習を日常的に行い、加えて休日等を活用して、1コマ当たり50分以上の復習を行うことが望まれる。

各回の講義後には、講義の感想や疑問点を記載したレスポンスシートをWeb Classから提出する。これは、講義内容を振り返り、自身の思考を言語化・アウトプットすることにより、学習内容の定着を図ることを目的としている。また、Web Class上に確認問題を提示するため、繰り返し取り組み、復習に活用すること。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年11月19日(木)	1	荻田	授業オリエンテーション 老年期における健康の考え方 高齢者の健康問題	授業目標・授業計画・課題の説明 経過別にみた老年看護 療養環境別にみた老年看護	看4
第2回	令和8年11月26日(木)	1	〃	高齢者を取り巻く社会保障制度	高齢社会における保健医療福祉の動向 医療・介護・福祉制度等	看4
第3回	令和8年12月3日(木)	1	〃	高齢者の倫理的課題(1)	高齢社会における権利擁護	看4
第4回	令和8年12月10日(木)	1	荻田 豊川	高齢者の倫理的課題(2)	臨床現場で生じる倫理的問題 -身体拘束に関する事例検討-	看4
第5回	令和8年12月10日(木)	2	〃	高齢者の倫理的課題(3)	身体拘束の被装着体験 身体拘束をしないためのケア	看4
第6回	令和8年12月18日(金)	4	荒井	フレイルに関する研究動向(1)	フレイルの概念 フレイルの診断と予防	看4
第7回	令和8年12月18日(金)	5	〃	フレイルに関する研究動向(2)	フレイルに関する最新の知見	看4
第8回	令和9年1月7日(木)	1	荻田	老いと死	エンドオブライフ・エンドオブデス 最善の治療とケアのあり方	看4
第9回	令和9年2月15日(月)	1	〃	試験(9:00~10:00)【60分】		看4
第10回	令和9年3月1日(月)	1	〃	再試験(9:00~10:00)【60分】		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- ・講義は対面で実施する。講義形式を基本としつつ、一部に演習を取り入れる。授業中は適宜、受講生に意見や質問を求め、ディベートを行うほか、必要に応じて小グループおよび全体での討論形式を用いる。
- ・授業後、復習のために講義動画の視聴は可能とするが、グループワークや技術演習を伴う講義は対応しない。

7 評 価 方 法

①総括的評価

- ・定期試験80%、課題(レスポンスシート・確認問題・レポート)20%で評価を行う。ただし、定期試験100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。再試験は1回限りとする。
- ・総授業時間の3分の1を超えて、正当な理由のない欠席がある場合は、本試験を受験することはできない。出席管理は、基本的に大学の出席登録機能を用いて行います。そのため、毎回の講義で必ず学生証を持参してください(但し演習講義を除く)。出席は、各自で責任を持って管理してください。

②形成的評価

- ・レスポンスシートでの質問事項や、レポート内容に対しては、その都度、講義内でフィードバックを行う。

③態度評価

- ・講義と演習への参加態度から学修意欲を評価する。講義・演習での発言やレスポンスシートへの質問など学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

授業でその日の資料を配布する。ただし、配布はWebClass上での配信とし、紙媒体での配布は環境保全の観点から希望者へのみ行う。初回の講義にて配布希望者を確認する。

9 参 考 文 献

- ・老年看護学概論・老年保健(メヂカルフレンド社)
- ・厚生省の指標「国民衛生の動向」(厚生統計協会)
- ・健康長寿診療ハンドブック(老年医学会編集/発刊)
- その他、講義中に随時紹介

10 オフィスアワー(授業相談)

在室時いつでも可

11 学生へのメッセージ

- ・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等に変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール（tan3434@belle.shiga-med.ac.jp）にてコンタクトを取るようになしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。
- ・我が国は世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入しています。新聞やニュースでは高齢者に関する話題が頻繁に報道され、公共の中で高齢者に会わない日はないと思います。日頃から高齢者の生活に関心に向け、我が国の高齢者が抱える問題について考えてみましょう。

12 主担当教員の実務経験

看護師

小児保健看護学概論

1 担当教員名

教授 菊池良太（実践看護学講座（小児保健看護学））
講師(学内) 白坂真紀（実践看護学講座（小児保健看護学））

2 配当学年等

第2学年 前期後半 1単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学習目標とする。

1. 小児看護の基本的な考え方について理解する。
2. 子どもの成長と発達を理解する。
3. 子どもと家族への支援に関する基本的な考え方を理解する。

本講義に關係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカムは以下となる。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

4 授業概要

成長と発達段階に特徴付けられる子どもと家族を理解することは、小児看護の基本である。本講義では、小児看護の対象である子どもと家族を理解するための基礎的な知識を養うとともに、子どもや家族への支援に関する基本的な考え方に対する理解を深める。

担当する教員は、小児看護学（主として子どものQuality of Lifeの評価と向上に向けたシステムの構築）及び家族看護学に関する研究を遂行している。

5 授業内容

①講義

講義形式と演習形式を基本とし、主に小児看護の基本的考え方、小児の発達や発達段階に応じた発達課題と看護について学ぶ。

②復習と予習

前回の講義内容を復習する（目安：45分）とともに、事前に配布する講義資料を用いて事前学習（目安：45分）を行った上で講義に臨む。

③質問等

講義内で適宜時間を取り質問等を受け付ける。講義の時間外でも担当教員へメール等により質問を行う。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年6月1日(月)	3	菊池	小児看護の特徴と理念	1. 小児看護の目ざすところ 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題	看4
第2回	令和8年6月8日(月)	3	〃	小児の成長と発達	1. 成長と発達とは 2. 成長と発達の進み方 3. 成長と発達に影響する因子 4. 成長の評価 5. 発達の評価	看4
第3回	令和8年6月22日(月)	3	〃	子どもと家族	1. 子どもにとっての家族 2. 看護の対象としての家族の理解 3. 家族アセスメント 4. 小児看護における家族看護過程	看4
第4回	令和8年6月29日(月)	3	〃	新生児	1. 新生児の形態的特徴 2. 新生児の身体生理的特徴 3. 新生児の養育及び看護	看4
第5回	令和8年7月6日(月)	3	〃	乳児	1. 乳児の形態的特徴 2. 乳児の各機能の特徴 3. 乳児の養育及び看護	看4
第6回	令和8年7月9日(木)	3	〃	幼児	1. 形態的特徴 2. 身体機能の特徴 3. 情緒・社会的機能の特徴 4. 養育と看護	看4
第7回	令和8年7月13日(月)	3	〃	学童	1. 形態的特徴, 身体生理的特徴 2. 知的, 情緒的, 社会的機能 3. 学童期に生じうる問題と社会課題 4. 学童期の養育と看護	看4
第8回	令和8年7月27日(月)	3	〃	思春期・青年期	1. 形態的特徴, 身体生理的特徴 2. 知的・情緒(心理)的・社会的機能 3. 生活の特徴 4. 心理・社会的適応等に関する問題 5. 思春期の看護	看4
第9回	令和8年8月3日(月)	3	〃	試験(13:30~15:00)		看4
第10回	令和8年8月14日(金)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式と演習形式を基本とし、対面形式にて行う。

講義の録画動画のオンデマンドでの配信は行わない。

動画等の視聴覚教材を用いることがある。

7 評価方法

①評価

修了の認定は、定期試験(80%)と課題(20%)により評価する。

ただし、定期試験の得点が60%以上であることが修了認定の必須要件とする。

出席状況や受講態度を評価に反映(加点、減点)する。

課題へは適宜フィードバックを行う。

②出席確認

各講義に対しWebClassより課題を提出する。各講義に対する課題の評価は、当該講義に出席していることを前提とする。

③欠席や遅刻

欠席や遅刻、早退等する場合は、WebClassより主担当教員へ連絡を行う。

8 テキスト

奈良間美穂（代表著者）. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児看護学総論（第14版）. 医学書院, 2024.

その他、適宜提示する。

講義資料は原則としてWebClass等を通じて電子媒体にて配布する。受講生にて事前にダウンロードして準備する。

講義資料の転載は禁止する。

9 テキストISBN番号

978-4-260-03860-7

10 参考文献

適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

主担当教員へメールにて事前に連絡し日程の調整を行う、または主担当教員の研究室（607）へ直接来室する。

12 学生へのメッセージ

小児看護の対象となる子どもを理解するための基礎的な講義です。一緒に理解を進めましょう。

13 参考URL 1

<http://sums-hqkodomomo.sakura.ne.jp>

14 授業用E-mail

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 1

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

16 主担当教員の実務経験

看護師（大学病院の小児病棟での看護師としての従事経験及び、大学・大学院での小児看護学領域の教員としての従事経験のある教員が担当する）

小児保健看護学各論

1 担当教員名

教授 菊池良太 (実践看護学講座 (小児保健看護学))
講師(学内) 白坂真紀 (実践看護学講座 (小児保健看護学))

2 配当学年等

第2学年 後期前半 1単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学習目標とする。

1. 様々な状況や病期にある子どもと家族への看護に関する基本的な考え方について理解する。
2. 子どものフィジカルアセスメントについて理解する。
3. 症状を示す子どもへの看護について理解する。

本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムは以下となる。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。

DP5. 地域医療への貢献

3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

4 授業概要

小児看護では、様々な状況や病期にある子どもと家族への看護を、成長と発達と関連づけながら理解する必要がある。本講義では、様々な状況や病期、症状に対する小児看護の実践へと繋げるための基礎的な理解を深める。

担当する教員は、小児看護学 (主として子どものQuality of Lifeの評価と向上に向けたシステムの構築) 及び家族看護学に関する研究を遂行している。

5 授業内容

①講義

講義形式と演習形式を基本とし、主に子どもの状況や治療・生活の場に応じた小児看護の考え方、小児看護における基本的看護技術について学ぶ。

②復習と予習

前回の講義内容を復習する (目安: 45分) とともに、事前に配布する講義資料を用いて事前学習 (目安: 45分) を行った上で講義に臨む。

③ 質問等

講義内で適宜時間をとり質問等を受け付ける。講義の時間外でも担当教員へメール等により質問を行う。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月5日(月)	4	菊池	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護	看4
第2回	令和8年10月13日(火)	4	〃	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1. 入院中の子どもと家族の看護 2. 外来における子どもと家族の看護 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 4. 災害時の子どもと家族の看護	看4
第3回	令和8年10月20日(火)	4	〃	子どもにおける疾病の経過と看護	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 3. 周手術期にある子どもと家族の看護 4. 終末期にある子どもと家族の看護	看4
第4回	令和8年10月27日(火)	4	〃	検査・処置を受ける子どもと家族の看護	1. 子どもにとっての検査・処置の体験 2. 検査・処置における看護の基本的な考え方 3. 小児の薬物動態の特徴 4. 様々な検査・処置における看護	看4
第5回	令和8年11月10日(火)	4	〃	子どものアセスメント①	1. アセスメントに必要な技術 2. バイタルサイン 3. 身体測定 4. 一般状態 5. 頭部, 顔 6. 呼吸	看4
第6回	令和8年11月17日(火)	4	〃	子どものアセスメント②	1. 心臓・血管系 2. 腹部 3. 筋肉・骨格系 4. 神経系 5. リンパ系 6. 皮膚, 爪	看4
第7回	令和8年11月24日(火)	4	〃	症状を示す子どもの看護①	1. 不機嫌, 啼泣 2. 痛み 3. 呼吸困難 4. チアノーゼ 5. ショック 6. 意識障害	看4
第8回	令和8年12月1日(火)	4	〃	症状を示す子どもの看護②	1. 発熱 2. 嘔吐 3. 下痢 4. 脱水 5. 出血 6. 貧血 7. その他の症状	看4
第9回	令和9年2月12日(金)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看4
第10回	令和9年2月22日(月)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式と演習形式を基本とし、対面形式にて行う。

講義の録画動画のオンデマンドでの配信は行わない。

動画等の視聴覚教材を用いることがある。

7 評価方法

① 評価

修了の認定は、定期試験(80%)と課題(20%)により評価する。

ただし、定期試験の得点が60%以上であることが修了認定の必須要件とする。

出席状況や受講態度を評価に反映(加点、減点)する。

課題へは適宜フィードバックを行う。

②課題と出席確認

各講義に対しWebClassより課題を提出する。各講義に対する課題の評価は、当該講義に出席していることを前提とする。

③欠席や遅刻

欠席や遅刻、早退等する場合は、WebClassより主担当教員へ連絡を行う。

8 テキスト

奈良間美穂（代表著者）. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児看護学総論（第14版）. 医学書院, 2024.

その他、適宜提示する。

講義資料は原則としてWebClass等を通じて電子媒体にて配布する。受講生にて事前にダウンロードして準備する。

講義資料の転載は禁止する。

9 テキストISBN番号

978-4-260-03860-7

10 参考文献

適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

主担当教員へメールにて事前に連絡し日程の調整を行う、または主担当教員の研究室（607）へ直接来室する。

12 学生へのメッセージ

小児看護の対象となる子どもを理解するための基礎的な講義です。一緒に理解を進めましょう。

13 参考URL 1

<http://sums-hqkodomosakura.ne.jp>

14 授業用E-mail

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 1

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

16 主担当教員の実務経験

看護師（大学病院の小児病棟での看護師としての従事経験及び、大学・大学院での小児看護学領域の教員としての従事経験のある教員が担当する）

ウィメンズヘルス学

1 担当教員名

教授 立岡 弓子 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
准教授 土川 祥 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第2学年 前期前半 1単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。
- 2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能 3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ① 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。

DP5. 地域医療への貢献

- ① 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
② 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

女性の生涯における健康についての理解を深める

- ① 女性の健康を生涯発達として理解する概念について理解できる
② 女性のヘルスケアの概念とヘルスプロモーションの考え方が理解できる
③ 女性に関する性差・ライフサイクルの視点からみた健康課題が理解できる
④ 女性に関連する生命倫理について理解できる
⑤ 女性の健康に関連する法律について理解できる

4 授業概要

<教育目的>

- ① 女性を取り巻く環境と性差に関する影響について、歴史的変遷から学習する
- ② 女性の健康について、身体的・精神的・社会的視点から包括的に学習する
- ③ 女性の生涯発達における健康障害について、性差をふまえた視点から学習する
- ④ 女性の自己決定とリプロダクティブヘルス/ライツについて、国際的視野をふまえて学習する
- ⑤ ライフサイクル各期にある女性への社会的支援と看護の役割について学習する

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと (講義回数: 8回×30分程度)、また講義後自己にて復習しておいてください (講義回数: 8回×60分程度)。

<事後の学習内容>

- 1) 各回の授業時までに授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、ウィメンズヘルス学を大学院博士前期課程から後期課程、さらにメルボルン大学のウィメンズヘルスコースで学び国際学会でも、ジェンダーに基づく健康課題に関する発表をしている。また、女性の健康に関する看護の著書も多く執筆してきている。

NHH 放送大学BS321 でもウィメンズヘルス学の講義を担当しており、広く学術活動に従事している。プレコンセプションケアに関する研究課題にも取り組み、滋賀県のプレゼントケア事業にも参画し、思春期の性教育に関する教育教材の作成も担っている。

5 授 業 内 容

女性の健康の概念をもとに、ライフサイクル各期にある健康問題を性差の視点から理解でき、女性を取り巻く環境や社会的施策について教授する

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月14日(火)	5	立 岡	女性と健康	女性の健康の概念と生涯発達 リプロダクティブヘルス/ライツとヘルス プロモーション プレコンセプションケア	看4
第2回	令和8年4月21日(火)	5	〃	女性と生命倫理	女性と妊孕 出産を取り巻く医療と倫理	看4
第3回	令和8年4月28日(火)	5	〃	女性と社会	就労 性感染症 経済 教育 薬物	看4
第4回	令和8年5月12日(火)	5	〃	女性と栄養	やせと肥満 ドハワード説 葉酸摂取と胎児奇形 栄養素と妊孕への影響	看4
第5回	令和8年5月19日(火)	5	〃	思春期女性と健康	思春期女性の性周期 性に関する健康問題 メンタルヘルス	看4
第6回	令和8年5月26日(火)	5	〃	女性への暴力	身体的・精神的・経済的暴力 性暴力 暴力の女性の自尊心への影響 暴力とメンタルヘルス	看4
第7回	令和8年6月2日(火)	5	立 岡 土 川	性成熟期女性と健康	性成熟期女性の性周期 性に関する健康問題	看4
第8回	令和8年6月9日(火)	5	立 岡	更年期・老年期女性と健康	低エストロゲンと健康課題 メンタルヘルス	看4
第9回	令和8年7月30日(木)	2	〃	試験(11:00~12:30)		看4
第10回	令和8年8月12日(水)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

アクティブラーニングを取り入れたり、画像や動画を活用する。

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評 価 方 法

①総括的評価

定期試験85%

- 学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- 単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
- 正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

受講態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席-5点、不適切な行為(不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など)-5点とする。

8 テ キ ス ト

系統看護学講座 母性看護学概論, 医学書院 2026年3月発刊予定

9 オフィスアワー（授業相談）

開講時期の火曜日の講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbousei@belle.shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

10 学生へのメッセージ

女性を取り巻く環境や社会問題、健康問題について、潜在的な性差から理解できると、看護の役割がさらに明確化してくる、ウイメンズヘルス学がいよいよ始まります。新カリで新しくなった講義です。

一緒にウイメンズヘルスについて考えていきましょう！

11 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 2

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 3

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 4

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

16 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

母性看護学概論

1 担当教員名

准教授 土川 祥 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授 喜多 伸 幸 (実践看護学講座 (クリティカルケア学))
教授 立岡 弓子 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第2学年 前期後半 1単位

3 学修目標

1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。

- ① 母性、父性、親性を認識し、自己の概念を発達させる
- ② 母性看護学の概念と機能について理解する
- ③ 母性を取り巻く社会の現状と家庭を理解し、母性看護学の意義について理解する
- ④ 母性看護の場とその特徴について理解する
- ⑤ 母性看護学に活用する理論と概念、倫理
- ⑥ 母子関係における家族の機能と変化 家族発達
- ⑦ 生殖補助医療と妊孕について理解する
- ⑧ 母子保健施策とその課題

2) 本講義に関するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能 3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

DP5. 地域医療への貢献

- ①社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
- ②地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
- ③保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
- ④地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

4 授業概要

母性看護の対象の特性を理解し、身体的、精神的、社会的、経済的に統合された存在として理解でき、その対象が健康な生活を送るために必要な看護職としての役割について、学問的、実践的、倫理的に理解できることを目的とする。

また、併せて女性とその家族の性と生殖の機能を理解し、健康な生殖機能を維持できる看護実践について教授する。

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

各回の講義時までには授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと (講義回数: 8回×30分程度)、また講義後自己にて復習しておいてください (講義回数: 8回×60分程度)。

事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、特に初めて親になるカップルのメンタルヘルスケアに関する研究に取り組んできました。これらの研究知見を、親役割の獲得、周産期メンタルヘルスケア、家族支援の実際へといった学習内容へ反映し、講義を通じてエビデンスに基づく母性看護の重要性について理解を深めていただけたらと思います。

5 授 業 内 容

母性の概念と母性看護の対象の概念の理解を統合し、子産み子育て世代を中心とした家族への看護に必要な理論や法律、施策について、広く教授した内容とする

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月14日(火)	1	土 川	母性とは 母性とその役割機能 母性看護学の概念	母性の定義、父性、親性の自己概念 母性概念の変遷 親役割の獲得(母親役割、父親役割) 周産期メンタルヘルス	看4
第2回	令和8年4月21日(火)	1	喜 多	妊孕と生殖補助医療の 実際 妊孕と生殖の倫理	妊孕とは がん妊孕とリプロダクティブライツ 生殖補助医療と看護 女性の妊孕・男性の妊孕の性科学	看4
第3回	令和8年4月28日(火)	1	土 川	母性看護・周産期に 関する医療体制	母性看護の場と特徴 周産期医療体制	看4
第4回	令和8年5月12日(火)	1	〃	母性看護における 主要な理論と概念	母性論 ウエルネス理論 オレム理論 親子の結びつき理論 親子相互作用モデル	看4
第5回	令和8年5月19日(火)	1	土 川 立 岡	母子と家族の発達	家族の機能 母子関係と家族機能の変化 父子関係と家族機能の変化	看4
第6回	令和8年5月26日(火)	1	土 川	母性と社会	少子化と家族形態 貧困 特定妊婦の実際 マタニティハラスメント	看4
第7回	令和8年6月2日(火)	1	立 岡	母性看護における グリーフケアとは	グリーフとは 母性看護でのグリーフの実際 子どもをもてない女性の心理と看護	看4
第8回	令和8年6月9日(火)	1	土 川	母子保健に関わる 法律への理解	母子保健法 母体保護法 児童福祉法 地域保健法 刑法 戸籍法 労働基準法 健康 保険法 男女共同参画社会基本法 生活保護法	看4
第9回	令和8年7月30日(木)	3	〃	試験(13:30~15:00)		看4
第10回	令和8年8月12日(水)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

画像、動画を使用して、よりリアルな講義内容とする。

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評 価 方 法

定期試験(85%)、小テスト・受講態度(15%)により総合的に評価する。

①総括的評価

定期試験85%

- 学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- 単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
- 正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

受講態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など）－5点とする。

8 テキスト

系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 2026年3月発刊

9 オフィスアワー（授業相談）

開講時期の火曜日の講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbosei@belle.shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

10 学生へのメッセージ

母子保健をめぐる状況は、刻一刻と目まぐるしく変化します。テキストに掲載されていない最新の情報について、リアルタイムに講義資料にて提示していきます。

11 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

大学病院で11年間助産師として勤続経験あり

母性看護学実践論

1 担当教員名

准教授	土川	祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多	伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
教授	立岡	弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南	良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村	麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊	和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中	もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第2学年 後期 2単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。
- ①妊娠・分娩・産褥期の女性と新生児の生理的变化、心理的变化、社会的変化や看護ケアについて理解する。
 - ②妊娠・産褥期の女性と新生児について情報を系統的整理し、対象の全体像を把握することができる。
 - ③妊娠・産褥期の女性と新生児についてウェルネス看護診断を行い、看護計画を立案することができる。
 - ④産褥期の女性と新生児を対象とした保健指導案を作成することができる。
 - ⑤妊娠・分娩・産褥期の女性と新生児に対する具体的援助技術について実施することができる。
 - ⑥グループワークにおいて積極的に参加し、学生間でコミュニケーションを取りながら、プレゼンテーションを行うことができる。

- 2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能 2. 疾病の成立と回復の促進 3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期) 11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授業概要

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における生理的経過、心理社会的変化、および看護について教授する。
事例検討、ロールプレイ、技術演習を通して周産期に必要な援助技術を教授する。

教室外学修に必要な時間目安

- ・各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと、また講義後自己にて復習すること。(講義回数:16回×45分程度)
- ・技術演習までに演習内容の事前学習をしてから臨むこと。(事前学習:3回×90分程度)
- ・妊娠事例のアセスメント、関連図は個人ワークを行い、10/29に提出すること。(45分程度)
- ・産褥期・新生児期事例のアセスメント、関連図、看護計画立案のグループワークは事前に個人ワークを行ったのち、その後グループで事例の関連図と看護計画の発表を対面にて行う。(グループワークに関する教室外学修時間目安:事前ワークを含め390分程度)
- ・2人一組で保健指導案を作成し、提出する。(グループワークに関する教室外学修時間目安:90分程度)

事前・事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassもしくはミニッツペーパーへコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、妊娠期から産褥期にかけての骨盤形態の変化とマイナートラブル、自動車運転状況についての研究に取り組んでいる。これらの研究知見から母性看護学の各論に関する学習内容へ反映し、講義を通じてエビデンスに基づく具体的な母性看護の実践について理解を深めていただけたらと思います。

前年度からの変更点

- ・演習室での技術演習について1月に実施していたものを11月下旬に行うように変更しています。

5 授 業 内 容

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の特徴と看護についての講義を行う。また講義を踏まえて、妊娠期・産褥期・新生児期の事例演習、妊産褥婦・新生児に対する看護技術演習を行う。

ロールプレイを取り入れた能動的学修を行う。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月14日(水)	2	土 川	妊娠期の看護	妊娠・分娩・産褥とは 妊娠期の母体の変化と胎児発育 妊娠期の必要な検査 妊娠期事例提示	看 4
第2回	令和8年10月14日(水)	3	〃	妊娠期の看護	マイナートラブルへの看護 妊娠期の健康維持のための看護	看 4
第3回	令和8年10月14日(水)	4	〃	ハイリスク妊娠の看護 妊娠期～分娩期にある 対象の理解	特定妊婦、不妊治療後の妊婦への看護ケア 妊婦、産婦の心理・社会的特性と看護の役割	看 4
第4回	令和8年10月21日(水)	2	喜 多	ハイリスク妊娠の病態	多胎妊娠・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離	看 4
第5回	令和8年10月21日(水)	3	土 川	ハイリスク妊娠の看護	切迫早産、前期破水、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群の看護	看 4
第6回	令和8年10月21日(水)	4	〃	ハイリスク妊娠の看護	在留外国人や災害時の母子支援 妊娠期のアセスメント・関連図の思考過程	看 4
第7回	令和8年11月4日(水)	2	喜 多	ハイリスク妊娠の病態	妊娠糖尿病・妊娠期の感染症・血液型不適合妊娠	看 4
第8回	令和8年11月4日(水)	3	土 川	ハイリスク妊娠の看護	妊娠糖尿病、胎児機能不全の看護	看 4
第9回	令和8年11月4日(水)	4	南	帝王切開と看護	帝王切開術の適応と産婦の理解 術前・術中・術後の管理 母性関係への理解	看 4
第10回	令和8年11月11日(水)	3	〃	分娩期の看護	分娩の生理 分娩の三要素	看 4
第11回	令和8年11月11日(水)	4	〃	分娩期の看護	分娩経過とアセスメント	看 4
第12回	令和8年11月18日(水)	2	土 川	新生児の看護	新生児の生理とケア	看 4
第13回	令和8年11月18日(水)	3	〃	新生児の看護	新生児の異常とケア	看 4
第14回	令和8年11月18日(水)	4	土 川 附属病院看護師 or 助産師	ハイリスク新生児への 看護	早産児と低出生体重児の生理的特徴と看護 先天異常児の生理的特徴と看護	看 4
第15回	令和8年11月25日(水)	2	南	産褥期の看護	産褥期の身体的・心理的变化とケア 母子関係 父子関係 家族の機能	看 4
第16回	令和8年11月25日(水)	3	立 岡	産褥期の看護	乳房の変化とケア	看 4
第17回	令和8年11月25日(水)	4	南	妊娠期・産褥期・ 新生児期の看護	妊娠期事例のアセスメント解説 産褥期・新生児期事例のグループワークの進め方 個人ワーク(アセスメントシート、関連図)	看 4

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第18回	令和8年12月2日(水)	3	土川南泊 附属病院助産師 中村田中	技術演習	・技術演習：妊娠期・産褥期のケア（レオボルド触診法、胎児心拍モニタリングの実際・判読、子宮復古の観察、母乳支援）	看実
第19回	令和8年12月2日(水)	4	〃	技術演習	・技術演習：妊娠期・産褥期のケア（レオボルド触診法、胎児心拍モニタリングの実際・判読、子宮復古の観察、母乳支援）	看実
第20回	令和8年12月9日(水)	2	〃	技術演習／ グループワーク	沐浴 グループワーク（アセスメント・関連図・統合アセスメント・看護診断）	看実 看4
第21回	令和8年12月9日(水)	3	土川南泊 病棟助産師 中村田中	技術演習／ グループワーク	沐浴 グループワーク（アセスメント・関連図・統合アセスメント・看護診断）	看4 看実
第22回	令和8年12月9日(水)	4	土川南泊 附属病院助産師 中村田中	技術演習／ グループワーク	沐浴 グループワーク（アセスメント・関連図・統合アセスメント・看護診断）	看実 看4
第23回	令和8年12月16日(水)	2	土川南泊 中村田中	母性看護過程の展開	グループワーク （関連図完成、看護診断・看護計画立案）	看4
第24回	令和8年12月16日(水)	3	〃	母性看護過程の展開	グループワーク（関連図完成、看護診断・看護計画立案）	看4
第25回	令和8年12月16日(水)	4	〃	母性看護過程の展開	グループワーク（関連図完成、看護診断・看護計画立案）	看4
第26回	令和8年12月23日(水)	2	南土川 泊中村 田中	母性看護過程の展開／ 技術演習	・母性看護と健康教育・保健指導とは ・2人組で保健指導案作成 ・技術演習：分娩期のケア、新生児の観察	看4 看実
第27回	令和8年12月23日(水)	3	土川南泊 中村田中	母性看護過程の展開／ 技術演習	・母性看護と健康教育・保健指導とは ・2人組で保健指導案作成 ・技術演習：分娩期のケア、新生児の観察	看4 看実
第28回	令和8年12月23日(水)	4	〃	母性看護過程の展開	・グループワーク（配布資料、発表スライド作成）	看4
第29回	令和9年1月6日(水)	3	〃	母性看護過程の展開	事例発表 プレゼンテーションは学生間でも評価を行う	看4
第30回	令和9年1月6日(水)	4	〃	母性看護過程の展開	事例発表 プレゼンテーションは学生間でも評価を行う	看4
第31回	令和9年2月15日(月)	3	土川	試験（13：30～15：00）		看4
第32回	令和9年3月1日(月)	3	〃	再試験（13：30～15：00）		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式、演習形式、グループワークと発表の形式を取る。
 ロールプレイグを取り入れた能動的学修を行う。
 スライド、DVD、模型など適宜使用する。
 なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

- 定期試験60%、事例の看護展開・保健指導案作成のグループワーク・プレゼンテーション20%
- 学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
 - 単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
 - 正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

- 講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。
事例の看護展開・保健指導案などに対し、都度教員からフィードバックを実施する。

③態度評価

- 技術演習態度10%、提出物10%により評価する。
授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。
- グループワーク・プレゼンテーションに関する評価として学生相互評価を行う。
 - 無断欠席-5点、不適切な行為（不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など）-5点とする。

8 テキスト

- 小林康江他編：母性看護の実践. メディカ出版, 2022.
立岡弓子編著：新訂版 周産期ケア・マニュアル第3版. サイオ出版, 2020.
立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック. サイオ出版, 2022.

9 参考文献

- 有森直子編：母性看護学Ⅱ周産期各論第2版. 医歯薬出版, 2020.
太田操編：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版. 医歯薬出版, 2020.
立岡弓子著：乳房ケアのエビデンス. 日総研出版, 2013.
東野妙子他編：ナーシングポケット母性看護. 医歯薬出版, 2019.

10 オフィスアワー（授業相談）

水曜日講義終了後から18時まで。メールで事前にアポイントを取ること。

11 学生へのメッセージ

母性看護学演習では母性看護に関する新たな知識を多々得ることが求められる分野ではありますが、解剖生理学などが基礎にあります。講義やグループワーク、技術演習を通じて、母性領域の対象者への看護について知識と技術を統合し、どのようにケアをしていくか考えてほしいと思います。

講義には指定のテキストを準備して臨むようにしてください。

12 授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

大学病院産婦人科病棟にて臨床経験11年の助産師

精神保健看護学概論

1 担当教員名

教授 河村 奈美子 (地域看護学講座 (精神保健看護学))
助教 坂本 真優 (地域看護学講座 (精神保健看護学))

2 配当学年等

第2学年 前期前半 1単位

3 学修目標

精神保健看護の対象の理解や精神保健医療の変遷、現代社会における心の問題、ライフサイクルにおける心の問題や発達の危機を学び、精神保健の保持増進および予防と回復を援助する精神保健看護の役割と課題について考えることができる。

本科目に関するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム

<DP>

1. プロフェッショナリズム：精神医療の歴史を理解し、現代の精神保健の保持増進及び予防回復を援助する精神保健看護の役割を検討する
2. 看護学の知識と技術：現代社会における精神的健康課題について多角的に資料を用いてりかひする
5. 地域医療への貢献：地域の保健・医療・福祉ニーズを把握する

4 授業概要

以下の内容について教授する

- (1)精神看護の枠組みと対象について理解することができる。
- (2)精神医療と看護の歴史の変遷を学ぶことにより現在の精神障がい者を取り巻く環境を理解することができる。
- (3)ライフサイクル各期における心の問題を理解することができる。
- (4)精神看護の役割や課題について考えることができる。

各回の授業までに授業計画委じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問をもって授業に備えることが求められる。

5 授業内容

精神保健看護学概論では、精神看護学とは何か、どのような人を対象にする分野なのかについて学びます。精神保健看護学各論、精神保健看護学演習と発展する中で心を病む対象者への看護実践を具体的に学び、精神保健看護学実習において看護過程を展開し看護を実践することにつながる第一段階の学習になります。そのため、心の仕組みから発達や危機について学び、社会の中における心の健康について学修します。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	1	河村	心のしくみと精神保健	オリエンテーション、心の健康と精神看護	看4
第2回	令和8年4月15日(水)	1	〃	心のしくみと精神保健	心の構造と機能、精神力動的考え方、精神分析、心の発達理論	看4
第3回	令和8年4月22日(水)	1	〃	ストレスと心の健康	ストレス、危機と対処、ソーシャルサポートと家族	看4
第4回	令和8年5月13日(水)	1	〃	ライフサイクルと精神保健	乳幼児期から老年期の各期における心理的特徴と危機	看4
第5回	令和8年5月20日(水)	1	〃	ライフサイクルと精神保健	乳幼児期から老年期の各期における心理的特徴と危機	看4
第6回	令和8年5月27日(水)	1	〃	精神保健医療と福祉の歴史の変遷	精神医療と看護の歴史の変遷、精神保健に関する法律、精神医療に関する法律	看4
第7回	令和8年6月3日(水)	1	〃	現代社会と精神の健康1	現代社会特有の精神保健上の問題(DV・ひきこもりなど)	看4
第8回	令和8年6月10日(水)	1	〃	現代社会と精神の健康2	グループワーク(関心のあるテーマに関する情報共有)	看4
第9回	令和8年7月31日(金)	1	〃	試験(9:00~10:30)		看4
第10回	令和8年8月13日(木)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

グループワークを含めた講義形式です。
スライド、DVD視聴を含め、視聴覚教材を適宜使用します。
尚、講義のオンデマンド配信はしません。

7 評価方法

総括的評価

レポート (20%)
定期試験 (80%)

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する。
評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。(再試験は1回までとする)

なお、2/3以上の出席があることを評価の対象とする。

8 テキスト

阿保順子他. 統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すびか書房,2021

9 テキストISBN番号

978-4902630305

10 オフィスアワー (授業相談)

月曜11:30-12:30 その他メール連絡等により随時対応します。

11 学生へのメッセージ

グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。資料を事前にアップロードしますので、予習と復習をしてください。

12 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学各論

1 担当教員名

教授 河村 奈美子 (地域看護学講座 (精神保健看護学))
助教 坂本 真優 (地域看護学講座 (精神保健看護学))

2 配当学年等

第2学年 後期後半 1単位

3 学修目標

精神保健の保持増進および疾病予防と回復過程を学ぶことにより、援助に必要な精神保健看護学の基礎的知識と技術を習得する。精神科における精神療法や薬物療法、リハビリテーション、生活療法について学習し援助者に必要な姿勢について考えることができる。

本科目に関するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム
<DP>

1. プロフェッショナリズム：精神科における精神療法や薬物療法、リハビリテーション、生活療法について学習し精神保健の保持増進に向けて援助者に必要な姿勢について考える
2. 看護学の知識と技術：援助に必要な精神保健看護学の基礎的知識と技術を習得する
3. 課題対応能力と看護実践能力：看護実践能力の基礎的知識を修得する
4. コミュニケーションと多職種連携：精神科における精神療法や薬物療法、リハビリテーション、生活療法について学習し多職種のと支援について理解する
5. 地域医療への貢献：医療機関に限らない療養者、労働者等の多様な生活者のメンタルヘルス支援を学修する

4 授業概要

以下の内容について教授する。

- (1)精神看護に関連する理論を理解する。
- (2)精神障がい診断や治療について理解する。
- (3)精神科医療と地域生活の移行について理解する。
- (4)精神疾患とその看護について理解する。

各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問をもって授業に備えることが求められる。

5 授業内容

精神保健看護学各論では、精神保健看護学概論で学習した心の理解や精神保健の知識を踏まえて、精神保健看護の実践とはどのようなものかについて学習する。この学習を踏まえ、3年次の演習においてより実践的で具体的看護技術についての学習に発展させる。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月14日(月)	3	河村	精神看護に関連する心理・発達理論	メラニックライン、マラー、ウィニコット、エリクソン	看4
第2回	令和8年12月21日(月)	3	〃	予防に関する理論	危機理論、ストレス、コーピング、感情の対処	看4
第3回	令和9年1月4日(月)	3	〃	精神看護に関連する看護理論	ペプロウ、トラベルビー、オレム	看4
第4回	令和9年1月12日(火)	3	〃	労働者の精神的健康・心理と支援	労働者の精神的健康・心理と支援	看4
第5回	令和9年1月18日(月)	3	坂本	精神疾患に対する治療と看護	急性期から回復期までの治療と看護、リハビリテーション、地域における支援	看4
第6回	令和9年1月25日(月)	3	河村	精神疾患を持つ対象者の看護①	統合失調症急性期の看護	看4
第7回	令和9年2月1日(月)	3	〃	精神疾患を持つ対象者の看護②	統合失調症回復期の看護	看4
第8回	令和9年2月8日(月)	3	〃	精神障がい児(者)の地域医療・福祉と支援	発達障がい児(者)の地域医療・福祉と支援	看4
第9回	令和9年2月17日(水)	3	〃	試験(11:00~12:30)		看4
第10回	令和9年3月3日(水)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

グループディスカッションを含めた講義形式
スライド、DVD視聴含め、視聴覚教材を適宜使用します。
尚、講義のオンデマンド配信はしません。

7 評価方法

総括的評価

レポート (20%)
期末試験 (80%)

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する。
評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。

なお、2/3以上の出席があることを評価の対象とする。

8 テキスト

阿保順子他、統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すびか書房、2021

9 テキストISBN番号

978-4902630305

10 オフィスアワー (授業相談)

月曜11:30-12:30 その他メール連絡などにより随時対応します。

11 学生へのメッセージ

グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。講義資料は事前にアップしますので、予習と復習をしてください。

12 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

訪問看護学概論

1 担当教員名

教授 辻村 真由子（地域看護学講座（訪問看護学））
助教 田和 なつ美（地域看護学講座（訪問看護学））

2 配当学年等

第2学年 後期前半 1単位

3 学修目標

- 1 在宅療養支援が必要とされる社会的な背景を理解する。
- 2 地域・在宅看護の特徴と役割について理解する。
- 3 地域・在宅看護（特に訪問看護）に関連する制度の概要について知識を修得する。
- 4 在宅看護活動の基盤となる理論、考え方について理解する。

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

訪問看護の歴史や在宅療養支援が必要とされる社会的な背景を理解することを通して、地域包括ケアシステム、訪問看護の理念、在宅看護の対象者とその家族の特徴を理解し、訪問看護サービス提供において、必要な知識を修得する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに1回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年10月8日（木）	3	辻村	地域・在宅看護の概要	オリエンテーション、地域・在宅看護の理念と訪問看護活動の実際	看4
第2回	令和8年10月15日（木）	3	〃	人々の暮らしと健康	人々の暮らしと健康（個人、家族、地域社会）、在宅療養支援が必要とされる日本の現状	看4
第3回	令和8年10月22日（木）	3	〃	地域包括ケアシステムと社会資源1	地域包括ケアシステム、地域包括支援センター、在宅療養に関連する社会資源	看4
第4回	令和8年11月5日（木）	3	〃	地域包括ケアシステムと社会資源2	介護保険サービス	看4
第5回	令和8年11月12日（木）	3	〃	地域・在宅看護に関連する制度	地域・在宅看護（特に訪問看護）に関連する制度	看4
第6回	令和8年11月19日（木）	3	〃	地域・在宅看護の対象	地域・在宅看護の対象と特徴	看4
第7回	令和8年11月26日（木）	3	〃	訪問看護ステーションの運営・管理	訪問看護ステーションの運営・管理の概要と現状	看4
第8回	令和8年12月3日（木）	3	〃	在宅看護における家族支援	在宅看護における家族支援の考え方と理論	看4
第9回	令和9年2月16日（火）	1	辻村 田和	試験（9：00～10：30）		看4
第10回	令和9年3月2日（火）	1	〃	再試験（9：00～10：30）		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義を主体とする。なお、受講生の進捗状況等に応じて順序や内容を変更する可能性がある。スライド、映像教材を使用する。

7 評価方法

①総括的評価

定期試験（80%）、平常点（小レポート、受講態度）（20%）の評価によって判定する。

ただし、定期試験60%以上の得点を修了の認定要件とする。

なお、正当な理由がなく、授業への出席が全授業の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める，南江堂，2024.
- ・講義資料のうちスライド資料については、授業初回に紙の配布資料の要不要を学生に調査する。
- ・スライド資料は各講義の開始前にWebClassに掲載し、紙の配布資料は必要と回答した学生にのみ配布する。
- ・演習資料等は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 テキストISBN番号

ISBN：978-4-524-23127-0

10 参考文献

- ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き.
- その他、授業中に適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 授業用E-mail

hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

訪問看護学各論

1 担当教員名

教授 辻村 真由子 (地域看護学講座 (訪問看護学)) 非常勤講師
助教 田和 なつ美 (地域看護学講座 (訪問看護学)) 清水 奈穂美 (佛教大学看護学部看護学科 准教授)

2 配当学年等

第2学年 後期後半 1単位

3 学修目標

- 1 対象・疾患別の在宅療養者と家族の特性とニーズを理解する。
- 2 療養者とその家族の意思決定と療養生活を支えるシステムについて理解する。
- 3 在宅療養を支える社会資源とその活動の実際について理解を深める。
- 4 在宅療養を支援する看看連携及び多職種連携について理解を深める。

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

- DP1. プロフェッショナリズム
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- DP2. 看護学の知識と技術
12. 地域包括ケアに関する看護実践
- DP4. コミュニケーションと多職種連携
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- DP5. 地域医療への貢献
1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
 2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

在宅療養者とその家族への看護について、ライフステージ、疾患及び療養の時期別の看護実践を事例を通して学びを深めるとともに、制度や社会資源について理解する。また、在宅看護の展開に必要な看看連携及び多職種連携による包括的な在宅ケアシステムとその構築のための基礎的知識について学ぶ。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに1回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月10日(木)	3	辻村	在宅看護過程	オリエンテーション、在宅看護過程の考え方と理論	看4
第2回	令和8年12月17日(木)	3	〃	対象・疾患別の在宅看護1	高齢者、認知症者への在宅看護	看4
第3回	令和8年12月24日(木)	3	辻村 清水	対象・疾患別の在宅看護2	看取り期の在宅看護	看4
第4回	令和9年1月7日(木)	3	辻村	ケアマネジメント	ケアマネジメントの理論とプロセス	看4
第5回	令和9年1月14日(木)	3	辻村 退院調整看護師	療養の場の移行支援	在宅移行期における看護、継続看護	看4
第6回	令和9年1月21日(木)	3	辻村	対象・疾患別の在宅看護3	精神疾患を有する人への在宅看護	看4
第7回	令和9年1月28日(木)	3	田和 辻村	対象・疾患別の在宅看護4	小児への在宅看護	看4
第8回	令和9年2月4日(木)	3	辻村	対象・疾患別の在宅看護5	難病を有する人への在宅看護	看4
第9回	令和9年2月16日(火)	2	辻村 田和	試験 (11:00~12:30)		看4
第10回	令和9年3月2日(火)	2	〃	再試験 (11:00~12:30)		看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

授業は講義を主体とする。内容に応じて、外部講師を招聘する。なお、受講生の進捗状況等に応じて順序や内容を変更する可能性がある。スライド、映像教材を使用する。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

定期試験（80%）、平常点（小レポート、受講態度）（20%）の評価によって判定する。

ただし、定期試験60%以上の得点を修了の認定要件とする。

なお、正当な理由がなく、授業への出席が全授業の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える，南江堂，2024.
- ・講義資料のうちスライド資料については、授業初回に紙の配布資料の要不要を学生に調査する。
- ・スライド資料は各講義の開始前にWebClassに掲載し、紙の配布資料は必要と回答した学生にのみ配布する。
- ・演習資料等は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 テキストISBN番号

ISBN：978-4-524-23128-7

10 参考文献

・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き.

その他、授業中に適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 授業用E-mail

hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

医療の倫理Ⅱ

1 担当教員名

教授 喜多伸幸 (実践看護学講座(クリティカルケア学))	非常勤講師
教授 大北全俊 (医療文化学講座(哲学・倫理学))	木澤義之 (筑波大学 教授)
	荻田謙治 (医療法人恒仁会 近江温泉病院 医師)
	埜田和史 (びわこリハビリテーション専門職大学 教授)
	小門穂 (大阪大学 准教授)

2 配当学年等

第2学年 前期前半 0.5単位

3 学修目標

- ①関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。
「医療の倫理Ⅱ」の授業では、倫理学についての基礎を学んだ上で、臨床倫理を主に学習する。はじめに受講生は、日々臨床現場で遭遇するであろう事例に含まれる様々な倫理的問題に気づくための想像力を養う。次いでグループ学習を通して、個々の問題をどのように考え、どのように対応・対処すれば良いのかという手法・心得について学び、看護実践に必要な倫理観を涵養することを目的とする。
- ②本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム
- DP1 プロフェッショナリズム
1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
 2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
 4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

4 授業概要

様々な職種の講師による講義を受けることにより、医療における倫理に関して幅広い知識を教授する。

なお、1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

なお、本講義を担当する講師はすべて生命倫理に関わる対応に精通しており、さらに患者側の視点に立ちすべての医療人に求められる生命倫理を考える場として、極めて貴重な講義と言える。

5 授業内容

計8回のオムニバス形式の講義である。

4月13日2時限目、5月11日3・4時限目、6月15日3・4時限目は医看合同講義である。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年4月13日(月)	2	大北 小門	生命倫理－生殖医療と生命倫理	臨3
第2回	令和8年4月13日(月)	3	喜多	看護における医療の倫理①	看4
第3回	令和8年4月20日(月)	3	喜多 勝元	看護における医療の倫理②	看4
第4回	令和8年4月27日(月)	3	喜多 エホバの証人	看護における医療の倫理③	看4
第5回	令和8年5月11日(月)	3	木澤 大北	臨床推論－臨床倫理の基本原則 (I)	臨3
第6回	令和8年5月11日(月)	4	〃	臨床推論－臨床倫理の基本原則 (II)	臨3
第7回	令和8年6月15日(月)	3	荻田 埜田 大北	医師・患者・家族との関係と医の倫理	臨3
第8回	令和8年6月15日(月)	4	〃	社会医学と医の倫理	臨3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

基本は講義形式。対面授業を基本とするが、状況に応じてZoom併用によるMFLックス講義形式。

7 評価方法

①総括的評価

試験は行わない。受講生は、講義ごとに、授業担当者が与える課題に対して、Webによるレポートの提出を求める（レポート受理期間は追って指示する）。各授業の受講を契機として各講師が提示した課題に対し自ら感じ考えたことについて真摯な姿勢で課題に臨み、課題に関連して自主的に調べたことにも言及しながら合理性理論性をもって論述すること。

- ・レポートは各10点満点で評価し、全レポートの総合点で合否を判定する。なお、医学科との合同講義（4月13日2時限目、5月11日3・4時限目、6月15日3・4時限目）におけるレポート提出数が2回以上なければ器械的に不合格となるので、注意して下さい。
- ・病気その他緊急の事態でやむを得ず欠席する場合は、授業終了時まで学生課に連絡すること。学生課への連絡がある場合のみ、後日、学科事務室でレポート用紙を本人に手渡す。

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

特に定めない。各授業（対面／Zoomでの授業、並びにWebClassにUpされた教材）の中で、各講師が紹介する教材資料を参照。

9 オフィスアワー（授業相談）

予めE-mail（nkita@belle.shiga-med.ac.jp）で相談内容の概要をお知らせ頂き、追って授業相談の日時を決定する。

10 授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

11 参考E-mail 1

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

医師

看護学研究方法論

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
教授	笠原聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授	菊池良太	(実践看護学講座 (小児保健看護学))
教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	伊藤美樹子	(地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
教授	辻村真由子	(地域看護学講座 (訪問看護学))
教授	河村奈美子	(地域看護学講座 (精神保健看護学))
准教授	荻田美穂子	(実践看護学講座 (老年保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座 (成人保健看護学))

2 配当学年等

第2学年 後期前半 1単位

3 学修目標

看護専門職者は、患者様などケアをさせて頂く対象となる方々に、常に最高のケアができるよう日々研鑽を重ねている。ケアの質向上を図るために、様々な努力をしているが、特に日々の看護実践の中で生じる疑問を明確にし、解決していく能力が必要となる。看護研究は、この看護実践の基礎となる科学的知識体系を発展させていくために必要なものである。研究の必要性を理解して、卒業研究に取り組むために、看護研究についての基礎知識を習得することを目標としている。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP6. 科学的探究心と国際的視野

1. 看護学上の疑問・関心に基づいて、研究課題を見出すことができる。
2. 看護学研究に必要な国内外の情報を取得することができる。
5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

4 授業概要

卒業研究にスムーズに取り組めるよう、研究の導入部分を具体的に教授する。看護研究の特徴等を踏まえ、実際にどのような研究がなされており、どのように研究に取り組んでいくのかを解説し、最終的に研究計画書が書けることを目指す。

5 授業内容

講義

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年10月5日(月)	3	伊藤	看護学研究の概観	看4
第2回	令和8年10月19日(月)	3	河村	質的研究入門	看4
第3回	令和8年10月28日(水)	3	立岡	概念枠組みと仮説	看4
第4回	令和8年11月2日(月)	3	菊池	量的研究入門	看4
第5回	令和8年11月9日(月)	3	笠原	研究倫理と研究者の責務	看4
第6回	令和8年11月16日(月)	3	荻田	論文の批判的吟味	看4
第7回	令和8年11月30日(月)	3	辻村	研究計画書の書き方	看4
第8回	令和8年12月7日(月)	3	図書館情報課 山口	文献検索演習 プレゼンテーションの基本	MMC演 看4

6 授業形式・視聴覚機器の活用

パワーポイント等を使用して教授する。

7 評価方法

- ①総括的評価:看護研究は人に関わる研究が多く、どんな状況においても、研究をしようとする人の倫理性は重要である。学生であっても、倫理的配慮を無視して研究はできない。各講義には必ず倫理的課題を含んでいる。基本的には3分の2以上の出席と、レポート課題の提出をもって評価するが、欠席した授業の内容によっては、看護研究を許可できない場合がある。その際には、他の講演等を受講するように連絡をするので、必ず看護研究担当教員に相談して、受講をすること。レポート課題は、最終日に提示する。
- ②形成的評価
授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。
- ③態度評価
授業への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

特に指定しない。

9 参考文献

南 裕子編集：看護における研究 日本看護協会出版会他

10 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日12時～13時

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

基礎看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

教授	笠原聡子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
准教授	玉木朋子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
講師	山下敬	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	色摩茉衣子	(基礎看護学講座 (基礎看護学))
助教	橘由香	(基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第2学年 前期 2単位

3 学修目標

1. 受け持ち患者との援助の人間関係を形成できる。
2. 受け持ち患者を通して看護過程の展開を実施できる。
3. 保健・医療・福祉チームの一員として周囲の人々と連携できる。
4. 看護の対象となる人々の人格を尊重した行動がとれる。

本講義で習得する「資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力（看護学教育モデル・コア・カリキュラム）

GE：対象を総合的・全人的に捉える能力、PR：プロフェッショナリズム、QS：ケアの質と安全の管理、IP：他職種連携能力、CS：患者ケアのための臨床スキル、CM：コミュニケーション能力、IT：情報・科学技術を活かす能力、PS：専門知識に基づいた問題解決能力 等における関連項目の資質・能力を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門家としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP7 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
3. 電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

看護の対象を身体・心理・社会面から統合的に理解し、看護過程を展開する基礎的能力を養う。

【準備学修・事後学修】

実習病棟の特性を踏まえ、受け持ちが想定される疾患・治療・看護の要点（病態、検査、治療、観察項目、合併症、留意点等）について事前学修を行う。

これまでに学修した看護基本技術について、実習で安全に実施できる水準となるよう学内で事前練習を行う。

個人情報保護および情報セキュリティ、記録（電子カルテを含む）の基本を確認し、遵守事項を理解した上で実習に臨む。

【事後学修】

実習期間中は、日々の記録（情報収集・アセスメント・計画・実施・評価）を当日中に整理し、翌日の看護過程の展開につなげる。カンファレンス等で得たフィードバックや助言を踏まえ、看護過程および記録を修正・補完し、実習目標の達成状況を自己評価する。

【履修要件】

学生ワクチンプログラムに定めるワクチン接種を指定する期日までに終了しなかった者は、医療・福祉・介護施設等における実習に参加することができない。ただし、疾病その他の事由が生じた場合において、学生ワクチンプログラムに従えないときはその事由をあらかじめ学長に届けること。（滋賀医科大学学生健康診断規程第3条、第6条）

5 授 業 内 容

詳細は「実習要項」にて別途提示する。

なお、下記の日程で実習事前説明会・実習オリエンテーションを行う。

2026年7月22日(水)3～5限 実習事前説明会

2026年8月28日(金)1～4限 実習オリエンテーション

実習オリエンテーション

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年8月28日(金)	1	笠原、玉木、山下、色摩、橘	実習オリエンテーション	看1 看4
第2回	令和8年8月28日(金)	2	〃	実習オリエンテーション	看1 看4
第3回	令和8年8月28日(金)	3	〃	実習オリエンテーション	看1 看4
第4回	令和8年8月28日(金)	4	〃	実習オリエンテーション	看1 看4

基礎看護額実習Ⅱ

回	年月日(曜日)	担当教員	項目
第1回	令和8年8月31日(月)	笠原、玉木、山下、色摩、橘	病棟実習
第2回	令和8年9月1日(火)	〃	病棟実習
第3回	令和8年9月2日(水)	〃	病棟実習
第4回	令和8年9月3日(木)	〃	学内実習予定日
第5回	令和8年9月4日(金)	〃	病棟実習
第6回	令和8年9月7日(月)	〃	病棟実習
第7回	令和8年9月8日(火)	〃	病棟実習
第8回	令和8年9月9日(水)	〃	病棟実習
第9回	令和8年9月10日(木)	〃	病棟実習
第10回	令和8年9月11日(金)	〃	学内実習予定日

6 授業形式・視聴覚機器の活用

期間：2週間（2026年9月）

1. 一斉講義（実習オリエンテーション）：実習目的・目標、内容、方法の説明、特別講義
2. 滋賀医科大学医学部附属病院において、学生1人につき1名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。

7 評価方法

実習中は、看護学生としての責任ある行動・態度を基盤とし、受け持ち患者への関与、課題の発見、看護過程の展開において主体的（能動的）に実習へ参加する姿勢を強く求める。

また、学修内容を言語化するため、記録物を自ら改善しながら作成する姿勢（根拠の明確化、振り返り、修正・追記、期限遵守）を重視する。

以下について総合的に評価したものを成績評価とする。

①総括的評価

記録の評価：実習記録（情報収集・アセスメント・計画・実施・評価・考察）、グループワーク成果物およびレポート（50%）

記録の正確性・具体性・根拠の明確さ・整合性に加え、フィードバックを踏まえた修正・改善の過程を評価に含める。

平常点：実習内容（30%）、実習への参加状況（10%）、課題の提出状況（10%）

実習への参加状況は、ケア場面への主体的関与、質問・報告・相談、カンファレンスでの発言等の能動的行動を評価する。

課題の提出状況は、期限遵守を前提に、内容の充実度（自己評価・振り返り・改善点の明確化等）を評価する。

②形成的評価

実習中に提出する記録類はその都度評価し、指導・助言を行う。

受け持ち患者とのかかわりおよびケア提供については、実施後にフィードバックを行う。

学生はフィードバックを踏まえ、記録・看護過程・行動を自ら修正・改善すること。

③態度評価

カンファレンスでの発言、申し送り・報告・相談、課題の発見と共有等から、実習への参加態度および学修意欲を評価する。

学修意欲が良好で、主体的に実習へ参加している学生は平常点に加味する。

一方、実習生として相応しくない態度（安全配慮の欠如、守秘義務違反、指導への不誠実な対応等）が認められる場合は、平常点から減じることがある。

全日程（事前説明会・オリエンテーション含む）の出席を原則とし、無断早退・無断遅刻・無断欠席は認めない。

8 テキスト

資料配布および必要時参考文献を提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

10 学生へのメッセージ

第1学年に履修した、地域における医療・保健・福祉施設での「早期体験実習」と滋賀医科大学医学部附属病院での「基礎看護学実習Ⅰ」を経て、本実習では、看護師として必要な倫理観や態度、基本的な知識・技術などを学びます。具体的には、滋賀医科大学医学部附属病院において、患者さんをお一人受け持たせていただき、これまでに学内で学んできたあらゆる知識・技術を活用して実際に看護を展開していきます。この「基礎看護学実習Ⅱ」は第3学年での領域別実習につながる基盤となる実習ですので、自己課題を明確にして挑んでください。

実習に参加する学生には、実習を受け入れて下さる施設、および対象者の個人のプライバシーや人権に対して、十分に配慮した責任ある行動を求めます。また自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨んでください。

11 授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師

第3学年

医療英語

1 担当教員名

特任講師 Barnett Jr., Jeffrey Charles (医療文化学講座 (英語))
教授 加藤 穰 (医療文化学講座 (英語))

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

Students will be able to demonstrate (1) knowledge of the key terms and grammatical structures for communicating in medical settings, (2) skills in reading, understanding, and speaking about topics related to medicine, and (3) the attitude to cooperate actively in groupwork and complete independent self-study.

4 授業概要

Medical English terms, practical language patterns, and vocabulary are introduced in four-skills tasks for clinical situations. In addition to medical English course materials, this course will provide opportunities for active participation using language skills for spoken and written communication in groups. In principle, students are required to spend 3 hours on preparing/reviewing each class and working on assignments. Students with lower proficiency are advised to focus more on reviewing each class.

5 授業内容

Speaking : In-class pair and group practice, patient interview role play

Listening : Dialogues and narratives

Reading : Prints and textbook reading, including medical English

Writing : Keeping a notebook including lecture notes, in-class writing tasks, and reports on medical topics

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	3	Barnett Jr.,	Course overview		看3
第2回	令和8年4月15日(水)	3	〃	NC Unit 8	Hygiene	看3
第3回	令和8年4月22日(水)	3	〃	NC Unit 9	Nutrition	看3
第4回	令和8年5月13日(水)	3	〃	NC Unit 10	Elderly patients	看3
第5回	令和8年5月20日(水)	3	〃	NC Unit 11	Medicine	看3
第6回	令和8年5月27日(水)	3	〃	NC Unit 12	Foreign patients	看3
第7回	令和8年6月3日(水)	3	〃	Course project		看3
第8回	令和8年6月10日(水)	3	〃	Course review		看3
第9回	令和8年6月17日(水)	3	加藤 Barnett Jr.,	TOEFL-ITP Level 2	TOEFL-ITP Level 2	看3
第10回	令和8年7月1日(水)	3	Barnett Jr.,	試験(13:00~14:30)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

A student-centered approach will be used.

7 評価方法

30% = Active participation and project work (pair/group work) ; 70% = Final exam. Behavior and Attitude : The teacher has the right to bar a student from sitting the final exam based on behavior or attitude that is unbecoming of a nursing student. Attendance : If a student is absent from more than 30% of classes, the student will fail the course.

8 テキスト

Nursing Care : Basic English for Nurses by Jim Smiley & Michiyo Masui
ISBN 978-493913058-8

9 オフィスアワー (授業相談)

Email & Office hours information will be provided in the first lesson.

10 授業用E-mail

barnett@belle.shiga-med.ac.jp

看護倫理

1 担当教員名

准教授 玉木 朋子 (基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授 笠原 聡子 (基礎看護学講座 (基礎看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期後半 1単位

3 学修目標

学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の習得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

1. ケア対象者の尊厳と権利を擁護する看護者の態度と役割について理解できる。
2. 看護における倫理に関する規範や指針について理解できる。
3. 看護における倫理的問題や倫理的ジレンマについて、論点を明確にすることができる。
4. 倫理的問題やジレンマへのアプローチ法を理解できる。

本講義で習得する「資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)

GE: 対象を総合的・全人的に捉える基本的能力

PR: プロフェッショナリズム

PS: 専門的知識に基づいた問題解決能力

QS: ケアの質と安全の管理

IP: 多職種連携能力

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門家としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
7. 小児期にある人々に対する看護実践
8. 成人期にある人々に対する看護実践
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授 業 概 要

講義、演習、討論を通して、倫理的視点、倫理的感受性を高め、ケア対象者の尊厳と権利を擁護する看護のあり方について考える力、倫理的問題にアプローチできる力を培う。

各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行なうことによって理解を深めることが望まれます。

【本授業を担当する教員の研究と授業の関係性】

本授業担当教員は、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）や人生会議、終末期ケア、超高齢者における延命治療をめぐる倫理的課題について研究を行ってきた。本授業では、これらの研究成果や実践現場での課題を踏まえ、患者の意思決定支援、尊厳ある生と死、多職種・家族との関係性などを中心に看護倫理を考察する。理論と具体的事例を関連づけながら、看護職として倫理的に思考し判断する力の育成を目指す。

【2026年度の工夫・改善点】

- ・習得する資質・能力を明確にした。

5 授 業 内 容

授業計画参照

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年5月28日（木）	5	笠原	ガイダンス 導入	授業ガイダンス 倫理学習への導入とネガティブケイパビリティ（全体討議）	看1
第2回	令和8年6月4日（木）	5	玉木	倫理原則	医学・看護学における倫理 倫理原則（臨床倫理4分割法） 事例ワーク①	看1
第3回	令和8年6月11日（木）	5	〃	医学・看護学における倫理 倫理原則（医療倫理4原則） 臨床倫理4分割表と 事例ワーク②		看1
第4回	令和8年6月18日（木）	5	〃	看護倫理において重要な概念	ケアリング、アドボカシー、責務、協力 臨床場面で遭遇する倫理的ジレンマ	看1
第5回	令和8年6月25日（木）	5	〃	日本看護協会倫理綱領	日本看護協会倫理綱領について 倫理的ジレンマに関するGW発表	看1
第6回	令和8年7月2日（木）	5	〃	個人情報、守秘義務、 インフォームドコンセント	看護における守秘義務、インフォームド コンセント	看1
第7回	令和8年7月16日（木）	5	〃	アドバンスド・ケア・ プランニング（ACP）	ACP（人生会議）をゲームで体験し、 それぞれが持つ価値観の違いを理解する 必要性について体験的に学ぶ	看1
第8回	令和8年7月23日（木）	5	〃	超高齢社会における医療に ついての考え方	老衰、人工栄養について考察する	看1

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

グループディスカッションとプレゼンテーションを含めた講義形式で実施します。

必要によってシラバスを一部追加・修正した授業をおこなうこともあります。

講義のオンデマンド配信はございません。

7 評 価 方 法

総括的評価

課題（10%）、レポート（70%）、平常点（20%）による評価

形成的評価

授業で提示する課題については実施の都度フィードバックを行う。

態度評価

授業への参加状況およびグループワークを促進する発言や態度から

学修意欲を評価する。学習意欲が良好な学生には平常点に加味することがある。

全講義数の3分の2以上の出席を満たすことで評価の対象とする。

8 テキスト

資料配布

9 参考文献

宮坂道夫：系統看護学講座 別巻 看護倫理. 医学書院

ローレンス・J・シュナイダーマン他：間違った医療：医学的無益性とは何か. 勁草書房

10 オフィスアワー（授業相談）

随時対応しますが、不在の場合はメールでご連絡ください。

11 学生へのメッセージ

倫理的課題は難解であるゆえに明確な答えはありません。時間をかけて難問に向き合い続けることが、倫理的課題を有する看護対象への深い理解と洞察につながります。

医学・医療に関わる倫理については既習されていると思いますが、看護の視点で重要な倫理について考える授業です。グループディスカッションには積極的に参加してください。

12 授業用E-mail

hqbnurse@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

tamaki@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

看護管理論

1 担当教員名

教授 笠原 聡子 (基礎看護学講座 (基礎看護学))
教授 芦原 貴司 (情報総合センター)

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

■本実習では、以下を学修目標とする。

1. 看護管理・組織マネジメントに関する基礎概念および基礎的理論を理解できる。
2. 良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を理解できる。
3. 看護における安全性の確保のための能力向上の必要性と対応策を理解できる。
4. 人材育成の実態や制度を学び、将来看護職として自己能力を向上させる必要性を理解できる。
5. 看護における組織改革および政策の必要性と政策決定過程を理解できる。
6. 看護における保健医療情報・AI・データサイエンスとの向き合い方について理解できる。

■本実習で修得する「資質・能力 (看護学教育モデル・コア・カリキュラム)」及び「滋賀医科大学看護学科アウトカム」

①「看護学教育モデル・コア・カリキュラム (令和6年度改訂版)」のうち、

PR: プロフェッショナリズム、LL: 生涯学習能力、QS: ケアの質と安全の管理、IP: 多職種連携能力、CM: コミュニケーション能力、IT: 情報・科学技術を活かす能力、PS: 専門知識に基づいた問題解決能力等における関連項目の“資質・能力”を習得すること

②「滋賀医科大学看護学科アウトカム」のうち、以下を習得する。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門家としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP7 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。
3. 電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。
4. 医療AI (人工知能) の現状と課題を説明できる。

DP8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

【教育目的】

- ・看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割を理解する。

【準備学修・事後学修】

- ・各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解したうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。
- ・各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWeb Classからコメントすることが求められる。

【2026年度の工夫・改善事項】

- ・修得する資質・能力を明確にした。
- ・学修目標と授業内容を明確にした。
- ・授業内容の内容構成を明確にした。
- ・成績評価方法の配分を修正した。

5 授 業 内 容

講義とグループワークによって、看護管理について、組織・人材・質・安全・情報などの管理を中心に学びを進めていく。
この科目「看護管理論」には一部「保健医療情報・AI・データサイエンス」の内容が含まれる。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月6日(月)	2	笠原	ガイダンス 看護管理の歴史と 基本的概念	・導入 ・看護管理の歴史・定義・プロセスと対象	看1
第2回	令和8年4月13日(月)	2	〃	関連する経営理論と 看護管理①	・組織論 ・モチベーション理論 ・意思決定論 ・リーダーシップ論	看1
第3回	令和8年4月20日(月)	2	〃	関連する経営理論と 看護管理②	・組織論 ・モチベーション理論 ・意思決定論 ・リーダーシップ論	看1
第4回	令和8年4月27日(月)	2	〃	看護ケアとサービスの マネジメント 安全なケアの提供と 質保証	・日常業務のマネジメント ・看護の組織化 ・看護サービス提供のしくみ ・人材のマネジメント ・施設・物品・情報のマネジメント ・医療の質と安全の管理 ・セーフティマネジメント ・リスクマネジメント	看1
第5回	令和8年5月11日(月)	2	〃	医療安全のための チームワークシステム	・多職種連携とストレス管理 ・チームパフォーマンス向上方略（Team STEPS）	看1
第6回	令和8年5月18日(月)	2	小寺 (看護部長)	トップマネジメントと 経営	・組織変革 ・看護政策の意思決定 ・看護管理者としてのキャリアパス	看1
第7回	令和8年5月25日(月)	2	芦原	保健医療情報1	病院情報システムと看護のあり方について学ぶ	看1
第8回	令和8年6月1日(月)	2	〃	保健医療情報2	個人情報保護について学ぶ	看1

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

【授業形式】

- ・講義・集団討議・グループワークを中心に展開する。

【授業形態】

- ・スライド、動画等を使用

7 評価方法

①総括的評価

- ・最終レポート（60%）：授業で提示するテーマについて引用文献を用いて論述
- ・平常点（40%）：毎回の授業ごとのコメント（WebClassを用いた記述式コメントシートやチャットへの回答）と課題最終レポートと平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・毎回の授業ごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

- ・授業での発言や態度、授業ごとに提出のコメントシート等から学修意欲を評価する。学修意欲が良好と判断した場合や逆に学修意欲が低いと判断した場合には平常点評価に加味することがある。

8 テキスト

上泉和子：系統看護学講座（専門分野）看護の統合と実践 [1] 看護管理 第11版. 医学書院

9 テキストISBN番号

ISBN-10：4260053043

ISBN-13：978-4260053044

10 オフィスアワー（授業相談）

毎週月曜日の12：00～13：00。電話、メール等で事前にアポイントを取ること。

11 学生へのメッセージ

皆さんはどのような医療サービスを受けたいですか？ また、看護職としてどのような場でどのように働きたいですか？ 後進を育成する立場になったとき、あるいはスタッフの育成や管理に責任を持つ立場になったとき、どうありたいですか？ そして看護職としての自身のキャリアをどのように紡いでいきたいですか？ 理想の組織を実現するためにはさまざまな仕組みが必要となります。これらについて考えるヒントになればと思います。主体的な参加を期待しています。

12 授業用E-mail

kasahara@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

ash@belle.shiga-med.ac.jp

成人期NCD看護実践論

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))	非常勤講師	
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	横田千晶	(国立循環器病研究センター 脳血管リハビリテーション科(脳血管内科併任) 医長)
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))		
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))	森本朱実	(関西看護医療大学 看護学部看護学科 講師)
			伊波早苗	(社会医療法人誠光会 淡海医療センター 統括看護部長)

2 配当学年等

第3学年 前期 2単位

3 学修目標

学修目標：

非感染性疾患（NCD）を有する成人、生命の危機的状況下にある成人に対する看護過程の展開、看護実践の方法を学習する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

4 授業概要

教育目的

1. 非感染性疾患（NCD）を有する成人、生命の危機的状況下にある成人の対象理解を深める。
2. 上記の成人への看護実践の原理を理解し、必要とされる知識を習得する。
3. 上記の成人への看護実践に必要な技術を習得する。
4. 上記の成人への看護実践について、事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。

事前学修・事後学修：

各授業前までに前回の授業内容を復習すること、次回の講義資料をwebclassからダウンロードし予習により理解を深めることが望まれる。(各回所要時間：60分程度)

各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	3	宮 松	非感染性疾患を有する成人の看護	主要な非感染性疾患と看護の特徴	看1
第2回	令和8年4月9日(木)	4	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	循環機能障害① [虚血性心疾患]	看1
第3回	令和8年4月10日(金)	2	宮 松 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	循環機能障害② [心不全]	看1
第4回	令和8年4月15日(水)	5	宮 松 理学療法士	非感染性疾患を有する成人の看護	循環機能障害③ [心臓リハビリテーション]	看1
第5回	令和8年4月16日(木)	3	清 原 石 川 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	循環管理技術演習 [心電図、モニター]	看実
第6回	令和8年4月16日(木)	4	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	循環管理技術演習 [心電図、モニター] *演習レポートあり	看実
第7回	令和8年4月17日(金)	1	宮 松	非感染性疾患を有する成人の看護	呼吸機能障害① [COPD]	看1
第8回	令和8年4月17日(金)	2	宮 松 理学療法士	非感染性疾患を有する成人の看護	呼吸機能障害② [呼吸リハビリテーション]	看1
第9回	令和8年4月23日(木)	3	宮 松 臨床工学技士	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカルケア① [呼吸管理：人工呼吸器]	看1
第10回	令和8年4月23日(木)	4	宮 松	非感染性疾患を有する成人の看護	内部環境調節機能障害 [腎機能障害] [IBD]	看1
第11回	令和8年4月24日(金)	1	清 原 石 川 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカル期の呼吸管理技術演習 [人工呼吸器・気管吸引]	看実
第12回	令和8年4月24日(金)	2	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカル期の呼吸管理技術演習 [人工呼吸器・気管吸引] *演習レポートあり	看実
第13回	令和8年4月30日(木)	3	伊 波	非感染性疾患を有する成人の看護	栄養代謝機能障害① [糖尿病]	看1
第14回	令和8年4月30日(木)	4	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	栄養代謝機能障害② [糖尿病]	看1
第15回	令和8年5月1日(金)	1	清 原 石 川 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	血糖管理技術演習 [血糖測定、インスリン自己注射指導]	看実
第16回	令和8年5月1日(金)	2	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	血糖管理技術演習 [血糖測定、インスリン自己注射指導] *演習レポートあり	看実
第17回	令和8年5月7日(木)	3	横 田	非感染性疾患を有する成人の看護	脳神経機能障害① [脳卒中治療と最新のリハビリテーション]	看1
第18回	令和8年5月7日(木)	4	宮 松 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	脳神経機能障害② [SCU看護]	看1
第19回	令和8年5月14日(木)	3	宮 松	非感染性疾患を有する成人の看護	脳神経機能障害③ [神経疾患・神経難病] *課題レポートあり	看1
第20回	令和8年5月14日(木)	4	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	栄養代謝機能障害③ [肝機能障害]	看1
第21回	令和8年5月15日(金)	1	森 本	非感染性疾患を有する成人の看護	看護過程演習① [呼吸・循環機能のアセスメント]	看1
第22回	令和8年5月15日(金)	2	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	看護過程演習② [呼吸・循環機能に関連する問題抽出]	看1
第23回	令和8年5月21日(木)	3	石 川	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカルケア② [呼吸循環管理]	看1
第24回	令和8年5月21日(木)	4	清 原	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカルケア③ [全身管理]	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第25回	令和8年5月22日(金)	1	清原 石川 看護師	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカル期の呼吸循環管理技術演習 [ACLS]	看実
第26回	令和8年5月22日(金)	2	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	クリティカル期の呼吸循環管理技術演習 [ACLS] *課題レポートあり	看実
第27回	令和8年5月28日(木)	3	清原	非感染性疾患を有する成人の看護	看護過程演習③ [腎機能障害患者の看護]	看1
第28回	令和8年5月28日(木)	4	宮松	感染性疾患・易感染性を有する成人の看護	免疫機能障害 [HIV/AIDS]	看1
第29回	令和8年5月29日(金)	1	〃	非感染性疾患を有する成人の看護	成人期NCD患者への退院支援・継続療養支援	看1
第30回	令和8年5月29日(金)	2	宮松 山口 清原 石川	成人期NCD看護実践論総括	まとめ	看1
第31回	令和8年8月3日(月)	2	山口 宮松	試験 (11:00~12:00) 【60分】		看1
第32回	令和8年8月14日(金)	2	〃	再試験 (11:00~12:00) 【60分】		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習(対面)

パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7 評価方法

①総括的評価

修了の認定は、筆記試験(70%)、課題レポート(10%)、演習レポート(20%)の評価によって行う。ただし、筆記試験60%以上の得点を修了認定の必須要件とする。

②形成的評価

授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

演習資料は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参考文献

参考文献は講義・演習内で適宜紹介する。

10 オフィスアワー(授業相談)

時間：月～金曜日12時～13時(教室全体で対応)

場所：509号室、510号室、516号室(看護学科棟5階)

11 学生へのメッセージ

- ・欠席等の場合はwebclassより連絡をすること。
- ・演習の日は白衣に着替え、看護棟3階312演習室へ集合すること。開始時間以降の入室は認めないことがある。演習の持参物については、別途連絡するので指示に従うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明を行う。指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 参考URL 1

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>

13 主担当教員の実務経験

看護師

成人期がん看護実践論

1 担当教員名

准教授	山口	亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
教授	宮松	直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原	麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助手	石川	真	(実践看護学講座(成人保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

学修目標：

がん治療を受ける成人、緩和ケアを必要とする成人に対する看護過程の展開、看護実践の方法を学習する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

4 授業概要

教育目的：

1. がん治療を受ける成人、緩和ケアを必要とする成人の対象理解を深める。
2. 上記の成人への看護実践の原理を理解し、必要とされる知識を習得する。
3. 上記の成人への看護実践に必要な技術を習得する。
4. 上記の成人への看護実践について、事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。

準備学修・事後学修：

各授業前までに前回の授業内容を復習すること、次回の講義資料をwebclassからダウンロードし予習により理解を深めることが望まれる。(各回所要時間：60分程度)

各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年6月25日(木)	4	山 口	成人期がん患者の看護	がん看護の概念・がん医療の基礎知識	看1
第2回	令和8年6月26日(金)	1	〃	成人期がん患者の看護	臓器別がんの特徴と集学的治療	看1
第3回	令和8年6月26日(金)	2	〃	成人期がん患者の看護	化学療法にともなう看護	看1
第4回	令和8年7月3日(金)	1	山 口 看護師	成人期がん患者の看護	放射線療法にともなう看護	看1
第5回	令和8年7月3日(金)	2	山 口	成人期がん患者の看護	造血幹細胞移植における看護+事例提示	看1
第6回	令和8年7月10日(金)	1	清 原 石 川	がんと共に生きる人を支える看護	技術演習 [ストーマケア]	看実
第7回	令和8年7月10日(金)	2	〃	がんと共に生きる人を支える看護	技術演習 [ストーマケア] *演習レポートあり	看実
第8回	令和8年7月16日(木)	3	山 口 看護師	成人期がん患者の看護	症状マネジメント：リンパ浮腫、下肢浮腫、倦怠感、呼吸困難、睡眠障害	看1
第9回	令和8年7月16日(木)	4	〃	がんと共に生きる人を支える看護	臨床事例演習 [子宮がん患者への看護]	看1
第10回	令和8年7月17日(金)	1	〃	成人期がん患者の看護	緩和ケア	看1
第11回	令和8年7月17日(金)	2	〃	成人期がん患者の看護(終末期)	看取りとグリーフケア	看1
第12回	令和8年7月23日(木)	3	山 口	がんと共に生きる人を支える看護	看護過程演習 [造血幹細胞移植を受ける患者への看護]	看1
第13回	令和8年7月23日(木)	4	山 口	成人期がん患者の看護	がん患者と家族の意思決定支援 *課題レポートあり	看1
第14回	令和8年7月24日(金)	1	山 口 看護師	成人期がん患者の看護	がん医療における倫理的課題	看1
第15回	令和8年7月24日(金)	2	山 口 清 原 石 川	成人期がん看護実践論総括	まとめ	看1
第16回	令和8年8月4日(火)	1	山 口	試験(9:00~9:50)【50分】		看1
第17回	令和8年8月17日(月)	1	〃	再試験(9:00~9:50)【50分】		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習(対面)

パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7 評 価 方 法

①総括的評価

修了の認定は、筆記試験(70%)および課題レポート(10%)、演習レポート(20%)の評価によって判定する。ただし、筆記試験60%以上の得点を修了認定の必須要件とする。

②形成的評価

授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テ キ ス ト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

演習資料は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参 考 文 献

参考文献は講義・演習内で適宜紹介する。

10 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

11 学生へのメッセージ

- ・欠席等の場合はwebclassより連絡を行うこと。
- ・演習の日は白衣に着替え、看護棟3階312演習室へ集合すること。開始時間以降の入室は認めないことがある。演習の持参物については、別途連絡するので指示に従うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明するため、指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 参考URL 1

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>

13 主担当教員の実務経験

看護師

成人期周術期看護実践論

1 担当教員名

准教授	山口 亜希子	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
教授	宮松 直美	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
助教	清原 麻衣子	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
助手	石川 真	(実践看護学講座 (成人保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

学修目標：

周術期にある成人に対する看護過程の展開、看護実践の方法を学習する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

教育目的：

1. 周術期にある成人の対象理解を深める。
2. 上記の成人への看護実践の原理を理解し、必要とされる知識を習得する。
3. 上記の成人への看護実践に必要な技術を習得する。
4. 上記の成人への看護実践について、事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。

準備学修・事後学修：

各授業前までに前回の授業内容を復習すること、次回の講義資料をwebclassからダウンロードし予習により理解を深めることが望まれる。(各回所要時間：60分程度)

各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年6月4日(木)	3	山 口	周術期における成人期患者の看護	周術期看護の概念・手術に伴う生体侵襲と合併症の予防と管理のための看護 *課題レポートあり	看1
第2回	令和8年6月4日(木)	4	〃	周術期における成人期患者の看護	呼吸器系手術を受ける成人患者の周術期看護	看1
第3回	令和8年6月5日(金)	1	〃	周術期における成人期患者の看護	心臓・血管系手術を受ける成人患者の周術期看護	看1
第4回	令和8年6月5日(金)	2	清 原	周術期における成人期患者の看護	脳血管・脳神経系手術を受ける成人患者の周術期看護	看1
第5回	令和8年6月11日(木)	1	石 川	周術期における成人期患者の看護	消化器系手術を受ける成人患者の周術期看護①+事例提示	看1
第6回	令和8年6月11日(木)	2	山 口	周術期における成人期患者の看護	消化器系手術を受ける成人患者の周術期看護②	看1
第7回	令和8年6月11日(木)	3	清 原 石 川 看護師	周術期の回復支援	術後管理技術演習 [点滴・輸液管理]	看実
第8回	令和8年6月11日(木)	4	〃	周術期の回復支援	術後管理技術演習 [点滴・輸液管理] *演習レポートあり	看実
第9回	令和8年6月12日(金)	1	山 口	周術期における成人期患者の看護	運動器系手術を受ける成人患者の周術期看護	看1
第10回	令和8年6月12日(金)	2	〃	周術期における成人期患者の看護	生殖器・泌尿器系手術を受ける成人患者の周術期看護	看1
第11回	令和8年6月19日(金)	1	清 原 石 川 看護師	周術期の回復支援	術後管理技術演習 [ドレーン・水分出納管理]	看実
第12回	令和8年6月19日(金)	2	清 原 石 川	周術期の回復支援	術後管理技術演習 [ドレーン・水分出納管理] *演習レポートあり	看実
第13回	令和8年6月25日(木)	1	石 川	周術期の回復支援	看護過程演習 [胃切除術を受ける成人患者への看護]	看1
第14回	令和8年6月25日(木)	2	山 口	周術期における成人期患者の看護	頭頸部手術をうける成人患者の周術期看護/輸血時の看護	看1
第15回	令和8年6月25日(木)	3	山 口 宮 松 清 原 石 川	成人期周術期看護実践論総括	まとめ	看1
第16回	令和8年8月4日(火)	2	山 口	試験 (11:00~11:50) 【50分】		看1
第17回	令和8年8月17日(月)	2	〃	再試験 (11:00~11:50) 【50分】		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習 (対面)

パワーポイントやビデオ等の視聴覚教材を用いることもある。

7 評 価 方 法

①総括的評価

修了の認定は、筆記試験 (70%)、課題レポート (10%)、演習レポート (20%) の評価によって行う。ただし、筆記試験60%以上の得点を修了認定の必須要件とする。

②形成的評価

授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

演習資料は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参考文献

参考文献は講義・演習内で適宜紹介する。

10 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

11 学生へのメッセージ

- ・欠席等の場合はwebclassより連絡をすること。
- ・演習の日は白衣に着替え、看護棟3階312演習室へ集合すること。開始時間以降の入室は認めないことがある。演習の持参物については、別途連絡するので指示に従うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明を行う。指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 参考URL 1

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>

13 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実践論

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学)) 非常勤講師
教授 森田 真也 (薬剤部) 片寄 亮 (京都看護大学 准教授)
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期 2単位

3 学修目標

本学修では、老年期にある人々の健康状態および生活機能を踏まえ、フレイル予防の視点を含めた看護実践能力を養うことを目的とする。

具体的な学修目標は以下のとおりである。

1. フレイルの概念および状態像を理解し、高齢者の健康段階に応じた予防的視点をもって看護を考えることができる。(DP 2-9, DP 2-10)
2. 高齢者に特有の症状や障害を理解し、それらが生活に及ぼす影響を踏まえて、必要な情報を収集・整理し、看護援助を検討するためのアセスメント方法を説明できる。(DP 2-1, DP 2-2, DP 3-1, DP 2-9)
3. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を総合的にアセスメントし、その結果に基づいて、根拠をもった看護計画の立案、実施、評価の考え方を説明できる。(DP 3-1, DP 3-2, DP 2-5, DP 2-9)
4. 高齢者の尊厳を保持し、多様な価値観や生活背景を尊重しながら、高齢者個々にとって最適な健康を目指すための目標設定の考え方を説明できる。(DP 1-1, DP 1-2, DP 1-3)
5. 我が国の超高齢社会の動向を理解し、病院・介護施設・地域包括ケアの場における看護職の役割について説明できる。(DP 5-2, DP 2-9)

本講義におけるディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP 1：プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。

DP 2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)

DP 3：課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。

DP 4：コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。

DP 5：地域医療への貢献

2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

高齢者看護に必要な、知識、技術、態度を学ぶ。講義内で提示される事例から、アセスメント・看護上の問題・看護援助について思考する過程を繰り返し、高齢者に対する看護展開方法について理解を深めていく。

担当教員は、フレイルおよび要介護予防を目的とした疫学研究を行い、地域および臨床現場における高齢者の身体機能、生活機能、社会的要因と健康状態との関連を明らかにすることに取り組んでいる。これらの研究では、高齢者の健康課題を個人要因のみならず、生活環境や社会的背景を含めて包括的に捉える視点を重視している。また、加齢に伴う機能低下に配慮した日常生活動作援助のあり

方を探究し、高齢者のベッドサイドケアにつながる看護介入方略の検討を行っている。本授業では、こうした研究活動を通して得られた知見を基盤として、高齢者の健康課題や生活機能を多面的に理解する視点を養い、将来の看護実践および研究につながる思考の基礎形成を図る。

準備学修および事後学修として、1コマの授業に対して60分の予習および60分の復習を日常的に行い、加えて休日等を活用して、1コマ当たり50分以上の復習を行うことが望まれる。

各回の講義後には、講義の感想や疑問点を記載したレスポンスシートをWeb Classから提出する。これは、講義内容を振り返り、自身の思考を言語化・アウトプットすることにより、学習内容の定着を図ることを目的としている。また、Web Class上に確認問題を提示するため、繰り返し取り組み、復習に活用すること。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月9日(木)	1	荻田	授業オリエンテーション 症状・障害別看護の実際： 嚥下障害(1)	授業目標・授業計画・課題の説明 高齢者の摂食動作・口腔の特徴に関する振り返り 口腔・摂食嚥下機能障害のメカニズム 口腔・摂食嚥下機能低下が生活に及ぼす影響	看1
第2回	令和8年4月9日(木)	2	〃	症状・障害別看護の実際： 嚥下障害(2)	高齢者の口腔・摂食嚥下機能低下予防 口腔・摂食嚥下機能障害を有する高齢者の看護援助 高齢者の低栄養と予防 嚥下障害事例のアセスメントと援助計画のディスカッション	看1
第3回	令和8年4月16日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際： 歩行障害・転倒(1)	高齢者の歩行の特徴に関する振り返り 歩行障害・転倒のメカニズム 歩行障害・転倒が生活に及ぼす影響	看1
第4回	令和8年4月16日(木)	2	〃	症状・障害別看護の実際： 歩行障害・転倒(2)	高齢者の転倒予防 歩行障害を有する高齢者の看護援助 転倒予防のための看護援助 高齢者の廃用性症候群と予防 転倒事例のアセスメントと援助計画のディスカッション	看1
第5回	令和8年4月23日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際： 排泄障害(1)	高齢者の排泄の特徴に関する振り返り 排尿・排便・排泄動作障害の種類とメカニズム 高齢者の排泄機能低下が生活に及ぼす影響	看1
第6回	令和8年4月23日(木)	2	〃	症状・障害別看護の実際： 排泄障害(2)	高齢者の排泄機能低下予防 高齢者に対して自然な排泄を促す看護援助 排泄障害事例のアセスメントと援助計画のディスカッション	看1
第7回	令和8年4月30日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際： 皮膚障害(1)	高齢者の皮膚の特徴に関する振り返り 皮膚真菌症・皮膚掻痒症のメカニズムとスキンケア 褥瘡のメカニズムと評価法	看1
第8回	令和8年4月30日(木)	2	〃	症状・障害別看護の実際： 皮膚障害(2)	高齢者の予防的スキンケア 皮膚障害を有する高齢者の看護援助 皮膚障害事例のアセスメントと援助計画のディスカッション	看1
第9回	令和8年5月7日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際： 視覚聴覚障害	高齢者における感覚機能の特徴に関する振り返り 高齢者における視覚聴覚障害の特徴と看護援助 視覚聴覚障害事例のアセスメントと援助計画のディスカッション	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第10回	令和8年5月7日(木)	2	萩田	症状・障害別看護の実際: 生活リズムの乱れ	高齢者における生活リズム障害(睡眠障害・せん妄)と原因 高齢者の生活リズムの乱れを最小限にするための看護援助 せん妄事例のアセスメントと援助計画をディスカッション	看1
第11回	令和8年5月14日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際: 認知機能障害(1)	認知症の定義・認知症治療およびケアの変遷 認知症の原因疾患・認知症の症状と評価法 認知症の人の心理	看1
第12回	令和8年5月14日(木)	2	〃	看護過程の展開(1) 患者教育演習(1)	事例演習オリエンテーション 高齢者事例を用いた看護過程の展開(個人ワーク) 機能訓練目的レクリエーション模擬演習オリエンテーション	看1
第13回	令和8年5月21日(木)	1	森田	慢性疾患を抱える 高齢者ケア(1)	高齢者の薬物療法の問題点とその対処	看1
第14回	令和8年5月21日(木)	2	萩田	慢性疾患を抱える 高齢者ケア(2)	高齢者で重視すべき慢性疾患管理(高血圧・糖尿病・脂質異常症等) 高齢者に対する患者教育	看1
第15回	令和8年5月28日(木)	1	〃	症状・障害別看護の実際: 認知機能障害(2)	認知症予防のための看護援助 ユマニチュード	看1
第16回	令和8年5月28日(木)	2	萩田 認定看護師	症状・障害別看護の実際: 認知機能障害(3)	認知症患者対応の実際 (BPSDとその看護援助他)	看1
第17回	令和8年6月4日(木)	1	片寄	看護過程の展開(2)	高齢者を対象に看護過程を展開する上での思考方法	看1
第18回	令和8年6月4日(木)	2	〃	看護過程の展開(3)	高齢者事例を用いた看護過程を展開(グループワーク)	看1
第19回	令和8年6月18日(木)	1	萩田	高齢者の 在宅移行支援の実際(1)	高齢者における継続看護の考え方	看1
第20回	令和8年6月18日(木)	2	萩田 認定看護師	高齢者の 在宅移行支援の実際(2)	退院支援の実際 臨床からの症例提示と意見交換	看1
第21回	令和8年6月18日(木)	3	豊川 萩田	看護過程の展開(4)/ コミュニケーション演習	事例を用いた看護過程を展開(グループワーク) 認知症患者への対応	看1
第22回	令和8年6月18日(木)	4	〃	看護過程の展開(4)/ コミュニケーション演習	事例を用いた看護過程を展開(グループワーク) 認知症患者への対応	看1
第23回	令和8年7月2日(木)	1	豊川 萩田 附属病院看護師	看護技術演習(1)・ 患者教育演習(2)	看護技術①:機能障害を有する高齢者の移動 移乗介助(実施) 患者教育①:機能訓練目的レクリエーションの 計画立案	看実
第24回	令和8年7月2日(木)	2	〃	看護技術演習(2)・ 患者教育演習(3)	看護技術②:機能障害を有する高齢者の移動 移乗介助(振り返り・再実施) 患者教育②:機能訓練目的レクリエーション の実施準備 看護技術②:経管栄養療法	看実
第25回	令和8年7月2日(木)	3	〃	看護技術演習(3)・ 患者教育演習(4)	患者教育①:機能訓練目的レクリエーション の計画立案 看護技術①:機能障害を有する高齢者の移動 移乗介助(実施)	看実
第26回	令和8年7月2日(木)	4	〃	看護技術演習(4)・ 患者教育演習(5)	患者教育②:機能訓練目的レクリエーション の実施準備 看護技術②:経管栄養療法 看護技術②:機能障害を有する高齢者の移動 移乗介助(振り返り・再実施)	看実
第27回	令和8年7月16日(木)	1	豊川 萩田	患者教育演習(6)	患者教育③:機能訓練目的レクリエーション の実施準備	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第28回	令和8年7月16日(木)	2	豊川 萩田	患者教育演習(7)	患者教育③：機能訓練目的レクリエーションの実施準備	看実
第29回	令和8年7月23日(木)	1	片寄	看護過程の展開(5)	高齢者を対象とした看護過程における問題の統合とPES、目標の考え方	看1
第30回	令和8年7月23日(木)	2	豊川 萩田	患者教育演習(8)	機能訓練目的レクリエーションの展開	看実
第31回	令和8年8月3日(月)	1	萩田	試験(9:00~10:00)		看1
第32回	令和8年8月14日(金)	1	〃	再試験(9:00~10:00)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

- ・講義は対面で実施する。講義では、症候群別にショート事例を提示し、アセスメントおよび看護上の問題に対する介入方法について全体で意見交換を行い、双方向性のある授業を展開する。授業中は適宜、受講生に意見や質問を求め、必要に応じて小グループおよび全体での討論形式を用いる。さらに、代表的な一事例については、看護過程の展開をペーパーベースで行い、看護実践を論理的に考える力を養う。
- ・授業後、復習のために講義動画の視聴は可能とするが、グループワークや技術演習を伴う講義は対応しない。

7 評価方法

①総括的評価

- ・定期試験80%、課題(レスポンスシート・確認問題・レポート)20%で評価を行う。ただし、定期試験100点満点中60点以上あることが単位認定の必須要件とする。再試験は1回限りとする。
- ・総授業時間の3分の1を超えて、正当な理由のない欠席がある場合は、本試験を受験することはできない。出席管理は、基本的に大学の出席登録機能を用いて行います。そのため、毎回の講義で必ず学生証を持参してください(但し演習講義を除く)。出席は、各自で責任を持って管理してください。

②形成的評価

- ・レスポンスシートでの質問事項や、レポート内容に対しては、その都度、講義内でフィードバックを行う。

③態度評価

- ・講義と演習への参加態度から学修意欲を評価する。講義・演習での発言やレスポンスシートへの質問など学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

授業でその日の資料を配布する。ただし、配布はWebClass上での配信とし、紙媒体での配布は環境保全の観点から希望者へのみ行う。初回の講義にて紙媒体の資料配布希望者を確認する。

9 参考文献

- ・老年看護学技術(南江堂)
 - ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
 - ・健康長寿診療ハンドブック(老年医学会 編集/発行)
- その他、講義中に随時紹介

10 オフィスアワー(授業相談)

在室時いつでも可

11 学生へのメッセージ

- ・授業計画は予定です。授業形式や課題内容等は変更する可能性があります。随時講義内・メール・Web Classで連絡します。なお、可能な限り双方向性での学習機会を持てるように努めますが、時間の制約もありますので、疑問点や困ったことがあればいつでもメール(tan3434@belle.shiga-med.ac.jp)にてコンタクトを取るようになしてください。連絡は講義時間帯に限りません。いつでもどうぞ。回答は速やかに行う予定ですが、夜間休日等の対応はできませんのでご了承ください。
- ・高齢者看護は加齢変化を捉えることが前提になります。既習の知識を復習して講義にのぞみましょう。また、日頃から高齢者の生活動作や生活環境に関心に向け、生活の質を上げるための工夫について考えてみましょう。新聞やインターネットニュースなど高齢者の話題はたくさん掲載されています。是非活用してください。

12 主担当教員の実務経験

看護師

小児保健看護学実践論

1 担当教員名

教授 菊池良太 (実践看護学講座 (小児保健看護学))
講師(学内) 白坂真紀 (実践看護学講座 (小児保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期 2単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学習目標とする。

1. 様々な疾患や障がいをもつ子どもと家族への看護について理解する。
2. 小児看護における基本的な看護技術を習得する。
3. 事例をもちいて、小児看護における看護過程の展開を習得する。

本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムは以下となる。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

4 授業概要

小児看護の臨床現場では、疾患や障がいをもつ子どもと家族に対し、疾患等の性質や子どもや家族の個別性を反映させた看護を実践する必要がある。本講義では、2年生までに理解した小児看護における基本的な考え方を土台とし、様々な疾患や障がいをもつ子どもと家族への看護と看護過程の展開について理解を深めるとともに、小児看護における基本的な看護技術を習得する。

担当する教員は、小児看護学 (主として子どものQuality of Lifeの評価と向上に向けたシステムの構築) 及び家族看護学に関する研究を遂行している。

5 授業内容

①講義

講義形式と演習形式を基本とし、主に疾患に応じた小児看護の考え方と看護過程について学ぶとともに、小児看護技術と看護過程を実践する力を修得する。

②復習と予習

前回の講義内容を復習する（目安：45分）とともに、事前に配布する講義資料を用いて事前学習（目安：45分）を行った上で講義に臨む。

③質問等

講義内で適宜時間をとり質問等を受け付ける。講義の時間外でも担当教員へメール等により質問を行う。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月8日(水)	1	白 坂	染色体異常・体内環境により発症する先天異常をもつ子どもと家族の看護	1. 先天異常について 2. 先天異常をもつ子どもと家族の特徴と看護 3. 先天異常をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第2回	令和8年4月8日(水)	2	〃	ハイリスク新生児と家族の看護	1. ハイリスク新生児と家族の特徴と看護 2. NICUに入院する新生児 3. NICUに入院する新生児と家族の看護過程	看1
第3回	令和8年4月15日(水)	1	〃	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 小児期の免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 2. アレルギー疾患をもつ子どもの入院・治療・看護 3. アレルギー疾患をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第4回	令和8年4月15日(水)	2	〃	感染症をもつ子どもと家族の看護	1. 小児期の感染症 2. 感染症をもつ子どもの入院・治療・看護 3. 感染症をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第5回	令和8年4月22日(水)	1	〃	神経疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 小児期の神経疾患 2. 神経疾患をもつ子どもと家族の特徴と看護 3. 神経疾患をもつ子どものケア	看1
第6回	令和8年4月22日(水)	2	〃	精神疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 小児期の精神疾患 2. 精神疾患をもつ子どもと家族の特徴と看護 3. 精神疾患をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第7回	令和8年5月13日(水)	1	菊 池	子どもと家族を取り巻く社会	1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健 6. 特別支援教育 7. 臓器移植	看1
第8回	令和8年5月13日(水)	2	〃	呼吸器疾患・運動器疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護 2. 運動器疾患をもつ子どもと家族の看護 3. 骨折した子どもと家族の看護過程	看1
第9回	令和8年5月20日(水)	1	〃	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護①	1. 小児期における循環器疾患と看護 2. 小児集中治療の特徴と看護 3. 左心低形成症候群をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第10回	令和8年5月20日(水)	2	〃	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護②	1. 小児期における循環器疾患と看護 2. 小児集中治療の特徴と看護 3. 左心低形成症候群をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第11回	令和8年5月27日(水)	1	〃	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護①	1. 小児期の消化器の特徴と看護 2. 小児期における消化器疾患 3. 鎖肛をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第12回	令和8年5月27日(水)	2	〃	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護②	1. 小児期の消化器の特徴と看護 2. 小児期における消化器疾患 3. 鎖肛をもつ子どもと家族の看護過程	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第13回	令和8年6月3日(水)	1	〃	代謝性疾患・内分泌疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 代謝性疾患をもつ子どもと家族の看護 2. 内分泌疾患をもつ子どもと家族の看護	看1
第14回	令和8年6月3日(水)	2	〃	腎・泌尿器疾患をもつ子どもと家族の看護	1. 小児期の腎・泌尿器の特徴と看護 2. 小児期における腎・泌尿器疾患 3. 紫斑病性腎炎をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第15回	令和8年6月10日(水)	1	〃	血液・造血器疾患、悪性新生物をもつ子どもと家族の看護①	1. 小児期の血液・造血器疾患と看護 2. 小児期の悪性新生物と看護 3. B前駆細胞性急性リンパ性白血病をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第16回	令和8年6月10日(水)	2	〃	血液・造血器疾患、悪性新生物をもつ子どもと家族の看護②	1. 小児期の血液・造血器疾患と看護 2. 小児期の悪性新生物と看護 3. B前駆細胞性急性リンパ性白血病をもつ子どもと家族の看護過程	看1
第17回	令和8年6月17日(水)	1	白坂	遊び①	入院中の子どもの遊び	看1
第18回	令和8年6月17日(水)	2	〃	プレパレーション①	プレパレーションについて	看1
第19回	令和8年6月24日(水)	1	〃	遊び②	入院中の子どもの遊び(発表会準備)	看1
第20回	令和8年6月24日(水)	2	〃	プレパレーション②	プレパレーション(発表会準備)	看1
第21回	令和8年7月1日(水)	1	〃	遊び③	入院中の子どもの遊び発表会	看1
第22回	令和8年7月1日(水)	2	〃	プレパレーション③	プレパレーション発表会	看1
第23回	令和8年7月8日(水)	1	白坂 臨床教育看護師	小児看護技術演習①	病児の清潔ケア、 サークルベッドの取り扱い	看1 看実
第24回	令和8年7月8日(水)	2	白坂	看護過程演習①	グループワーク(患児の全体像)	看1 看実
第25回	令和8年7月15日(水)	1	白坂 臨床教育看護師	小児看護技術演習②	採尿バッグの貼付、バイタルサイン測定	看1 看実
第26回	令和8年7月15日(水)	2	白坂	看護過程演習②	グループワーク(患児のアセスメント)	看1 看実
第27回	令和8年7月22日(水)	1	白坂 臨床教育看護師	小児看護技術演習③	採血、点滴ルート作成・固定	看1 看実
第28回	令和8年7月22日(水)	2	白坂	看護過程演習③	グループワーク(看護計画立案)	看1 看実
第29回	令和8年7月29日(水)	1	白坂 臨床教育看護師	看護過程演習発表会	看護過程演習発表会	看1 看実
第30回	令和8年7月29日(水)	2	〃	看護過程演習発表会	看護過程演習発表会	看1 看実
第31回	令和8年8月4日(火)	3	菊池 白坂	試験(13:30~15:00)		看1
第32回	令和8年8月17日(月)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式と演習形式を基本とし、対面形式にて行う。
講義の録画動画のオンデマンドでの配信は行わない。
動画等の視聴覚教材を用いることがある。

7 評価方法

①評価

修了の認定は、定期試験(70%)と課題(30%(うち、各講義の課題は10%))により評価する。
ただし、定期試験の得点が60%以上であることが修了認定の必須要件とする。
出席状況や受講態度を評価に反映(加点、減点)する。
課題へは適宜フィードバックを行う。

②課題と出席確認

出席の確認は、出席管理システムにて行う。
各講義に対しWebClassより課題を提出する。各講義に対する課題の評価は、当該講義に出席していることを前提とする。

③欠席や遅刻

欠席や遅刻、早退等する場合は、WebClassより主担当教員へ連絡を行う。

8 テキスト

奈良間美穂(代表著者). 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児看護学各論 小児看護学総論(第14版). 医学書院、2024. その他、適宜提示する。

講義資料は原則としてWebClass等を通じて電子媒体にて配布する。受講生にて事前にダウンロードして準備する。

講義資料の転載は禁止する。

9 テキストISBN番号

978-4-260-03866-9

10 参考文献

適宜提示する。

11 オフィスアワー (授業相談)

主担当教員へメールにて事前に連絡し日程の調整を行う、または主担当教員の研究室(607)へ直接来室する。

12 学生へのメッセージ

小児看護の対象となる子どもを理解するための基礎的な講義です。一緒に理解を進めましょう。

13 参考URL 1

<http://sums-hqkodomosakura.ne.jp>

14 授業用E-mail

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 1

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

16 参考E-mail 2

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

17 主担当教員の実務経験

看護師(大学病院の小児病棟での看護師としての従事経験及び、大学・大学院での小児看護学領域の教員としての従事経験のある教員が担当する)

精神保健看護学実践論

1 担当教員名

教 授 河 村 奈美子 (地域看護学講座 (精神保健看護学))
助 教 坂 本 真 優 (地域看護学講座 (精神保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期 2単位

3 学 修 目 標

精神疾患に関する基礎的知識を学び、精神的問題に直面している対象とその家族を理解し、意思決定支援を含む必要な看護技術を習得する。個別的な看護過程を展開するための治療的なコミュニケーションについて学修し実践のための基礎的能力を養う。

本科目に関するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム

<DP>

1. プロフェッショナリズム：個別的な看護過程を展開するために必要な姿勢を学修する
2. 看護学の知識と技術：精神疾患の基礎的知識、治療を学修する
3. 課題対応能力と看護実践能力：疾患や症状を有する対象者に対する看護実践の看護過程の展開と具体的方法を修得する
4. コミュニケーションと多職種連携：治療的コミュニケーションを学修する
5. 地域医療への貢献：医療機関に限らない療養者、労働者、子ども等の多様な生活者のメンタルヘルスの課題をもつ生活者への支援を学修する

4 授 業 概 要

以下のような項目について学修し、精神看護技術の修得をめざす。

1. 精神の発達に関する精神疾患とその看護について理解する。
2. 主な精神症状、精神科疾患とその看護について理解する。
3. 精神看護における治療的患—one看護関係について理解し、効果的な看護技術を習得する。
4. 精神構造をとらえ、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルに基づく看護過程を考えることができる。

準備学習として、各回の講義時までには授業計画に応じて教材の該当箇所を読んでおくことが求められる。

5 授 業 内 容

精神保健看護学演習は、精神保健看護学概論と精神保健看護学各論で学習した知識を踏まえて、心の障がいを持つ対象者のより具体的なアセスメントによる対象理解とニーズを把握し、看護実践につながる看護過程の展開と実践技術を習得する。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月6日(月)	3	河 村	精神看護における援助技術	精神看護におけるコミュニケーション技術、場面の再構成	看1
第2回	令和8年4月6日(月)	4	〃	精神疾患を持つ対象への看護	身体疾患を持つ対象の看護	看1
第3回	令和8年4月13日(月)	3	河 村 坂 本	精神看護における援助技術	CBT、ACT (認知行動療法)、アドヒアランス、SST、心理教育	看1
第4回	令和8年4月13日(月)	4	〃	同上	CBT、ACT (認知行動療法)、アドヒアランス、SST、心理教育	看1
第5回	令和8年4月20日(月)	3	河 村	精神疾患を持つ対象への看護	気分障害、神経症を持つ対象の看護	看1
第6回	令和8年4月20日(月)	4	〃	同上	依存症 (物質依存、摂食障害) を持つ対象の看護	看1
第7回	令和8年4月27日(月)	3	〃	精神疾患を持つ対象への看護	発達障害を持つ対象者への支援と看護	看1
第8回	令和8年4月27日(月)	4	〃	精神疾患を持つ対象者の地域生活の支援①	地域における支援の実際を学ぶ (医療機関から地域生活に向けた精神看護の実際)	看1
第9回	令和8年5月11日(月)	3	〃	精神科治療と看護①	薬物療法と看護	看1
第10回	令和8年5月11日(月)	4	〃	精神科療法と看護②	身体療法・精神療法・リハビリテーションと看護	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第11回	令和8年5月18日(月)	3	河村	精神疾患を持つ対象者の地域生活の支援①	医療機関から地域生活に向けた長期的支援の実際	看1
第12回	令和8年5月18日(月)	4	〃	同上	医療機関から地域生活に向けた長期的支援の実際	看1
第13回	令和8年5月25日(月)	3	〃	治療的患者—看護師関係①	治療的かかわり①ロールプレイを通して対象者の理解と看護の方向性について考える	看1
第14回	令和8年5月25日(月)	4	〃	同上	同上	看1
第15回	令和8年6月1日(月)	3	〃	家族の支援	ケースマネジメント、家族のアセスメント ジェノグラム・エコマップから家族を捉える	看1
第16回	令和8年6月1日(月)	4	〃	同上	同上	看1
第17回	令和8年6月8日(月)	3	〃	精神状態のアセスメント	統合失調症患者のアセスメントの復習	看1
第18回	令和8年6月8日(月)	4	〃	同上	MSE・オレムアンダーウッドモデルの活用	看1
第19回	令和8年6月15日(月)	3	〃	セルフケア理論を用いた看護展開	アセスメントの方法と記録の使い方、事例の展開(アセスメント～看護計画立案)	看1
第20回	令和8年6月15日(月)	4	〃	同上	アセスメントの方法と記録の使い方、事例の展開(アセスメント～看護計画立案)	看1
第21回	令和8年6月22日(月)	3	〃	同上	事例の展開	看1
第22回	令和8年6月22日(月)	4	〃	同上	事例の展開	看1
第23回	令和8年6月29日(月)	3	〃	同上	展開事例の発表、展開事例の説明	看1
第24回	令和8年6月29日(月)	4	〃	同上	展開事例の発表、展開事例の説明	看1
第25回	令和8年7月6日(月)	3	〃	精神疾患を持つ対象者の地域生活の支援②	視聴覚教材を活用し精神疾患を持つ対象者と家族・地域のつながり、看護について考える	看1
第26回	令和8年7月6日(月)	4	〃	同上	視聴覚教材を活用し精神疾患を持つ対象者と家族・地域のつながり、看護について考える	看1
第27回	令和8年7月9日(木)	3	河村 坂本	治療的患者—看護者関係②	治療的かかわり②シミュレーション演習	看1
第28回	令和8年7月9日(木)	4	〃	治療的患者—看護者関係②	治療的かかわり②シミュレーション演習	看1
第29回	令和8年7月13日(月)	3	〃	治療的患者—看護者関係③	治療的かかわり③ロールプレイを通して対象者の理解と看護の方向性について考える	看1
第30回	令和8年7月13日(月)	4	〃	治療的患者—看護者関係③	治療的かかわり③ロールプレイを通して対象者の理解と看護の方向性について考える	看1
第31回	令和8年7月30日(木)	2	河村	試験(11:00~12:30)		看1
第32回	令和8年8月12日(水)	2	〃	再試験(11:00~12:30)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

グループディスカッションなどを多く含みます。視聴覚教材(スライド、DVD視聴)を適宜活用する予定です。講義では、毎回出席カードにて、学習目標と評価及び、感想を求めます。ワークブックを配布予定ですので、各自の積極的な学びのために有効活用してください。

尚、講義のオンデマンド配信はしません。

7 評価方法

総括的評価

レポート40%

期末試験60%

形式的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する。

評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。(再試験は1回のみ実施)

なお、2/3以上の出席があることを評価の対象とする。

8 テキスト

阿保順子他、統合失調症急性期看護学：患者理解の方法と理論にもとづく実践、すびか書房、2021
河村奈美子・星美和子編著、看護の治療的コミュニケーションと心のケア：実践力を高めるワークブック 第2版、大学教育出版、2025

9 テキストISBN番号

978-4902630305

978-4866923499

10 参考文献

これまでの講義資料を活用すること。その他、参考文献・資料等は適宜提示します。

11 オフィスアワー（授業相談）

月曜11：30～12：30 その他メール連絡などにより随時対応します。

12 学生へのメッセージ

グループの取り組みが多くなります。ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークにおける積極的な授業への参加を求めます。

13 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15 主担当教員の実務経験

看護師

訪問看護学実践論

1 担当教員名

教授	辻村 真由子 (地域看護学講座 (訪問看護学))	非常勤講師
助教	田和 なつ美 (地域看護学講座 (訪問看護学))	清水 奈穂美 (佛教大学看護学部看護学科 准教授)
		津田 知子 (淡海ふれあい病院訪問看護ステーション 所長)

2 配当学年等

第3学年 前期 2単位

3 学修目標

- 1 居宅に訪問するために必要な態度・姿勢を身につけることができる。
- 2 療養者とその家族のアセスメント・支援方法を説明できる。
- 3 訪問看護に必要な生活援助技術、医療的ケアの特徴を説明できる。
- 4 訪問看護を取り巻く現状や課題を分析し、解決策を提案できる。

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1. プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

DP7. 情報・科学技術の活用

2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

訪問看護に必要な援助技術と看護の展開方法を事例を用いた演習やロールプレイを通して修得する。また、看護の場や訪問看護を取り巻く現状や課題をデータの活用によってとらえ、解決に向けた方向性や解決策を提案できる能力を養う。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月7日 (火)	1	辻村 田和	自宅に訪問するために必要な態度・姿勢	オリエンテーション、自宅に訪問するために必要な態度・姿勢と倫理	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第2回	令和8年4月7日(火)	2	辻村和 田和	初回訪問における情報収集とアセスメント	初回訪問における情報収集とアセスメントの要点	看1
第3回	令和8年4月14日(火)	1	〃	訪問看護におけるリスクマネジメント、在宅における感染予防	訪問看護におけるリスクマネジメントの種類と予防策、在宅における感染予防	看1
第4回	令和8年4月14日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開	情報収集、アセスメント、関連図の作成、看護課題の抽出、看護計画の立案	看1
第5回	令和8年4月20日(月)	1	辻村和 清水	訪問看護における援助技術1	食の支援と栄養管理	看1
第6回	令和8年4月21日(火)	1	辻村和 田和	訪問看護における援助技術2	清潔ケア1	看1
第7回	令和8年4月21日(火)	2	〃	訪問看護における援助技術2	清潔ケア2	看1
第8回	令和8年4月28日(火)	2	〃	訪問看護における援助技術3	在宅における機器の活用	看1 看実
第9回	令和8年5月12日(火)	1	〃	健康状態と生活状況のアセスメント1	フィジカルアセスメント(腹部と呼吸器を中心に)1	看1 看実
第10回	令和8年5月12日(火)	2	〃	健康状態と生活状況のアセスメント2	フィジカルアセスメント(腹部と呼吸器を中心に)2	看1 看実
第11回	令和8年5月19日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：看護計画の立案1	看1
第12回	令和8年5月19日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：看護計画の立案2	看1
第13回	令和8年5月26日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：看護計画の立案3	看1
第14回	令和8年5月26日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：発表・討議	看1
第15回	令和8年6月2日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：ロールプレイ1	看1 看実
第16回	令和8年6月2日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：ロールプレイ2	看1 看実
第17回	令和8年6月9日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開1	脳血管疾患を有する対象：まとめ	看1
第18回	令和8年6月9日(火)	2	〃	訪問看護における援助技術4	排泄ケア	看1
第19回	令和8年6月16日(火)	1	辻村和 田和 皮膚・排泄ケア 認定看護師	訪問看護における援助技術5	褥瘡ケア	看1
第20回	令和8年6月16日(火)	2	〃	訪問看護における援助技術6	ストーマ	看1
第21回	令和8年6月23日(火)	1	辻村和 田和	訪問看護における援助技術7	服薬支援、呼吸ケア	看1
第22回	令和8年6月23日(火)	2	〃	地域アセスメント	地域アセスメントの意義と実際	看1
第23回	令和8年6月30日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開2	終末期にある対象：看護計画の立案1	看1
第24回	令和8年6月30日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開2	終末期にある対象：看護計画の立案2	看1
第25回	令和8年7月7日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開2	終末期にある対象：看護計画の立案3	看1
第26回	令和8年7月7日(火)	2	〃	在宅看護過程の展開2	終末期にある対象：発表・討議	看1
第27回	令和8年7月14日(火)	1	〃	在宅看護過程の展開2	終末期にある対象：まとめ	看1
第28回	令和8年7月14日(火)	2	辻村和 田津	訪問看護ステーションの管理・運営	訪問看護ステーションの管理・運営の実際	看1
第29回	令和8年7月21日(火)	1	辻村和 田和	在宅看護の課題と展望	データを活用した在宅看護の現状と課題の分析	看1
第30回	令和8年7月21日(火)	2	〃	在宅看護の課題と展望	在宅看護の課題とその解決策：発表・討議	看1
第31回	令和8年7月31日(金)	1	〃	試験(9:00~10:30)		看1
第32回	令和8年8月13日(木)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

演習を中心に展開する。なお、受講生の進捗状況等に応じて順序や内容を変更する可能性がある。スライド、映像教材を使用する。
※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

定期試験（50%）、平常点（小レポート、グループワークレポート、最終レポート、受講態度）（50%）の評価によって判定する。ただし、定期試験60%以上の得点を修了の認定要件とする。
なお、正当な理由がなく、授業への出席が全授業の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える，南江堂，2024.
- ・講義資料のうちスライド資料については、授業初回に紙の配布資料の要不要を学生に調査する。
- ・スライド資料は各講義の開始前にWebClassに掲載し、紙の配布資料は必要と回答した学生にのみ配布する。
- ・演習資料等は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 テキストISBN番号

ISBN：978-4-524-23128-7

10 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める，南江堂，2024.
 - ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き。
 - ・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第2版，メヂカルフレンド社，2018.
 - ・河野あゆみ編集：強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 第2版+総合的機能関連図，医学書院，2023.
 - ・正野逸子/本田彰子編著：在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社，2021.
- その他、授業中に適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

授業時間は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 授業用E-mail

hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

看護実践特別演習

1 担当教員名

教授	河村 奈美子	(地域看護学講座 (精神保健看護学))
教授	喜多 伸 幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
助教	坂本 真 優	(地域看護学講座 (精神保健看護学))
助手	上西 祐 輝	(精神医学講座)

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

看護師が看護を実践する中で必要となる患者-看護師関係における援助関係の構築、より複雑な健康状態にある患者とのコミュニケーションについて、コミュニケーションの基本と意義、手段の理解と、課題対応に必要な臨床推論の活用から学修する。

科目に関するディプロマ・ポリシー (DP) およびアウトカム

- DP1. プロフェッショナルリズム
- DP2. 看護学の知識と技術
- DP3. 課題対応能力と看護実践能力
- DP4. コミュニケーションと多職種連携

4 授業概要

以下の内容について教授し、学生が自己の看護実践における学習課題の気づきを目指す。

1. 日常生活や実習場面におけるコミュニケーション、コミュニケーションの基本
2. 患者—看護師におけるコミュニケーション
3. 専門的な精神的・心理的側面のアセスメントと介入
4. 臨床場面における複雑な事例の理解
5. 看護実践における課題対応に必要な臨床推論の活用

各回の授業時までに授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問をもって授業に備えることが求められる。

5 授業内容

以下の計画表に基づくが、進捗状況や受講者の希望等で順序や内容を変更することがある。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	3	河村	コミュニケーションとは 非言語的コミュニケーション	コミュニケーションの定義、文脈や言葉の機能について 声音や身体的表現から伝わることと空間や距離が意味することについて	看1
第2回	令和8年4月17日(金)	3	〃	自分を知る 他者との交流を分析する アサーショントレーニング	コミュニケーションの主体となる自分の傾向について知る 他者との言葉によるやり取りを交流分析の理論を用いて理解する	看1
第3回	令和8年4月24日(金)	3	〃	共感と傾聴 治療的コミュニケーション	カウンセリングの基本的な考え方を来談者中心療法から学ぶ 人にとっての感情の意味と共感のための工夫について	看1
第4回	令和8年5月11日(月)	1	上西 河村	臨床心理学に基づくアセスメント	医療領域で主に用いられる心理検査の使用目的と選択(知的能力、発達特性、パーソナリティ、認知機能、精神症状)を理解する 心理検査を受けるクライアントを疑似体験する	看1
第5回	令和8年5月15日(金)	3	河村	集団的思考・集団の圧力	集団的思考の特徴と圧力への対処	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第6回	令和8年5月18日(月)	1	上西河村	共感と傾聴 治療的コミュニケーション	クライアントやその家族とのコミュニケーションにおける基本的な態度を理解する クライアントと看護師の関係において態度や言葉がもたらす相互作用を理解する(ロールプレイを含む)	看1
第7回	令和8年5月22日(金)	3	河村	事例から学ぶ患者の理解	病をもつ人との治療的コミュニケーション①	看1
第8回	令和8年5月25日(月)	1	上西河村	臨床心理学に基づく治療	認知行動療法を中心に心理療法の背景理論、技法、効果について理解する	看1
第9回	令和8年5月29日(金)	3	河村	事例から学ぶ患者の理解	病をもつ人との治療的コミュニケーション②	看1
第10回	令和8年6月5日(金)	3	坂本	コミュニケーションスキル	コミュニケーションパターンの修正	看1
第11回	令和8年6月12日(金)	3	河村	患者の理解	患者(対象者)の状態のアセスメントに必要な多角的な視点を理解し、統合的なアセスメントを踏まえ、患者-看護師関係を考えることができる。	看1
第12回	令和8年7月3日(金)	3	喜多	臨床推論	医療面接	看1
第13回	令和8年7月10日(金)	3	〃	臨床推論	事例1	看1
第14回	令和8年7月17日(金)	3	〃	臨床推論	事例2	看1
第15回	令和8年7月24日(金)	3	〃	臨床推論・看護学OSCEオリエンテーション	事例3	看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習を並行して進める。講義はパワーポイントで行い、具体的な理解をしてもらうために視聴覚教材を活用することもある。尚、講義のオンデマンド配信はしません。

7 評価方法

総括的評価

課題レポート提出(41%)

看護学OSCE参加による自己課題の確認(59%)

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する。

評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。

8 テキスト

河村奈美子・星美和子編著、看護の治療的コミュニケーションと心のケア：実践力を高めるワークブック 第2版、大学教育出版、2025
テキストの他、適宜パワーポイントのスライドを配布する予定である。

9 参考文献

参考文献は必要に応じて紹介する。

10 オフィスアワー(授業相談)

月曜11:30~12:30 その他メール連絡により随時対応します。

11 学生へのメッセージ

他者への援助的なコミュニケーションを学ぶことは、自分を知ることでもあります。自分がその場で何を感じているかを大事にして、積極的に取り組みましょう。うまくできる必要はありません。協力し合い、学びの場を作りましょう。

12 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師

母性看護学実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

1. 周産期における妊産褥婦と新生児の生理的変化が理解できる
2. 周産期における母児とその家族について、オレムのセルフケア理論を基に対象を包括的に理解し、ウェルネスの看護理論の視点からアセスメント、看護診断ができる
3. 看護診断から優先順位を考え、看護目標を到達するための個別的な看護計画を立案することができる。
4. 看護計画に基づいて周産期における母子へのケアを実践し、目標に沿って評価することができる
5. 母子の生活を見据えた、対象に必要な教育計画を立案し、対象者の個性に合わせた保健指導について理解を深めることができる
6. 妊産褥婦、新生児への看護を通して、母子相互作用について理解することができる
7. ハイリスクの妊婦及び褥婦のケアについて理解することができる
8. 母性看護学の特徴を整理し、自己の母性に関する考え方を明確にできる
9. 母子保健チームの一員として、周産期に携わる助産師・看護師の役割と責任について理解することができる
10. 産科医療施設における周産期医療と看護の役割について、その特性を理解し、地域母子保健の視点から考えることができる

2) 本実習に関するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

- ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
- ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

- ①人体の構造と機能②疾病の成立と回復の促進③健康支援と社会保障制度
- ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授業概要

妊娠・分娩・産褥期の女性及び胎児期を含む新生児とその家族における身体的・心理的・社会的特性を理解し、看護診断をもとに必要な母性看護を実践するための能力を養う。

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）

- ・実習までに事前オリエンテーション（30分程度）のためリーダーがwebclassで担当教員を確認しアポイントをとること
- ・事前オリエンテーションで提示した課題学習を実施してから実習に臨むこと（180分程度）
- ・実習後、自己学習を行うこと（1日45分程度）
- ・看護技術については、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評価方法

①総括的評価

母性看護の理解（70％：記録50％、カンファレンスへの参加状況15％、面接評価5％）、正当な理由のない欠席が実習日数の3分の1を超える場合は単位認定しない。面接評価は、最終日に個人面接を行う

②形成的評価

実習期間中、担当教員より日々実習での技術・記録に関して都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

技術・姿勢・態度および実習記録など提出物30％により評価する。

提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（実習指導者、対象者、グループメンバー、教員等他者への迷惑行為など）－5点とする。

7 テキスト

小林康江他編：母性看護の実践。メディカ出版，2019。

立岡弓子編著：新訂版 周産期ケア・マニュアル第3版。サイオ出版，2020。

立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック。サイオ出版，2022。

8 参考文献

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス 日総研出版，2013

9 オフィスアワー（授業相談）

実習前は担当教員へメールでアポイントを取ること

実習期間中は適宜担当教員に相談すること

10 学生へのメッセージ

周産期看護において、ウェルネス理論、オレムのセルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、必要な看護技術、保健指導を行います。ご協力いただく対象者の方への感謝の気持ちを忘れず、真摯に取り組んでください。

11 授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

ryoko55@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

小児保健看護学実習

1 担当教員名

教授 菊池良太 (実践看護学講座 (小児保健看護学))
講師(学内) 白坂真紀 (実践看護学講座 (小児保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学習目標とする。

1. 小児の発達段階の特徴や健康障害による影響を理解し、援助の必要性を考える。
2. 小児の健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。
3. 小児の健康障害が家族に与える影響を理解し、援助を考える。
4. 小児の地域での生活を想定し、継続看護と多職種との連携について考える。
5. 病棟、NICU/GCU、外来の特徴と看護について考えることができる。
6. 小児と家族に人権を尊重したケアの必要性を理解する。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムは以下となる。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP7. 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
3. 電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

実習開始前には、子どもの発達段階、入院している子どもの病気などの予習を行い、実習期間中は、毎日の実習記録を作成し、予習・復習を行う。

担当する教員は、小児看護学（主として子どものQuality of Lifeの評価と向上に向けたシステムの構築）及び家族看護学に関する研究を遂行している。

5 授 業 内 容

実習場所：滋賀医科大学医学部附属病院、小児科病棟、NICU/GCU病棟、小児科外来

実習方法：1名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。小児への看護の実践から、地域で生活する小児と小児を取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。

1. 受け持ち患児への看護…看護過程を展開する。
2. 小児科外来実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、検査・処置の介助。継続看護について考える。
3. NICU/GCU実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、ケアの実践、検査・処置の見学。ファミリーセンタードケア、デイバロップメンタルケアなど、看護の特徴を学ぶ。

詳細は、実習要項を参照する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

1. 1名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。
2. 子どもへの看護の実践から、地域で生活する子どもと子どもを取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。
3. NICU/GCUと小児科外来では、診察場面の見学、指導者と一緒にケアを実践する。継続看護と家族看護についても学ぶ。

7 評 価 方 法

総括的評価として、実習への取り組み（70%）と実習記録（30%）により評価を行う。

形成的評価として、各週行われるカンファレンスにおいてフィードバックを行う。

8 テ キ ス ト

サイオ出版「母性看護 小児看護 実習あるあるお助けブック」

9 テキストISBN番号

9784867490020

10 参 考 文 献

- 発達段階からみた小児看護過程 医学書院
小児看護学実習DVD 医学映像教育センター
第1巻 小児看護学実習の特徴と看護学生の心得
第2巻 小児病棟での実習の実際
第3巻 小児科外来とNICU・GCU実習の実際

11 オフィスアワー（授業相談）

対面やメール等にて、担当教員と日程の調整を行なったうえで面談を行う。

12 学生へのメッセージ

子どもたちは、学生さんと遊んだり、勉強したりすることを、とても楽しみにしています。子どもと家族の医療と看護に寄与できるよう、一緒に取り組みましょう。そのために以下をお願いします。

1. 学生自身の小児期感染症の罹患状況を把握しておく。実習開始前に検温及び体調のチェックを必ず行う。
2. 自分の健康管理を心がけ、感染症症状など異常がある場合は、速やかに受診し、担当教員と臨床指導者に連絡する（自己判断しない）。
3. 子どもの安全を確保し、事故を防止する。
4. 体調管理には十分に留意し、欠席しないこと、約束は必ず守ることを心がける。

13 参考URL 1

<http://sums-hqkodomomo.sakura.ne.jp/>

14 授業用E-mail

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 1

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

16 主担当教員の実務経験

看護師（大学病院の小児病棟での看護師としての従事経験のある教員が担当する）

成人保健看護学実習Ⅰ

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 4単位

3 学修目標

学修目標：

主として成人期の入院患者を受け持ち、健康問題を持つ対象者を疾患発症、急性増悪、慢性的な治療経過など療養の時期に応じたケアの基本を学ぶ。加えて対象者を精神的・身体的・社会的側面から理解し、個別性に応じた健康の維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。

また、対象者の療養支援上必要な種々の専門的介入方法について学び、健康障害の治療、回復にむけての過程における保健医療チームのかかわりと看護の役割を理解する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

以下、詳細は実習要項を参照

5 授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6 評 価 方 法

①総括的評価

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習の参加状況（10%）の評価によって判定する。

②形成的評価

実習中に提出する記録や受持ち患者への介入はその都度評価を行い、フィードバックを行う。

③態度評価

実習への参加態度やカンファレンスでの発言などから学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語などで実習環境を乱す場合、減点することがある。

7 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

8 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9 主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

学修目標：

主として成人期の入院患者を受け持ち、周手術期にある対象者を精神的・身体的・社会的側面から捉え、健康の回復および維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。また、周手術期における病態生理や治療に伴う合併症のリスク、生じうる問題について学び、多様なニーズに応じた看護を実践するために必要な能力を養う。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

以下、詳細は実習要項を参照

5 授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6 評 価 方 法

①総括的評価

実習目標の到達度（70%）、実習記録（20%）、実習内容・実習の参加状況（10%）の評価によって判定する。

②形成的評価

実習中に提出する記録や受持ち患者への介入はその都度評価を行い、フィードバックを行う。

③態度評価

実習への参加態度やカンファレンスでの発言などから学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語などで実習環境を乱す場合、減点することがある。

7 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

8 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習 I

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学))
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

I. 実習目的

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知り、高齢者個々に適した日常生活の在り方を思考するための基盤を培う。
2. 高齢者の多様な特性を踏まえて交流し、日常生活援助・介助を実体験する。
3. 様々な健康レベルにある高齢者の特徴を理解し、多様な療養の場での高齢者に対する看護師の役割について思考する。

II. 実習目標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知ることができる。
2. 高齢者の多様な特性が日常生活の様々な場面で影響していることを理解できる。
3. 高齢者を取り巻く社会資源やその活用状況の実態を知ることができる。
4. 高齢者を多様な特性を踏まえた姿勢や態度で交流することができる。
5. 高齢者の残存機能を考慮した機能改善訓練を計画・実施することができる。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1：プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)

DP3：課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる

DP4：コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5：地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5 授業内容

1. 実習期間
実習ローテーションで配置された1週間（土日祝日を除く）
2. 実習内容（概要）
 - 1) 臨地実習
高齢者福祉施設（指定された1施設）での実習（3.5日間）
 - 2) 学内実習（1.5日）
施設でのレクレーションの計画書作成と物品準備、リハーサル
臨地臨床実習での学びの共有・統合

6 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地臨床実習は指定された施設内で実習指導者のもと実施する

7 評価方法

- ①総括的評価（70%）：実習記録より実習到達状況を評価する。
- ②形成的評価（20%）：実習中の日々の看護実践状況をその都度フィードバックし、最終的な到達状況を評価する。
- ③態度評価（10%）：実習場での態度や、患者への姿勢、カンファレンス参加状況から学修意欲を評価する。

8 参考文献

老年保健看護学概論・各論・演習での講義資料を参照すること。

9 オフィスアワー（授業相談）

516の老年看護学教室関係者にいつでもお声かけください。平日 12:00~13:00の時間帯を推奨しますが、それ以外でも在室していればいつでもお声かけください。

10 学生へのメッセージ

臨地臨床実習で求められている学生としての本質を念頭に、どのような姿勢で実習に臨むべきであるのか十分に考えて参加してください。また、多様な特性を持つ高齢者と交流するにあたって留意しなければならないことは何なのか、高齢者にとって受け入れやすい若輩者とはどのような姿であるのかについても十分に考えた上で実習に参加してください。また、高齢者に対するコミュニケーション技法については、実習中にそれら技法を取り入れたコミュニケーションの実践が行えるようしっかり講義資料を復習してのぞんでください。

11 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子（実践看護学講座（老年保健看護学））
助教 豊川 勝（実践看護学講座（老年保健看護学））

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

I. 実習目的

既習の知識・技術を統合し、健康障害のある高齢者の看護過程を展開し、看護実践を通して老年看護の基礎的な臨床能力を身に付ける。

II. 実習目標

1. 受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性に関する情報を収集することができる。
2. 加齢や老化促進が高齢者の機能に及ぼす影響をアセスメントすることができる。
3. 残存機能や今後改善する見込みを考慮した具体的な看護目標設定ができる。また、患者本人または家族の顕在的・潜在的な希望に沿った価値ある目標設定ができる。
4. 残存機能の活用や機能維持・改善を意図した介助を実践することができる。
5. 療養・退院支援における他職種との連携状況を把握し、医療チーム内での看護職の役割を理解することができる。
6. 実習を通して老年看護観を語るすることができる。

本講義に関するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP1：プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）

DP3：課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる

DP4：コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5 授 業 内 容

1. 実習期間
実習ローテーションで配置された2週間（土日祝日を除く）
2. 実習場所
滋賀医科大学医学部附属病院
2C病棟（整形外科）
6C病棟（糖尿病内分泌内科・腎臓内科・脳神経内科・放射線科）
3. 実習内容（概要）
 - 1) 入院中高齢患者を原則1名受け持つ。
 - 2) 受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性を適切に把握し、入院中・退院後に生じている（もしくは生じ得る）看護上の問題を明らかにし、看護計画を立案し、看護介入する。
 - 3) カンファレンスを通して受け持ち患者への看護展開に対してグループで検討するとともに、受け持ち患者以外の事例展開を共有することで自身の老年看護の質を高める。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

臨床実習は滋賀医科大学医学部附属病院の指定された病棟で教員及び実習指導者の指導のもと実施する

7 評 価 方 法

- ①総括的評価（50%）：実習記録より実習到達状況を評価する。
- ②形成的評価（40%）：実習中の日々の看護過程展開状況、患者への看護援助状況をその都度フィードバックし、最終的な到達状況を評価する。
- ③態度評価（10%）：実習場での態度や、患者への姿勢、カンファレンス参加状況から学修意欲を評価する。

8 参 考 文 献

老年保健看護学概論・各論・演習での講義資料を参照すること

9 オフィスアワー（授業相談）

516の老年看護学教室関係者にいつでもお声かけください。平日 12：00～13：00の時間帯を推奨しますが、それ以外でも在室していただいてもお声かけください。

10 学生へのメッセージ

臨床実習で求められている学生としての姿勢で実習に臨んでください。
また、高齢者の全体像を捉えるための方法論や看護展開方法を事前に十分学習し、円滑な看護展開が行えるよう努めてください。

11 主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学実習

1 担当教員名

教授 河村 奈美子（地域看護学講座（精神保健看護学））
助教 坂本 真優（地域看護学講座（精神保健看護学））

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

目的：精神を障害された個人およびその家族を理解し、精神の健康の回復に向けた治療的な関わりができる基礎的な能力を養う。

科目に関するディプロマ・ポリシー（DP）およびアウトカム

- DP1. プロフェッショナルリズム
- DP2. 看護学の知識と技術
- DP3. 課題対応能力と看護実践能力
- DP4. コミュニケーションと多職種連携
- DP7. 情報・科学技術の活用

目標：

1. 精神障がい者をありのままに理解することができる。
2. 精神障がい者と治療的患者—看護師関係を構築することができる（治療的コミュニケーションの活用）。
3. 対象の個別性にあった看護過程を展開することができる（対象や家族の意思決定支援を含む）。
4. 精神医療における看護の役割・機能と多職種との連携を理解することができる。
5. 看護学生として、治療チームの一員として責任ある行動や主体的な学習態度をとることができる。

4 授業概要

詳細については実習要項をよく読んでおくこと。

実習期間中の日々の準備学習として実習における記録物の作成が求められる。

5 授業内容

実習施設：滋賀医科大学医学部附属病院1C病棟／滋賀県立精神医療センター

実習方法：各施設において1名の入院患者を受け持ち、精神構造やオレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用いて、対象を理解し、必要な援助について学ぶ。その他、詳細については実習要項を参照する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

受け持つ患者の疾患や重症度などについては、実習施設や病棟により異なることがある。

7 評価方法

2/3以上の出席を満たすことを評価の対象とします。実習内容（記録物の提出状況やカンファレンスにおける発言、患者との関わりや実習に臨む際の態度、実習記録の内容）を評価表の項目に基づき客観的に評価する。60%以上を合格とする。

8 テキスト

阿保順子編著：統合失調症急性期看護学—患者理解の方法と理論に基づく実践、すびか書房、2021
河村奈美子・星美和子著：看護の治療的コミュニケーションと心のケア 第2版、大学教育出版、2025

9 テキストISBN番号

978-4-902630-30-5
978-4-86692-349-9

10 参考文献

参考文献：講義資料や、これまでの学習で用いた資料。その他参考文献は適宜提示します。

11 オフィスアワー（授業相談）

電話やメールによる事前連絡の上で、時間調整することを前提に随時対応します。

12 学生へのメッセージ

臨床における実践的な実習ではさまざまな不安や困難に遭遇すると思いますが、遠慮なく教員や指導者に相談し、適宜アドバイスをもらうことが大切です。

また、精神科病棟は他の診療科の病棟とは異なり「精神保健福祉法」に基づく多くの規制があるため、オリエンテーションの内容に留意し、それらを遵守することが重要です。

13 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15 主担当教員の実務経験

看護師

訪問看護学実習

1 担当教員名

教授 辻村 真由子（地域看護学講座（訪問看護学））
助教 田和 なつ美（地域看護学講座（訪問看護学））

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

- 1 在宅療養者とその家族への支援について、実践活動をしている訪問看護師から具体的に学ぶ。
- 2 在宅療養者とその家族を対象として看護過程を展開し、看護師に求められる態度、知識、技術について理解する。
- 3 訪問看護を取り巻く社会資源（フォーマル・サービスとインフォーマル・サポート）との連携のあり方について学ぶ。
- 4 訪問看護ステーションの法的基盤と運営の現状と課題を知り、考察を深める。

DP1. プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

DP7. 情報・科学技術の活用

2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

在宅療養者とその家族への在宅療養における看護の特徴及び看護師に必要な専門的知識と技能について理解する。また、地域ケアシステムの中で看護の果たす役割について学ぶ。

5 授業内容

詳細は実習要項参照。滋賀県一円の訪問看護ステーションにおいて実習する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって統合的に評価する。原則として、欠席や遅刻は認めない。

②形成的評価

実習中に提出する記録類の内容、受け持ち利用者への看護、カンファレンスでの発言等についてはその都度フィードバックを行う。

③態度評価

カンファレンスでの発言など、実習への参加態度等から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は受講態度に加味、実習生として相応しくない態度の学生は受講態度から減じることがある。

8 テキスト

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える。南江堂，2024.

9 テキストISBN番号

ISBN：978-4-524-23128-7

10 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める。南江堂，2024.
 - ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き。
 - ・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第2版，メヂカルフレンド社，2018.
 - ・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社，2021.
- そのほか、授業中に適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

授業時間は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 学生へのメッセージ

- ・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。
- ・実習前に訪問看護学概論、訪問看護学各論、訪問看護学実践論での学習内容について復習しておくこと。

13 授業用E-mail

hqhhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

公衆衛生看護活動論 I

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 田 渕 紗也香 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 白 片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期前半 2単位

3 学修目標

学習目標 生涯にわたる発達段階、健康レベル別の健康課題から、地域で生活する個人や家族および集団を支援するための基礎知識を習得する。

4 授業概要

地域全体の健康増進・改善を目指した、個人・家族、さらに集団・組織に所属する人々を対象に、疾病・障害の発生子防、健康増進・改善の支援において特徴的な公衆衛生看護活動の方法を系統的に伝える。健康問題やライフサイクルの観点から、家庭生活や地域生活の営みに応じた看護の方法を解説する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月7日(火)	3	伊藤	公衆衛生看護活動の法的根拠		看1
第2回	令和8年4月7日(火)	4	〃	母子保健活動①	健康上のリスクを持つ対象への支援 (心身障害児・発達障害)	看1
第3回	令和8年4月14日(火)	3	〃	母子保健+M5 : N19活動②	健康上のリスクを持つ対象への支援 (心身障害児・発達障害)	看1
第4回	令和8年4月14日(火)	4	〃	母子保健活動③	健康上のリスクを持つ対象への支援 (心身障害児・発達障害)	看1
第5回	令和8年4月21日(火)	3	〃	感染症予防活動①	結核対策	看1
第6回	令和8年4月21日(火)	4	〃	感染症予防活動②	結核対策	看1
第7回	令和8年4月28日(火)	3	〃	感染症予防活動③	HIV感染症、予防接種	看1
第8回	令和8年4月28日(火)	4	〃	成人各期の特徴と健康課題 健康問題とアセスメント		看1
第9回	令和8年5月12日(火)	3	田 渕	精神保健活動①	心の健康づくりの推進とストレス・ 自殺予防	看1
第10回	令和8年5月12日(火)	4	〃	精神保健活動②	ソーシャルキャピタル、 マイノリティ支援	看1
第11回	令和8年5月19日(火)	3	伊藤	成人保健活動1	がん予防と対策	看1
第12回	令和8年5月19日(火)	4	〃	成人保健活動2	生活習慣病予防、特定健康診断・ 特定保健指導	看1
第13回	令和8年5月26日(火)	3	〃	地区組織活動、コミュニティ・ オーガニゼーション		看1
第14回	令和8年5月26日(火)	4	〃	地域包括ケアシステムと保健 活動基盤1	ヘルスプロモーションの理念と方法 衛生行政体系と保健師配置	看1
第15回	令和8年6月2日(火)	3	〃	地域包括ケアシステムと保健 活動基盤2	滋賀県の公衆衛生看護活動の実際と課題	看1
第16回	令和8年7月30日(木)	1	〃	試験(9:00~10:30)		看1
第17回	令和8年8月12日(水)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義とワークショップ

7 評価方法

期末試験（60％）とミニレポート（20％）、並びに講義への主体的参加（20％）を加味して評価する。

8 テキスト

公衆衛生看護学.jp

「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

9 テキストISBN番号

ISBN 978-4-900828-85-8

10 参考文献

最新 公衆衛生看護学総論第3版 日本看護協会出版会

11 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 授業用E-mail

itmkk@belle.shiga-med.ac.jp

公衆衛生看護活動論Ⅱ

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第3学年 前期後半 1単位

3 学修目標

公衆衛生看護活動論Ⅰの知識を踏まえて、地域における健康づくりのための行政の役割や機能を理解し、それらを具現化する活動としての「保健師活動による地域づくり」に焦点を当てながら、僻地や都市部など特徴のある地域特性に応じた活動の展開並びに危機管理の実際について学ぶ。

4 授業概要

事例を用いた事業の展開について教授する

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。
- ・公衆衛生看護活動の法的根拠についての基本的な理解が必須となるため保健医療行政論、社会保障論で学んだことを復習して臨んでください。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年6月2日(火)	4	伊藤	公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎技術	地域診断	看1
第2回	令和8年6月9日(火)	3	〃	地域特性に応じた公衆衛生看護活動	住民自治、住民参加、健康課題の解決のための創意・工夫	看1
第3回	令和8年6月9日(火)	4	〃	地域診断に基づく展開の実際1	糖尿病重症化予防	看1
第4回	令和8年6月16日(火)	3	〃	地域診断に基づく展開の実際2	糖尿病重症化予防	看1
第5回	令和8年6月16日(火)	4	〃	地域診断に基づく展開の実際3	糖尿病重症化予防	看1
第6回	令和8年6月23日(火)	3	〃	地域診断に基づく展開の実際4	危機管理	看1
第7回	令和8年6月23日(火)	4	〃	地域診断に基づく展開の実際5	危機管理	看1
第8回	令和8年6月23日(火)	5	〃	保健師のキャリア開発		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義とワークショップ

7 評価方法

ミニレポート(20%)と最終レポート課題(60%)、並びに講義への主体的参加(20%)を加味して評価する。

8 テキスト

公衆衛生看護学.jp 第5版
国民衛生の動向

9 オフィスアワー(授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者(伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp)までアポイントをとってください。

10 主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護活動論Ⅲ

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
特任准教授 北原 照代 (社会医学講座 (衛生学部門)) 埜田 和史 (びわこリハビリテーション専門職大学 客員教授)
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 松本 訓枝 (岐阜県立看護大学 准教授)

2 配当学年等

第3学年 前期後半 1単位

3 学修目標

働く人々が労働と健康の調和を図り、心身ともに健康で充実した職業生活ができるような支援について学び、産業看護職の役割と職務について考えることができる。

児童・生徒等の心身の健康な発育を保障する学校保健活動の実際とその方法について学び、学校における健康課題への対応について説明できる。

4 授業概要

看護教諭に求められる基本的知識と労働安全衛生に関する基本的知識を教授する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年6月30日(火)	3	松本 (岐阜県立看護大学)	学校保健総論・法制度・組織	看1
第2回	令和8年6月30日(火)	4	〃	学校保健における健康課題	看1
第3回	令和8年7月7日(火)	3	〃	特別支援学校における健康課題	看1
第4回	令和8年7月7日(火)	4	〃	学校の危機管理	看1
第5回	令和8年7月14日(火)	3	埜田 (びわこリハビリテーション専門職大学)	産業保健総論・法制度	看1
第6回	令和8年7月14日(火)	4	〃	労働衛生の3管理1教育	看1
第7回	令和8年7月22日(水)	3	北原	労働時間、夜勤・交代制勤務、女性労働と健康	看1
第8回	令和8年7月22日(水)	4	〃	医療・介護職場における腰痛問題	看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義

7 評価方法

各授業内容に関するレポート課題によって評価する。
3分の2以上の出席を単位認定の条件とする。

8 オフィスアワー (授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者(伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp)までアポイントをとってください。

9 主担当教員の実務経験

保健師

公衆衛生看護学実践論

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 非常勤講師
講師 輿水 めぐみ (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 田中 逸郎 ((特活) NPO 政策研究所)
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学)) 中根 明美 (豊中市保健所 健康危機対策課 課長)
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

- 事業概要・保健所年報、並びに政府ポータルサイトより対象地域の社会人口学的な情報、生活文化、健康水準のアセスメントに必要な情報を収集することができる。
- 地図情報を用いて地理的特徴、移動方法、社会資源の分布をマッピングすることができる。
- 経年比較、地域間比較を行うためのデータ処理を施し、図示することができる。
- 図表、地図を用いて情報を統合し、健康課題の特徴についてアセスメントを行い、資料化して説明することができる。
- 根拠に基づいた健康課題と活動方策を検討するための地域診断の方法を習得する。
- 個人・家族支援の際に、法的根拠に基づき実習地域の社会資源や保健システムの活用と予防的かつ問題解決能力を涵養する支援を検討することができる。
- 相談や家庭訪問のロールプレイを通して対象者の反応をモニタリングしながら双方向のコミュニケーションをはかり、対象者の生活背景や価値観を踏まえた支援の方策や継続の必要性の判断をすることができる。

4 授業概要

- 個人・家族・グループ・集団の支援に用いられる多様な支援方法とその効果的な適用について理解する。
- 実習地域の地域診断を行い、資料を作成して成果を発表する。なお地域診断は、公衆衛生看護学実習Iと連動した課題として、本演習の成果は現地実習でも発表する。

【準備学修・事後学修について】

- 授業予定を十分に確認し、事前学習と次回の授業までに行うべきことを行った上で臨むこと。
- 時間外にグループワークが必要な場合もあるため、計画を立てること。
- ExcelとWordの基本操作が出来るように準備しておくこと。

5 授業内容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月7日(月)	3	伊藤 美樹子 輿水 めぐみ 白片 匠 北 悠理	オリエンテーション		看1
第2回	令和8年12月7日(月)	4	伊藤 美樹子 白片 匠 輿水 めぐみ 北 悠理	オリエンテーション		看1
第3回	令和8年12月8日(火)	3	〃	健康相談、保健指導1	母子手帳交付時面接ロールプレイ	看3
第4回	令和8年12月8日(火)	4	〃	健康相談、保健指導2	母子手帳交付時面接ロールプレイ	看3
第5回	令和8年12月10日(木)	3	〃	健康相談、保健指導3	新生児訪問事例検討	看3
第6回	令和8年12月10日(木)	4	〃	健康相談、保健指導4	新生児訪問事例検討	看3
第7回	令和8年12月15日(火)	3	〃	健康相談、保健指導5	乳幼児健診ロールプレイ	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第8回	令和8年12月15日(火)	4	伊藤白片 奥水北	健康相談、保健指導6	乳幼児健診ロールプレイ	看1
第9回	令和8年12月21日(月)	3	〃	家庭訪問1	新生児訪問ロールプレイ	看3
第10回	令和8年12月21日(月)	4	〃	家庭訪問2	新生児訪問ロールプレイ	看3
第11回	令和8年12月23日(水)	2	〃	乳幼児健診スクリーニング	発達評価方法、事例検討	看3
第12回	令和8年12月23日(水)	3	〃	乳幼児健診スクリーニング	継続フォローニーズの見極め、リスク伝達コミュニケーション	看3
第13回	令和8年12月23日(水)	4	〃	乳幼児健診スクリーニング	多職種連携カンファレンスの運営と事後フォロー計画	看3
第14回	令和9年1月6日(水)	2	伊藤白片 奥水根北	地域診断	豊中市における保健活動の展開	MMC演 MMCブ 看1 看実
第15回	令和9年1月6日(水)	3	伊藤白片 奥水北	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看1 看実
第16回	令和9年1月6日(水)	4	伊藤田中 北	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看1 看実
第17回	令和9年1月12日(火)	2	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看実
第18・19回	令和9年1月12日(火)	3・4	伊藤白片 奥水北	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看実
第20・21・22回	令和9年1月18日(月)	2・3・4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看実
第23・24・25回	令和9年1月19日(火)	2・3・4	〃	地域診断	公的統計と地図を用いた資料の解析	MMC演 MMCブ 看実
第26・27回	令和9年1月28日(木)	3・4	〃	地域診断	成果発表・講評	MMC演 MMCブ
第28回	令和9年2月2日(火)	2	伊藤白片 奥水北 有馬	困難事例から考える 予防活動：多剤耐性結核1	事例検討	看1
第29回	令和9年2月2日(火)	3	〃	困難事例から考える 予防活動：多剤耐性結核2	事例検討	看1
第30回	令和9年2月2日(火)	4	〃	困難事例から考える 予防活動：多剤耐性結核3	事例検討	看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

グループワークやディスカッションを取り入れたアクティブラーニングにより行う。

7 評価方法

各課題の取り組み・到達度（60%）、演習課題の記録・レポート（40%）を総合的に評価する。
公衆衛生看護学実習Iと連動した課題に取り組むため、欠席した場合は補習が必要である。
個別に相談すること。

8 参考文献

保健師課程の講義資料、妊娠や出産・産後の経過、小児発達、感染症、生活習慣病、介護保険、特定健診など、公衆衛生看護活動に関連の深い事柄について、法的根拠も含めて復習して臨むこと。

9 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

健康教育実践論

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
講師 輿水 めぐみ (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

- ・健康の維持・回復、健康障害の予防と回復を目的に、個人、グループ、及び集団を対象に展開する健康教育の必要性や適切な実施方法について地域特性や健康課題のアセスメントに基づいて説明することができる。
- ・健康教育の企画立案と実施、評価の一連のプロセスを実践し、健康教育を実施するために必要な技術について説明し、効果的な方法について述べるができる。
- ・対象者が気付きや日常生活の振り返りを主体に行える介入方法を企画することができる。
- ・グループワークを通じて、連携や協働、計画的な課題遂行ができるようになる。

4 授業概要

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して予習と復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

- ・アクティブラーニングを取り入れた能動的学習方法にて実施する。
- ・技能について実践的に学習する。
- ・プログラムの企画・立案と実施、評価の一連の過程を演習を通じて実施する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和9年1月7日(木)	2	伊藤 輿水 白片 北	健康教育の理論と方法		看3
第2回	令和9年1月7日(木)	3	〃	健康教育の理論と方法	課題の提示	看3
第3回	令和9年1月7日(木)	4	〃	特別講義：産業保健における活動の実際	働き世代への保健指導の実際	看3
第4回	令和9年1月14日(木)	2	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案1	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第5回	令和9年1月14日(木)	3	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案2	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第6回	令和9年1月14日(木)	4	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案3	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第7回	令和9年1月20日(水)	2	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案4	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第8回	令和9年1月20日(水)	3	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案5	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第9回	令和9年1月20日(水)	4	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案6	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第10回	令和9年1月25日(月)	2	伊藤白北 藤水片北	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案7	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育の企画と実施計画の立案	看3
第11回	令和9年1月25日(月)	3	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案8	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育実施準備・資料作成	看3
第12回	令和9年1月25日(月)	4	〃	対象者の特性と健康課題に対応した健康教育計画立案9	子育て支援・メンタルヘルス・生活習慣病予防にかかる事例に対する健康教育実施準備・資料作成	看3
第13回	令和9年2月4日(木)	2	〃	健康教育の実施1	グループワークの成果発表と講評	看実
第14回	令和9年2月4日(木)	3	伊藤北	健康教育の実施2	グループワークの成果発表と講評	看実
第15回	令和9年2月4日(木)	4	伊藤白北 藤水片北	健康教育の実施3	グループワークの成果発表と講評・まとめ	看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

グループ別に健康教育の企画と実施を行います。

7 評価方法

グループワークの主体的な実施状況 50%、企画と成果物 30% 記録及びレポート 20% で評価する。

8 学生へのメッセージ

- ・保健師課程の実習では、住民や働き世代に対する健康教育の企画・実施を行います。その準備性を高められるよう計画的かつ主体的に望んで下さい。
- ・主にグループワークによって課題に取り組みます。グループダイナミクスを働かせることも念頭において課題に取り組んで下さい。
- ・対象者のアセスメントに必要な医学的な知識は事前学習をして臨んでください。

9 授業用E-mail

itmkk@belle.shiga-med.ac.jp

助産学概論

1 担当教員名

教授 立岡 弓子 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授 喜多 伸幸 (実践看護学講座 (クリティカルケア学))

2 配当学年等

第3学年 前期前半 1単位

3 学修目標

助産師の歴史や専門職としての位置付けを系統的に理解を深める

- ① 助産の歴史や教育の現状、分娩と助産実践の現状、助産師の自立性について助産学の概論を広い視野から学習し、助産師の役割と課題が考察できる。
- ② 助産ケアを行う際の基盤となる考え方が理解できる。
- ③ 助産師を取り巻く社会と助産師の意義について考察できる。

DP1 プロフェッショナリズム

1. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
2. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
3. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

- ③健康支援と社会保障制度

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。

4 授業概要

助産学の概念、意義、母子保健と助産の変遷・動向・諸制度・関連法規と助産師の業務独占との関連性を学習し、助産師の役割・活動範囲・責務・機能・職業倫理・マネジメントについて教授する。

1. 助産とは何か、助産学とは何かについて理解するために、助産・助産師の定義について学習する
2. 助産の対象の理解と基盤となる理論について学習する
3. 助産における倫理・権利について学習する
4. 助産師教育における歴史と文化について、学習する
5. 助産師の活動の場について、その機能から学習する
6. 助産師に関わる母子保健に関する関連法規について学習する

<事前事後の学修内容>

- ・各回の授業時まで、授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえ疑問をもって授業に備えることが求められる。
- ・各回の授業後に授業内容を復習し、感想、疑問点についてミニツツペーパーで提出することが求められる。

<担当する教員の研究と授業の関係性>

助産師の業務に関するタスクシフトや専門性に関する一般への周知活動や価値に関する調査研究に取り組み、地域貢献の視点から助産学研究に従事している。

5 授業内容

1. 助産師について、定義・業務独占・教育・研究の側面から理解する
2. 助産師が行うケアの概念について理解する
3. 助産業務について、法律・関連法規から理解する
4. 助産実践の倫理、倫理原則、意思決定プロセスについて理解する

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月7日(火)	3	立岡	助産の起源と出産の変遷	・助産の定義 ・助産の意義・本質 ・助産の将来 ・助産に用いる理論(セルフケア理論、愛着理論、母親役割獲得理論)	看実
第2回	令和8年4月14日(火)	3	〃	助産師の定義と関連する法律	・助産師の法的位置づけと歴史 ・保健師助産師看護師法における助産師の定義 ・助産師国家資格 ・国際助産師連盟による定義 ・助産師の職業倫理	看実
第3回	令和8年4月21日(火)	3	〃	助産師の業務・責任と関連する法律 助産師の役割・働き方	・助産師の業務と義務 ・罰則 ・産婆の活動 ・周産期医療体制の在り方と助産師 ・タスクシフト・タスクシェアと助産師の役割 ・地域における助産師の役割(産後ケア事業) ・医制と産婆教育 ・お産と文化	看実
第4回	令和8年4月28日(火)	3	喜多	産科医療補償制度と助産業務	・助産実践の現状と医学的評価 ・産科医療補償制度	看実
第5回	令和8年5月12日(火)	3	立岡	助産師を支える理論と研究	・助産学を構成する理論 ・助産実践を支える理論 ・助産学における対象への理解 ・助産学に関連する学問領域 ・助産学研究	看実
第6回	令和8年5月19日(火)	3	〃	助産師の能力とキャリア開発	・専門職としての助産 ・キャリア形成と能力 ・周産期医療体制と助産師の能力 ・クリニカルラダー ・ポートフォリオ	看実
第7回	令和8年5月26日(火)	3	〃	助産師と倫理	・倫理的判断を支える諸概念 ・倫理的な助産実践を支える諸規定 ・助産師の倫理綱領 ・倫理的感能力 ・助産実践に関わる倫理的課題と意思決定支援	看実
第8回	令和8年6月2日(火)	3	〃	助産政策	・助産政策の必要性 ・助産政策が実現される過程	看実
第9回	令和8年7月30日(木)	1	〃	試験(9:00~10:30)		看実
第10回	令和8年8月12日(水)	1	〃	再試験(9:00~10:30)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式とグループワーク

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

講義時間数の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格を得ることができます。

- ① 総括的評価
定期試験(85%)60点以上を合格とする
- ② 形成的評価
授業内の疑問点や感想、考察した内容から学生の伸長を評価し、フィードバックする
- ③ 態度評価
授業中の学生の発言や態度から評価する(15%)
授業中に退席したり、私語やSNSの不必要な閲覧により授業環境を乱す場合には、減点することがある

8 テキスト

基礎助産学 [1] 助産学概論
我部山キヨ子編著：医学書院

9 テキストISBN番号

978-4-260-04708-1

10 オフィスアワー（授業相談）

随時、メールにてアポイントを取ること

11 学生へのメッセージ

助産師課程に合格して、最初に学ぶ科目です。どんな助産師になりたいのか、自身の助産師像の礎となる大切な科目です。助産にまつわる歴史や助産師という魅力を知ることができます。積極的に学修してほしいです。

12 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

13 参考E-mail 1

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 2

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 3

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

16 参考E-mail 4

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

17 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

新生児学

1 担当教員名

教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
教授	丸尾良浩	(小児科学講座)
教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
講師(学内)	桂大輔	(母子診療科)
助教	古川央樹	(小児科学講座)
特任助教	吉田大輔	(小児科)
特任助教	長井静世	(小児科)

2 配当学年等

第3学年 前期 1単位

3 学修目標

①関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

1. 新生児の生理、新生児疾患の病理に理解に基づく診断と対応について理解できる。
2. ハイリスク妊娠・分娩による胎児への影響と出生直後の早期新生児に必要な医学的介入について理解できる。
3. 母体外生活への不適応状態にある新生児の生理と病態について理解できる。
4. 我が国における新生児医療の現状について理解できる。

②本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP 2 B. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 看護基本技術
4. 小児期にある人々に対する看護実践

4 授業概要

1. 我が国の新生児医療の現状と最先端医療についての概要を教授する。
2. 胎児期から新生児期への移行に伴う病態生理について教授する。
3. ハイリスク妊娠・分娩による胎児、早期新生児への母体外生活への影響要因と必要な助産ケアの医学的エビデンスについて教授する。
4. 新生児の成長発達、養護と管理について教授する。
5. 新生児の主要疾患について教授する。

<準備学修に必要な時間目安 (教室外学修) >

- ・各回の講義前までに、教科書を該当箇所を読むこと。
- ・講義後は、自己にて復習をすること。(講義数：8回×45分)

担当教員は新生児・小児医療および周産期医療を専門とし、本学附属病院において、臨床業務に従事している。そのため、講義で提示する各種疾患に対して病態生理学的視点に立ち、包括的に解説することが出来る。

5 授 業 内 容

新生児学を総論としてとらえ、発育・発達・養護・管理について新生児医療の現状から、その基礎について学習をし、妊娠経過や分娩経過による胎児への侵襲による母体外生活不適応状態の理解に必要な新生児医学の知識について教授する。

また、合併症妊娠や主要な新生児疾患に関する病態、治療についても教授する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月7日(火)	4	立岡 助産師による講義	新生児学総論	・我が国における新生児学 ・新生児医療に関する用語の理解 ・新生児の医学的特徴 ・新生児の発育と発達評価 ・助産に用いる理論 (セルフケア理論、愛着理論、母親役割獲得理論)	看実
第2回	令和8年4月15日(水)	4	喜多 産婦人科医師による講義	新生児の助産診断	・新生児の診察法 ・早期新生児の主要な異常所見と診断的アプローチ ・新生児に必要な検査	看1
第3回	令和8年4月21日(火)	4	長井 小児科医師による講義	内分泌系・代謝系の異常と管理	・新生児の内分泌機能と異常 ・先天性代謝異常による疾患 ・新生児の糖代謝と血糖管理 ・新生児における薬物代謝	看3
第4回	令和8年5月13日(水)	4	桂 産婦人科医師による講義	ハイリスク妊娠・分娩による早期新生児の母体外生活不適応への対応	・妊娠糖尿病の母から出生した新生児 ・子宮内胎児発育遅延の児 ・母子感染症 ・胎児機能不全徴候により出生した児	看1
第5回	令和8年5月20日(水)	4	吉田 小児科医師による講義	呼吸器系の生理と臨床	・出生直後の適応生理と蘇生 ・新生児の呼吸生理と特徴 ・肺サーファクタントと呼吸窮迫症候群 ・肺水の動態と一過性多呼吸 ・新生児呼吸障害の管理	看1
第6回	令和8年5月25日(月)	5	丸尾 小児科医師による講義	黄疸の基礎と臨床	・黄疸の基礎 ・黄疸の病態 ・黄疸の臨床	看1
第7回	令和8年6月3日(水)	4	吉田 小児科医師による講義	中枢神経系の障害と臨床 先天異常と遺伝	・新生児の神経学的障害の概要 ・未熟児の脳室内出血 ・低酸素性虚血性脳症 ・脳室周囲白質軟化症 ・奇形と奇形症候群	看1
第8回	令和8年6月10日(水)	4	古川 小児科医師による講義	循環器・血液系の基礎と臨床	・新生児にみられる心疾患の病態生理 ・新生児の血液系の特徴 ・多血症 ・貧血 ・新生児メレナ ・血小板減少症	看1
第9回	令和8年7月31日(金)	2	喜多	試験(11:00~12:30)		看1
第10回	令和8年8月13日(木)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義

7 評 価 方 法

学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。

成績評価方法として、定期試験や受講態度等により以下に示すように総合的に判断する。

①包括的評価

- ・定期試験(80%)：試験範囲は講義・演習全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
- ・平常点(20%)：授業での発言状況・質疑応答の内容、課題の提出状況並びにその内容

②形成的評価

・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

成績評価基準は、上記に従い点数化し、最終的に60%以上の得点を終了の認定要件とする。得点が前記未満の場合は、平常点を加味して再試験の可否を判定する。

なお、助産過程選択科目であるため、全回出席を基本とする。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡する。

8 テキスト

仁志田博司著：新生児学入門 第5版, 2018.医学書院

9 オフィスアワー（授業相談）

講義終了から18時まで。メールで事前にアポをとってください。

10 学生へのメッセージ

助産師課程の新カリキュラムとして、新たに新生児学が開講されます。助産師として、新しい命とどのように向き合うのか、その基本的医学知識を教授する科目です。

11 授業用E-mail

nkita@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

主担当教員は産科医師として35年の実務経験を要する。

助産診断・技術学 I

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第3学年 後期 2単位

3 学修目標

1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。

1. 助産診断学の概念と臨床への活用方法を理解できる
2. 正期産にある産婦の正常分娩経過に関する助産診断と実施する技術について理解できる
3. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にあり正常経過をたどる対象への助産診断・技術について理解できる
4. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の正常経過から逸脱する産科疾患や合併症に対する対象への助産診断・技術の知識と技術について理解できる

2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

- ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
- ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能 3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

4 授業概要

- ・妊娠期から産褥期、新生児期の正常な経過を理解するために、助産診断及び技術の基本的な知識・技術や思考過程について学習する。
- ・具体的事例を通して、授業での学びが臨床での判断やケアと深く結びついていることを学習する。
- ・参加型演習を通して、対象の正常経過を維持・増進し、正常からの逸脱を予防するための具体的ケアについて学習する。
- ・分娩介助技術の基本原則と手技を学習する。

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

- ・各回の演習までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

- 各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと (講義回数: 8回×30分程度)、また講義後自己にて復習しておいてください (講義回数: 8回×60分程度)。

事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、産婆時代から助産技術の歴史や根拠に関する文献研究に取り組み、全国の助産師が読む助産系の雑誌に、その内容を掲載するなど多くの助産学に関するテキストの執筆をしている。また、正常な経過をたどる分娩経過曲線【立岡曲線】を考案するなど、多くの助産師が分娩期アセスメントで使用する尺度開発にも従事してきた実績がある。

5 授 業 内 容

助産診断の概念を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期に必要な診断技術についての講義・演習を行う。演習については、分娩経過の正常性を意識した診断技術を中心に助産業務ガイドラインの内容を踏まえて教授し、アクティブラーニングを取り入れて行う。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月7日(月)	2	立岡	助産診断・技術学とは 臨床推論と助産診断 妊娠期の正常逸脱の早期発見に関する臨床推論と診断技術	・助産診断の概念・定義・特徴 ・妊娠期助産診断の特徴 ・助産診断への臨床推論の応用	看実
第2回	令和8年12月7日(月)	4	土川 立岡	助産診断と助産実践の過程 助産診断と実践課程への方向性	・助産診断の書き方 ・経過診断と時期診断 ・健康生活診断	看実
第3回	令和8年12月7日(月)	5	土川 立岡 南泊	妊娠期の助産診断と技術 助産師が主導で管理できる対象者の理解と助産業務ガイドライン	・妊娠初期の助産診断の焦点 ・妊娠中期の助産診断の焦点 ・妊娠後期の助産診断の焦点	看実
第4回	令和8年12月8日(火)	5	南 土川 泊	妊娠期の助産診断と技術(内診)	・内診の目的 ・内診のタイミング ・内診所見にもとづく妊娠経過のアセスメント	看実
第5回	令和8年12月10日(木)	5	土川	胎児の回旋	・胎位、胎向、胎勢の助産診断技術 ・児頭の回旋の助産診断 ・骨盤の形態と解剖 ・児頭の下降の機序と評価	看実
第6回	令和8年12月11日(金)	1	喜多 泊	妊娠期の助産診断と技術 (細胞診 超音波検査)	・経膈超音波検査 ・妊娠初期の細胞診検査	看実
第7回	令和8年12月11日(金)	2	〃	妊娠期の助産診断と技術 (細胞診 超音波検査)	・超音波診断について ・胎児の大きさと位置 ・羊水量・胎盤の位置 ・骨の形成状態 ・胎児奇形の診断	看実
第8回	令和8年12月11日(金)	3	南 立岡	妊娠期のマイナートラブルの助産診断	・消化器系、腎機能、泌尿器系、皮膚、筋、骨格のアセスメントの視点と助産診断	看実
第9回	令和8年12月14日(月)	1	立岡 喜多	分娩期の経過診断 助産師主導で管理できる対象者の理解と助産業務ガイドライン	・分娩時リスク診断 ・連携する産科医師との協働管理する症例の理解 ・産科医療補償制度における再発防止の視点と分娩リスクの診断	看実
第10回	令和8年12月17日(木)	4	土川	胎児の回旋異常	・胎位、胎向、胎勢の助産診断技術 ・児頭の回旋の助産診断 ・骨盤の形態と解剖 ・児頭の下降の機序と評価	看実
第11回	令和8年12月18日(金)	2	立岡 南泊 中村 田中	分娩期の経過診断と記録	・パルトグラムを用いた分娩経過予測 ・正常逸脱を回避できる助産技術の理解	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第12回	令和8年12月21日(月)	1	立岡 南 土川 泊 中村 田中	分娩期の経過診断と技術 (外診、内診、視診、触診)	・臨床推論に基づく分娩期経過診断 と正常性への理解	看実
第13回	令和8年12月21日(月)	2	南 土川 泊 中村 田中	分娩期の経過診断と技術 (外診、内診、視診、触診)	・臨床推論に基づく分娩期経過診断 と正常性への理解	看実
第14回	令和8年12月22日(火)	4	土川	出生直後の新生児の助産診断 (分娩外傷含む)	・新生児期の助産診断の特徴 ・新生児期の経過診断・健康生活診 断 ・出生直後から生後24時間の新生児 の助産診断 ・分娩外傷	看実
第15回	令和8年12月22日(火)	5	喜多 中村	会陰縫合術	・会陰裂傷の分類と縫合 ・持針器の扱い方 ・縫合 マットレス縫合 連続縫合	看実
第16回	令和9年2月8日(月)	2	立岡	試験(10:30~12:00)		看実
第17回	令和9年2月18日(木)	2	々	再試験(10:30~12:00)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、技術演習、事例演習、グループワーク、発表
なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

定期試験85%

- －学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- －単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
- －正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

受講態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為(不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など)－5点とする。

8 テキスト

北川真理子他：今日の助産(改定4版)；マタニティサイクルの助産診断・実践課程、南江堂、2020。

立岡弓子編著：周産期ケアマニュアル 第4版、サイオ出版、2026。

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス、日総研出版、2013。

公益社団法人日本助産師会；助産業務ガイドライン2019、日本助産師会出版

公益社団法人日本助産師会；乳腺炎ケアガイドライン2020、日本助産師会出版

9 オフィスアワー(授業相談)

適宜、質問をお受けいたします。

10 学生へのメッセージ

助産師の立場で行う臨床診断、そしてこれに基づく助産技術(助産ケアの実践)は、助産師の専門性を維持する上で最も重要な部分です。責任をもって正常範囲内にある母子のケアに当たることができるよう、また正常からの逸脱を的確に判断できるよう、臨床実習を前にしっかりと学んでください。講義以外の授業形式もありますので、積極的な参加を望みます。

11 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

助産診断・技術学Ⅱ

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。
 - ①分娩期・産褥期および新生児期にある正常経過をたどる対象への助産診断・技術について理解し、実践に応用できる素養を養う。
 - ②助産師が取り扱う正常分娩の分娩介助技術について、分娩第1期から4期までの基本原理とスキルが習得できる。
 - ③分娩期に特化した助産行為の安全性をふまえた、正しい技術の修得ができる。
- 2) 本講義に関するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム
 - DP1 プロフェッショナリズム
 - ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
 - DP2. 看護学の知識と技術
臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
 - ①人体の構造と機能 ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 - ⑩健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
 - DP3. 課題対応能力と看護実践能力
 - ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
 - ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
 - ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
 - ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
 - ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。
 - DP4. コミュニケーションと多職種連携
 - ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
 - ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
 - ⑤医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

- ・正常分娩の分娩介助技術について、清潔操作や分娩室の環境整備から、胎児娩出、胎盤娩出、分娩後2時間までの母子管理といった一連の助産診断・技術について教授する。
- ・具体的事例を通して、授業での学びが臨床での判断やケアと深く結びついていることを学習する。
- ・参加型演習を通して、対象の正常経過を維持・増進し、正常からの逸脱を予防するための具体的ケアについて学習する。
- ・分娩介助技術の基本原則と手技を学習する。

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

- ・各回の演習までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと
- ・演習後、自己学習をしてください (演習回数15回×45分程度)
- ・分娩介助技術は実習室の使用予約をし、教員に確認してから自己学習をすること

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、妊娠期から産褥期にかけての骨盤形態の変化とマイナートラブルについての研究に取り組んでいる。この妊娠期からの変化が分娩期にどのように影響するかなどを講義内容に反映し、分娩介助技術の習得に向けての理解促進につなげていく。

5 授 業 内 容

助産師が行う分娩期のケアの基本や分娩介助にかかわる基本的な助産技術、ケア技術、助産師の態度について学習する。適宜、臨床推論や能動的学習方法を取り入れる。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年12月23日(水)	3	土 川	胎児酸素化の評価(臍帯血・経皮的動脈血酸素飽和度)	・臍帯血の採取・評価 ・早期母子接触時の新生児のアセスメント	看実
第2回	令和9年1月5日(火)	2	土 川 南 泊 中 村 田 中	正常分娩の助産行為	・分娩介助デモンストレーション ・臨床推論を取り入れた分娩症例の展開	看実
第3回	令和9年1月5日(火)	3	南 土 川 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その1	・分娩室の整備・薬品の管理、清潔物品の準備、清潔野作成	看実
第4回	令和9年1月5日(火)	4	〃	分娩介助技術その1	・分娩室の整備・薬品の管理、清潔物品の準備、清潔野作成	看実
第5回	令和9年1月6日(水)	2	土 川 南 泊 中 村 田 中	分娩介助技術	・分娩期事例グループワーク	看実
第6回	令和9年1月7日(木)	1	立 岡 土 川 南 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その2	・肛門保護と会陰保護、児娩出	看実
第7回	令和9年1月7日(木)	4	土 川 南 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その3	・臍帯血採取、臍帯切断、胎盤の娩出、創部観察	看実
第8回	令和9年1月12日(火)	2	南 土 川 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その4	・分娩後2時間までの観察(子宮復古の観察、母体の一般状態、膀胱充満の観察) ・居室の助産診断	看実
第9回	令和9年1月12日(火)	3	土 川 南 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その5	・分娩後2時間までのケア(更衣、清拭、悪露交換、早期母子接触)	看実
第10回	令和9年1月12日(火)	4	南 土 川 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その6	・人工破膜、導尿、胎盤計測、出血量計測、分娩2時間までのケア	看実
第11回	令和9年1月13日(水)	3	〃	分娩介助技術その7	・出生直後の新生児ケア(NCPR一連、新生児介助)	看実
第12回	令和9年1月13日(水)	4	土 川 南 泊 中 村 田 中	分娩介助技術その8	・出生直後の新生児ケア(バイタルサイン測定、四計測、保温、清拭、臍帯処置) ・出生直後の新生児の観察(頭部、顔貌、躯幹、四肢、皮膚色、原始反射)	看実
第13回	令和9年1月15日(金)	2	〃	分娩介助技術その9	・正常分娩事例の総括(清潔野作成から創部観察までのケア)	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第14回	令和9年1月22日(金)	2	土川南泊 中村中	分娩介助技術総括	・分娩期事例発表	看実
第15回	令和9年1月28日(木)	2	立岡土川 南泊中村中	分娩介助技術総括	・分娩介助技術練習	看実
第16回	令和9年2月8日(月)	3	土川南泊 立岡中村中	試験(13:00~14:30)	日本助産機構によるCBT試験を実施とする	看実
第17回	令和9年2月18日(木)	3	土川	再試験(13:00~14:30)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、技術演習、事例演習

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

技術試験50%およびCBT試験40%、事例の看護展開・保健指導案作成のグループワーク・プレゼンテーション10%、

- 学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- 単位修得の条件として、CBT試験で70%以上をとる必要がある。再試験はCBT試験を1回に限り実施する。
- 全回出席が定期試験の受験資格とする。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

②形成的評価

講義・演習内容について、都度のフィードバックを実施する。

分娩期事例の助産診断に対し、都度教員からフィードバックを実施する。

③態度評価

技術演習態度・提出物10%により評価する。

授業前の準備状態、自主練習などから学習意欲が高いと判断した場合、平常点評価に加味する。

- グループワーク・プレゼンテーションに関する評価として学生相互評価を行う。
- 無断欠席 - 5点、不適切な行為(不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など) - 5点とする。

8 テキスト

北川眞理子他：今日の助産(改定4版)；マタニティサイクルの助産診断・実践課程、南江堂、2020。

立岡弓子編著：周産期ケアマニュアル 第3版、サイオ出版、2020。

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス、日総研出版、2013。

公益社団法人日本助産師会；助産業務ガイドライン2024、日本助産師会出版

公益社団法人日本助産師会；乳腺炎ケアガイドライン2020、日本助産師会出版

9 オフィスアワー(授業相談)

適宜、質問をお受けいたします。

技術の自主練習をしたい場合は教員に声をかけてください。

10 学生へのメッセージ

助産師の立場で行う臨床診断、そしてこれに基づく助産技術(助産ケアの実践)は、助産師の専門性を維持する上で最も重要な部分です。責任をもって正常範囲内にある母子のケアに当たることができるよう、また正常からの逸脱を的確に判断できるよう、臨床実習を前にしっかりと学んでください。講義以外の授業形式もありますので、積極的な参加を望みます。

11 授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

大学病院産婦人科病棟にて臨床経験11年の助産師

周産期病態学 I

1 担当教員名

教授 喜多伸幸 (実践看護学講座 (クリティカルケア学))
講師(学内) 桂大輔 (母子診療科)

2 配当学年等

第3学年 前期前半 1単位

3 学修目標

①関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。
助産診断に基づく助産ケアの実践と分娩介助等の周産期医療において助産師に求められる能力を身につけ、さらにウィメンズヘルスの支援をすることができる。

1. 周産期における正常妊娠から逸脱した疾患の要因および病態について理解を深める。
2. 周産期におけるハイリスク妊娠の病態について理解できる。
3. 胎児機能不全の要因・病態の理解と母児管理ならびに助産ケアについて学ぶ。
4. 異常妊娠の臨床推論を実施できる。

②本講義に係るディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践

4 授業概要

1. 妊娠期の異常に関して、病態と生理的機序について講義形式にて学習を展開する。
2. 検討・議論を取り入れながら、時系列ごとに助産診断が行えるように参加型形式にて学習を行う。
3. 過去の国家試験問題を開設することにより、さらに病態の理解を深める。

担当教員は周産期医療を専門とし、多くの基礎・臨床研究に携わっている。そのため、本講義で提示する各種疾患に対して病態生理学的視点に立ち、包括的に解説することが出来る。

なお、1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

1. ハイリスク妊娠の生理学・解剖学・組織学的側面を理解する。
2. ハイリスク妊娠経過における病態を根拠に、助産診断過程を立案し、助産目標・助産ケアについて学習する。併せて臨床推論を実施する。
3. 胎児機能不全に関する講義、事例を用いたアセスメントを実施する。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	5	喜多	異常妊娠その1	異所性妊娠 流産 妊娠悪阻	看1
第2回	令和8年4月17日(金)	5	〃	異常妊娠その2	早産 切迫早産	看1
第3回	令和8年4月24日(金)	5	〃	異常妊娠その3	妊娠高血圧症候群	看1
第4回	令和8年5月1日(金)	5	桂	異常妊娠その4	胎盤の異常	看1
第5回	令和8年5月15日(金)	5	喜多	異常妊娠その5	妊娠中の糖代謝異常	看1
第6回	令和8年5月22日(金)	5	〃	異常妊娠その6	多胎妊娠 羊水の異常	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第7回	令和8年5月29日(金)	5	喜多	異常妊娠その7	胎児発育異常	看1
第8回	令和8年6月5日(金)	5	〃	異常妊娠その8	胎児機能評価 心拍数モニタリング エコー	看1
第9回	令和8年7月31日(金)	3	〃	試験(13:30~15:00)		看1
第10回	令和8年8月14日(金)	3	〃	再試験(13:30~15:00)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、演習

7 評価方法

①包括的評価

- ・定期試験(90%)：試験範囲は講義・演習全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
- ・平常点(10%)：授業での発言状況・質疑応答の内容、課題の提出状況並びにその内容
- ・定期試験、中間試験、平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

全回出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

8 テキスト

荒木勉：最新産科学，正常編 異常編 文光堂，2008.

北川真理子他編：今日の助産，南江堂

立岡弓子編：周産期ケアマニュアル、サイオ出版

9 参考文献

医療情報科学研究所編：病が見えるVol.10産科，メディックメディア

日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修 産婦人科診療ガイドライン2020.

日本産科婦人科学会編：胎盤の見方 (Webからダウンロードできます)

10 オフィスアワー(授業相談)

辻毎週水曜日 14:00~16:30 メール等により事前にアポイントをとること。

11 主担当教員の実務経験

産婦人科医師

周産期病態学Ⅱ

1 担当教員名

教授 喜多伸幸 (実践看護学講座 (クリティカルケア学))

2 配当学年等

第3学年 前期後半 1単位

3 学修目標

①関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では、以下を学修目標とする。

助産診断に基づく助産ケアの実践と分娩介助等の周産期医療において助産師に求められる能力を身につけ、さらにウィメンズヘルスの支援をすることができる。

1. 妊娠期・分娩期の合併症妊娠などの偶発事例を通して、助産ケアを学ぶ。
2. 周産期における基礎的薬理学を理解し、その助産ケアについて学ぶ。
3. 周産期に発症する合併症への理解を深め、さらに薬理学的作用から母体や胎児への影響ならびに妊娠・分娩への影響について理解できる

②本講義に関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

1. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
2. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践

4 授業概要

1. 妊娠期・分娩期の合併症妊娠などの偶発事例の助産診断・助産ケアを教授する。
2. 周産期における基礎的薬理学を理解し、その助産診断・助産ケアを教授する。

担当教員は周産期医療を専門とし、多くの基礎・臨床研究に携わっている。そのため、本講義で提示する各種疾患に対して病態生理学的視点に立ち、包括的に解説することが出来る。

なお、1コマの授業に対して、30分の予習と60分の復習を日常的に行い、休日などを利用して、さらに1コマ当たり90分の復習が望まれる。

5 授業内容

1. 周産期における薬理学の講義、事例を用いたアセスメントを実施する。
2. 妊娠合併症に関する病態を理解し、妊娠・分娩・産褥経過への影響、胎児発育への影響について学習する。
3. 妊娠期・分娩期のハイリスク事例のアセスメントと必要なケアを講義形式

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年6月12日(金)	4	喜多	合併症妊娠その1	心疾患 内分泌疾患 膠原病	看1
第2回	令和8年6月12日(金)	5	〃	合併症妊娠その2	感染症 TOACH症候群	看1
第3回	令和8年6月19日(金)	5	〃	産科出血	産科DIC	看1
第4回	令和8年6月26日(金)	5	〃	新生児の異常	低出生体重児 呼吸障害 循環障害 黄疸	看1

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第5回	令和8年7月3日(金)	5	喜多	分娩誘発・促進	頸管拡張法(機械的・薬剤) ガイドラインに準拠した 子宮収縮剤の適正使用	看1
第6回	令和8年7月10日(金)	5	〃	産褥期の異常	子宮復古不全 産褥晩期出血 産褥熱 産褥血栓塞栓症 尿路疾患など	看1
第7回	令和8年7月17日(金)	5	〃	周産期の メンタルヘルスケア	産褥精神障害	看1
第8回	令和8年7月24日(金)	5	〃	周産期の薬理学	分娩誘発・促進剤 止血薬 降圧薬 抗菌薬	看1
第9回	令和8年7月31日(金)	4	〃	試験(15:30~17:00)		看1
第10回	令和8年8月14日(金)	4	〃	再試験(15:30~17:00)		看1

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義形式

7 評価方法

①包括的評価

- ・定期試験(90%)：試験範囲は講義・演習全範囲とし、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
- ・平常点(10%)：授業での発言状況・質疑応答の内容、課題の提出状況並びにその内容
- ・定期試験、中間試験、平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

- ・授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

- ・授業での発言等の参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

全回出席を前提とする。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡すること。

8 テキスト

山本あい子他編：助産師基礎教育テキスト1～7。日本看護協会出版会, 2015.

9 参考文献

- 北川真理子他編：今日の助産。第3版, 南江堂, 2020.
産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020
公益社団法人日本助産師会：助産業務ガイドライン産科編, 2019.
荒木勤著：最新産科学 正常編・異常編 改定第22版, 南江堂。

10 学生へのメッセージ

病態についての理解を深めた後、事例を通して助産ケアの実際について学びます。助産学実習が安全に行う事が出来る知識を習得します。

11 主担当教員の実務経験

医師

ウィメンズヘルス実践論

1 担当教員名

准教授	土川 祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多 伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
教授	立岡 弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南 良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村 麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊 和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中 もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。
- 2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム
 - DP1 プロフェッショナリズム
 1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
 - DP2. 看護学の知識と技術
 - 臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
 1. 人体の構造と機能 3. 健康支援と社会保障制度
 6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 11. 心のケアが必要な人々への看護実践
 - DP3 課題対応能力と看護実践能力
 1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
 2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
 3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる
 - DP4 コミュニケーションと多職種連携
 1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
 2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
 3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
1. 女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツと生涯発達理論の視点と生理学的所見から捉え、ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について助産学に必要な諸理論とジェンダーの概念を含めて理解を深め、助産師としての支援のあり方について学修する。
2. 女性の健康に関する健康課題に対し、必要な看護方略と実践について学修する。
3. プレコンセプションケアの概念を理解し、対象の特性を理解した健康講座を企画・運営・実践することができる。
4. 国内外の女性への暴力被害の実態、フィジカルアセスメントについて理解できる。

4 授業概要

女性を生涯発達理論から理解し、思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の今日的健康課題を取り上げ、看護実践の質的向上のために、心身の両面からアセスメントできる能力を養い、高度な看護実践方略について考えることができることを、ねらいとした授業である。

受講にあたり、看護2回生時のウィメンズヘルス学の内容を復習しておくことが必要です。

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと (講義回数: 8回×30分程度)、また講義後自己にて復習しておいてください (講義回数: 8回×60分程度)。

事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、ウイメンズヘルス学についてメルボルン大学のウイメンズヘルスコース、ウイメンズヘルスホスピタルで学び、教科書を執筆するなど広く学術活動を担ってきた。特に、思春期の性教育活動には積極的に参画し、実践報告を学会にて発表している。

5 授 業 内 容

ウイメンズヘルスの包括的目標や包括的性教育、国際セクシャリティーガイダンスの内容をもとに、女性への健康支援の在り方について、助産師の臨床実践で必要となる知識・技術の修得の基礎を教授する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年12月7日(月)	3	土 川	ウイメンズヘルスケア セクシャルヘルス	新しい女性の健康の枠組み ウイメンズヘルスケアのポイント 家族計画への理解 避妊法 セクシャル カウンセリングの実際	看実
第2回	令和8年12月8日(火)	3	立 岡 土 川	思春期女性のケア	プレコンセプションケアとは リプロダクティブライフプラン 健康問題を抱えている女性のプレコンセ プションケア	看実
第3回	令和8年12月8日(火)	4	立 岡	思春期教育への理解	包括的性教育 日本の性教育の考え方 包括的性教育のキーコンセプト 包括的性教育とプレコンセプションケア との関係	看実
第4回	令和8年12月10日(木)	3	土 川	性科学の概念 性の多様性	セクシャリティーの歴史と概念の拡大 ジェンダー 性行動とライフスタイル 性の判定 多様な性と医療と健康支援 多様な性の在り方と法制度 LGBTQと家族形成支援	看実
第5回	令和8年12月10日(木)	4	喜 多 泊 村 中 田 中	思春期女性へのフィジカル アセスメント	月経の特徴 性周期による生殖器へのフィジカルア セスメントの実際	看実
第6回	令和8年12月15日(火)	3	喜 多 中 村	性感染症とヘルスプロモー ション	性感染症のフィジカルアセスメントの 実際	看実
第7回	令和8年12月15日(火)	4	喜 多	女性ホルモンの理解と生殖 補助医療	不妊症に対する治療方法	看実
第8回	令和8年12月17日(木)	3	喜 多 中 村	リプロダクティブヘルス・ ライツ	人工妊娠中絶術の実際 人工妊娠中絶の法的根拠と医療介入	看実
第9回	令和8年12月18日(金)	3	立 岡	性暴力被害女性への理解	被害女性へのフィジカルアセスメント 証拠採取 多職種連携のシステムへの理解 心のケア	看実
第10回	令和8年12月18日(金)	4	喜 多 中 村	女性とがん	子宮頸がん検診の実際	看実
第11回	令和8年12月21日(月)	3	梅田朋子 中村	女性と乳腺の異常	乳腺の理解 乳がん検診方法の実際	看実
第12回	令和8年12月21日(月)	4	立 岡 土 川 南 泊 中 村 田 中	思春期教育の実際その1	健康講座の企画案の立案	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第13回	令和8年12月22日(火)	3	立岡 喜多 土川	更年期・老年期女性のフィ ジカルアセスメント	更年期症状 尿失禁 骨盤内臓器脱への対応の実際 更年期女性への心のケア	看実
第14回	令和9年1月6日(水)	2	立岡 土川 南泊 中村 田中	思春期教育の実際その2	健康教育企画案の発表	看実
第15回	令和9年1月12日(火)	1	〃	思春期教育の実際その3	健康講座の実施	看実
第16回	令和9年2月10日(水)	3	土川	定期試験(13:00~14:30)		看実
第17回	令和9年2月17日(水)	3	〃	再試験(13:00~14:30)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

導入として講義も行うが、シミュレーション教育、能動的学習形式で行います。

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

定期試験50%

- 学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- 単位修得の条件として、定期試験で60% (30点) 以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
- 高等学校への性教育の企画・運営への積極的な参加姿勢についても評価とする。
- 正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

受講態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席-5点、不適切な行為(不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など)-5点とする。

8 テキスト

吉沢豊予子編；助産師基礎教育テキスト第2巻、医学書院、2024.

9 テキストISBN番号

978-4-8180-2612-4

10 オフィスアワー(授業相談)

いつでも助産教員にお声がけください。

11 学生へのメッセージ

女性への健康について、実践を交えて多くの経験ができる内容を企画しています。たくさんのウイメンズヘルスの内容を学習していきましょう。

12 主担当教員の実務経験

2016年~2022年 土川助産院を開業していました。

総合周産期母子医療センターで、臨床助産師の経験が11年あります。

助産マネジメント学

1 担当教員名

教授 立岡 弓子 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
准教授 土川 祥 (実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第3学年 前期後半 1単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。
 1. 助産管理の基本理念、業務管理について理解できる。
 2. 助産業務と医療経済について理解できる。
 3. 助産師の法的責任と義務について理解できる。
 4. 助産に関する医療安全と危機管理、災害対策、医療事故について理解できる。
- 2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム
 - DP1 プロフェッショナリズム
 1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
 - DP2. 看護学の知識と技術
臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
 1. 人体の構造と機能 2. 疾病の成立と回復の促進 3. 健康支援と社会保障制度
 6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 - DP3. 課題対応能力と看護実践能力
 - ① 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
 - ② アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
 - ③ 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
 - ④ 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
 - ⑤ 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。
 - DP4. コミュニケーションと多職種連携
 - ① 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
 - ② 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
 - ③ 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
 - ④ 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
 - DP5. 地域医療への貢献
 1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。

4 授業概要

- ・助産業務における管理の基本理念を踏まえ、妊産婦と家族を中心とした助産ケアが提供されるための管理のあり方を学習する。
- ・助産業務のために必要な法律、医療経済と運営について学習する。
- ・周産期医療において起こりうる医療事故を概観し、リスクマネジメントのあり方について学習する。
- ・妊婦の外傷、死体検案など母児の安全を保障するための助産マネジメントに関して事例をもとに学習する。
- ・院内助産、院内助産院、助産所の開業における法的責務や業務管理と責任の範囲、医療機関との連携について学習する。

準備/事後学修に必要な時間目安 (教室外学修)

- ・各回の講義までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと
- ・講義終了後、自己学習をしてください (講義回数15回×45分程度)

事前・事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までに授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてミニツツペーパーによるコメントが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、妊娠期から産褥期にかけての身体的変化・心理的变化に関する研究に取り組んでいる。この周産期にある女性への助産ケアを支えるための助産管理の視点について、具体例を提示し、理解促進につなげていく。

5 授 業 内 容

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月10日(金)	4	土 川	助産管理の基本と 助産業務管理の過程 助産業務管理と医療経済	・助産管理と業務管理 ・目標管理、組織管理の実践プロセス ・業務計画の策定と評価 ・助産業務と診療報酬 ・分娩費用 ・健康診査にかかわる費用	看実
第2回	令和8年4月17日(金)	4	〃	病棟における 助産業務管理	・周産期棟・混合病棟の管理 ・看護体制 ・業務の質管理	看実
第3回	令和8年4月24日(金)	4	〃	助産に関する 医療安全と危機管理 災害対策	・安全対策と医療事故防止 ・平時の災害時の分娩施設の体制 ・妊産婦・母子・女性への災害に対する教育 ・ロールプレイ(スクラブで参加)	看実
第4回	令和8年5月1日(金)	4	〃	助産所における 助産業務管理	・助産所の管理・運営 ・助産所の特徴と医療機関との連携 (ガイドラインの概要) ・助産所の管理に関する法規	看実
第5回	令和8年5月15日(金)	4	〃	関連法規と助産師の 義務・責任 助産師の法的責任と義務	・関連法規 医療法 保助看法 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び 安全性の確保等に関する法律など	看実
第6回	令和8年5月22日(金)	4	土 川 中 野 看護師長	院内助産・院内助産院の 管理	・システムの定義 ・院内助産院の業務管理 ・院内助産院の体制 ・助産師外来の管理	看実
第7回	令和8年5月29日(金)	4	土 川	助産所の開設に関する グループワーク		看実
第8回	令和8年6月5日(金)	4	〃	助産所の開設に関する グループ発表		看実
第9回	令和8年8月3日(月)	3	〃	試験 (13:30~15:00)		看実
第10回	令和8年8月13日(木)	2	〃	再試験 (11:00~12:30)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義、演習

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評 価 方 法

①総括的評価

定期試験60%、グループワーク・プレゼンテーション20%

ー学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。

ー単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

技術演習態度10%、提出物10%により評価する。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

ーグループワーク・プレゼンテーションに関する評価として学生相互評価を行う。

ー無断欠席ー5点、不適切な行為(不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など)ー5点とする。

8 テキスト

我部山キヨ子編；助産学講座 助産管理. 医学書院. 2023

9 オフィスアワー（授業相談）

質問がある場合は、随時メールにてアポイントを取ること

10 授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

2016年～2022年 土川助産院を開業していました。
大学病院産婦人科病棟にて助産師としての実務経験が11年あります。

地域医療展開論

1 担当教員名

教授	辻村	真由子	(地域看護学講座 (訪問看護学))
教授	伊藤	美樹子	(地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教	白片	匠	(地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教	田和	なつ美	(地域看護学講座 (訪問看護学))

2 配当学年等

第3学年・医学部看護学科 ～ 医学部看護学科 後期前半 1単位

3 学修目標

- 1 地域医療が必要とされる社会的背景および在宅療養者の自立・自律を支援する制度について理解する。
- 2 訪問看護ステーションの経営管理の実際について理解する。
- 3 個人・家族・地域のニーズに対応する訪問看護の多機能化のあり方について考察を深める。
- 4 在宅療養者のニーズに対応、地域の医療資源が有機的に機能するための多職種・多機関の協働・連携のあり方について考察を深める。
- 5 以上の学びを踏まえて、地域医療の展開において求められる看護の役割と専門性を説明できる。

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

- DP1. プロフェッショナリズム
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- DP2. 看護学の知識と技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
 8. 成人期にある人々に対する看護実践
 12. 地域包括ケアに関する看護実践
- DP5. 地域医療への貢献
1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
 2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
 3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
- DP7. 情報・科学技術の活用
2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

地域医療が必要とされる社会的な背景、今日的な社会制度の現状を踏まえて、在宅療養者（療養児）ならびに地域のニーズに対応する訪問看護活動と訪問看護ステーションの経営管理、ならびに他職種との協働、連携を通じた地域の課題解決や地域医療の提供のあり方を学ぶ。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

授業は講義、個人ワーク、グループワークで構成する。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月7日(月)	4	辻村 田和 伊藤 白片 訪問看護 ステーション 管理者	オリエンテーションを実施する。訪問看護ステーションの経営管理	オリエンテーション、訪問看護ステーションの経営管理と多機能化の実例について講義を行う。	看3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第2回	令和8年12月8日(火)	2	伊藤 白 藤村 和	難病患者の病期に応じた支援1	難病事例を用いて個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開方法についてグループワークを行う。	MMC演 MMCブ
第3回	令和8年12月8日(火)	3	〃	難病患者の病期に応じた支援2	難病患者の病期に応じた支援1で確認できたことを踏まえて、難病の疾病史(進行)を踏まえて、変化する療養上のニーズについて確認する。	MMC演 MMCブ
第4回	令和8年12月8日(火)	4	〃	難病患者の病期に応じた支援3	グループワークの成果を発表し、病期に応じた個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開に必要な知識と実際について理解を深める。	MMC演 MMCブ
第5回	令和8年12月14日(月)	2	辻村 和 伊藤 白	地域における医療的ケア児の支援1	医療的ケア児の事例を用いて個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開方法についてグループワークを行う。	MMC演 MMCブ
第6回	令和8年12月14日(月)	3	〃	地域における医療的ケア児の支援2	医療的ケア児の事例を用いて個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開方法についてグループワークを行う。	MMC演 MMCブ
第7回	令和8年12月14日(月)	4	〃	地域における医療的ケア児の支援3	グループワークの成果を発表し、病期に応じた個別支援計画の立案とその支援を実施するための地域医療の展開に必要な知識と実際について理解を深める。	MMC演 MMCブ
第8回	令和8年12月15日(火)	2	辻村 和 伊藤 白	まとめ	難病事例および医療的ケア児の事例を振り返り、地域医療の展開において求められる看護の役割と専門性について考察する。	MMC演 MMCブ

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実践者の話を交えながら、地域医療の現状と課題、その解決策について創造的に考えを深められるようにする。スライドを使用する。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

最終レポート(30%)、平常点(小レポート、グループワークレポート)(70%)の評価によって判定する。最終レポートと平常点の合計が60点以上を合格とする。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

・授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 テキスト

授業中に紹介する。

9 オフィスアワー(授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者(辻村: hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp, 伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp)までポイントをとってください。

10 授業用E-mail

hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

地域医療展開論演習

1 担当教員名

教授	辻村 真由子	(地域看護学講座 (訪問看護学))	非常勤講師
助教	田和 なつ美	(地域看護学講座 (訪問看護学))	清水 奈穂美 (佛教大学看護学部看護学科 准教授)
			津田 知子 (淡海ふれあい病院訪問看護ステーション 所長)

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

- 1 模擬事例として提示された在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開できる。
- 2 訪問看護が必要とされる基本的な看護技術をシミュレーターを用いて実施できる。
- 3 シミュレーションを通じて、在宅療養者の意思尊重と自立・自律を促す支援を实践できる。
- 4 滋賀県および滋賀県における訪問看護について説明できる。

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。

DP2. 看護学の知識と技術

7. 小児期にある人々に対する看護実践
8. 成人期にある人々に対する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を实践できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。

DP5. 地域医療への貢献

地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

DP7. 情報・科学技術の活用

2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

模擬事例の展開を通して在宅看護で必要とされる看護技術と看護活動を展開するための思考過程を修得する。

【準備学修・事後学修について】

- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。
- ・復習によって理解が不足している内容については科目担当者に質問や確認をしてください。

5 授業内容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年12月7日(月)	1	辻村 田和 清水	臨床推論1	訪問看護における臨床推論	看実
第2回	令和8年12月7日(月)	2	〃	臨床推論2	訪問看護における臨床推論	看実
第3回	令和8年12月7日(月)	3	辻村 田和	滋賀県と滋賀県における訪問看護	滋賀県と滋賀県における訪問看護ステーションの現状	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第4回	令和8年12月9日(水)	1	辻村田和皮膚排泄ケア認定看護師	訪問看護で必要とされる基本的な看護技術1	褥瘡	看実
第5回	令和8年12月9日(水)	2	〃	訪問看護で必要とされる基本的な看護技術2	ストーマ	看実
第6回	令和8年12月16日(水)	3	辻村田和	模擬事例を対象としたシミュレーション学習の準備1	模擬事例に対する看護計画の立案、手順書作成(事例1)	看実
第7回	令和8年12月16日(水)	4	〃	模擬事例を対象としたシミュレーション学習の準備2	模擬事例に対する看護計画の立案、手順書作成(事例1)	看実
第8回	令和9年1月6日(水)	1	〃	模擬事例を対象としたシミュレーション学習の準備3	模擬事例に対する看護計画の立案、手順書作成(事例2)	看実
第9回	令和9年1月6日(水)	2	〃	模擬事例を対象としたシミュレーション学習の準備4	模擬事例に対する看護計画の立案、手順書作成(事例2)	看実
第10回	令和9年1月21日(木)	1	辻村田和	【9:45集合】模擬事例を対象としたシミュレーション学習1 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	
第11回	令和9年1月21日(木)	2	〃	模擬事例を対象としたシミュレーション学習2 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	
第12回	令和9年1月21日(木)	3	〃	【15時頃まで】模擬事例を対象としたシミュレーション学習3 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	
第13回	令和9年1月22日(金)	1	〃	【9:45集合】模擬事例を対象としたシミュレーション学習4 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	
第14回	令和9年1月22日(金)	2	〃	模擬事例を対象としたシミュレーション学習5 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	
第15回	令和9年1月22日(金)	3	〃	【15時頃まで】模擬事例を対象としたシミュレーション学習6 場所:ニプロiMEP	模擬事例を対象としたシミュレーション学習と振り返り	

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義と演習で構成する。なお、上記授業の順番や日程などは、一部変更する場合がある。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

演習目標の到達度(看護計画の立案、手順書作成、シミュレーションの取り組み状況、最終レポート)(90%)、平常点(小レポート)(10%)によって総合的に評価する。

②形成的評価

授業で提示する課題や小レポートについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業での発言等の参加態度から学習意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

8 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集:看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める, 南江堂, 2024.
- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集:看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える, 南江堂, 2024.
- ・本田彰子、正野逸子編著:関連図で理解する在宅看護過程, 第2版, メヂカルフレンド社, 2018.
- ・河野あゆみ編集:強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 第2版+総合的機能関連図, 医学書院, 2023.

- ・正野逸子/本田彰子編著：在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社，2021.
 - ・清水奈穂美：在宅ケアのための判断力トレーニング 訪問看護師の思考が見える，医学書院，2022.
- その他、授業中に適宜提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

授業時間は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10 授業用E-mail

hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

地域医療展開論実習Ⅰ

1 担当教員名

教授 辻村 真由子（地域看護学講座（訪問看護学））
助教 田和 なつ美（地域看護学講座（訪問看護学））

2 配当学年等

第3学年 後期 1単位

3 学修目標

- 1 入院支援から退院支援の実際を見学し、院内の入退院支援システムについて説明 できる。
- 2 入退院支援における入院前スクリーニング、病棟における退院支援スクリーニング、退院支援計画書、退院調整、退院前カンファレンスの一連の流れについて説明できる。
- 3 退院調整看護師や病棟看護師の活動を見学し、在宅療養移行期の看護師の役割を 考察できる。
- 4 退院前カンファレンス（病棟・地域との合同）への参加を通して、退院後の生活を支える院内外のケアチームの活動の実際について述べるができる。
- 5 退院を支援する退院調整看護師、病棟看護師、訪問看護師の活動を通して、院内外の看－看連携について述べるができる。

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

医療機関から在宅への療養場所の移行に係る関連機関の円滑な連携の実際について、退院支援部門の看護師の活動に同行することを通して、退院支援部門の役割を理解するとともに、退院に向けて病棟看護師に求められる患者支援の実際や看看連携および多職種連携の実際について学ぶ。

5 授業内容

詳細は実習要項参照。滋賀医科大学医学部附属病院で実習予定。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって統合的に評価する。
原則として、欠席や遅刻は認めない。

②形成的評価

実習中に提出する記録類の内容、カンファレンスでの発言等についてはその都度フィードバックを行う。

③態度評価

カンファレンスでの発言など、実習への参加態度等から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は受講態度に加味、実習生として対応しにくい態度の学生は受講態度から減じることがある。

8 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める，南江堂，2024.
- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える，南江堂，2024.
- ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き.
その他、授業中に適宜提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

授業時間は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10 学生へのメッセージ

自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。

11 授業用E-mail

hqhomon@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

第4学年

法 医 看 護 学

1 担当教員名

教授	一 杉 正 仁	(社会医学講座 (法医学部門))	非常勤講師
教授	立 岡 弓 子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))	駒 井 和 子 (訪問看護ステーションさと水口 総括所長)
准教授	中 村 磨 美	(社会医学講座 (法医学部門))	
助教	高 相 真 鈴	(社会医学講座 (法医学部門))	

2 配当学年等

第4学年 後期 1単位

3 学 修 目 標

①学修目標

法医学に関する知識をもとに、医療現場で活躍できることを到達目標とする。すなわち、医療チームとして、死の判定、在宅看取り、被虐待者の早期発見と心のケア、大規模災害時などにおけるグリーフケアなどで円滑に行動できるよう基礎的な知識を教授する。

②本講義に係るディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

- DP1. プロフェッショナリズム
- DP2. 看護学の知識と技術
- DP3. 課題対応能力と看護実践能力
- DP4. コミュニケーションと多職種連携
- DP5. 地域医療の貢献

モデル・コア・カリキュラムで特に関連する項目

- GE. 対象を総合的・全人的に捉える基本的能力 (対応するディプロマ・ポリシー: DP1)
- PR. プロフェッショナリズム (対応するディプロマ・ポリシー: DP1)
- SO. 地域社会における健康支援 (対応するディプロマ・ポリシー: DP5)
- QS. ケアの質と安全の管理 (対応するディプロマ・ポリシー: DP3)
- IP. 多職種連携能力 (対応するディプロマ・ポリシー: DP4)
- PS. 専門知識に基づいた問題解決能力 (対応するディプロマ・ポリシー: DP2)

4 授 業 概 要

法医学の専門家から、社会制度や法制度、損傷や死因の診断について解説する。さらに、性暴力対応看護師、訪問看護師、集中治療認定看護師、犯罪被害者支援相談員から、各々の専門分野に基づいた知見を教授する。

各回の講義時までに、講義内容に関連した事項を調べ、頻出する用語を理解する。さらに、講義内容に関連した報道内容に接し、社会問題化していることを学ぶ。また、講義終了後は講義内容を復習し、卒後に看護師として適切に対応できるようイメージトレーニングを行う。

5 授 業 内 容

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月6日(火)	3	一 杉	わが国の死因究明制度	わが国の死因究明制度を理解し、現状の問題点を把握する	看3
第2回	令和8年10月6日(火)	4	一 杉 駒 井	死の判定と在宅看取り	死の判定と在宅看取りをめぐる背景を理解する	看3
第3回	令和8年10月13日(火)	3	一 杉 森 口	救急医療と看護学	救急集中治療医療現場における看護師の役割と実践法を学ぶ	看3
第4回	令和8年10月13日(火)	4	立 岡	性暴力と看護診断	性暴力被害者に対する看護師の役割と実践法を学ぶ	看3
第5回	令和8年10月20日(火)	3	高 相	外因死の現状と予防対策 (大規模災害を含む)	外因死の背景と予防対策を理解するとともに大規模災害における医療者の役割を把握する	看3
第6回	令和8年10月20日(火)	4	中 村	被虐待者へのアプローチ	被虐待児童・高齢者・障がい者の対応における看護師の役割と実践法を学ぶ	看3
第7回	令和8年10月27日(火)	3	一 杉	突然死とグリーフケア	突然死の背景と、グリーフケアの重要性を理解する	看3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第8回	令和8年10月27日(火)	4	一 杉 松 村	犯罪被害者支援センターにおけるケア・予防対策	滋賀県の犯罪被害者支援センターにおいて実践されているケアや予防対策を学ぶ	看3
第9回	令和8年11月10日(火)	3	一 杉	予備日		看3
第10回	令和8年11月10日(火)	4	〃	試験(14:40~16:10)		看3
第11回	令和8年12月15日(火)	3	〃	再試験(13:00~14:30)		看3

6 授業形式・視聴覚機器の活用

各担当者がPCを用いて概説する。本科目は実際に社会で発生していることに基づいた内容である。したがって、現場の状況や死傷者の画像等をもとに講義が行われる。写真撮影および録音・録画は厳禁とする。講義の録画動画のオンデマンド配信は行わない。

7 評価方法

形成的評価は、提示する課題に対して行い、その都度フィードバックする。この内容は総括的評価に含めない。総括的評価であるが、定期試験が85%、出席態度が15%である。総点のうち60%以上を合格とする。

8 テキスト

法医看護学(南山堂)

9 テキストISBN番号

978-4-525-50551-6

10 オフィスアワー(授業相談)

アポイントをとってください。

11 主担当教員の実務経験

一杉：医師、日本法医学会法医指導医・認定医、社会医学系指導医・認定医、おうみ犯罪被害者支援センター副理事長

中村、高相：医師、日本法医学会法医認定医

立岡：アドバンス助産師、保健師、性暴力対応看護師

駒井：滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会会長、訪問看護認定看護師

森口：集中治療認定看護師

松村：おうみ犯罪被害者支援センター副理事長、犯罪被害者支援相談員

看護統合実践特論

1 担当教員名

准教授	山口	亜希子	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
教授	宮松	直美	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
助教	清原	麻衣子	(実践看護学講座 (成人保健看護学))
助手	石川	真	(実践看護学講座 (成人保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 後期 1単位

3 学修目標

学修目標：

これまでに学修した看護技術のブラッシュアップを行い、実践能力の向上を目指す。

また、臨床看護実践におけるジェネラリストとスペシャリストそれぞれの役割について理解し、自身の方向性を考える。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

教育目的：

1. ジェネラリストの役割について学ぶ
2. 専門分野に限らない幅広い分野で求められる基本的な推論、判断、看護技術について学ぶ。
3. スペシャリスト（専門看護師、認定看護師）の役割について学ぶ。
4. 自身が臨床看護師として目指す将来像と卒前卒後の学修課題について考える。

準備学修：

成人保健看護学各論、成人期NCD看護実践論、成人期周術期看護、成人期がん看護実践論の講義資料の該当部分、およびwebclassへ掲載された講義資料を熟読すること。

事後学修：

各授業終了後に課された小レポートもしくは課題レポートを作成すること。
(各回所要時間：90～120分程度)

5 授 業 内 容

臨床看護実践で質の高い看護を持続的に提供し、また日々進歩する医療に即してケアの質を更に向上させるためには、オールラウンダーであるジェネラリストと各専門分野のスペシャリストの連携、さらにはスタッフナースとの協力・連携が重要である。

本科目では、ジェネラリストの教育に従事する臨床教育看護師や、専門分野に精通した専門看護師・認定看護師の講義および演習から、自身が看護基礎教育課程（学部）で修得すべき課題および卒業教育において重視すべき課題を明らかにするとともに、将来の臨床家として目指す方向性を考える。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年10月7日(水)	3	宮 松 山 口	ガイダンス 講義「患者を支える看護の両輪：ジェネラリストとスペシャリスト」	様々な健康障害を抱えて入院・通院する患者へのケアを担う看護師の、ジェネラリストとスペシャリストのそれぞれの役割や重要性について概説する。*事前課題提示（第6回・7回分）	看3
第2回	令和8年10月7日(水)	4	宮 松 山 口 附属病院看護部 看護師	講義「優れたジェネラリストとなるために身につけるべき知識と技術」	ジェネラリストとは「経験と継続教育によって習得した暗黙知に基づき、その場に応じた知識・技術・能力が発揮できる者」と定義されている（日本看護協会）。臨床看護実践で重要な役割を果たすジェネラリストへと成長するために、卒前卒後に修得すべき知識と技術について概説する。	看3
第3回	令和8年10月14日(水)	3	宮 松 山 口 附属病院看護部 認定看護師	講義「認定看護師の役割と発展性」	認定看護師制度の歴史は長く、数多くのエキスパート・ナースを輩出している。認定看護師は教育過程を経て、より高度な臨床推論・臨床判断を行うことで、各領域の臨床看護の向上を実現している。本講義では、自身の認定看護師としての経験から、その専門性および病棟看護師との連携の在り方について教授する。	看3
第4回	令和8年10月14日(水)	4	宮 松 山 口 附属病院看護部 特定行為看護師	講義「特定行為看護師に期待される役割と発展性」	チーム医療を推進し、看護師がその役割をさらに発展するため、2014年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が創設され、活動の推進が図られている。特定看護師の諸活動の在り方や、今後の発展性について教授する。	看3
第5回	令和8年10月21日(水)	3	宮 松 山 口 附属病院看護部 専門看護師	講義「専門看護師の役割と発展性」	専門看護師の役割は、自身が高度な知識と技術に基づいて直接ケアを提供する実践活動だけでなく、患者の日常を支える看護スタッフへの教育、相談、調整、倫理調整などが含まれる。また、こうしたケアに関わる活動だけでなく、専門領域での臨床看護研究の推進も重要な役割である。これらの諸活動について、自身の経験を踏まえて教授する。	看3

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第6回	令和8年10月21日(水)	4	宮松 山口 清原 石川 看護臨床教育センター 教育看護師	演習①	動悸のある患者の看護	看実
第7回	令和8年10月28日(水)	3	〃	演習②	多重課題①	看実
第8回	令和8年10月28日(水)	4	〃	演習③	多重課題②*課題レポートあり	看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義および演習、グループワーク(対面)

7 評価方法

①総括的評価

修了の認定は、事前課題(30%)、小テスト(20%)課題レポート(50%)の総合評価によって行う。

②形成的評価

授業で提示する課題や小テストについては実施の都度フィードバックを行う。

③態度評価

授業と演習への参加態度から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語等で授業環境を乱す場合、減点することがある。

8 テキスト

講義資料は、各講義の開始前にwebclassに掲載する。

講義資料の印刷配布は行わない。

演習資料は、各講義時に印刷した資料を配布する。

9 参考文献

特に指定しない。

10 オフィスアワー(授業相談)

時間：月～金曜日12時～13時(教室全体で対応)

場所：509号室、510号室、516号室(看護学科棟5階)

11 学生へのメッセージ

- ・本科目は、看護師課程のみを履修する学生を対象とする選択制授業科目である。本授業は集中で開催され、各講義・演習の連動および学修の積み重ねの観点から、原則として全日程の出席を必要とする。
- ・演習の日は白衣に着替え、看護棟3階312演習室へ集合すること。開始時間以降の入室は認めないことがある。演習の持参物については、別途連絡するので指示に従うこと。
- ・レポートの内容と提出期限は、講義で説明を行う。指定された提出期限内に、webclassから提出すること。

12 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

看護師

看護学研究

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
教授	相見良成	(基礎看護学講座(形態生理学))
教授	馬場重樹	(基礎看護学講座(内科学・栄養学))
教授	笠原聡子	(基礎看護学講座(基礎看護学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座(クリティカルケア学))
教授	菊池良太	(実践看護学講座(小児保健看護学))
教授	立岡弓子	(実践看護学講座(母性保健看護学・助産学))
教授	伊藤美樹子	(地域看護学講座(公衆衛生看護学))
教授	辻村真由子	(地域看護学講座(訪問看護学))
教授	河村奈美子	(地域看護学講座(精神保健看護学))
准教授	玉木朋子	(基礎看護学講座(基礎看護学))
准教授	荻田美穂子	(実践看護学講座(老年保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座(母性保健看護学・助産学))
講師	山下敬	(基礎看護学講座(基礎看護学))
講師	輿水めぐみ	(地域看護学講座(公衆衛生看護学))
講師(学内)	白坂真紀	(実践看護学講座(小児保健看護学))
助教	色摩茉衣子	(基礎看護学講座(基礎看護学))
助教	橘由香	(基礎看護学講座(基礎看護学))
助教	片寄亮	(臨床看護学講座)
助教	豊川勝	(実践看護学講座(老年保健看護学))
助教	山形友里	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	南良子	(実践看護学講座(母性保健看護学・助産学))
助教	白片匠	(地域看護学講座(公衆衛生看護学))
助教	坂本真優	(地域看護学講座(精神保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 通年 2単位

3 学修目標

目的：学部におけるこれまでの学習成果を基盤として、学生各自が看護学上の疑問・関心に基づいて積極的に先行文献を渉猟・検討し、研究課題を見出す。得られた課題に関連の深い専門分野の教員による指導のもとで看護研究を実施する。それらの一連の過程を通して研究方法の基礎について学び、看護学の発展に寄与する素養を身につけることを目的とする。

関連するディプロマポリシー

PR プロフェッショナルリズム

1. 看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。

LL 生涯学習能力

1. 環境や現状に対して批判的な視点を持ち、学習への好奇心、勤勉さ、忍耐力、創造への意欲をもって行動できる。
2. 省察・拡張学習・情報探索・モチベーションを向上させる方略により、積極的な学習ならびに協働学習ができる。
3. 自身のキャリアのビジョンや目標を定期的に確認し、自身の強みを活用しながら生涯にわたって研鑽を積む姿勢をもつことができる。
4. 看護基礎教育・継続教育における目標と評価、学修方法を理解し、必要な学修ができる。
5. 変動の激しい社会、地域社会、国際社会に貢献するとともに、多様な生涯学習の機会を把握し、自身の職業観を涵養しながら主体的にキャリアを構築することができる。

RE 科学的探究能力

1. 学術活動における倫理規定の重要性と内容を理解することができる。
2. 科学的探究の諸方法について理解することができる。
3. 研究の基礎を理解し、指導を受けながらそのプロセスを実施し、報告し発表することができる。

IT 情報・科学技術を活かす能力

1. 現代社会におけるデータ・ICT・AI活用の現況を知り、基礎的なデータの取り扱いとデータ分析方法を理解している。

4 授 業 概 要

看護研究方法論で学んだことを基礎とし、配属された卒業研究担当教員のもとで、看護学および看護実践上の課題を明確にし、文献検討に基づき適切な研究計画を洗練し、看護学研究論文を作成する。

5 授 業 内 容

卒業研究ゼミでの担当教員からの指導を中心とする。

文献の探索から調査や実験を経て、看護学研究の一連のプロセスについて詳細に学ぶ。

1. 研究課題の設定
 - ・ 学術的関心の整理
 - ・ 文献検索
 - ・ 文献の批判的吟味
 - ・ 研究課題に関する知見の整理
 - ・ リサーチクエッションの明確化
2. 研究計画書作成
 - ・ リサーチクエッション解明の必要性の論述
 - ・ 研究方法：主要変数の定義
対象集団の設定
分析方法
 - ・ 倫理的配慮
3. 研究倫理
 - ・ IRB/RRBへの申請
4. 研究実施
 - ・ プロトコルを遵守した研究の遂行
5. 分析
 - ・ データ整理
 - ・ リサーチクエッションに即した分析
 - ・ 分析結果に即した考察
6. 論文執筆
 - ・ 科学的再現性の担保
 - ・ 分析結果の正確な記述
 - ・ アドバンテージの理解
 - ・ リミテーションの理解
 - ・ 論旨の一貫性
 - ・ 実践への示唆
7. 研究成果の公表
 - ・ 卒業研究発表会（12～2月頃）

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

それぞれのゼミにおける看護研究担当教員の方針・方法に基づく。

7 評 価 方 法

論文作成過程および論文内容を総合的に評価する。

提出期限：2026年1月14日(水)

8 テ キ ス ト

教科書・参考書は各指導教員の指示を受けること。

なお、参考URLより「論文および抄録作成の手引き」を参照のうえ、規定の書式に基づいて卒業論文を作成し提出すること。

9 オフィスアワー（授業相談）

看護研究担当教員が提示する日時、時間帯と相談方法を確認すること。
事前にアポイントを取ることが望ましい。

10 学生へのメッセージ

学生はこれまでの学習成果から科学的探究心を持って課題を考え、積極的に教員と話し合いながら研究を実施し、論文を執筆してほしい。

11 授業用URL

http://gakunai.shiga-med.ac.jp/hqgaku/soturou_tebiki.PDF

12 主担当教員の実務経験

看護師

国際看護研究

1 担当教員名

教授	宮松直美	実践看護学講座（成人保健看護学）
教授	馬場重樹	基礎看護学講座（内科学・栄養学）
教授	笠原聡子	基礎看護学講座（基礎看護学）
教授	喜多伸幸	実践看護学講座（クリティカルケア学）
教授	菊池良太	実践看護学講座（小児保健看護学）
教授	立岡弓子	実践看護学講座（母性保健看護学・助産学）
教授	伊藤美樹子	地域看護学講座（公衆衛生看護学）
教授	辻村真由子	地域看護学講座（訪問看護学）
教授	河村奈美子	地域看護学講座（精神保健看護学）
准教授	玉木朋子	基礎看護学講座（基礎看護学）
准教授	荻田美穂子	実践看護学講座（老年保健看護学）
准教授	山口亜希子	実践看護学講座（成人保健看護学）
准教授	土川祥	実践看護学講座（母性保健看護学・助産学）
講師	山下敬	基礎看護学講座（基礎看護学）
講師	輿水めぐみ	地域看護学講座（公衆衛生看護学）

2 配当学年等

第4学年 通年 2単位

3 学修目標

海外での研修を通じて他国の看護及び看護教育の実際を学び、看護学領域における国際性を涵養する。

関連するディプロマポリシー

PR プロフェッショナルリズム

1. 看護職の法的位置づけを理解し、それに基づく行動規範が遵守できる。

LL 生涯学習能力

1. 環境や現状に対して批判的な視点を持ち、学習への好奇心、勤勉さ、忍耐力、創造への意欲をもって行動できる。
2. 省察・拡張学習・情報探索・モチベーションを向上させる方略により、積極的な学習ならびに協働学習ができる。
3. 自身のキャリアのビジョンや目標を定期的に確認し、自身の強みを活用しながら生涯にわたって研鑽を積む姿勢をもつことができる。
4. 看護基礎教育・継続教育における目標と評価、学修方法を理解し、必要な学修ができる。
5. 変動の激しい社会、地域社会、国際社会に貢献するとともに、多様な生涯学習の機会を把握し、自身の職業観を涵養しながら主体的にキャリアを構築することができる。

SO 地域社会における健康支援

8. 国際社会と健康の関係を理解し、国際社会における看護の役割と貢献について理解している。

RE 科学的探究能力

1. 学術活動における倫理規定の重要性と内容を理解することができる。
2. 科学的探究の諸方法について理解することができる。
3. 研究の基礎を理解し、指導を受けながらそのプロセスを実施し、報告し発表することができる。

4 授業概要

海外での研修により、現地の看護学教育や看護実践を体験する。

帰国後にレポートの提出と報告会での帰国報告を求める。

事前に英語でのコミュニケーション能力を研いておくことが望ましい。

5 授業内容

提携大学における現地の教員による講義、演習、実習、見学への参加や研修先の大学の看護学生との交流を通して、様々な国での看護師養成課程や医療システム等と文化的背景との関連について理解する。

これらの体験を通して看護学上の課題を検討し、文献的検討を加え、海外研修成果として学内で発表する。

卒業研究担当教員の助言を得て、卒業論文と同形式にまとめて提出する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

海外の施設における見学を主体とした学修。

7 評価方法

研修終了後のレポートおよび報告会での発表内容を評価する。
卒業論文と同形式の報告の提出期限は2026年1月14日(水)

8 テキストISBN番号

参考URLより「論文および抄録作成の手引き」を参照のうえ、規定の書式に基づいて報告を作成し提出すること。

9 オフィスアワー（授業相談）

卒業研究担当教員への連絡はメール等指定された方法で行うこと。
本海外研修の詳細については、学務課へ問い合わせること。

10 学生へのメッセージ

海外研修を希望する学生は募集要項を確認の上で定められた期間に応募してください。ただし、4回生時の臨地実習期間によっては本研修に参加できない場合があります。詳細は卒業研究担当教員に確認してください。

海外での貴重な経験が待っています。ふるって参加してください。

11 授業用URL

http://gakunai.shiga-med.ac.jp/hqgaku/soturon_tebiki.PDF

12 主担当教員の実務経験

医師もしくは看護師

母性看護学実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

1. 周産期における妊産褥婦と新生児の生理的変化が理解できる
2. 周産期における母児とその家族について、オレムのセルフケア理論を基に対象を包括的に理解し、ウェルネスの看護理論の視点からアセスメント、看護診断ができる
3. 看護診断から優先順位を考え、看護目標を到達するための個別的な看護計画を立案することができる。
4. 看護計画に基づいて周産期における母子へのケアを実践し、目標に沿って評価することができる
5. 母子の生活を見据えた、対象に必要な教育計画を立案し、対象者の個性に合わせた保健指導について理解を深めることができる
6. 妊産褥婦、新生児への看護を通して、母子相互作用について理解することができる
7. ハイリスクの妊婦及び褥婦のケアについて理解することができる
8. 母性看護学の特徴を整理し、自己の母性に関する考え方を明確にできる
9. 母子保健チームの一員として、周産期に携わる助産師・看護師の役割と責任について理解することができる
10. 産科医療施設における周産期医療と看護の役割について、その特性を理解し、地域母子保健の視点から考えることができる

2) 本実習に関するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

- ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
- ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

- ①人体の構造と機能②疾病の成立と回復の促進③健康支援と社会保障制度
- ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授業概要

妊娠・分娩・産褥期の女性及び胎児期を含む新生児とその家族における身体的・心理的・社会的特性を理解し、看護診断をもとに必要な母性看護を実践するための能力を養う。

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

- ・実習までに事前オリエンテーション（30分程度）のためリーダーがwebclassで担当教員を確認しアポイントをとること
- ・事前オリエンテーションで提示した課題学習を実施してから実習に臨むこと（180分程度）
- ・実習後、自己学習を行うこと（1日45分程度）
- ・看護技術については、実習室の使用予約をし教員に確認してから自己学習をすること

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評価方法

母性看護の理解（70%：記録50%、カンファレンスへの参加状況15%、面接評価5%）、技術・姿勢・態度（30%）

面接評価は、最終日に個人面接を行う

7 テキスト

小林康江他編：母性看護の実践。メディカ出版，2019.

立岡弓子編著：新訂版 周産期ケア・マニュアル第3版。サイオ出版，2020.

立岡弓子編著：母性看護・小児看護実習あるあるお助けブック。サイオ出版，2022.

8 参考文献

立岡弓子編著：乳房ケアのエビデンス 日総研出版，2013

9 オフィスアワー（授業相談）

実習前は担当教員へメールでアポイントを取ること

実習期間中は適宜担当教員に相談すること

10 学生へのメッセージ

周産期看護において、ウェルネス理論、オレムのセルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、必要な看護技術、保健指導を行います。ご協力いただく対象者の方への感謝の気持ちを忘れず、真摯に取り組んでください。

11 授業用E-mail

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

ryoko55@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

小児保健看護学実習

1 担当教員名

教授 菊池良太 (実践看護学講座 (小児保健看護学))
講師(学内) 白坂真紀 (実践看護学講座 (小児保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

関係するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学習目標とする。

1. 小児の発達段階の特徴や健康障害による影響を理解し、援助の必要性を考える。
2. 小児の健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。
3. 小児の健康障害が家族に与える影響を理解し、援助を考える。
4. 小児の地域での生活を想定し、継続看護と多職種との連携について考える。
5. 病棟、NICU/GCU、外来の特徴と看護について考えることができる。
6. 小児と家族に人権を尊重したケアの必要性を理解する。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカムは以下となる。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
7. 小児期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP7. 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
3. 電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

子どもは成長発達途上であること、個性のある人格であること、家族・地域社会の一員として生活していることを理解し、小児の健康の保持・増進・回復への援助を考え、看護実践する能力を養う。

実習開始前には、子どもの発達段階、入院している子どもの病気などの予習を行い、実習期間中は、毎日の実習記録を作成し、予習・復習を行う。

担当する教員は、小児看護学（主として子どものQuality of Lifeの評価と向上に向けたシステムの構築）及び家族看護学に関する研究を遂行している。

5 授業内容

実習場所：滋賀医科大学医学部附属病院、小児科病棟、NICU/GCU病棟、小児科外来

実習方法：1名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。小児への看護の実践から、地域で生活する小児と小児を取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。

1. 受け持ち患児への看護…看護過程を展開する。
2. 小児科外来実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、検査・処置の介助。継続看護について考える。
3. NICU/GCU実習…診察場面の見学、看護師の業務等を見学、ケアの実践、検査・処置の見学。ファミリーセンタードケア、デイバロップメンタルケアなど、看護の特徴を学ぶ。

詳細は、実習要項を参照する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

1. 名の患児を受け持ち、入院生活を送っている子どもとその家族への看護過程を展開する。
2. 子どもへの看護の実践から、地域で生活する子どもと子どもを取り巻く環境についての視点を持ち、必要な援助について考える。
3. NICU/GCUと小児科外来では、診察場面の見学、指導者と一緒にケアを実践する。継続看護と家族看護についても学ぶ。

7 評価方法

実習への取り組み（70%）、実習記録（30%）により総合的に評価する。

8 テキスト

サイオ出版「母性看護 小児看護 実習あるあるお助けブック」

9 テキストISBN番号

9784867490020

10 参考文献

発達段階からみた小児看護過程 医学書院
小児看護学実習DVD 医学映像教育センター
第1巻 小児看護学実習の特徴と看護学生の心得
第2巻 小児病棟での実習の実際
第3巻 小児科外来とNICU・GCU実習の実際

11 オフィスアワー（授業相談）

メールでアポイントを取ってください。

12 学生へのメッセージ

子どもたちは、学生さんと遊んだり、勉強したりすることを、とても楽しみにしています。子どもと家族の医療と看護に寄与できるよう、一緒に取り組みましょう。そのために以下をお願いします。

1. 学生自身の小児期感染症の罹患状況を把握しておく。実習開始前に検温及び体調のチェックを必ず行う。
2. 自分の健康管理を心がけ、感染症症状など異常がある場合は、速やかに受診し、担当教員と臨床指導者に連絡する（自己判断しない）。
3. 子どもの安全を確保し、事故を防止する。
4. 体調管理には十分に留意し、欠席しないこと、約束は必ず守ることを心がける。

13 参考URL 1

<http://sums-hqkodomomo.sakura.ne.jp>

14 授業用E-mail

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

15 参考E-mail 1

kitamaki@belle.shiga-med.ac.jp

16 参考E-mail 2

rkikuchi@belle.shiga-med.ac.jp

17 主担当教員の実務経験

看護師（大学病院の小児病棟での看護師としての従事経験のある教員が担当する）

成人保健看護学実習 I

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 4単位

3 学修目標

学修目標：

主として成人期の入院患者を受け持ち、健康問題を持つ対象者を疾患発症、急性増悪、慢性的な治療経過など療養の時期に応じたケアの基本を学ぶ。加えて対象者を精神的・身体的・社会的側面から理解し、個別性に応じた健康の維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。

また、対象者の療養支援上必要な種々の専門的介入方法について学び、健康障害の治療、回復にむけての過程における保健医療チームのかかわりと看護の役割を理解する。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

以下、詳細は実習要項を参照

5 授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6 評 価 方 法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

8 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9 主担当教員の実務経験

看護師

成人保健看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

学修目標：

主として成人期の入院患者を受け持ち、周手術期にある対象者を精神的・身体的・社会的側面から捉え、健康の回復および維持、向上のための看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。また、周手術期における病態生理や治療に伴う合併症のリスク、生じうる問題について学び、多様なニーズに応じた看護を実践するために必要な能力を養う。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践（予防、急性期、回復期、慢性期）
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

以下、詳細は実習要項を参照

5 授業形式・視聴覚機器の活用

実習

6 評 価 方 法

実習目標の到達度（70%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習への積極性（10%）によって総合的に評価する。

7 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

8 授業用E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

9 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習 I

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学))
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 1単位

3 学修目標

I. 実習目的

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知り、高齢者個々に適した日常生活の在り方を思考するための基盤を培う。
2. 高齢者の多様な特性を踏まえて交流し、日常生活援助・介助を実体験する。
3. 様々な健康レベルにある高齢者の特徴を理解し、多様な療養の場での高齢者に対する看護師の役割について思考する。

II. 実習目標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の多様性を知ることができる。
2. 高齢者の多様な特性が日常生活の様々な場面で影響していることを理解できる。
3. 高齢者を取り巻く社会資源やその活用状況の実態を知ることができる。
4. 高齢者を多様な特性を踏まえた姿勢や態度で交流することができる。
5. 高齢者の残存機能を考慮した機能改善訓練を計画・実施することができる。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1：プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)

DP3：課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる

DP4：コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5：地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

4 授業概要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5 授業内容

1. 実習期間
実習ローテーションで配置された1週間（土日祝日を除く）
2. 実習内容（概要）
 - 1) 臨地実習
高齢者福祉施設（指定された1施設）での実習（3.5日間）
 - 2) 学内実習（1.5日）
施設でのレクレーションの計画書作成と物品準備、リハーサル
臨地臨床実習での学びの共有・統合

6 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地臨床実習は指定された施設内で実習指導者のもと実施する

7 評価方法

- ①総括的評価（70%）：実習記録より実習到達状況を評価する。
- ②形成的評価（20%）：実習中の日々の看護実践状況をその都度フィードバックし、最終的な到達状況を評価する。
- ③態度評価（10%）：実習場での態度や、患者への姿勢、カンファレンス参加状況から学修意欲を評価する。

8 参考文献

老年保健看護学概論・各論・演習での講義資料を参照すること。

9 オフィスアワー（授業相談）

516の老年看護学教室関係者にいつでもお声かけください。平日 12:00~13:00の時間帯を推奨しますが、それ以外でも在室していればいつでもお声かけください。

10 学生へのメッセージ

臨地臨床実習で求められている学生としての本質を念頭に、どのような姿勢で実習に臨むべきであるのか十分に考えて参加してください。また、多様な特性を持つ高齢者と交流するにあたって留意しなければならないことは何なのか、高齢者にとって受け入れやすい若輩者とはどのような姿であるのかについても十分に考えた上で実習に参加してください。また、高齢者に対するコミュニケーション技法については、実習中にそれら技法を取り入れたコミュニケーションの実践が行えるようしっかり講義資料を復習してのぞんでください。

11 主担当教員の実務経験

看護師

老年保健看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

准教授 荻田 美穂子 (実践看護学講座 (老年保健看護学))
助教 豊川 勝 (実践看護学講座 (老年保健看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

I. 実習目的

既習の知識・技術を統合し、健康障害のある高齢者の看護過程を展開し、看護実践を通して老年看護の基礎的な臨床能力を身に付ける。

II. 実習目標

1. 受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性に関する情報を収集することができる。
2. 加齢や老化促進が高齢者の機能に及ぼす影響をアセスメントすることができる。
3. 残存機能や今後改善する見込みを考慮した具体的な看護目標設定ができる。また、患者本人または家族の顕在的・潜在的な希望に沿った価値ある目標設定ができる。
4. 残存機能の活用や機能維持・改善を意図した介助を実践することができる。
5. 療養・退院支援における他職種との連携状況を把握し、医療チーム内での看護職の役割を理解することができる。
6. 実習を通して老年看護観を語るすることができる。

本講義に関するディプロマ・ポリシー (DP) 及びアウトカム

DP1：プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2：看護学の知識と技術課題

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
5. 看護基本技術
9. 老年期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践 (予防、急性期、回復期、慢性期)

DP3：課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる

DP4：コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

4 授業概要

実習詳細については後日配布される実習要項を参照すること

5 授 業 内 容

1. 実習期間
実習ローテーションで配置された2週間（土日祝日を除く）
2. 実習場所
滋賀医科大学医学部附属病院
2D病棟（整形外科・泌尿器科・ペインクリニック科）
6C病棟（糖尿病内分泌内科・腎臓内科・脳神経内科・放射線科）
3. 実習内容（概要）
 - 1) 入院中高齢患者を原則1名受け持つ。
 - 2) 受け持ち患者の身体的・精神的・社会的特性を適切に把握し、入院中・退院後に生じている（もしくは生じ得る）看護上の問題を明らかにし、看護計画を立案し、看護介入する。
 - 3) カンファレンスを通して受け持ち患者への看護展開に対してグループで検討するとともに、受け持ち患者以外の事例展開を共有することで自身の老年看護の質を高める。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

臨床実習は滋賀医科大学医学部附属病院の指定された病棟で教員及び実習指導者の指導のもと実施する

7 評 価 方 法

- ①総括的評価（50%）：実習記録より実習到達状況を評価する。
- ②形成的評価（40%）：実習中の日々の看護過程展開状況、患者への看護援助状況をその都度フィードバックし、最終的な到達状況を評価する。
- ③態度評価（10%）：実習場での態度や、患者への姿勢、カンファレンス参加状況から学修意欲を評価する。

8 参 考 文 献

老年保健看護学概論・各論・演習での講義資料を参照すること

9 オフィスアワー（授業相談）

516の老年看護学教室関係者にいつでもお声かけください。平日 12：00～13：00の時間帯を推奨しますが、それ以外でも在室していただいてもお声かけください。

10 学生へのメッセージ

臨床実習で求められている学生としての姿勢で実習に臨んでください。
また、高齢者の全体像を捉えるための方法論や看護展開方法を事前に十分学習し、円滑な看護展開が行えるよう努めてください。

11 主担当教員の実務経験

看護師

精神保健看護学実習

1 担当教員名

教授 河村 奈美子（地域看護学講座（精神保健看護学））
助教 坂本 真優（地域看護学講座（精神保健看護学））

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

目的：精神を障害された個人およびその家族を理解し、精神の健康の回復に向けた治療的な関わりができる基礎的な能力を養う。

目標：

1. 精神障がい者をありのままに理解することができる。
2. 精神障がい者と治療的患者—看護師関係を構築することができる（治療的コミュニケーションの活用）。
3. 対象の個別性にあった看護過程を展開することができる（対象や家族の意思決定支援を含む）。
4. 精神医療における看護の役割・機能と多職種との連携を理解することができる。
5. 看護学生として、治療チームの一員として責任ある行動や主体的な学習態度をとることができる。

4 授業概要

詳細については実習要項をよく読んでおくこと。

実習期間中の日々の準備学習として実習における記録物の作成が求められる。

5 授業内容

実習施設：滋賀医科大学医学部附属病院 1C病棟／滋賀県立精神医療センター

実習方法：各施設において1名の入院患者を受け持ち、精神構造やオレム・アンダーウツのセルフケアモデルを用いて、対象を理解し、必要な援助について学ぶ。その他、詳細については実習要項を参照する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

受け持つ患者の疾患や重症度などについては、実習施設や病棟により異なることがある。

7 評価方法

2/3以上の出席を満たすことを評価の対象とします。実習内容（記録物の提出状況やカンファレンスにおける発言、患者との関わりや実習に臨む際の態度、実習記録の内容）を評価表の項目に基づき客観的に評価する。60%以上を合格とする。

8 テキスト

阿保順子編著：統合失調症急性期看護学—患者理解の方法と理論に基づく実践、すびか書房、2021

河村奈美子・星美和子著：看護の治療的コミュニケーションと心のケア 第2版、大学教育出版、2025

9 テキストISBN番号

978-4-902630-30-5

978-4-86692-349-9

10 参考文献

参考文献：講義資料や、これまでの学習で用いた資料。その他参考文献は適宜提示します。

11 オフィスアワー（授業相談）

電話やメールによる事前連絡の上で、時間調整することを前提に随時対応します。

12 学生へのメッセージ

臨床における実践的な実習ではさまざまな不安や困難に遭遇すると思いますが、遠慮なく教員や指導者に相談し、適宜アドバイスをもらうことが大切です。

また、精神科病棟は他の診療科の病棟とは異なり「精神保健福祉法」に基づく多くの規制があるため、オリエンテーションの内容に留意し、それらを遵守することが重要です。

13 授業用E-mail

namy@belle.shiga-med.ac.jp

14 参考E-mail 1

mayus@belle.shiga-med.ac.jp

15 主担当教員の実務経験

看護師

訪問看護学実習

1 担当教員名

教授 辻村 真由子（地域看護学講座（訪問看護学））
助教 田和 なつ美（地域看護学講座（訪問看護学））

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

- 1 在宅療養者とその家族への支援について、実践活動をしている訪問看護師から具体的に学ぶ。
- 2 在宅療養者とその家族を対象として看護過程を展開し、看護師に求められる態度、知識、技術について理解する。
- 3 訪問看護を取り巻く社会資源（フォーマル・サービスとインフォーマル・サポート）との連携のあり方について学ぶ。
- 4 訪問看護ステーションの法的基盤と運営の現状と課題を知り、考察を深める。

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。

DP7. 情報・科学技術の活用

2. コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。

4 授業概要

在宅療養者とその家族への在宅療養における看護の特徴及び看護師に必要な専門的知識と技能について理解する。また、地域ケアシステムの中で看護の果たす役割について学ぶ。

5 授業内容

詳細は実習要項参照。滋賀県一円の訪問看護ステーションにおいて実習する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実習の前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって総合的に評価する。

8 テキスト

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える。南江堂，2024.

9 テキストISBN番号

ISBN：978-4-524-23128-7

10 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める。南江堂，2024.
 - ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き。
 - ・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第2版，メヂカルフレンド社，2018.
 - ・正野逸子、本田彰子編著：在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社，2021.
- そのほか、授業中に適宜提示する。

11 オフィスアワー（授業相談）

授業時間は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

12 学生へのメッセージ

- ・自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。
- ・実習前に訪問看護学概論、訪問看護学各論、訪問看護学実践論での学習内容について復習しておくこと。

13 授業用E-mail

hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

統合看護学実習

1 担当教員名

教授	宮松直美	(実践看護学講座(成人保健看護学))	非常勤講師	
准教授	山口亜希子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	雨宮歩	(千葉大学大学院看護学研究院健康増進看護学 講師)
助教	清原麻衣子	(実践看護学講座(成人保健看護学))	伊波早苗	(社会医療法人誠光会 淡海医療センター 統括看護部長)
助手	石川真	(実践看護学講座(成人保健看護学))		

2 配当学年等

第4学年 前期 2単位

3 学修目標

学修目標：

1. 看護管理の基礎となる組織管理、リーダーシップ等の諸理論を理解する。
2. ケア提供の組織とシステムを理解し、看護の質を維持・向上させる看護管理の意義と役割を学ぶとともに、現在看護師によって行われている様々なケアへの人工知能(Artificial Intelligence, AI)導入による業務の効率化やリスクマネジメント等の可能性を考える。
3. 入退院情報や看護必要度などのデータに基づく看護体制整備やインシデント報告データ等の集積による問題分析など、個への看護を向上させるための集団データの活用について学ぶ。
4. 医療における危機管理や看護倫理、他部門とのコーディネートとの必要性を学ぶ。
5. 複数の患者を受け持つ看護スタッフに同行し、ケアの優先性の判断、他の看護職や他職種との連携、ケアの継続性等、看護のメンバーシップと役割を理解する。
6. 看護管理者や看護スタッフの看護観や言動の意味を理解し、自己の人間的成長と看護観の育成を図る。
7. 看護学を学ぶ者として必要な今後の自己の学習課題を明確にする。

関係するディプロマ・ポリシー：

DP.1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP.2 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
3. 健康支援と社会保障制度
4. 疫学、保健統計
5. 看護基本技術
8. 成人期にある人々に対する看護実践
10. 健康の段階に応じた看護実践(予防、急性期、回復期、慢性期)
11. 心のケアが必要な人々への看護実践
12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP.3 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP.4 コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる

DP.5 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

DP.6 科学的に探究心と国際的視野

1. 看護学上の疑問・関心に基づいて、研究課題を見出すことができる。
2. 看護学研究に必要な国内外の情報を取得することができる。
3. 看護学研究で用いられる基本的研究手法が実施できる。
4. 自らの研究内容を分かりやすくプレゼンテーションできる。
5. 国際的視野を持って、看護学に関する課題について考察できる。
6. 研究倫理を理解したうえで、研究を実施できる。

DP.7 情報・科学技術の活用

1. 個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。
2. コンピューターを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。
3. 電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。
4. 医療AI（人工知能）の現状と課題を説明できる。

DP.8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授 業 概 要

看護管理、複数患者の看護、メンバーシップ等の見学実習を通し、データに基づく管理上の意思決定による効果的・効率的・継続的な看護サービス提供システムとシステム内での個々の看護師の役割を理解して看護実践に参画する能力を育成すること、また、AIと共存しうる近未来の看護について考える機会を持つことを実習目的とする。

5 授 業 内 容

以下、『実習要項』中の『統合看護学実習』参照

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

実習

7 評 価 方 法

①総括的評価

実習目標の達成度（60%）、実習記録およびレポート（20%）、実習内容・実習の参加状況（20%）の評価によって判定する。

②形成的評価

実習中に提出する記録や課題に関するカンファレンスはその都度評価を行い、フィードバックを行う。

③態度評価

実習への参加態度やカンファレンスでの発言などから学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。また、私語などで実習環境を乱す場合、減点することがある。

8 参 考 文 献

必要時に適宜提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

時間：月～金曜日の12時～13時（教室全体で対応）

場所：509号室、510号室、516号室（看護学科棟5階）

10 授 業 用 E-mail

hqahn@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

看護師

地域医療展開論実習Ⅱ

1 担当教員名

教授 辻村 真由子（地域看護学講座（訪問看護学））
助教 田和 なつ美（地域看護学講座（訪問看護学））

2 配当学年等

第4学年 前期 3単位

3 学修目標

- 1 訪問看護利用者を受け持ち、看護過程を主体的に展開できる。
- 2 訪問看護ステーションの看護職者等とともに活動し、また、退院前カンファレンス、サービス担当者会議、地域ケア会議等に参加することによって、訪問看護利用者を支える多職種連携のあり方について述べるができる。
- 3 訪問看護ステーションの管理者と活動を共にして看護管理の実際を見学し、組織の運営および、地域のニーズを反映した活動について考察できる。
- 4 地域包括支援センターの機能と役割について説明できる。
- 5 在宅療養支援診療所の機能と役割について説明できる。
- 6 各実習地域の地域医療の現状と課題について、考察できる。

関係するディプロマ・ポリシー（DP）及びアウトカム

DP1. プロフェッショナリズム

1. 豊かな教養と確固たる倫理観を身につけ、利他的かつ公正な態度で行動できる。
2. 人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
3. 看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
4. 医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2. 看護学の知識と技術

12. 地域包括ケアに関する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

1. 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
2. アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
3. 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
4. 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
5. 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

1. 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
2. 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
3. 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
4. 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
5. 医療チームのスタッフに対し、適切に報告・連絡・相談ができる。

DP5. 地域医療への貢献

1. 社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
2. 地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
4. 地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

1. 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
2. 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

訪問看護ステーションの管理者やスタッフの活動に同行することを通して訪問看護ステーションの機能について理解を深めるとともに、療養者やその家族に提供される疾患や重症度、社会経済的背景や希望に応じた看護活動の実習を通して、在宅療養支援の特質と訪問看護に求められる専門性を踏まえ、個別支援計画を立案できる。

5 授業内容

詳細は実習要項参照。滋賀県内の訪問看護ステーションを中心に実習する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実習前にオリエンテーションを行う。履修する学生は出席が必要である。

※本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

①総括的評価

実習目標の到達度（実習記録、レポート、実習の取り組み状況）（90%）、受講態度（10%）によって統合的に評価する。

原則として、欠席や遅刻は認めない。

②形成的評価

実習中に提出する記録類の内容、受け持ち利用者への看護、カンファレンスでの発言等についてはその都度フィードバックを行う。

③態度評価

カンファレンスでの発言など、実習への参加態度等から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は受講態度に加味、実習生として対応しにくい態度の学生は受講態度から減じることがある。

8 参考文献

- ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版 地域における暮らしと健康の理解を深める，南江堂，2024.
 - ・石垣和子/上野まり/徳田真由美/辻村真由子編集：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版 暮らしの場における多様な支援を考える，南江堂，2024.
 - ・社会保険研究所：介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引き.
 - ・本田彰子、正野逸子編著：関連図で理解する在宅看護過程，第2版，メヂカルフレンド社，2018.
 - ・河野あゆみ編集：強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 第2版+総合的機能関連図，医学書院，2023.
 - ・正野逸子/本田彰子編著：在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社，2021.
- その他、授業中に適宜提示する。

9 オフィスアワー（授業相談）

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10 学生へのメッセージ

自己の健康管理に十分に留意し、実習に臨むこと。

11 授業用E-mail

hqhoumon@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

看護師、保健師

公衆衛生看護学実習Ⅰ

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
講師 輿水 めぐみ (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第4学年 前期 4単位

3 学修目標

- 1) 地域で生活する人々の健康状態や地域特性を理解し、ヘルスニーズをアセスメントする方法論としての地域診断を習得し、主体的に実施することができる。
- 2) 様々な世代や健康レベルの個人・家族・集団のヘルスニーズをふまえた、公衆衛生看護活動や評価のプロセスについて立案・実施・評価することができる。
- 3) 地域の人々と保健師のかかわり方を理解し、地域の人々の主体的な活動を育成・支援する意義と方法を説明することができる。
- 4) 地域の人々や関連機関と連携・協働する意義を理解し、地域ケアシステムのあり方について説明することができる。
- 5) 保健・医療・福祉の施策化・事業化にかかる企画立案、予算の確保、施策評価について説明することができる。

4 授業概要

- ・公衆衛生看護学演習で作成した地域診断の成果を現地実習初日に発表し、現地指導者の助言を得て、実習期間中に新たに現地で得られた統計情報や、現地での事業参加、地域踏査、家庭訪問等にて得られた地理的特徴、住民の意識や反応等の質的情報の追加・統合して、ヘルスニーズの再アセスメントを行い、優先度の高い健康課題と公衆衛生看護活動について根拠を示して提言を行う。
- ・家庭訪問の対象者への計画立案と同行訪問の実施、事例検討を行う。
- ・地域の健康課題について、ターゲット集団の健康問題や属性、社会的状況などの特性について十分にアセスメントを行い、集団健康教育の計画立案、実施、評価の一連の過程を実践する。
- ・健康診査・保健指導、健康教育、地区組織活動、連絡会・審議会等、保健師が主体となって実施している保健事業へ参加する。

5 授業内容

詳細は実習要項を参照

6 授業形式・視聴覚機器の活用

保健師の実践現場での実習、学生のたてた実習計画に基づく地域踏査

7 評価方法

課題の達成状況 (85%)、平常点 (受講態度、記録物提出) (15%)。
実習期間中の1/3以上の欠席または遅刻がある場合は、単位認定をしない。
ただし、欠席または遅刻の事情を鑑みて特別な配慮が必要と判断される場合は補講を行う。

8 オフィスアワー (授業相談)

履修に関する相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者 (伊藤: itmkk@belle.shiga-med.ac.jp) までアポイントをとってください。

9 学生へのメッセージ

実習期間中は移動の負担や暑さへの対応もありますので体調管理と安全面に気をつけて臨んでください。

10 授業用E-mail

itmkk@belle.shiga-med.ac.jp

公衆衛生看護学実習Ⅱ

1 担当教員名

教授 伊藤 美樹子 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
講師 輿水 めぐみ (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
助教 白片 匠 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))
特任助教 北 悠理 (地域看護学講座 (公衆衛生看護学))

2 配当学年等

第4学年 後期 1単位

3 学修目標

1. 産業保健における特徴的な健康課題及び、労働衛生管理方法の実際を知り、その意義について理解を深めることができる。
2. 健康と労働の調和の視点から、対象事業場の健康課題について考えることができる。
3. 産業保健における健康診断、健康相談、健康教育等の活動方法を説明できる。
4. 産業保健と地域保健との連携についての意義と効果、課題について説明できる。
5. 産業保健における保健師の位置づけや職務の実際について知り、体験から得られた情報の資料化と既存資料の分析を通じて、その役割・機能を理解する。

4 授業概要

滋賀県内および近隣府県の事業所において産業保健活動の実際について見学実習を行い、健康や安全衛生上の課題に対する予防啓発活動の企画、立案や個別保健指導が必要な模擬事例に対する支援計画の立案と指導を行う。

5 授業内容

実習要項を参照のこと。

※ 4月1日 10時半～看護学科棟415号室にてオリエンテーションを行います。

4月23日 3・4限 (看護第3講義室) 事前学習発表会

7月27日 3限 (MMC演習室) 4限 (ブラウジング室) オリエンテーション

(一部のグループは4月23日の午前に実施します)

10月19日 3・4限 最終報告会 (MMC演習室およびブラウジング室)

10月26日 3・4限 最終報告会 (MMC演習室およびブラウジング室) (予備日)

実習最終報告会の開催日は、予定が決まり次第、案内しますが、どちらでも出席できるよう予定を調整してください。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	教室
第1回	令和8年4月1日(水)	2	伊藤	10:30～オリエンテーション(看護学科棟415)	
第2・3回	令和8年4月23日(木)	3・4	〃	事前学習発表会	看3
第4回	令和8年7月27日(月)	3	〃	オリエンテーション	MMC演
第5回	令和8年7月27日(月)	4	〃	オリエンテーション	MMCブ
第6・7回	令和8年10月19日(月)	3・4	〃	実習最終報告会	MMC演 MMCブ
第8・9回	令和8年10月26日(月)	3・4	〃	実習最終報告会(予備日)	MMC演 MMCブ

6 授業形式・視聴覚機器の活用

実習施設の状況によって、実習内容を適宜変更する。

実習の予定は実習施設によって異なるため、担当教員に主体的に確認すること。

7 評価方法

課題の達成状況(85%)、平常点(受講態度、記録物提出)(15%)。

出席状況も単位認定に加味します。やむをえず欠席・遅刻する場合は理由を明確にしてください。

8 テキスト

令和7年度労働衛生のしおり(中央労働災害防止協会)

9 オフィスアワー（授業相談）

相談は適宜応じます。e-mailで科目責任者（伊藤：itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

10 学生へのメッセージ

実習目的と到達度は同じですが、実習施設によって実習期間、実習形態に違いがあります。

実習施設の理念や事業活動に興味を持って取り組んでください。

実習期間中は移動の負担もありますので体調管理と安全面に気をつけてください。

助産診断・技術学Ⅲ

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 前期 3単位

3 学修目標

1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。

- ① 妊娠期・分娩期・産褥期に起こり得るハイリスク症例の病態から助産診断について臨床推論をもとに考えることができる
- ② 周産期全般のハイリスク症例における異常徴候を早期発見できる知識と技術を教授し、助産師の役割について、その重要性を理解する
- ③ 正常性を逸脱した分娩症例における緊急時の対応能力に必要な知識を教授する
- ④ 周産期医療チームにおける助産師の役割分担と協働・連携について理解する
- ⑤ ハイリスク妊娠・分娩・産褥を経験する母親への、分娩体験に対する必要な看護についてメンタルヘルスの視点から考えることができる

2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能 3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ① 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ② アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③ 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④ 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤ 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

4 授業概要

ハイリスク妊娠・分娩・産褥を経験する母親の特徴を理解し、発症要因の病態生理と発症機序、臨床推論に基づく助産診断について理解でき、必要な助産技術を適時遂行でき、安全な分娩への対処方法について理解できることを目的とする。また、併せてハイリスク妊娠・分娩・産褥の経過を経験する母親とその家族への、出産体験とその受容過程を踏まえたメンタルヘルスについても考える知識を教授していく。

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと (講義回数: 8回×30分程度)、また講義後自己にて復習しておいてください (講義回数: 8回×60分程度)。

事後の学習内容

- 1) 各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問を持って授業に備えることが求められる。
- 2) 各回の授業後に、授業内容を復習し、感想・疑問点についてWebClassからコメントすることが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、特に初めて親になるカップルのメンタルヘルスケアに関する研究に取り組んできました。これらの研究知見を、親役割の獲得、周産期メンタルヘルスケア、家族支援の実際へといった学習内容へ反映し、講義を通じてエビデンスに基づく母性看護の重要性について理解を深めていただけたらと思います。

5 授 業 内 容

周産期医療におけるハイリスクな状態となった妊産褥婦に対する臨床推論を用いた事例を基に、周産期病態学で学習した病態生理と助産診断技術学 I で学習した助産診断の知識を統合し、正常性を逸脱した産科疾患や合併症に対する対処能力を養う内容とする。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第1回	令和8年4月2日(木)	1	立岡、喜多 土川、南 泊、中村 田中	【分娩経過の異常への対応】 妊娠高血圧症候群と分娩経過の 理解と助産診断	妊娠高血圧症候群の分娩経過診断 の実際と初期対応 (アクティブラーニング) 降圧剤の適応と分娩管理	看実
第2回	令和8年4月2日(木)	2	立岡、喜多 中村、田中	【娩出期の異常】 器械分娩の適応と作用機序の理解 器械分娩時の分娩助産技術	吸引分娩の第3回施の分娩助産 技術の実際 鉗子分娩の第3回施の分娩助産 技術の実際	看実
第3回	令和8年4月2日(木)	4	立岡、喜多 土川、泊 中村、田中	【妊娠期の異常と助産診断】 妊娠期の出血に関する病態の理解	前置胎盤による警告出血への 対応と助産診断の実際 (アクティブラーニング)	看実
第4回	令和8年4月6日(月)	3	立岡、喜多 土川、南 泊、中村 田中	【妊娠期の異常への助産診断】 母体感染症	A群溶連菌感染症を発症した 妊婦への初期対応の実際 (アクティブラーニング)	看実
第5回	令和8年4月6日(月)	4	立岡、土川 南、泊 中村、田中	【分娩期の異常 回施異常】 第1回施異常の助産診断	前頂位・前頭位・額位・顔位の 助産診断のための内診技術 第1回施異常の早期発見と 正常化への助産技術の実際	看実
第6回	令和8年4月7日(火)	2	立岡、喜多 泊、中村、	【妊娠期の異常への助産診断】 妊娠悪阻の病態生理の理解と 妊娠継続への対応	妊娠悪阻へのアセスメントのと 対応の実際(アクティブラーニング) 妊娠初期の栄養管理の実際	看実
第7回	令和8年4月8日(水)	2	土川、南 泊、中村 田中	【分娩期の異常の助産診断】 子宮収縮・陣痛発来 の生理学的機序 娩出力の異常 その1	微弱陣痛の理解と分娩促進への ケアの助産診断と対応の実際	看実
第8回	令和8年4月8日(水)	3	南、立岡 泊、中村 田中	【社会的ハイリスクの分娩の実際】 特定妊婦のリスク診断 未受診妊婦のリスク診断 飛び込み出産のリスク診断	未受診妊婦の分娩助産の実際と 母児の安全のための助産診断・介入 社会的支援への継続支援	看実
第9回	令和8年4月8日(水)	4	土川、中村	【妊娠期の合併症への理解】 妊娠糖尿病合併妊婦への 妊娠期管理の実際	妊娠糖尿病合併妊婦の妊娠中期の 栄養管理と妊娠経過の助産診断と 対応の実際 (アクティブラーニング)	看実
第10回	令和8年4月9日(木)	1	土川、南 泊、中村 田中	【破水の時期異常の理解】 破水の機序 破水による胎児への影響 抗生剤投与への作用機序の理解	前期破水症例の分娩経過診断 と助産技術の実際	看実
第11回	令和8年4月9日(木)	2	〃	【分娩期の異常 回施異常】 第2回施異常の助産診断	後方後頭位分娩・前方前頭位分娩 の助産技術(第3回施)の実際 (アクティブラーニング)	看実

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第12回	令和8年4月9日(木)	3	立岡、土川 南、泊 中村、田中	【低出生体重児の分娩経過】 低出生体重児の分娩ストレスと経過の助産診断 出生後の初期対応 内診方法の理解と技術	低出生体重児の分娩経過診断の実際と出生直後の管理 (アクティブラーニング)	看実
第13回	令和8年4月9日(木)	4	立岡、喜多 土川、南 泊、中村 田中	【分娩期の出血への初期対応】 子宮復古不全の病態生理の理解 出血性ショックとDICの病態	弛緩出血症例(子宮復古不全)への初期対応と母体救命への助産診断の実際	看実
第14回	令和8年4月13日(月)	2	南、泊 土川、中村 田中	双胎分娩の分娩介助の理解	双胎分娩の経過診断 双胎分娩の分娩介助技術の実際 (第1子から第2子分娩までの助産技術の実際) 胎盤娩出方法 臍帯血採取の方法と留意点	看実
第15回	令和8年4月13日(月)	3	土川、南 泊、中村 田中	【施設外分娩】 自宅出産・助産院出産の分娩介助技術	助産院出産事例と助産技術の創意工夫と出産の安全の確保 地域連携 助産業務ガイドライン	看実
第16回	令和8年4月13日(月)	4	立岡、喜多 土川、南 泊、中村 田中	【胎児機能不全への対応の実際】 胎児心拍数モニタリングの診断の理解 胎児低酸素血症と酸素化の機序 初期対応の実際	変動一過性徐脈・遅発一過性徐脈出現時の助産診断と初期対応の実際 (アクティブラーニング)	看実
第17回	令和8年4月15日(水)	3	立岡、喜多	【産科手術】 帝王切開術の理解 術前・術中・術後の介助技術の経過診断	機械・物品・薬剤の理解 術式の理解と母児への影響の理解 産後の経過診断 母子接触方法の実際と管理	看実
第18回	令和8年4月16日(木)	3	南、喜多 土川、泊 中村、田中	【産科麻酔の理解と助産診断】 硬膜外麻酔分娩の経過診断と薬剤管理 和痛分娩の経過診断と薬剤管理	硬膜外麻酔分娩症例の分娩経過の実際と母児への影響の助産診断と対応の実際 (アクティブラーニング)	看実
第19回	令和8年4月16日(木)	4	土川、南 泊、中村 田中	【産科救急】 アナフィラキシーショックの病態生理の理解	GBS合併産婦への抗生剤投与後のアナフィラキシー症状の早期発見・早期対応の実際と母児救命 (アクティブラーニング)	看実
第20回	令和8年4月16日(木)	5	立岡、土川 南、泊 中村、田中	【胎児先進部異常の内診技術】 骨盤位(単殿位 複殿位)の診察の実際と分娩経過 足位 不全足位 横位の診察の実際と帝王切開 臍の蝕知 胎盤(奇禱感)の蝕知	単殿位事例での経過診断の実際	看実
第21回	令和8年4月20日(月)	3	立岡、喜多	【胎盤の異常】 癒着胎盤の胎盤の発生理	癒着胎盤の娩出技術の実際	看実
第22回	令和8年4月20日(月)	4	立岡、土川 南、泊 中村、田中	【娩出期の異常】 HDF児の分娩経過の理解と分娩外傷の理解と対応	肩甲難産症例の児頭娩出方法の実際・ 軀幹娩出方法の助産技術の実際 (アクティブラーニング)	看実
第23回	令和8年4月20日(月)	5	立岡、喜多 土川、南 泊、中村 田中	【分娩期の異常の助産診断】 娩出力の異常 その2 頻回収縮 オキシトシン製剤、頸管熟化剤等の薬剤の理解	誘発分娩・促進分娩症例への管理の助産診断と管理の実際	看実
第24回	令和8年4月22日(水)	1	立岡、土川 南、泊 中村、田中	【死産の分娩介助】 死産の病態生理 死産の分娩経過と産科管理	死産の分娩経過診断と娩出後の母児ケアの実際 (アクティブラーニング)	看実
第25回	令和8年4月28日(火)	2	立岡	試験(10:30~12:00)		看実
第26回			〃	再試験(日程未定)		看実

6 授業形式・視聴覚機器の活用

講義・演習形式

画像、動画、アクティブラーニングを行い、よりリアルな講義・演習内容とする。

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評価方法

定期試験（85%）、小テスト・受講態度（15%）により総合的に評価する。

①総括的評価

定期試験85%

- －学習目標に掲げた項目の全範囲を対象とした筆記試験を行う。
- －単位修得の条件として、定期試験で60%以上をとる必要がある。再試験は1回限りとする。
- －正当な理由のない欠席が全講義数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を与えず、単位認定もしない。

②形成的評価

講義内容のコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

受講態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

授業の感想・疑問などコメントシートの提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など）－5点とする。

8 オフィスアワー（授業相談）

開講時期の講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbousei@belle.shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

9 学生へのメッセージ

ハイリスク妊娠・分娩が増加しているなか、助産師の担う力量への医療現場の期待が大きく寄せられている今、最新の産科学や助産学の知識を目いっぱい学習できる科目です。

アクティブラーニングを用いた事例の提示では、臨床推論を駆使しこれまで学習してきた内容の集大成として、多くの学びを経験してほしいです。

10 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

乳房管理学

1 担当教員名

教授 立岡弓子（実践看護学講座（母性保健看護学・助産学））

2 配当学年等

第4学年 前期 1単位

3 学修目標

出産後の母乳栄養における助産師に必要な乳房管理について理解を深める

- ① 出産後の女性の乳房の変化と母乳の分泌機序について理解できる
- ② 乳房・乳頭トラブルの発症機序について理解できる
- ③ 乳房・乳頭トラブルへの助産ケアのエビデンスについて理解できる
- ④ 母乳栄養を行う母親のメンタルヘルスについて理解できる
- ⑤ 乳房管理に関する助産師の管理基準とガイドラインについて理解できる

DP2. 看護学の知識と技術

1. 人体の構造と機能
2. 疾病の成立と回復の促進
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ① 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ② アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③ 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④ 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤ 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

4 授業概要

<教育目的>

- ① 母親にとっての母乳栄養の意味について、母性の視点から学習する
- ② 母乳を与える母親と新生児との相互作用がもたらすエンタレイメントについて学習する
- ③ 母乳神話からくる母親へのメンタルヘルスへの影響について学習する
- ④ 乳汁分泌とその成分について、機序と生理学的知識について学習する
- ⑤ 母乳栄養の開始から終了までに生じるトラブルの発症機序とケアについて学習する

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安（教室外学修）

各回の講義時までに授業計画に応じて教材の該当箇所を読むこと（講義回数：8回×30分程度）、また講義後自己にて復習していただく（講義回数：8回×60分程度）。

<事前事後の学修内容>

- ・各回の授業時までに、授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえ疑問をもって授業に備えることが求められる。
- ・各回の授業後に授業内容を復習し、感想、疑問点についてミニツペーパーで提出することが求められる。

<担当する教員の研究と授業の関係性>

担当する教員は、大学院修士課程・博士課程から継続して母乳に関する研究に取り組み、著書をはじめとする多くの専門書を執筆・発刊している。また、全国の助産師を対象とした乳房セミナーの講師を務めている。

文部科学省科学研究費補助金継続的に取得し、母親のストレスと母乳免疫成分に関する研究、断乳のケアと画像診断、糖尿病妊婦と母乳栄養継続の健康評価など、積極的に公的研究にて成果を出し国際発表も行っている。

5 授 業 内 容

産後の母乳栄養への支援に必要な生理学的知識を基礎とし、乳房ケアの基本からトラブル対応、母乳栄養の終了までに必要な内容を教授する。

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和8年4月3日(金)	4	立 岡	乳房の解剖と生理	乳房の解剖の概要 解剖学に基づく乳房組織の特徴と役割 乳汁産生を担う組織の特徴	看実
第2回	令和8年4月3日(金)	5	〃	乳汁の産生と分泌の機序	乳汁産生と内分泌 乳汁産生の機序と乳汁成分 乳汁分泌と母児への影響	看実
第3回	令和8年4月6日(月)	1	〃	乳房の生理的变化と トラブル	乳房うっ積の発症機序 うっ積に伴う症状の特徴とケアのエビデンス 乳汁うっ滞の症状の生理的メカニズムとケア のエビデンス	看実
第4回	令和8年4月6日(月)	2	〃	乳頭トラブルとケア	乳頭損傷の発症機序と症状の理解 乳頭トラブルへのケアのエビデンス	看実
第5回	令和8年4月10日(金)	5	〃	哺乳のメカニズムと 授乳姿勢	児の吸啜と哺乳の機序 授乳姿勢と乳頭内血流の助産診断	看実
第6回	令和8年4月15日(水)	1	〃	母乳と食事	母乳のうま味 母乳成分と栄養素	看実
第7回	令和8年4月15日(水)	2	〃	乳腺炎の理解	うっ滞性乳腺炎 感染性乳腺炎 乳腺炎のガイドライン	看実
第8回	令和8年4月20日(月)	1	〃	母乳栄養の終了へのケア	卒乳と断乳 乳汁産生抑制とホルモン動態 乳腺の退縮の助産診断	看実
第9回	令和8年4月28日(火)	1	〃	試験(8:50~10:20)		看実
第10回			〃	再試験(日程未定)		看実

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

講義形式

画像や動画を活用する。

なお、本授業科目はオンデマンド配信を行わない。

7 評 価 方 法

講義時間数の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格を得ることができます。

①総括的評価

定期試験(85%)60点以上を合格とする

②形成的評価

授業内の疑問点や感想、考察した内容から学生の伸長を評価し、フィードバックする

③態度評価

授業中の学生の発言や態度から評価する(15%)

授業中に退席したり、私語やSNSの不必要な閲覧により授業環境を乱す場合には、減点することがある

8 テ キ ス ト

立岡弓子著；乳房ケアのエビデンス，日総研出版，2013.

9 参 考 文 献

立岡弓子；特集 乳房をケアリングする 痛み・トラブル、母乳分泌の神秘とエビデンス，ペリネイタルケア Vol.42.2023.

10 オフィスアワー(授業相談)

講義終了後に、授業相談を受けます。都合が悪い場合には、hqbousei@belle.shiga-med.ac.jp に問い合わせをお願いします。

11 学生へのメッセージ

助産師として乳房をケアリングすることは、大切な役割です。産後に劇的な変化がみられる乳房、母乳産生と分泌に伴うトラブルは、母親の母乳影響の継続に影響をします。いかに早めに対応するか、そして切れ目ない支援をしていくか、助産師の力量が求められる大切な乳房ケアについて、深く一緒に学習していきましょう。

助産師外来で乳房外来を担当していますが、乳房な個々に異なり、トラブルも様々で通り一遍ではありません。助産診断・技術に基づき助産師しかできない、助産師にそのケアの役割が一任されているといってもいい乳房の管理について、私も常に学んでいます。

12 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

助産学実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 前期 8単位

3 学修目標

1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本講義では以下を学修目標とする。

1. 妊産褥婦と胎児・新生児、及びその家族の生理的な変化と対象の特性を理解することができる。
2. 分娩期にある対象のフィジカルアセスメントから分娩経過診断、健康生活診断を行い、統合的助産診断を展開した上で、助産ケアを実践することができる。
3. 母体と胎児の生理的機能を促進しながら、安全、安寧な分娩介助を実践することができる。
4. 分娩後の母体の生理的年化について、産褥早期を中心とした助産診断過程を展開し、必要な助産ケアを実施することができる。
5. 新生児の特性を理解し、出生直後の新生児の胎外生活適応状態を診断しながら、健康状態を維持するためのケアが実践できる。
6. 助産師の業務範囲と義務、法的責任を理解した上で、助産業務管理の実際について理解することができる。

2) 本講義に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナルリズム

1. 豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。

DP2. 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

1. 人体の構造と機能
3. 健康支援と社会保障制度
6. 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
11. 心のケアが必要な人々への看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ① 看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ② アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③ 修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④ 観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤ 看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ① 対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- ② 対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- ③ 多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- ④ 医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

DP8. 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢

- ① 医療・医学・看護学の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
- ② 他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。

4 授業概要

助産ケアの主たる対象となる妊産褥婦と胎児・新生児、及びその家族の特性を理解し、助産診断に基づいた適切な助産ケアの提供と分娩介助を実践するための基本的な能力を養う。

<準備学修>

準備学修に必要な時間目安 (教室外学修)

実習開始前には、助産診断・技術学Ⅱで履修した分娩介助技術と新生児蘇生や出生直後の対応などをシミュレーションを通して学習を深めておくこと。

事後の学習内容

臨地実習が終了したら、できるだけ早く分娩介助技術チェック表の10症例を振り返り、レポートを作成すること。
分娩介助技術において、平均点を下回った技術項目については、自己練習にて鍛錬しておくこと。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

助産師歴35年、臨床経験15年以上経験したなかで、分娩経過診断や分娩介助技術に関するエビデンスを検証する研究に取り組んできた。なかでも、正常分娩症例の経過診断指標となる【立岡曲線】は、広く臨床助産師に周知され臨床で活用されている研究実績がある。

5 授 業 内 容

正常分娩症例10件の介助技術の習得、出生直後の新生児のケア（呼吸確立と胎外生活適応への助産診断と技術を含む）を3件受け持ち、実際に助産技術の実践を経験する。

6 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

7 評 価 方 法

分娩介助技術チェックリスト（8例目～10例目）をベースに、実習記録から総合的に技術得点を評価する。下記を評価項目としている。

1. 妊娠期の助産診断過程
2. 分娩期の経過診断
3. 分娩介助技術
4. 産褥期の助産診断
4. 助産師の役割と業務・周産期医療現場への関心
5. 実習態度

①総括的評価

分娩介助技術・受け持ち経過記録からの評価得点 85%

②形成的評価

実習期間中の事例記録の内容や学習意欲も評価に含める

③態度評価

実習態度15%により評価する。

学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

臨地実習施設での態度や学習に臨む姿勢において意欲が低いと判断した場合には、減点とすることがある。

無断欠席－5点、不適切な行為（不要な携帯電話・スマートフォンの使用、他者への迷惑行為など）－5点とする。

8 テ キ ス ト

立岡弓子編著；周産期ケアマニュアル第3版，2020年，サイオ出版。

9 テキストISBN番号

ISBN-10：4907176848

ISBN-13：978-4907176846

10 参 考 文 献

本学助産師課程にてオリジナルで作成した分娩介助マニュアルを参考書として活用してください。

11 オフィスアワー（授業相談）

24時間体制の実習です。適時、都度学生からの質問を受け付けます。

12 学生へのメッセージ

助産師を志し、選抜試験に合格したのち約1年半の学内で履修した講義と演習内容の集大成として、いよいよ分娩介助技術演習に臨みます。1件1件の分娩経過は異なりますが、産婦（母親）と胎児の大切な2つの命を守り安全で安寧な分娩となるよう、助産学生として精一杯の関わりをしていきましょう。

人の誕生に添える、とても貴重な実習です。

臨床経験が豊富な教員が、しっかりと指導・教育にあたります。

実習期間中、助産診断・技術学にて提示した資料を持参してください。より学びの振り返りとなり実践に直結した資料となります。

13 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

14 主担当教員の実務経験

助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

マタニティサイクル支援実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 通年 2単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本実習では以下を学修目標とする。
 1. 妊娠末期から産後4か月にかけて1母子を受け持ち、マタニティサイクルに応じた経過や生活を総合的にアセスメントし、継続的な助産診断やケア・保健指導の実践ができる。
 2. 妊婦とその家族を対象とした出産準備教育を計画立案し、実践できる。
 3. 家庭訪問事業に基づく助産師による家庭訪問を見学し、訪問の意義や地域における助産師の役割について考察できる。
- 2) 本実習に関するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム
 - DP1 プロフェッショナリズム
 - ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
 - ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 - ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
 - ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。
 - DP2 看護学の知識と技術
臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
 - ①人体の構造と機能②疾病の成立と回復の促進③健康支援と社会保障制度
 - ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 - DP3. 課題対応能力と看護実践能力
 - ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
 - ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
 - ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
 - ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
 - ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。
 - DP4. コミュニケーションと多職種連携
 - ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
 - ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
 - ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
 - ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
 - DP5. 地域医療への貢献
 - ①社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
 - ②地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
 - ③保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。

4 授業概要

1. 継続事例実習:助産学実習を行う施設の産科外来でローリスクの初産婦を受け持ち、妊婦健診の見学・実施と保健指導、分娩介助、産褥・生後入院時ケア、退院後のフォローアップ、1ヶ月健診の実施と保健指導を行う。
2. 出産準備教育の見学と実施:市町村や協力医療機関内で実施されている出産準備教育、卒業した助産学生が実施した出産準備教育を見学した後、同医療機関内での教室を企画立案、実施し、評価する。
3. 子育て支援実習:新生児訪問事業、乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)、および子育て支援団体(自助サークルやNPOなど)が行う事業を見学する。

事前・事後の学習内容

実習前後で、今までの学習内容を振り返り、知識を整理したうえで実習に臨むことが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、妊娠期から産褥期の骨盤形態の変化とマイナートラブルや自動車運転の実態など周産期女性についての研究に取り組んでいる。

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評価方法

①総括的評価

継続事例の事例記録（50%）、継続事例以外の実習記録（10%）、妊娠期集団指導の展開（30%）

正当な理由のない欠席が実習日数の3分の1を超える場合は単位認定しない。

面接評価は、最終日に個人面接を行う

②形成的評価

実習期間中、担当教員より日々実習での技術・記録に関して都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

技術・姿勢・態度および実習記録など提出物10%により評価する。

提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（実習指導者、対象者、グループメンバー、教員等他者への迷惑行為など）－5点とする。

7 参考文献

講義にて使用した資料、教科書、および参考書

8 オフィスアワー（授業相談）

随時メールにてアポイントをお取りください。

9 学生へのメッセージ

継続事例実習では、妊娠期から産後・生後4ヶ月までの対象を継続的に受け持ち、深く関わらせて頂きます。対象が肯定的な出産体験をされ、母親として成長し育児を楽しまれるよう、個別性を十分に踏まえた助産ケアを提供していきましょう。

出産準備教育では、今まで学んできたことをもとに、対象のセルフケア能力の査定を行い、みなさんオリジナルのものを考案し、対象の妊婦さんへ必要な情報が届くようにしましょう。

10 授業用E-mail

hqbosei@belle.shiga-med.ac.jp

11 参考E-mail 1

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

12 主担当教員の実務経験

大学病院産婦人科病棟にて臨床経験11年の助産師

ウィメンズヘルス実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 通年 1単位

3 学修目標

1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本実習では以下を学修目標とする。

- ①思春期の健康問題とニーズを把握し、健康教育の理論を用いて集団を対象とした健康教育を企画することができる。
- ②思春期を対象としたプレコンセプショナルヘルス・ケアの概念を取り入れた健康教育を通して、効果的な健康教育の実践を理解することができる。
- ③乳腺外来を受診する女性の診療を通して、対象の健康問題と必要なケアについて理解することができる。
- ④妊孕外来において治療を受ける女性とその家族の身体的・精神的状態を把握し、助産師としての役割について理解することができる。
- ⑤各ライフステージにある女性の健康問題を理解し、助産師としての支援について考えることができる。

2) 本実習に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム

DP1 プロフェッショナリズム

- ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
- ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
- ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
- ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。

DP2 看護学の知識と技術

臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。

- ①人体の構造と機能②疾病の成立と回復の促進③健康支援と社会保障制度
- ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践

DP3. 課題対応能力と看護実践能力

- ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
- ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
- ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
- ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
- ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。

DP4. コミュニケーションと多職種連携

- ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
- ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
- ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
- ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。

4 授業概要

1. 思春期の性に関する健康問題とニーズを把握し、健康教育の理論を用いて集団を対象とした健康教育を企画する。また、思春期を対象としたコンセプショナルヘルス・ケアの概念を取り入れた健康教育を通して、効果的な健康教育の実践を学ぶ。
2. 乳腺外来を受診する女性の診療を通して、対象の健康問題と必要なケアについて考える。
3. 生殖補助医療の実際を学び、治療を受ける女性とその家族の身体的・精神的状態を把握し、助産師としての役割について学ぶ。
4. 各ライフステージにある女性の健康問題と助産師としての支援について学ぶ。
(詳細は実習要項参照)

事前・事後の学習内容

実習前後で、今までの学習内容を振り返り、知識を整理したうえで実習に臨むことが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、周産期の心身の変化についての研究、不妊治療を受ける女性への看護、プレコンセプションケアについての研究に取り組んでいる。

5 授業内容

1. 思春期を対象とした性教育の見学、企画、実施
2. 乳腺外来、妊孕外来での実習

6 授業形式・視聴覚機器の活用

産婦人科妊孕外来、乳腺外科外来、高等学校での集団健康指導を経験します。

7 評価方法

①総括的評価

思春期の健康教育企画・実施（50%）、妊孕外来・乳腺外来での学び（40%）

②形成的評価

実習期間中、担当教員より保健指導および記録内容に関して都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

技術・姿勢・態度および実習記録など提出物10%により評価する。

提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（実習指導者、対象者、グループメンバー、教員等他者への迷惑行為など）－5点とする。

8 参考文献

ユネスコ編；国際セクシャリティー教育ガイダンス 科学的根拠に基づいたアプローチ，明石書店，2020.

公益社団法人日本助産師会；助産師による思春期の健康教育，日本助産師会，2020.

9 オフィスアワー（授業相談）

健康教育の企画に際し、グループワークも取り入れていますので、適宜相談に応じます。

10 学生へのメッセージ

女性のライフステージにおける健康課題への解決に、助産師学生としてどのように取り組むか、ピアエデュケーターとしての役割を理解しながら、女性の発達課題に合わせて具体的でわかりやすい集団指導方法を実践できる貴重な学習機会です。

これまでの卒業した助産学生たちも“やってよかった”と、達成感でいっぱいの気持ちで学修できています。

意欲的に取り組める助産師課程のひとつの実習です。

11 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

12 参考E-mail 1

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

2016年～2022年 土川助産院を開業していました。

総合周産期母子医療センターにて、臨床助産師を11年経験しています。

現在、臨床勤務にて助産臨床に従事しています。

助産管理実習

1 担当教員名

教授	立岡弓子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
教授	喜多伸幸	(実践看護学講座 (クリティカルケア学))
准教授	土川祥	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	南良子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助教	中村麻耶子	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	泊和希	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))
助手	田中もも	(実践看護学講座 (母性保健看護学・助産学))

2 配当学年等

第4学年 通年 1単位

3 学修目標

- 1) 関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカムに掲げる能力の修得にあたって、本実習では以下を学修目標とする。
 1. 地域で生活する個人・家族を対象とした地域母子保健看護活動の中心である助産所の機能と役割について理解する。
 2. 助産師の業務範囲と裁量と義務、法的責任と責務を理解した上で、助産業務管理の実際について理解することができる。
 3. 助産所の運営・管理、助産業務の実際と、地域母子保健における助産所の役割や地域連携を知る。
 4. 総合周産期母子医療センターにおけるハイリスク妊産褥婦、新生児への助産管理の見学を通して、助産管理の実際について考える。
 5. 妊産褥婦を対象とした外来診療や助産師による外来、入院における管理や、教育システム、緊急時・災害時の対応、社会資源の活用や地域連携の実際について理解することができる。
 6. 安全で質の高い助産業務を実施するための助産管理を遂行するために、院内での助産管理者の役割や機能、業務内容をふまえた調整機能について学習し、よりよい助産管理システムの構築や必要なマネジメント能力について考察することができる。
- 2) 本実習に関係するディプロマ・ポリシーおよびアウトカム
 - DP1 プロフェッショナリズム
 - ①豊かな人間性と確固たる倫理観を備え、互いの立場を尊重し、看護のプロフェッショナルとして社会の責任を遂行することができる。
 - ②人々の持つ多様な価値観や立場を尊重できる。
 - ③看護専門職者としての役割と責任を理解し遂行できる。
 - ④医療・看護学における倫理的課題を説明できる。
 - DP2 看護学の知識と技術
臨床や研究に活用するために以下の領域の知識と技術を修得している。
 - ①人体の構造と機能②疾病の成立と回復の促進③健康支援と社会保障制度
 - ⑥生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践
 - DP3. 課題対応能力と看護実践能力
 - ①看護に必要な対象者の情報を収集・統合し、アセスメントできる。
 - ②アセスメントの結果から、根拠に基づいた看護計画が立案できる。
 - ③修得した知識・技術を活用して看護を実践できる。
 - ④観察・実施した看護を評価し、適切に記録できる。
 - ⑤看護実践において、感染防止対策や安全なケア環境を整備できる。
 - DP4. コミュニケーションと多職種連携
 - ①対象者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。
 - ②対象者に対して、適切な言葉遣いができる。
 - ③多職種連携における看護専門職者の多様な役割について説明できる。
 - ④医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。
 - DP5. 地域医療への貢献
 - ①社会保障制度・地域包括ケアについて説明できる。
 - ②地域包括ケアにおける看護の役割について説明できる。
 - ③保健・医療・福祉に関する地域の課題を把握し、解決するための理論・方法について説明できる。
 - ④地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。

4 授 業 概 要

総合病院にて3日間病棟実習を行い、メンバーシップおよび複数患者の看護を体験する。
助産院にて、母子保健における助産所の役割と特徴、活動、提供されている助産ケアから地域での周産期サポートのあり方を考え、施設での管理や助産記録の保管などの実際について理解を深める。
最終日にカンファレンスを行い、実習の学びを深める。

事前・事後の学習内容

実習前後で、今までの学習内容を振り返り、知識を整理したうえで実習に臨むことが求められる。

授業を担当する教員の研究と授業の関係性

本科目の担当教員は、周産期の心身の変化についての研究、不妊治療を受ける女性への看護についての研究に取り組んでおり、周産期にある女性がより良い生活を送れるよう研究内容をもとに抽象化し、マネジメントの視点について理解の促進につなげていく。

5 授業形式・視聴覚機器の活用

臨地実習

6 評 価 方 法

①総括的評価

実習記録55%、カンファレンスへの参加状況15%

②形成的評価

実習期間中、担当教員より日々実習での技術・記録に関して都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

技術・姿勢・態度および実習記録など提出物30%により評価する。

提出状況が芳しくない場合は、学習意欲が低いと判断し平常点評価に加味する。

無断欠席－5点、不適切な行為（実習指導者、対象者、グループメンバー、教員等他者への迷惑行為など）－5点とする。

7 オフィスアワー（授業相談）

適宜、都度学生からの質問を受け付けます。

8 学生へのメッセージ

チーム医療を行う上で、組織全体を把握することがまず大切だと思います。

この実習では総合病院と助産院という対象や規模が異なる施設で、助産ケアを提供するうえでのヒト・物・運営といった管理方法について学びを深め、臨床で働くときに助産師としてどうあるべきか、考える機会にしてほしいと思います。

臨床経験が豊富な教員が、しっかりと指導・教育にあたります。

9 授業用E-mail

ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp

10 参考E-mail 1

pom1121@belle.shiga-med.ac.jp

11 主担当教員の実務経験

2016年～2022年 土川助産院を開業していました。

総合周産期母子医療センターにて臨床助産師を11年経験しています。

現在も臨床勤務にて助産業務に従事しています。